

民法上	禁治產 廿歲以下	準禁治產	治產
刑法上	責任無能力 十四歲以下	輕減責任能力	責任能力
精神病學的	幼者及心神喪失者、瘡癩者	心神耗弱者、瘡癩者	成人、健全者
處罰	無罪	刑罰輕減	刑罰
法律行為	爲不能ハズ	或種ノ行爲ヲ爲スコトヲ得	爲ス

註、上表ニ於テ橫列ニ在ルモノハ相類似ノ意味ヲ有スルモノナリ

七、審理及證言能力

已ニ前述セルガ如ク、審理能力トハ司法官ノ訊問ニ對シ、確實ナル解答ヲ與ヘ得ベキ能力ニシテ、證言能力トハ同ジク信憑シ得ルニ足ル正確ナル證言ヲ爲シ得ベキ能力ヲ云フ。此ノ能力ハ精神狀態ニ異常アルモノニハ、往々缺如スルモノニシテ、之ニ對スル法律規定ハ左ノ如シ。

- 刑事訴訟法 第七十九條ノ二 左ノ場合ニ於テ被告人自ラ辯護人ヲ選任セザルトキハ裁判所ハ檢察官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ付スルコトヲ得
- 第一 被告人十五歲未滿ナルトキ
 - 第二 被告人婦女ナルトキ
 - 第三 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ
 - 第四 被告人精神病ニ罹リ又ハ意識不十分ナルノ疑アルトキ
 - 第五 被告事件ノ複雜ニ因リ裁判所ニ於テ辯護人ヲ必要ナリトスルトキ

前項ノ辯護人又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所屬ノ辯護士中ヨリ選任スヘシ但辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得(三十二年法律第七十三號ヲ以テ本條追加)

同第八十三條 被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハザルトキハ職權ニ至ルマテ辯護ヲ停止ス但罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人代人ヲ差出シタルトキハ此限ニ在ラス辯護ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタルトキハ其痊癒ノ後新

審理及證言能力

ニ辯論ヲ爲ス可シ其他ノ疾病ニ罹ルトキハ痊癒ノ後前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求アリタルトキハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ

若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタルトキハ其痊癒ノ後更ニ取調ヲ爲スコトナク裁判ヲ爲ス可シ

民事訴訟法 第四十三條 原告若クハ被告自ラ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟代理人ヲシテ之ヲ爲サシムル能力ト法律上代理人ニ依レル訴訟無能力者ノ代表ト法律上代理人カ訴訟ヲ爲シ又ハ一ノ訴訟行爲ヲ爲スニ付テノ特別授權ノ必要トハ民法ノ規定ニ從フ

同第四十四條 外國人ハ自國ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有セザルモ本邦ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有スルモノナルトキハ之ヲ有スルモノト看做ス

同第四十五條 裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ職權ヲ以テ訴訟能力、法律上代理人タル資格及ヒ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ニ欠缺ナキヤ否ヤヲ調査ス可シ

裁判所ハ遲滯ノ爲メ原告若クハ被告ニ危害アリ且其欠缺ノ補正ヲ爲シ得ルモノト認ムルトキハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人ニ其欠缺ノ補正ヲ爲ス條件ヲ以テ一時訴訟ヲ爲スヲ許スコトヲ得此場合ニ於テ裁判所ハ欠缺補正ノ爲メ相當ノ期間ヲ定メ其期間ノ滿了前ニ判決ヲ爲スコトヲ得但欠缺ノ補正ハ判決ニ據著スル口頭辯論ノ終結マテ之ヲ追究スルコトヲ得

第四十六條 訴訟無能力又ハ相續人ノ未定ノ遺産又ハ不明ナル相續人ニ對シテ訴訟ヲ起ス可キ場合ニ於テ法律上代理人アラザルトキハ其事件ノ繁雜ス可キ裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ遲滯ノ爲ニ危害ノ恐アル場合ニ限リ特別代理人ヲ任ズ可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此裁判ハ口頭辯

論ヲ經スシテ之ヲ爲シ其裁判ハ申請人ニ之ヲ送達シ又申請ヲ認許シタルトキハ其任セラレタル特別代理人ニモ亦之ヲ送達ス可シ

申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

裁判長ヨリ任セラレタル特別代理人ハ法律上代理人又ハ相續人ノ出頭スルマテ訴訟行爲ニ付キ法律上代理人ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

等(略之)

同第三十條 左ノ者ハ宣誓ヲ爲サシムルシテ參考ノ爲メ之ヲ訊問スルコトヲ得

- 第一 訊問ノ時未タ滿十六歲ニ達セザル者
- 第二 宣誓ノ何物タルヤヲ了解スルニ必要ナル精神上ノ發達ノ欠クル者
- 第三 二百二十四條 左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ(證人トナルコト能ハザルノ意)

- 刑事訴訟法
- 第一 十六歲未滿ノ幼者
 - 第二 知覺精神ノ不十分ナル者
 - 第三 瘡癩者
 - 第四 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者
 - 第五 重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者
 - 第六 現ニ供述ヲ爲シ可キ事件ニ付キ曾テ訴ヲ受ケ其證言十分ナラザルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者
- 利法施行法 (刑訴三一八條及三一九條參照)
- 第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
 - 第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢察官及ヒ裁判所書記ノ立會

ニテ之ヲ爲スコシ死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢察官ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス
第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタル

八、禁治產及準禁治產

民法上成年滿二十歲ニ達シ、心身ノ發育適度ニシテ、十分ナル處分能力ヲ有スルモノヲ治產トシ、精神病者、或ハ智識ノ發育程度ニ缺陷アル爲メ、處分能力全然缺如セルモノヲ禁治產トシ、精神狀態或ハ智識ノ缺陷程度、前者ノ如ク甚シカラズシテ、若干ノ制限ヲ附セバ處分能力ヲ發揮セシメ得ルモノヲ、準禁治產トス、處分能力ノ如何ナルモノナルヤハ、已ニ便宜上責任能力ノ條下ニ略述シ置キタリ、今禁治產及準禁治產ニ關スル法律的規定ヲ舉グレバ左ノ如シ。

民法第三條 滿二十年ヲ以テ成年トス
同 第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人、配偶者、四親等内ノ親族、戸主、後見人、保佐人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得
同 第八條 禁治產者ハ之ヲ後見ニ付ス
同 第九條 禁治產者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
同 第十條 禁治產者ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第七條ニ據ケタル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ要ス
同 第十一條 心神耗弱者、啞者、聾者、盲者及ヒ瀝費者ハ準禁治產者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得
同 第十二條 準禁治產者カ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 元本ヲ領收シ又ハ利用スルコト
二 借財又ハ保證ヲ爲スコト
三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
四 訴訟行爲ヲ爲スコト
五 贈與、和解又ハ仲立契約ヲ爲スコト
六 相続ヲ承認シ又ハ之ヲ放棄スルコト
七 贈與若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト
八 新築、改良、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト
九 第二百二條ニ定メタル期間ヲ超ユル貸借ヲ爲スコト
裁判所ハ場合ニ依リ準禁治產者カ前項ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニ

トキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス
死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

禁治產及準禁治產

モ亦其保佐人ノ同意アルコトヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得
前二項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
第十三條 第七條及ヒ第十條ノ規定ハ準禁治產ニ之ヲ準用ス
第十七條 左ノ場合ニ於テハ妻ハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス
一 夫ノ生死分明ナラサルトキ
二 夫ガ妻ヲ遺棄シタル時
三 夫カ禁治產者又ハ準禁治產者ナルトキ
四 夫カ癡癲ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セラレ、時
五 略之
六 略之
第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘサリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責ニ任セス
第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス
第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於

テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラサリシトキハ此限ニ在ラス
監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス
第九百七十五條 法定ノ推定家督相續人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト
二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルヘキコト
三 家名ニ汚辱ヲ及ボスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト
四 瀝費者トシテ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト
此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得

九、遺言能力

遺言能力トハ遺言ヲナスニ當リ、遺言者ガ自由意志ヲ以テ之ヲ爲ス精神的能力ヲ有スルヲ云ヒ、民法ニ於テハ滿十五年以上ノ精神健全者、或ハ精神病者ガ本心ニ復シタル時ハ遺言能力アルモノトナセリ。精神病者ガ自由意志ニ復シ、遺言ヲナス場合ニハ、醫師二人以上ノ立合ヲ以テ、遺言能力アルヲ證明シタル時、始メテ民法上ノ効力有スルモノトス、遺言能力ニ關スル法律的規定ハ左ノ如シ。

遺言能力

民法第六十一條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得
 同 第六十三條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スル
 コトヲ要ス
 同 第七十三條 禁治產者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲
 スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス
 遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神
 喪失ノ狀況ニ在ラザリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名捺
 印スルコトヲ要ス但總密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於
 テハ其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名、捺印ヲ爲スコトヲ要ス

同 第七十四條 左ニ掲ケタル者ハ遺言ノ證人又ハ立會人タル
 コトヲ得ス
 一 未成年者
 二 禁治產者及ヒ準禁治產者
 三 利害公權者及ヒ停止公權者
 四 遺言者ノ配偶者
 五 推定相続人、受遺者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
 六 公證人ト家ヲ同シクスル者及ヒ公證人ノ直系血族並
 ニ筆生、雇人

十、精神異常者ニ對スル犯罪

精神異常者ト雖ドモ相當ノ手續ヲ履マズシテ監禁スレバ、不法監禁ノ罪ニ問ハレ、精神異常者、或ハ十
 三歳未滿ノ幼者ニ對シテハ、假令ソノ承諾ヲ得タル後ト雖、之ニ對スル姦淫ノ行爲ハ、強姦ヲ以テ論ゼラ
 レ、精神異常者ヲ利用シテ犯罪ヲナシ、又ハ特別ナル利益ヲ取得スル時ハ、又一定ノ罪ヲ課セラル。今精
 神異常者ニ對スル犯罪ニ關シ、法律ノ規定スル所ヲ舉グレバ左ノ如シ。

刑法第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上
 五年以下ノ懲役ニ處ス
 自己又ハ他僞者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以
 上七年以下ノ懲役ニ處ス
 同 第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者
 ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス
 同 第二百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ
 強姦ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
 同 第二百四十八條 未成年者ノ智慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘ジ
 テ其財物ヲ交附セシメ又ハ財産上ノ不法ノ利益ヲ得若クハ
 他人ヲシテ之ヲ得セシメタルモノハ十年以下ノ懲役ニ處ス

同 第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テテ論ス
 同 第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因
 テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

同 第二百四十八條 未成年者ノ智慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘ジ
 テ其財物ヲ交附セシメ又ハ財産上ノ不法ノ利益ヲ得若クハ
 他人ヲシテ之ヲ得セシメタルモノハ十年以下ノ懲役ニ處ス

十一、精神病者ニ對スル鑑定書作成ニ就テ

精神病者ノ鑑定ニ對シテ、特ニ所定セラレタル所ナシト雖、簡潔且明瞭ニ鑑定ノ要項ヲ記載シ、十分ニ
 鑑定命令ノ所旨ヲ満足セシメンニハ、自ら鑑定書ハンノ體裁ヲ整頓セザルベカラズ、精神鑑定ニ於テ、ソ
 ノ據ル所ハ多クハ形而上ノ現象ニシテ、一々之ヲ五官ニ憑テ證微スルコト困難ナルヲ以テ、鑑定人ハン
 ノ診察ノ方法及結果ヲ成ルベク綿密ニ記述シ、之ニ因リテ鑑定ヲ下シタル理由ニ就キテハ、特ニ明瞭ニ説
 明シテ、法官ガ一讀以テ鑑定ノ要旨ヲ了解シ得ルモノヲラザルベカラズ、然リ而シテ鑑定ヲ命ゼシ司法官
 ハ、必ズシモ精神病學ニ精通セル専門學者ニ非ラザルヲ以テ、鑑定書ニハ専門學の素養ナケレバ解シ得ザ
 ルガ如キ事項ハ成ルベク避クルヲヨシトス、然レドモ人ノ精神狀態ハ瞬時モ同狀態ニアルコトナク、一ヨ
 リ他ニ轉移スルモノナレバ、鑑定書ハ問題ノ人ノ精神狀態ニ關シ、唯一ノ證據物件ニシテ、後日ニ至リ
 如何ナル手段ヲ盡スモ、此精神狀態ヲ記載スルコト不可能ナルモノナレバ、且當時ノ精神狀態再鑑定ノ場
 合ニハ、該鑑定書ハ甚重要ナル役目ヲ演ズルモノナレバ、時トシテハ醫學的術語ヲモ使用シ、成ルベク丁
 寧ニ記載シ置クベキモノトス。鑑定書ノ形式トシテハ、已ニ本書ノ初頭ニ於テ詳記セルガ如ク、鑑定命令
 官、月日、事項、命令ヲ受タル場所ヲ記載シ、次デ鑑定ヲ要スルニ至リタル事實ノ大要ヲ述ベ信據スルニ
 足ルベキ人ヨリ既往歴ヲ探リ、現在症候トシテハ、心身兩方面ヨリ丁寧ニ診査シタル所見ヲ全ク客觀的ニ
 記載シ、次デ説明ノ部ニ及ビ、自己ノ考案ヲ附加シテ診定ヲ下シ、最後ノ鑑定ノ部ニ於テハ、綜合的ニ、

簡明且直截的ニ鑑定ヲナシ、次デ月日ヲ録シ記名調印シテ鑑定書ヲ結ブベキモノトス。

凡ソ精神病者鑑定書ニハソノ記載方ニ兩様式アリ、一ハ精神病者ヲ診察シタル都度、ソノ様様ヲ詳細ニ記載シ、換言スレバソノ病床日誌ノ一部ヲソノマ、鑑定書ニ費用シ、之ニ説明ヲ加ヘ、最後ニ簡明ニ鑑定ノ要旨ヲ述ブル式ノモノニシテ、後出ノ(甲)鑑定書ニ於ケルガ如キ之レナリ。此記載法ハ全ク精神病學的記述ヲソノマ、鑑定書ニ引用スルモノナレバ、假令、鑑定人ガソノ説明或ハ診斷ノ部ニ於テ、獨斷的錯誤ニ陥ルトモ、再鑑定ノ場合、此部分ヲ讀過スレバ、ソノ當時ノ精神狀態ヲソノマ、想起シ得ルノ利益アリ。然ルニ此(甲)様式ノ不利益トスル所ハ、鑑定書ノ冗長ニ流ル、ノ嫌アルコトナリ。然レドモ事態ソノマ、ヲ永ク記載ニ殘スコトヲ得ト云フ大利益ノアルアレバ、ソノ短所タル鑑定書ノ冗長トナル如キハ忍バザルベカラズ。

更ニ他ノ(乙)様式ハ、數回診察ノ結果ヲ綜合シ、指南力ニ對スル問答或ハ検査ハ指南力ノ部ニ集メ、注意力ニ關スル検査ハ、全部注意力記載ノ部ニ蒐集シ、追テ此ノ如クシ鑑定書ヲ作成スルニ在リ、ソハ後出(乙)様式鑑定書ニ於テ見ルガ如キ之レナリ。此様式ノ前者ニ比シ優越スル所ハ、鑑定書ニ一種ノ緊張アリ且之ヲ簡潔ニ記載スルヲ得ルニ在リテ、ソノ不利益トスル所ハ、數回ノ検査記録ヲ記載整理スル際、全然客觀的記載タルベキ検査記録ニ、多少ノ人工ノ加ハルコトナリ、鑑定書記載ニ當リ此二者中、何レノ様式ヲ選ブカハ、人々ノ趣味ニヨルベキモノトス、今此二様式鑑定例ヲ擧ゲテ之ヲ比較セン。

鑑定書 (甲様式)

大正〇年〇月十一日〇〇地方裁判所審判部審判長 〇〇七左衛門殺人被告

事件ニ付

一、〇〇七左衛門ハ目下精神ニ異常アリヤ異常アラバソノ程度如何

二、大正〇年〇月二十八日頃ニ於ケル〇〇七左衛門ノ精神狀態如何、若シ其當時異常アリトスレバ心神喪失ノ狀態ニアリシカ或ハ心神耗弱ノ狀態ニ在リシカ

(追加同被告事件ニ關スル一件記録ヲ參照スベシ) 鑑定書ニキテ命ゼリ依テ大正〇年〇月十一日、廿二日、廿九日、ノ三回〇〇地方裁判所ニ於テ一件記録ヲ查閱シ且同月十三日、十八日、廿五日、十月二日、五回京都監獄在監中ナル被告ノ心身狀態ヲ同監獄ニ於テ検査シ被是ヲ綜合シテ此鑑定書ヲ作ル

〇〇七 左衛門

當三十七年

検査ニ先チ一言セントス總ヘテ検査記録ニ於テハ検査ノ眞ヲ寫サント欲シ被告ノ舉動問診ノ應答等出來得ル丈ケ筆記者ヲシテ記載セシメタリ故ニ記載中被告ノ應答ニ往々意義不明ノ所アルモコハ筆記者ノ錯誤ニ非ラズシテ被告ノ應答大レ自身方實ニ然リシモノナリ

(甲) 検査記録

(天) 第一回検査 (大正〇年九月十三日)

検査者被告ノ前ニ着席スルヤ被ハ立チ上リ一種人形様ノオ辭義ヲナシテ直ニ坐ニ復シ恰モ木偶ノ如ク身動キモセズ靜ニ坐シ醫師ニ對スル態度モ頗ハレズ顔面ノ表出亦少ク曠日多シ着衣ニハ異常ヲ見出サズ

問、〇〇七左衛門、ハイ〇〇七左衛門……△△七左衛門トカ色々云ヒマスガドナラデモ手紙ハ届キマス

第三編 法醫學的精神病學

答、子ヲ殺シマシタカラ

問、ドウ云フ分ケデ子ヲ殺シマシタカラ

答、ウマリ女房ガ産ヲシテ間モナク死ニマシタ生レタ子供モ數時間生キテオツテ死ニマシタ子供ハ生産デアルト云フコトニスルト戸籍ニウケタリナニカシテ面倒カラ死産ト云フコトニシテ

女房ト一所ノ棺ノ内ハ入レテヤリマシタソノ棺ノ作り方ガ變デシテソノ棺ニ書イテアル上ト云フ字ガ逆ニナツテオリ又下ニ組ム竹ガ細イモノデシタ元來此〇〇家ハ天死スル家デシテ葬式ノ時ニ人ガソウ云フ變ナコトヲシタリヌルノハ私ヲ呪フテオルト云フ氣ガシマシタカラ逆上ツテアノ機ナ兇行ニ及ンダノデス

兇行ノ日ニハ本ヲ讀ンデオツテガ疑テ書物ヲ讀ンデオルトフイト氣ガ妙ニナツテ來マシタ前カラ私ハ自分デ不思議ニ思フ程馬鹿ニ氣ガ變ニナツテ逆上スルコトガアリマス私ハ神明サンノ木デ女房ヲ燒イタノゴトニナツテ此度ノ機ナコトニナツタト思フテ居マス又八劍サンノ祭禮ノ時ニ玉串ヲ同官様ガオキナサレ所ヘ私ガ間違ヘテ持ツテ行ツテ供ヘマシタソノ玉串ノ置キ様ノ惡カワタコトガ咎メニナツテ女房ガ死ンダノゴトヲイト頭ニ浮ヒマシタ

兇行ノ後名古屋カラ京都迄ニ連レテ來ラレルト云フノハドウ云フ四極デアルカ自分ノコトガ分ラヌ様ニナリマシタ

註、被告ノ談話ハ迂遠冗長ニシテ往々ニシテ支離滅裂シ常ニ痛笑シナガラ語リ被ノ妻ノ死セルコトヲ説キ又愛兒ノ死狀ヲ語ル際ニモ嚙モ顔面ノ表出ニ變化ナク恰モ他人ノ事ヲ談ジツ、アルガ如シ

問、今日ハ何日デスカ

答、昨日間イタラ十一日トカ十二日トカ云フテ居リマシタ昨日書

藉ヲ借りマシタガ何レ此所ハ退屈デキ

註、被告ハ今日何日カヲ問ハル、モ昨日ノ十一日カ十二日ナル

コトヲ云ヒ本日ノ事ヲ語ラズ談話ハ全ク他方面ニ轉シ終ル

問、私ハ何レニコ、(來テ居マシテ私ハ何職業デシヨウ

答、ソノ子トオ醫者サンカニカネ一何ダカ要領ヲ得マセンネ

(イ) 遺傳ニ關スル問答

問、父方ノ祖父ハ健在デスカ

答、居リマセヌ六十六歳デ死ニマシタマダ私ノ幼イ中ニ亡クナツ

タカラ何病デナクナツタカ知リマセヌ

問、父方ノ祖母ハ

答、丈夫デシタガ八十二、三歳ノ時年病見タ様ナ病氣デ死ナレタ

死ヌ時ハおふみさん(本願寺ノ經文ノ一種)ヲ抱イテ眠ル様ニ死

ナレマシタ

問、祖母ノ死ナレタノハイツ

答、私ノ女房ヲ賣フタ時ダカラ丁度私ノ廿五歳ノ時デシタ

問、母方ノ祖父ハ

答、遠クニ亡クナリマシタ顔サヘモ私ハ知リマセヌ

問、母方ノ祖母ハ

答、丈夫デ産婆ヲヤツテオツタガ七十六歳デ死ニマシタ兩方共何病

デ死ンダカ私ハ知リマセヌ

問、オ父サンハ

答、糖尿病デ死ニマシタ三月二十二日ニ死ナレタ眼ガ少シ惡カ

ツタ計リデソノ外ニハ病氣ハアリマセンデシタ

問、母ハ

答、丈夫デス當年六十八歳ニナリマス

問、兩親ハいこ女大ジヤナイカ

答、進デスナト藥ヲ吞ンデオツタ様デス

問、血統ニ變手古ノ人ハナイカ

答、格別アリマセヌ

問、母ノ祖母ハ氣違ジヤツタ相ジヤナイカ

答、ソウジヤナイト思フガネ

註、被告ハカ、ル暗示的ノ質問ニサヘモ敢テ血統ニ精神病者ナ

シト云フ之レ彼ガ伴病ヲナサント企ツル意ナキコトヲ示ス

證ナリ

(ロ) 生活史及既往症ニ關スル問答

問、子供ノ時ノコトヲ知ツテオトルカ

答、尋常科位ヒノコトハ覺エテオトル積リダカネ

問、ゴク小サイ時ニ病氣ニカ、ツタコトハナイカ

答、小學校ニ行ツテオトル時ニ黃疸ヲヤリマシタソノ他ニハ重イ病

氣ヲヤツタカドウカ覺エテ居マセンネ

問、學校ハドノ位ヒ行ツタカ

答、尋常四年ヲ卒業シツレカラ兄ニ連レラレテ半年許補習科ニ行

ツタガ子一學校ヲ止メタノハ十四歳ノ時デシタ學校ハ大里學

校ト云フテオツタガ後ニ大キナ寺ニ修ツタコトモアツタ

問、成績ハ

答、ヨイ方デアリマセンデシタ

問、落第シタカ

答、病氣ノ爲メ一年休ンダコトガアルソノ他ニハ落第シタコトハ

アリマセン

問、其頃友人トノ折合ハ

答、鐵鬼人將ノ方デ力ハ一番デ學問ハ二番ノ方デアツタ友人トノ

折合モ惡イコトハナカツタ

註、被告ハ力ガ一番デアルコトヲ語ルヤ初メテ會心ノ笑ヲ漏ラ

ス

問、學校ヲ終ツテカラハドシテ暮シタカ

答、内デ百姓ヲシナガラ賃屋ヲシテ居ツタカラ讀ミ書キハ普通ノ

人ヨリ少シハ出來ルソウシテ大シタ變ツタコトモナク二十歳頃

迄此生活ヲ續ケタ

問、ソノ間ニ何カ變ツタコトヲシタ事ダセ

答、其頃チヨイ、隔博ヲヤリマシタソノ勝負ノイサクサデ頭ノ

一ツ二ツ位打テ合フタコトモアリマス

問、女遊ビハセナカツタカ

答、ヤリマシタツマリ向テ俺ガ手ヲツケタノガ先キダツタト云フ

タノデ喧嘩ニナリ一ツ二ツ叩キ合フテ後デ酒ヲ吞ンデ突ツテ分

レタコトガアリマス

註、被告ノ談話ハ餘リ斷裂的ニシテソノ意味ヲ解スルニ苦シム

コトアリ

問、二十二、三頃ハ

答、矢張百姓ヲシナガラ今ト同ジ様ナ工合デ暮シテ居リマシタ

問、女房ハイツ賣フタカ

答、二十五歳ノ時デス私ハ〇〇家ノ養子デシタ

問、舊姓ハ

答、△△デス〇〇内ハ氣ノ樂ラヌ家デネ一死ニ絶エテシマノテ

二十年カソコラ斷絶シテオツタノヲ父ガソノ家ヲ再興セニヤイ

カント云フテ私ノ姉ノつぎヲヤツテオキマシタガ私ガ生レタモ

問、小室カヲ買ヒマシタ
答、女房トノ仲ハ
問、眞イ時モ忍イ時モアリマシタトドモ私モ永イコトハナイト
答、此度ノ事件ヲ
問、女房ヲ買フテ後ハドウデシタ
答、子ガ五年目カ六年目ニ出来マシタガ私ハ一人デ遊ンデオリマ
シタ
註、談話ノ連續關係不明ナリ
問、二十五歳カラ三十歳迄ハ
答、本家ノ百姓ト内ノ百姓トヲシテ居リマシタ人ガ本家ヲマゼカ
ヘシタナント云フタソウデス
問、賭博デ上ゲラレタノハ
答、大正元年ダツタカイナア一其頃癩病ト横痃ヲヤリマシタガま
ガ横痃ニナツタト云フ工合デ
問、三十歳カラ三十七歳迄ハドウシテ暮シタカ
答、今ノ青年會ナンデモノハドダイエラソウニスルカラチーヘ
註、被告ハ往々間ニ相當セザル答ヲナスコトアリ
問、三十一歳ノ時ハドウシテ暮シタカ
答、何シロ女房ヲ買フタガ二十五歳デソレカラ毎年百兩カラ百五
拾兩宛孔ガアイタノデ本家カラ取ツテハヤツテオツタガ途ニ準
禁治産ニシタラヨイト云フコトニナツテネ
問、三十二歳ノ時ハ
答、マア親類ノ死ナレバ迄ヤツタダソレカラ後ニ賭博デ上ゲラ
レタノデス

問、家出ラシテ放浪シタコトハナイカ
答、熱田ヤ蒲谷ニ行ツタノハ古イコトデス嶋崎ニ行ツタノハ大正
ニナツテカラデス
問、出アルイタ理由ハ
答、團體トカ何トカデ人ノ參ル處ヘハ自分モ參ツテ見タイト思ヒ
マシタカラデス三十二歳カラ三十七歳ニソノ外別ニ大シタコト
ハアリマセン
問、親屬トノ折合ハ
答、自分ハヨイト思フテオトルガ向フハあいつト思フテオトルカ分ラ
ン
問、準禁治産ニセヨウトシタ理由ハ
答、親ガソウセヨウトシタノデ親屬ハソソコトハ關係シマセン
問、賭博ノ合手ハダレカ
答、岡崎近傍ノ人ダチ皆デ二千五百圓モヤラレタ
問、先方ハたゞくんでオツテオ前ヲ買カシタノデハナイカ
答、ソレハ分ラヌ向フハアセラヌ人ダカラチートウヘ買ケマシ
タ
問、賭博デ上ゲラレタ時ノ間ハドンナデシタ
答、大正元年デシテ參拾圓ノ罰金デスマシタ 逡巡ガ知ツテオツ
タ人ダツタカラチー
問、(ハ) 兇行ニ關スル問答
問、七月十四日ノ死ンダ時ハドンナ風デシタ詳シク話シテ下サイ
答、女房ノ病ハ胃腸ダト云ハレ私ガ診斷書ニハ弟ニ印ヲ持タセテ
ヤツテ捺サセマシタカラ何ト書イテアツタカ知リマセヌワマリ
胃腸ガ元デ子ヲ産ンデ二時間計リテ女房ハ死ニ生レタ子モソノ
後直ニ死ンデシマヒマシタ

女房ノ葬式ノ時ニ十文字ニ組ム竹ヲ殊更細イ所デヤリ又棺ノ上
ノ字ヲ逆ニシテアツタノデ私モグツト逆ニ上セテ苦情ヲ云ヒマシ
タガマアアト云フテ工合ヨクシテ式モ済ミマシタソレカラ七
日目ニ親族ノ者ニ葬式ノ時ニ可怪ナコトヲシヤガツタト云フテ
怒リカケマシタ
問、ソノ時ニ何カ亂暴ヲシナカッタカ
答、杓子ノ使用方ガ氣ニ入ラヌト云フテ茶碗ヲ一ツ數居ノ所ニ投
ゲテ割リマシタ
註、彼ノ應答ハ恰モ沈着ナルガ如ク見ニト難言語粗雑ニシテ聞
ク者ヲシテ往々不快ノ感ヲ起サシムルコトアリ時シテ應答
ニ驚駭セルガ如ク突發的ノ言語ヲ發シ終始木像カ談話シツ、
アルカ如ク見ユ
問、子供ヲ連レテ岡崎ノ病院ヘ行ツタコトガアルソウダネ
答、女房ガ死ンデ十日程タツテカラ叔母ガ小供ニ給ヲ呉レタガド
ウモノノ中ニ毒ガ遺入ツテオトル様デ仕方ガナク交番所デ見テ貰
ハウト思ヒモウ俺ノ命モ長クナイカラ實屋ノ様ナコトデ儲ケタ
金ハツマラヌカラ先ヅ第一番ニ交番所デ五圓ヲ無料宿泊所ヘ寄
附シソレカラ逡巡ニ給ヲ見テ貰ヒマシタガドウモ逡巡ガ不真面
目デアツタカラモット逡巡ノ數ヲ増シテ下サイト云フタコトガ
アル今カラ思フテ見ルトアノ時ハドウカシテ居タネト叔母ノク
レタ給ニ毒ガ遺入ツテオトルナントコトハアラヌカ
註、被告ニ毒害妄想アリシモノ、如ク當時數日來彼ノ精神ハ錯
亂シ居リシモノトラン
問、ソレカラ
答、ソレカラ交番所ヲ出テ清ト連レテ連レテ病院ニ見テ貰ヒニ行
ツタガ早ク毒ヲ呉レナダラ仕方ガナク自分ノ着物ヲ脱イ

デ池ノ中ヘ放リ込ミマシタ今ニナツテ見ルトドウシテアナンコ
トヲシタカ分ラマセンソレカラ弟ガ來テ始末ヲシテ呉レテ内ニ
歸ツタガドウモ落ツキガ惡ク疑テモ疑ラレンオカシナ氣ガシテ
夜中ニ起キテ眞裸デ飛ビ出シ寢場ニ女房ノ位牌ヲ取リニ行キマ
シタコレハ成名ガ知リタカラデアアアアアアアアアアアアアア
ノ所ヘモ夜中ニ行ツタコトガアアアアアアアアアアアアアアア
卷ヲシテ腰ニ纏フサシテオリマシタ今カラ思フテヨッポド變デ
シタネ
問、親類ノ家ニ夜中ニ行ツタコトハナイカ
答、隣リノ家ニ一度夜明ケ頃藥ヲ買ツテ來テクレト云フテ行ツ
コトガアリマス
註、被告ノ精神狀態ガ此頃通常ナラザリシコトハ常人ト雖ドモ
氣付クコトナラン
問、ソレカラ八月廿八日ノコトヲ朝カラ晩マデ詳シク話シテ下サ
イ
答、何時モノ如ク起キテ普通ノ通り顔ヲ洗ヒ飯ヲ食フテ疑テオツ
タガ頭ヲ割ロウト思フテ母ニ頼ムト母ガマア一日二日延バセト
云ヒマスガ自分ハドウモ近イ中ニ死ヌ様ナ氣ガシテ耐ラヌソウ
カウシテ中ノ間ニ來ルト清ガ疑テオツタ今日ハ女房ノ死ンデカ
ラ二十一日目ジヤドウセ死ヌナラ今日ガヨイト云フ氣ニツイト
ナリ女房モ子供一人連レテ行ツタカラ私モ一番私ヲ慕フテオ
ル清ヲ連レテ行ク氣ニナリ手拭ヲ持テ清ノ首ヲシメタラ可愛想ニ
顔ヲ紅クシテ擁護イテ死ニマシタソレカラオレモ今行クカラ待
テオツテクレヤト思ハズ大キト聲デ云ツテ絶死シヨウトスルト
ソノ聲ヲ聞キツケテ人ガ來テ私ヲ止メテトウドウ死ニ後レテシ
マヒマシタ

註、彼ハ口ニ可愛想ト云フト雖顔面ニソノ表出ナク平然トシテ
怡モ他人ノコトヲ論ズルガ如シ

問、何カ不思議ナコトハナイカ
答、夜神機ガ見エタコトガ二三回アリマシタ夢デハアリマセン何
トモ仰リマセンデシタ

註、恐ラクハ一種ノ妄覺ナラン

問、女房ヲ清ハ夜出テ来リヤセンカ
答、女房モ清モ一度モ出テ来マセンソリヤ不思議デスナアツマ
リ私ノ心ガ分ツテオカカ出ナイノデシヨウ

問、遺言狀ハ何時書イタカ
答、兇行ノ日ニ書キマシタ初メ私ハ五六十迄生キル積リデ生命保
險迄カケテオイダガ此頃オカシナ氣ガシテ女房ガ死ヌ子ガ死ヌ
人ガ棺ノ字ヲ逆ニシタリ肩イ竹デ十字ヲ作ツタリ私ヲ呪ヒ
マスノソレカラソノ上ニ神木デ妻ヲ火葬スルト云フ機ヲ大變
ナコトヲシテ神罰ヲ被ル機ヲ氣ガシ玉串ノ置キ機ガ惡カワタリ
色々カイロシテ私ノ命ハモウ長クナイト思ヒ込ミ自殺スル氣ニ
ナリマシタ

註、被告ハ種々ノ妄想ト妄覺トニ依リ自己ノ生命ノ終リ近ツキ
タリトノ妄想ヲ持シ最愛ノ子ヲ道連れトシテ死出ノ旅路ニ急
カント志シタルモノナラン

茲ニ於テ第一回身體的検査ヲ行フ身體的ノ検査ハ毎回ソノ結果略
同ナルヲ以テ最後ニ一括シテ之ヲ記スルコト、セリ

(地) 第二回檢驗 (大正〇年九月十八日)

丁寧過ル知キオ辭義ヲナシ木像ノ如ク少シモ動カズ坐テ占ム檢
者ガ被ニ向ツテ着坐スルニ毫モソノ態度ニ變化ナシ

現在徴候ニ關スル問診

問、姓名ハ
答、〇〇七左衛門ガハントデス

問、國ハ
答、〇〇〇〇郡岩津村四十番戸

問、生年月日ハ
答、明治十四年一月二十日生

問、此處ニ來テカラ幾日
答、十日前カソコラニ來マシタ

問、東ハドナラ
答、オ日サンガナイカラ一寸分ラン

問、私ガオ前ヲ見テオカシクハ何ノ爲メニナルカ
答、(暫時沈黙ノ後)分ラン子ツマツマリ病氣ヲ見テ賣テカネ

問、先キニ何ヲ尋テタカ
答、忘レテチマツタハツハツハツ

註、被告ノ指力ニハ大過ナシト雖ソハ亦確實ナルコト能ハズ

問、此前來タノハ何日カ
答、四日バカリ前デス

問、何日デシタカ
答、昨日手紙ヲ三本ヲ書イテソレニ十七日ト書キマシタ

此時被告ニ稍長キ一文書ヲ示シソノ中ニ在ルノ字ニ傍注ヲ附
セシムルニ請テナシト雖此間彼ノ足ヲ踏ミ或ハ机ヲ打ツモ敢テ
注意ヲ向ケントハセズ又耳目等ヲ缺ケル簡單ナル繪畫ヲ示シ
ソノ足ラザル所ヲ補ハシムルニ正當ナリ

問、次ノ文ニ間違アラバ正スベシ

岡崎 岡崎

之ノ順序ニ并ベシムルニ初回ハ誤リ第二回目ニ初メテ正シテ并列
ス

次ノ各文句ノ順序ニ正シテソノ意味ノ分ル機ニシテゴラン但
シ一字ヲ減ジテモ増シテモイケナイ

問題

(1) 氣候、日本、の、は、 日本、の、氣候、ハ、世界中、よ、い、一番、で、
世界中、よ、い、一番、で、

註、ドウモ餘リ分リヨイ文章デナイナアモウ少シドウカナラ
ンカト云フモ敢テ訂正セントセズソレデヨク分リマスト云フ

(2) 鳥啼き、夏、春、花咲き、 春ハ花咲キ鳥啼キ夏ハ青葉茂ル
ハ、茂ル、青葉、ハ

註、即チ被告ノ領力ハ低位ニ在リト云フベシ

問、今上陸下ノ御即位式ノアツタノハイツ
答、昨年ノ八月三十一日ダツタカイナア

問、アノ頃ドコニ居タカ
答、内ニ居ツタガネ子供ヲ連レテ岡崎ヤ神機ニモ參ツタ

問、明治ノ大正ニナツタノハ
答、四十五年ノ八月カラガ大正デスカイナア一其時ガ御即位式ジ
ヤツタカイナア一去年ト云フコトハナイチ

問、日露戦争ハイツ
答、明治三十七八年

問、其時君ハ何歳ナリシカ
答、二十五六歳時分ダ子

問、二十五六歳ニモナツテオカ
答、日露ハ日清ヨリ遅イモノダデ子

問、兵隊検査ヲ受ケタノハイツカ
答、兵隊検査ヲ受ケタノハイツカ

第三編 法醫學的精神病學 十一 精神病者ニ對スル鑑定書作成ニ就テ 三七五

三州 三州
大坂 (誤ナシト云フ)
京都 京都

註、即チ被告ノ注意力ニハ不充分ナルモノアリト云フベシ

次ニ領力ヲ檢セントシテ繪畫ヲ示シテ美人ト醜人トヲ區別セシ
ムルニ大過ナシト雖稍複雑ナル繪ヲ示シソノ畫意ヲ問フニ之ヲ領
解スルコト能ハズ例ヘバ小僧ガ硝子窓ヲ石塊ニテ破壊シ物産ニ隠
レオカシ人出テ来リ誤リテ通行セル學生ヲ叱シテ此ヲ示シ何
ノ意ナルカヲ問ヘバ「此子供ガ學校ハ行カント云フテ此ヲ示シ
ルナア一人ガ隠レテオラア一窓ガ壞レテオラア」ト云ヒ其意ヲ
會得スルコト能ハズ次ニ若キ男ガ若キ女ノ顔ノミヲ見テ歩行シツ
、アル際不知ノ間ニ子供ニツキ當リテ之ヲ仆シタル畫ヲ示セバ「子
供ヲ落サハツタナア」ト云フノミ然ルニ稍簡單ナル子供ガ「鬼
ゴツコ」ヲシテ居ル中ニ茶吞茶碗ヲ覆ヘセシ畫ヲ示セバソノ畫意
ヲ正解ス更ニ五色ノ色紙ヲ示シソノ色ヲ云ハシムルニ藍色ヲ紫ト
云フ外正當ナル答ヲ得タリ

次ニ左ノ文章ヲ一讀セシメ後其意ヲ問フモ答フルコト能ハズ故ニ
二讀セシメテ更ニソノ意ヲ問フニ完全ナル答ヲナスコト能ハズ尙
被告ト語ルニ當リ檢者ガ一回ヲ發スルヤ彼ハ一回ニシテ之ヲ領解
スルコト少ク多クハ二三回反問シテ檢者ガ之ヲ丁寧ニ説明セル後
漸ク會得スルコトアリ

「暑中休暇モ此處一兩日デ済ンデ新学期ハ來タ學生諸君ハ過去ノ
休暇中海浴ヤ登山ヤ種々ナ愉快ナ月日ヲ送り而シテ以前ニ増
シタ立派ナ體ニナツテ學校ハ戻ルデアラウ、併シナガラ一度都
門ノ人ニナレバ健康ノ上ニモ障害ガ起リ易イ」

次イデ種々ノ重サアル小箱ヲ渡シ手指ノミヲ測定ヲ重サニヨリテ

問、何セー明治十四年生レダカラ機ツテ行ツタラ分ル子
 答、八月二十八日
 問、女房ノ死シタノハ
 答、七月十四日デス
 問、ソナナラ此間女房ガ死シタカラ二十一日目ニナルカラ變ナ氣
 ニナツテ死ナウト思ツタト云フタノハ誤リカ
 答、ソウデス子(ト云ヒナガラ之ヲ訂正セントハセズ)
 問、昨日ハドウシテ暮シタカ
 答、チト書物ヲ讀ミマシタ
 問、ドンナ本ヲ
 答、家庭雜キノ本ト古今實験トデシタ
 問、ソノ書中ニハドンナコトガ書イテアツタカ
 答、此頃ハ無暗ニ物ヲ忘レル様ニナツテ——儘カ爾無阿彌陀佛ノ
 コトカ書イテアツタト思フガ子
 問、ソノ外ノコトハ
 答、行ヒ一ツデヨイ處ニモ惡イ所ヘモ行ケルト云フコトガ書イテ
 アツタ
 問、昨日ハソレカラドンナコトヲシタ
 答、運動モシソレカラ風呂ニ入ツタ
 問、昨日ノ天氣ハ
 答、一日中ハツキトシナカツタト思フガ子
 註、即チ被告ノ記憶力及記録力モ亦稍著シキ障礙ヲ被リ居レル
 モノ、如シ
 問、日本ノ大河ハ
 答、天龍川カ利根川ダラカカネ

問、利根川ハドコニアルカ
 答、ヤツバリ京都方面ニアルト思フ
 問、天龍川ハドコカラ出ルカ
 答、信州
 問、日本ノ大都會ハ
 答、東京、京都、大阪
 問、東京ノ人口ハ
 答、昔教ハツタノダカラ分ラン
 問、ソナナラ名古屋ノ人口ハ
 答、ソナナ細イコトハ知リマセヌ
 問、家康トハ如何ナル人カ
 答、何迄カいくさヲシテ負ケテツシテ天下ヲ取ラハツタネ
 問、モット詳シイコトヲ知ラヌカ
 答、(家康ノ苦勞シテ話ヲナス)
 問、負ケタ人ガ天下ヲ取レルカ子
 答、マア運ガヨカツタンダ子
 問、親鸞上人トハ如何ナル人カ
 答、知ランガ諸國ヲ廻ツテ佛教ヲ修メタ人デス
 問、オ前ノ宗旨ハ
 答、本願寺派
 問、日本ニアル宗旨ノ名ハ
 答、眞宗、淨土、法華宗等デス
 問、秋葉様ハ
 答、アレハ神様デスガ子(私ハ七十錢寄附シテ御守リヲ二ツツテ
 テ買ヒマシタ
 問、親ニ孝行フセニヤナラン理由ハ

答、ソリヤ小サイ時カラ一通リヤ二通ノ心配デナイカラネ
 問、君ニ忠アセズベナラン理由ハ
 答、君ノ御座テ枕ヲ高クネラレルカラ
 問、兵士ニ行カニヤナラン理由ハ
 答、ソリヤ内亂ヲ修メタリ外國トノ戰爭ニ負ケヌ様ニセニヤナラ
 シカラ
 問、我々ノ納メタ税ハ何ノ爲メニ用ケラルカ
 答、村税ハ村ノコト、縣税ハ縣ノ爲メニ、國税ハ國ノ費用ニ用ヒ
 ラル、ノデス
 問、歐洲戰亂ノ起リシ理由ハ
 答、せるびや人が歐洲ノ皇太子ヲ殺害シタノガツモ、ノ起リデ
 ス
 問、歐洲戰爭デ我が敵トナツテオルモノハ
 答、奧太利亞、獨逸、イ太利ハ中立カ知ラン一匈牙利ハドチテ
 カイナア
 問、我々ノ味方ハ
 答、英佛露デス
 問、盆トハ如何ナルコトスル日カ
 答、一年ノ中期ノ場デ先祖ノ祭リヲスルノデス
 問、八十八夜トハ如何ナルコトヲスル日カ
 答、穀種ヲ下ス時デス
 問、二百十日ハ何故厄日ナルカ
 答、稻ガ成長シテ穂ノ出ル時デスカラ大切デス
 次ニ被告ニ用紙ヲ與ヘ簡單ナル祝狀或ハ手狀ヲ書カシムルニ上出
 來ト云フコト能ハザルモ先ツ彼ノ教育程度ニ比シ相當ナル手紙ヲ
 書ケリ

註、是等ノ問答ヲ綜合スルニ被告ノ一般智能ハ常人ニ比シ稍低
 位ニ在リト云フベシ
 被告ノ計算能力ヲ檢セントシ試次ノ暗算ヲ試ム
 問 題 答 解答ニ費セン時間
 $15 \times 3 \text{ ㄎ}$ 45 2秒
 $1017 \times 3 \text{ ㄎ}$ 4751 32秒
 $12 \times 12 \text{ ㄎ}$ 136 32秒
 途ヲモウ一度考ヘテ 144
 $450 - 231$ 219
 $300 - 25$ 5 3秒
 $25 + 75$ 100 3秒
 $19 + 17$ 36 3秒
 問、五拾圓ノ金ヲ年一割二分五厘ニテ一年貸與スレバ年末ニハ元
 利合計幾何ナルヤ
 答、五十六圓二十五錢デス 一分十秒
 問、五拾圓ノ月一割ノ利子デ貸與シ三ヶ月目ニ利子ヲ元金ニ加ヘ
 ソレツ元トシテ更ニ利子ヲ附スルト云フ工合ニスレバ一年ノ終
 リニハ幾何
 答、五拾參圓拾五錢
 問、違フソレナラ半年目ニハ何程トナルヤ(問題ヲ領解スルニ二
 回質問ヲ費ス)
 答、八拾四圓五拾錢
 註、被告ノ計算力ハ彼ノ教育程度ニ比シ先ツ相當ナリト云ハサ
 ルベカラズ
 問、世ノ中デ何カ不思議ニ思フタコトハナイカ
 答、夢ニハ随分不思議ナ事ガアリマスガ子

問、夢ヲナシテ不思議ナコトハナイカ
 答、二十三歳頃ノコトデシタヒヤカシ展リニ大キナ火ノ玉ガ見え
 タコトガアリマシタツレハ友人モ皆見タノデ私一人デハアリマ
 センツレカラ時ハ忘レタガ之モヒヤカシ展リニひなと云フ阪
 ヲ上ツタ時不意ニ全身ノ毛ガヨダツト思フト風モナイニ聲ガ
 サツト動イタコトガアリマシタガ之モ不思議デシタ
 問、ソノ時分ニ身體ノ工合ハ惡イコトハナカッタカ
 答、ソノ時分ニハアリマセンデシタ一人デヒヤカシニ行ツタリシ
 テ居リマシタ
 問、鉛ノ中ニ毒ガ這入ツテオツタコトガアルジヤナイカアレハ不
 思議デナイカ
 答、アノ時ハ轉倒シテ居タノアノ時ハ人ノスルコトガ何ンデモ
 氣ニ入ラナカッタネ
 問、他ニハソノコトハナカッタカ
 答、法事ノ時向一度妻ガ這入ツテオトルト云フ疑イダコトガアツ
 タト思フテアルナニシロ女房ガ死ンダ後頃カラ氣ガ變ダツタネ
 一人ヲ呪ハム穴ニツデ凡ベテノコトガオカシカツタ第一槍カラ
 痛ニ障ツタネ夫レカラ神様ノ玉串ノコトガ氣ニツツテ仕方ガ
 アリマセンナド夫レト女房ヲ焼ク時神様ノ木ヲ用ユルンテ人
 非人ト云フベキモノト思ヒコウナツテハ神様モ人モ自分モ自分
 ヲ守ラナイコトニナルカラ自分ハ死ヌヨリ外ハナイト思ヒツメ
 タガ可愛イ子供一人連レテ死ニタイト胸ニ浮ンデネ！此時私
 ハ氣ガドウモ變ダツタネ
 問、之男ノ首ヲ絞メタコトガアルソウジヤナイカ
 答、アレモメタ子(平氣ニテ答フ)
 問、清ノ腹モ切ツタコトガアルネ！

答、ソレハ之男ヲ絞メタヨリ前デオ坊サンガ來ルト氣ガ變ニナ
 ヲテ來タマナア！外ノ人ヲ殺サウナントシタコトハ一寸モアリ
 マセンカラナア！
 問、町ヲ歩イテオツテ人ガオ前ノ顔ヲ見ツレバコトハナイカ
 答、七日ノ時ハ女房ノ死ンダ時ニ人ガ我前ヲ見ツレバコトハア
 リマス之ハ私ガ變デシタカラデスソノ外ニハアリマセン
 問、ソノ外ニ何カ不思議ニ思フコトハナイカ
 答、控米ノ問題ノ時困ルト妙ナ氣ガシマスソノ外ニハアリマセン
 問、病院デ裸體ニナツテ衣服ヲ池ヘ投ゲコソダ時ハドウシタノダ
 答、アレハ弟ニ子供ヲ連レテ〇〇病院ヘ行ツテ見ツレバ來テク
 レト云フ頼ンダニ弟ハドウモ嘘ヲ云フテ行ツタト云フケレドモ
 實際ハ病院ニ行カナンダ様ニ思ハレテ仕方ガナイツレド自分デ
 子供二人ヲ車ニ乗セテ岡崎ニ行キ鑑査派出所先ツ無料宿泊所
 へ五親寄附シツレカラ船ヲ毒ヲ見ツレバ〇〇病院ヘ行ツタガ藥
 ハ待ツテオツテモ中々呉レヌシソノ中ニ何トナクムツト腹ガ立
 ツテ死ンダツテドウカナラア！ト思フテ衣服ヲ脱イデ裸ニナツ
 テ池ヘ投ゲ込ンダノデス
 問、オ前ガ衣服ヲ脱イデ池ヘ投ゲタツテ藥ヲ早ク、レヤシマイ
 答、何ダ知ランガ氣ガ逆上シタネ！
 註、依之類之被害ハ變覺ヲ有セズト雖中毒迫害案類ヲ有スルモ
 ノ、如シ
 茲ニ於テ第二回身體的検査ヲ行フ
 (支)第三回検査(大正九年九月二十五日)
 被告ガ検査ノ前ニ在ル態度ハ前検査ノ時ト大差ナケレドモ本日ハ
 稍心寬ケルガ如ク顔面ノ表出モ前同ニ比シ幾分活潑ナリ
 問、ドウデス

答、相變ラズデスガ退屈デシヨウガアリマセン
 問、此前來タノハ何日デシタカ
 答、十八日カ十九日ジヤナカッタカ今日デ六日目カ子
 問、其時ドンナコトヲ聞イタカネ
 答、ソレハナンダネ書カラ——目ヤ鼻ノ足ヲ書キヤラ——小箱ノ
 重サヲ計ルヤラナニヤカラヤラ色々キカレタネ
 問、此頃身體ノ工合ハドウデス
 答、ドーネ此間カラ佛日ガ續クヤラ何ヤラデネ！身體ノ工合ハ少
 シ變デネ！
 問、氣分ハドウデス
 答、何分カ衰弱シテ居ル様デ子！食物ガ不味ク便通ガ一昨日カラ
 一度シカアリマセン
 問、併シ大シテ惡クナカロウ
 答、神經力知ランガ衰ヘテ行ク様ニ思フガネ女房ノ死ヌ頃カラ大
 變物志レフスル様ニナツテ昔ハコンナデハナカッタガ！小學
 校デモ一、二番ト云フ所デシタネ！
 註、被告自身モ妻ノ死亡當時ヨリ記憶等ニ著變アルヲ知レリ
 問、大變面白クナツタコトヤ或ハ馬鹿ニ氣ノ減入ツタコトハナイ
 カ
 答、面白クナツタコトハアルガ子！ソレハ女郎ヲ買ツタリアノふ
 せる事ヲヤツテ勝ツタ時ハ子！ソレカラ十七八歳ノ時父ハ役場
 へ出ルト云フ矢先ニ小作ガ地所ヲ上ゲルト云フタ時ニヤ自分デ
 百姓ヲ皆セニヤナラシカト思フテ氣ニナツタネ
 問、其頃無暗ニゲラ／＼笑ツテ云フコトモ一寸モ分ラナカッタコ
 トガアルソウジヤナイカ
 答、ソノコトハ覺エマセメガ子！小サイ時ノコトハ分ランガ覺

ノアル様ニナツテカラハソノコトハナイ
 問、父ガオ前ヲ準禁治産ニシヨウト云フタノハナゼカ
 答、ソレヤ私ガ餘リ金ヲ費フカラデス併シ兄ガソレヲ聞イテ準禁
 治産ト云ヤ男一人前ノコトガ出來ヌノヤソリヤ可愛想ヤト云フ
 テ止メテシマヒマシタ
 問、兄弟八十人アツタソウジヤナイカ
 答、生キテオトルハ四人デス死ンダノガ澤山アルト云フコトジヤ
 カラ皆デソノ位ニナツタロウト思ヒマス
 問、兄弟ノホントノ數サヘ知ラヌトハヒドイジヤナイカ
 答、ソレデスネ！淺次郎兄ガ今生キテオルト四十五母ガ六十五
 カ六カ子ソレデ二十年計リノ中ニソノ位ハ生レダデシヤウ
 問、一寸話ハ代ルガ銀貨ノ種類ハ何程アルカ子
 答、五拾錢貳拾錢拾錢五錢ハ白銅貨カ子
 問、金貨ノ種類ハ
 答、貳拾圓金貨ハ見ダコトガアル様デス拾圓モアル様デスナ金貨
 ハ仲々見マセンナア！
 問、卷圓金貨ハ
 答、ソリヤアリマセヌ
 問、ナイト云フ證據ガアリマスカ
 答、ソノコトハ知ラン
 問、卷圓札ト五圓札トノ内ニ書イテアル文字ノ違フ所ハアリマス
 カ
 答、番號ガ違フシート五方違フシ番號ガ違フシマアソノモノデス
 ソノ外ニハ違ハヌ積リジヤガ子！
 問、正金ト引換ヘルコトニ付テ何ニ變ツタコトハ書イテナイカネ
 答、氣ガ付カナ子！

問、綿ノ一貫ト織ノ一貫トトナラガ重イカキ

答、ソリヤ大キヤハ遠フガ重サハ同ジデス

問、被告ハ此ノ如キ下ヲ問フナサレテモ敢テ怒ルコトナク平

氣ニテニコノ笑ヒツ、答フ

問、佛ヤ貧乏人ニ惠ムコトヲ云フノデス

答、幸福トハ如何ナルコトカ

問、自分が生レ落チテカラ死マシテ不自由ナク暮セルヲ云フノデス

答、ソリヤ惡イコトヲシタモノヲ懲ラス爲メデス

問、遠警罪トハ如何

答、新刑法ニハ遠警罪ナンテコトハアリマセン警察犯所罰令デ行

クノデスソノヤアソナモノニ引キカ、ラエモノハ世ノ中ニハア

リマセン立小便ヲシテモ探テオツテモヤラレルノデス警察犯處

罰令ヲ履行シタラソリヤエライコトニナリマス

問、日本ノ大川ノ名十ヶヲ擧ゲテ御覽

答、富士川、天龍川、隅田川、八州川、木曾川、石狩川、利根川

加茂川、多摩川

問、魚ノ名十ヶヲ擧ゲテ御覽

答、鯛、鰯、鯉、いな、鱈、こら、草魚、平目、ブリ、鮎

問、馬ト牛トノ差如何

答、馬ハ頭毛ガ立チ背ニハ人ガ乗ルニ工合ガヨイ種ニナツテオ

ソシテ蹄ガ分レテオラン牛ハ角ガアツテ大抵ハ白イ毛ト黒イ毛

ガ多イ蹄ガ分レテオ

問、池ト海トノ差ハ

答、池ニハ潮氣ガナイ而シテ小サイ海ニハ潮氣ガアリソシテ限リ

ガナイ

茲ニ於テ尋常小學讀本卷七、八、九ノ三冊ヲ讀マシメテソノ讀書

力ヲ檢スルニ卷七ハ何處ニテモ大抵讀ムコトヲ得ルモ卷八ニ至リ

テハ第三たけがり(八頁)第十四電報(四十五頁)第十一(花ごよみ)

(三十四頁)第十七近江八景(五十九頁)等ヲ讀マシメソノ意味ヲ問

フニ大體ハ答フルコトヲ得ルモ讀解ニ確實ナラザル所アルガ如ク

第六松下輝尼(十六頁)トアル部ノ讀解ニ見セシメテソノ何ノ意

ナルヤヲ問フニ輝子ヲ結フテ御座ルカナアイト云フノミ

次ニ同第九卷第八課(我が陸軍(二十四頁)ニ在ル師團所在地ノ記

入シタル圖ヲ見セシメテソノ意ヲ問ヘバ讀解ノアル所ジヤナア

ト答(第十四課騎駝(四十四頁)第十九課空襲(六十四頁)第二十

一課水害見舞ノ文(七十頁)及第二十三課三才女(九十一頁)等ノ一

節ヲ讀マシメテソノ意ヲ問フモ解スルコト甚ダ困難ニシテ特ニ最

後ノ三才女ニ至リテハ讀解ニ難シクハ解スルコト能ハザルガ如

ク例ヘバ「みずのうもより客人の袖引止めて大江山いくの野の道

の遠ければ云々」ト云フ所ニ至レバ曰ク「大江山ニ御座ガ下ガツテ

オルカ子アマリ分リマセン」ト云フノミ更ニ同十卷第五課ニ於

ケル清少納言ノすだれヲ揚ゲル畫(十七頁)ニ付何ノ意ナルヲ問ヘ

バ「此女ハ腹ガ大キイネ」ト答フ以テ彼ノ讀書力ノ如何ヲ推知ス

ベシ

更ニ彼ノ計算力ヲ檢セン爲メ次ノ筆算ヲ行ハシム

(1) (二分十三秒)不正 (四分十五秒)正

234)563472(2412
468
954
926
287
234
472
468
4

234)563472(2408
468
954
936
1872
1872
0

(2) 二里三十丁二十四間ヲ間數ニ換算セヨ

(一分十秒)不正 (六分二十秒)正

30
x 60
180
+ 1924
1404
36
x 72
2592
+ 102
102
600
612
6120
+ 24
6144

種々誘導シテ此答ヲ得

、るりもはりもてらせはひかるト云フヲ御覽

答、るりもてらもてらばひかる

註、發音ニハ「羅」キモ文句ハ一度ニテ記憶スルコト能ハズ四回

之ヲ繰リ返ヘシテ云ヒキカセ初メテ完全ニ言フコトヲ得

問、子供殺シタ時ノ氣分ハドウナデシタ

答、ドンナ氣分デッテ一今思ヘバドウケテコトヲシタモノデチ

ソノ時ニハ今ニモ子供ヲ殺シタニヤ難題ガ方ル様ナ氣カシテチ私

ノ子供ハ一寸器量ガ良スギルモノデチ皆ノ人ガ呪フテオ

思ハレツマドドウシテモ殺シテ死ナチバナラヌトドウモ思

ハレチチー女房ガ死ンデカラ急ニ覺エガ惡クナツタチードウシ

テモウシテモ清ツヤラナキヤナラン様ニナツタチー棺ノ

作り方ガ氣ニ食ハナカワタリ玉串ノコトヤ神木デ女房ヲ燒イ

コトガ氣ニナツテ氣ガ上リツメテナゲチー氣ガボツトシテ來

タダチソシテ無我夢中デ清ヲ殺シタチー其前カラ道ヲ歩イ

テオツテモ急ニ寐ムタクナツテ道ノ真中デ不意ニ立止マルコト

ガアツタチー又或夜自分ノ内ノ近クニ來テドウシテモ自分ノ内

ニ行ケマ様ニナツテ反對ノ方向ニ行キヨツタコトガアツタチー

ソレカラヨウ考ヘテ見ルト岡崎ノ電燈ガ反對ノ方向ニアツタカ

ラ漸ク氣ガ付イタチー又睡ツテ錢ヲ落シタコトモ數回ハアリ

マス

註、談話ハ迂延冗長ニシテ所々斷裂シテ氣付カン

第三編 法醫學的精神病學

十一 精神病者ニ對スル鑑定書作成ニ就テ

三八一

問、引キツケタリ性ヲナクシテ介レタコトハナイカ

答、ソナナコトハアリマセンチ

問、子ヲ殺ス際オ前カ正氣デアツタガ都合ガヨイカ氣ヲ失フテ

夢中デヤツタト云フガ都合ガヨイカ

答、ソリヤ何ンダチー夢中デヤツタンダカラ仕方ガナイチ

問、オ前ハエーケライナコトヲ云フテオ

答、私ハコウ云フ男デス誰ニデモ聞イテ下サイ出ダシト云ヒ

マセン

問、ソナナチオ前ハ夢中デチヲ殺シタトオ上ヘ報告シタ方ガ

ヨイカ正氣デアツタチオ今出ダシト云フテオ

答、オ前ノ都合ガヨイノカ

問、正氣デアツタト報告スレバドウナルカ

答、オ上デバソナナ無理ハシナサラント思フガネ

問、子供殺シハ殺人罪ダチオ前ハ死刑ニナルノダ

答、人ガ一向自分ヲ相手ニセマカラヤリマシタガツレテ死刑ニ

レバ止ムヲ得マセンチハツハツ

註、彼ハ死刑ニナルト云ハレテモ一向平氣ニシテ顔面ニモ笑

ヲ漏ラシ動ジタル氣分少シモナシ之レ彼ガ狂ヲナシ居ラザ

ル一證トモ見ルコトヲ得

茲ニ於テ第三回自體檢査ヲ行フ

(黃) 第四回檢査(大正六年〇月二日)

被告ハ某檢査室ニ立チオシガ檢査者ヲ見ルヤ先ツ椅子ニ腰ヲ掛

ケ而シテ後丁寧ナル辭義ヲナセリ檢査者ガ默然トシテ彼ト對座ス

レバ彼モ亦モ語ル所ナク視線ヲ目的モナクアチラコチラニ向ケ

ツ、アリ特ニ本日ハ不行儀ニシテ大廳部ヲ露出シ往々ニシテ福

弄アヲ見ル
 問、此頃ハドウデス
 答、ドウツテシヨウガアリマセン此頃ハ夜一時間位外寐レンカ
 ラ困ツテオ
 問、毎日何ヲシテオリマスカ
 答、此頃ハ本ヲ讀ムノモイニナツタカラボカントシテオ
 問、遺風ジヤナイカ
 答、少シハ遺風ジヤガ大シタコトハアリマセン
 問、氣分ハドウデス
 答、コ、ヘ來タ時分ヨリハヨイデス子アノ時分ニハマダ逆上セテ
 殘リガアツタカラネ
 問、身體ノ工合ハドウデス
 答、腹ノ所ガ手頼リナイネ臍カラ二寸計リ上ノ所ガ變デス
 問、ドウシテ變ニナツタカ
 答、ヤハリ彼奴ガドウカシタニ造イナイ
 問、アイトハ誰デス
 答、娼妓デスガソレト關係シテオ時分ニソイツノ着物ヲ五六枚
 私ガ預ツテオリマレタガ女房ノ死ンダ時モウ入ルコトモナイシ
 二三枚ハカヘシテヤツタガマダ少シハ殘ツテオリマス所ガ其女
 ハ私ト反對ノヤツノ所へ嫁入ツタカラ催促ハ出來ズソノ執念デ
 コ、ワドウカシタニ違ヒナイト思ヒマス彼奴ハ私ノ羽織ヲ買ニ
 入レテオカカラ金目ニシテハマダコナラガ釣鐘ヲ買ハニヤナラ
 ン位ヒデス
 問、女ニハ何人位關係シタカ
 答、妻女十四五人、藝妓十四五人合セテ三十人位デシヨウ
 問、皆オ前カラ手ヲ出シタカ

答、中ニ十分無理ニシタヤツモアルガ強姦ト云フ様ナモノハ一
 人モナイ
 問、嫂トモ關係シタト云フジヤナイカ
 答、ソリヤ兄ノ死後三年シテカラホンノ五六回デス
 問、ソナナコトヲシテヨイト思フカ
 答、マアアンマリヨカイナイ此頃ハ色事モ一寸モスル氣ニナリ
 マセン二月カラ一回モシマセンモウ私ノ命モ水イコトハアリ
 マセン
 註、被告ハカ、ル色情關係ヲ語リ又嫂ヲ犯シタルコトヲ語ラル
 、モ敢テ惡イコトヲナセシト思ハザルガ如シ
 問、岡崎ヘハ歸リタカハナイカ
 答、モウ岡崎ヘハ歸リタクナイネ桃山御陵ト本願寺ヘ參レバアト
 ハ四國四國デモメグルカネ
 問、オ前ハ人殺シヲシテ只出獄出來ルト思フノカ
 答、ソウサネ重罪ニナリマシヨウ無期カ死刑カネソウスリヤ一層
 曲ガナクテ樂デヨイネ生キテオリヤコソツマランコトヲ考ニヤ
 ナランカラネ
 問、オ前ハ出獄日ヲ云フテ無罪放免ニナル積リダネ
 答、ア、岡崎デ子ガ可愛クテ殺スト云フ法ハナイト裁判官ガ云ハ
 レタガアリヤ成程臆デス實ハ村ノ者ガ私ヲ呪フテオ私ノ女房
 ノ血統ガ惡イト云フテオル様ナ氣ガシテ仕方ガナク逆上ツテシ
 マツテ血統ノ惡イ子ナラ皆殺シテヤレト思フテ殺シマシタ何シ
 ロ裁判所デ村ノノト云フコトヲ何回モ云フテモノドカラ事ガ
 一寸モ分ラン様ニナツテネソレト公判廷デ云間キタル積リダ
 ツタガ公判モナクテ京都ヘ送ラレタデシヨウ何ガ何カ一寸モ分
 ラン監房ニ居テモ床ニ觸ツテオル所ガ熱クナリ外ノ處ハ非常ニ

ツメタケテドウモ變ダネ
 註、談話ハ支離滅裂ニシテ意味不明ノ處多シ
 問、此頃何カオカシナコトハナイカ
 答、ドウモ之男ガ京都ヘ來テ居ル様ニ思ハレテ仕方ガナイガネソ
 ンナ馬鹿ナコトガアルモノカト思ヒ直シテモソウ思ハレマス
 問、清ノ幽霊ハ出ナイカ
 答、ソレガ不思議デスネ出ナイカノト私ガ待テオルガ一寸モ出
 ナイネ
 觀念聯合ノ狀況ヲ知ラント欲シテ刺戟語ヲ與ヘ被告ノ直ニ思ヒ出
 ス反應語ヲ答ヘシメ之ニ要スル時間ヲ測定セリ

刺戟語	反應語	所要時間(秒)
天道様	難有イ	8
月	難有イ	7
米	ナウテナラヌモノ	3
水	ナクテナラヌモノ	3
雪	直ニ	3
紙	直ニ	3
硝子	直ニ	3
松ノ木	直ニ	3
家康	直ニ	3
日蓮上人	直ニ	3
電氣	直ニ	3
青イ	直ニ	3
赤イ	直ニ	3
黒イ	直ニ	3

語ニ同じ反應語ヲ數回與ヘタルコトニヨリ知ルヲ得
 茲ニ於テ第四回身體的検査ヲ行フ
 (字)身體的検査
 前後四回ニ亘リテ行ヘル身體検査ノ結果ハ略相一致セルヲ以テ總
 括シテ茲ニ之ヲ記載スレバ左ノ如シ
 體格大、營養尋常ナリト雖皮色ハ稍蒼白皮下脂肪層ノ發育中等ナ
 リ
 頭部ハ黒毛密生シ輕打スルニ疼痛ヲ訴ユル部ナク顛頂部ノ中央
 ニ三角形指頭大ノ癩癧一ヶ及左額部ニ不正形癩癧又一ヶアリ直
 下ノ骨質ト癒着セズ被告ノ語ル所ニヨレバ是等ハ彼ノ小兒時代ニ
 濕疹ヲ生シタル痕跡ナリト云フ兩耳鼓ハ稍大ニ聾ノ耳ニ屬似シ耳垂
 ヲ認ムルコト能ハズ
 顔面ニハ少シク力ナク蒼白、右半ハ一般ニ強健シ右眼裂狭ク右鼻
 唇溝亦少シク淺ク右口角ハ左ニ比シ稍低シ但シ顔面神經ノ諸枝ニ
 麻痺壓痛及痙攣ヲ認メズ眼動ニ異常ナク調節機能尋常瞳孔ハ左右
 同大ニシテ圓形且通常大、對光反應銳敏、視野ニ異常ナシ舌ヲ伸
 出セシムルニ直ニシテ少シク震盪アリ開口閉口閉目等ヲ相次
 イテ命ズルニ少シク共働運動ヲ來ス懸壺垂ハ直ニシテ聲音ノ際能
 ク舉上シ咽頭及硬口蓋反射常態ナリ四肢ヲ他動的ニ屈伸セシムル
 ニ抵抗ナシト雖明ニ強硬症狀ヲ見トキトシテ蟻行屈曲症及反響症
 狀ヲ呈スルコトアリ上肢ニ於ケル深反射尋常、腹皮反射ハ僅ニ存
 シ皮膚紋畫症著明ナリ胸廓ハ左右均等ニシテ呼吸運動ニ異常ナク
 打聽診上肺心ニ特記スベキ異常ヲ見出サズ脈搏一分間七十至ヲ算
 ス腹部ニモ異常ノ硬結或ハ壓痛アル部ナシ脊柱ヲ輕打スルニ疼痛
 ヲ訴フルコトナシ
 膝蓋反射射ハ左右均等ナリト雖弱クあひれ膝反射射ハ之ヲ認ムル

コトヲ得ズ足跡反射ハ足趾ノ藍靑ヲ來ス觸覺痛覺及位置感ニ異常ナクあつては氏後候ヲ認メズ指ノ指、指ノ鼻尖、足趾藍靑接觸試驗ニ失部ヲ見ズ

今予ハ略検査ノ全部ヲ終了シタルヲ以テ茲ニ於テ一件記録ヲ精讀シ検査ノ部ニ於テ被告ガ予ニ語レル所ト證人等ハ參考人等ノ司法廷ニ於ケル申立ト相一致スル否ヲ檢セント欲ス

(乙) 一件記録摘要

一、大正〇年九月三日付參考人〇〇〇〇ノ申立ニ依レバ被告ノ同胞ハ十人計リ生レタルガ多ク幼死シ現今生存セルモノハつゞ七左衛門、東一郎及たのノ四人ニ過キズ只長兄淺次郎ノミハ今ヨリ六年前ニ死亡セルガ性賭博ヲ好ミツノ爲メニ二回入獄シタリト云フ但シ血統中ニ別ニ氣ノ變ツタ人ハナカリシト又同年四月一日付〇〇〇〇(被告ノ實母)ノ申立ニ依レバ七左衛門ノ曾祖母ハ精神病者ナリシト聞ケルモ餘リ古イコトナレバ確カニハ之ヲ知ラザルガ如シ次ニ同年八月廿九日付被告調書中ニハ被告ハ自分ノ血統ニハ精神病者ナシト申立テ居レリ要之七左衛門ノ同胞ニハ非常ニ幼死者多ク且曾祖母ニ當レル人ニ精神状態怪ムベキ人アリシト云ヘバ被告ノ血統ハ稍退化ニ傾ケル家系ナリト云フベシ

一、大正〇年九月一日付〇〇〇〇ノ申立ニ依レバ被告七左衛門ノ同人ノ次男ニシテ幼少ノ頃ヨリ強ク自分ノ思フコトハ何事デモ通スト云フ氣性ノ子ニシテ小学校ニ於ケル成績ハドテラカト云ヘバ其イ方ナリシ然レニ親戚ナル〇〇〇家ガ死ニ係ラタル爲メ〇〇〇(被告ノ父)ハ初メ〇〇ノ長女ツヅシテ〇〇〇家ノ跡目相続トナセシモ間モナク七左衛門ガ生レタルニヨリつゞテ他

口ヨリ池ヲ出シ若シツウニシタル爲メ七左衛門ハ申途ニテ止メヨウカトモ思ヒシモ遂ニ意ヲ決シテ絞殺シ「前一人ハヤリヤセン云々」ト大聲號泣セル爲メツノ物音ヲ聞キ付ケ隣家ノ〇〇光太郎ガ駭ケ付ケ被告ハ遂ニ自縊スルコト能ハザルニ至リシモノナリト云フ(大正〇年八月二十八日付被告調書及翌二十九日付被告調書参照)

一、大正〇年九月一日證人〇〇〇光太郎ノ申立ニヨレバ八月二十八日午後一時半頃七左衛門ノ泣ク様ナ聲ガスト告グルモノアルニヨリ如何ナラント早速走り行キ七左衛門方ノ障子ヲ開キ見タルニ同人ハ八疊ノ座敷ニ立テオリ次男清ヲ兼カセテ其上ニ着物ヲ掛ケテアリシ故證人ガドウシタノカト尋ネタルニ七左衛門ハ清ヲ指シ行ツテ仕舞ツタ「ト云フ故清ノ上ニ掛ケテアル着物ヲ取テ見ルト清ノ顔ハ蒼クナリ而モ手拭ヲ頭ガ絞メテアル故證人ハ之ハドウシタノダト云ヒナガラ手拭ヲ解クト七左衛門ハドウカ今日ハ許シテ呉レドウシテモ今日ハ死ナナラヌ是非見逃カシテ呉レ是デ今日ハ三度目デ息セツバ詰ツテ死ナウト思フカラドウカ見逃シテ呉レト申シタリトアリ

是等ノ狀況ヲ綜合スレバ被告ノ今回ノ犯行ハ到底常識ヲ以テ行ヒタルモノニ非ラザルコトヲ推知スルコトヲ得ン
一、然ラバツノ犯行ノ原因如何ト云フニ彼ハ次ニ記スルガ如キ種々ノ妄想ヲ有シテ等ノ妄想ノ爲メ清ヲ殺害スルニ至リシモノナラント想像サル即被告ハ妻ノ死亡後妻ガ子供ヲ連レテ死ンデ行キシニ依リ自己一人ノ子供ヲ連レテ死ナナラヌ清ハ自己ノ一番慕フテオルカラ同人ヲ連レテ自殺セン願宣サンノ機ナガ夢ニ顯レル但シ話ヲシタコトハナイ(以上大正〇年八月二十八日付〇〇七左衛門聽取書参照)妻ノ葬式ノ際同人ノ棺

所ニ嫁入セシメ被告ノ同家ノ相續人トナセリ依テ今ヨリ十二三年前ニ七左衛門ハ妻ヲ迎ヘ〇〇〇家ニ入り同家ヲ再興シタルモノナリ之レヨリ先キ被告ハ小学校四年ト補習科一年半計ヲ修業シ終リ同モナク氣ガ變ナコトニナリ只笑ツテ計リオ膳ニ陶ツテモ箸ヲ持チナガラ笑ヒツ、アリ物ヲ云フテモ辻後ノ合ハヨコトバカリナリシヨリ母ハ之ヲ心配シ種々神佛ニ念ジタル所七左衛門ハ暫ク正氣ニ復シタリツノ後ハ米ヲ搗キ或ハ百姓及買屋ノ手傳ヲナシテ流世セリトソノ間被告ハ賭博ヲ好ミ數年前罰金拾圓ノ言渡ヲ受ケ又賭博ノ爲メニ警察ニ招致サレタルコト二三回アリ〇〇〇家ノ資産ハ田畝宅地時價ニ見據リ七千圓計リアルモ借金等ヲ精算スレバ残り少シト云フ(大正〇年八月廿八日付被告調書参照)

一、然ルニ八月二十八日午後一時頃被告ハ息々清ヲ連レテ先キノ世ニ行カント決心シ先づ平常子供ヲ「アラン」トナヌ爲メニ吊ルシ置ケル男帯ヲ外ツシ懷中シタリ之レヲ「自己ガ絞死ノ用ニ供セン爲メナリ」次デ着物掛ニアリシ手拭ヲ取り八疊ノ間ニ一人裏隠シ居タル清ノ所ニ行キ頭ニ手拭ヲ巻キツケ絞メタル所清ハ

ノ妻ノ上ト云フ字ガ逆ニ書イテアリ棺ノ傍ニ立テタ棺蓋ノ花押ガビツコニ作ツテアリ又棺ノ下ニ入レテアリシ竹ヲ疎更爾イノデ作ツテアリシ等ハ人々ガ〇〇〇家ヲ又死絶ハサセル積リテ自分ヲ呪フテオル〇〇〇家ハ二代モ死ニ絶エタナル故此度モ呪ハレルカラドウシテモ死ナナラヌ坊サンノ來ル日ハ兎角ケテノ付ク日デア(以上大正〇年八月二十九日付被告調書参照)佛檀ノ障子ニ子供ガ刀ヲ持チ大人ノ供ヲシテ行ク跡跡ガアルガ丁度子供ガ刀ヲ殺シテ呉レト云ハメ計リノ謎ヲ觀望シテ「家ヲ死ニ絶エル様ニ考ヘテオル(以上大正〇年九月一日付〇〇〇光太郎調書参照)始ノ中ニ毒ガ入レテアル(大正〇年九月三日付參考人〇〇〇東一郎申立)被告ノ食物ハ毒ヲ入レル(大正〇年九月一日付〇〇〇いわ申立)洋燈ガ鴨居ノ真中ニ吊ツテアルカラ中ノ子供ヲ連レテ死シ今迄關係シタ女ガ呪フテ居ル(九月四日付被告調書参照)夜寐テオルト誰カ被告ヲ殺シニ來ル様ナ氣ガスル(九月四日付〇〇〇寛三申立)等ノ諸種ノ妄想ヲ有シタリ尙一件記録中ニモ被告ガ上記ノ妄想ヲ有セシコトハ證人參考人等異口同音ニ申立居ル所ナリ

一、被告ハツノ他奇行甚ダ多ク夜寝體ニテ妻ノ戒名ヲ墓地ニ取リニ行キ又玉串ノ置キ機懸シキトテ心配シ特ニ妻死亡後ハ一層興奮シ易ク些細ナル葬式ノ道具類ノコトニテ大立腹シ或ハ一寸幅福傘ノ位置ヲ變シタル位ヒニ激怒シ(大正〇年九月一日付〇〇〇光太郎申立)病院ニテ容易ニ診察シテ呉レヌト云フテ立腹シ衣服ヲ脱シテ池ニ投シ(大正〇年九月三日付〇〇〇東一郎、川合義方及岡四日付中本恒八申立)タル等アリ

茲ニ於テ被告ガ検査ノ部ニ於テ予ニ語リシ所一件記録中ニ於ケル鑑定書作成ニ就テ

證人或ハ參事人等ノ申立ト略一致スルコトヲ知ラシテ被告ハ決シテ伴狂ヲサントスルノ意ナク正直、有リノマ、ニテ予ノ検査ニ應ジタルモノナルコトヲモ信ズルヲ得故ニ是等ヲ基礎トシテ被告ノ心神狀態ニ說明ヲ加ヘ予ノ意見ヲ述ベント欲ス

(丙) 說明

予ハ上記検査ノ部及一件記録摘要ノ部ニ於テ隨所註ヲ加ヘ或ハ說明ヲ施シタルモノ之ヨリ是等ヲ綜合シテ被告心神狀態ノ診斷ヲ下サント欲ス

(イ) 遺傳關係

被告七左衛門ハ直接精神病ノ遺傳アル血族ニ生レタルモノニ非ラザルモ彼ノ曾祖母ハ變ナ人ニシテ又被告ノ同胞ニ幼死セルモノ多ク且實兄淺次郎及被告自身ハ賭博常習者ナリシト云ヘバ彼ノ血統ハ純正ナリト云フヨリモ寧ロ退化ニ傾ケル血族ナリト云フヲ得ベシ

(ロ) 生活史及既往歴ノ概要

被告ハ生來健康ナレドモ幼年ノ頃ヨリ瘧疾ヲ患エタルコトアリシ外若患ニ罹リシコトナク學業ハ尋常小學卒業後補習科ニ一年半許リ通學シ退學後自家ニ在リテ百性ノ手傳ヲナシ同時ニ副業タル質屋ノ仕事ヲ補助シツ、アリシガ實母ノ云フ所ニヨレバ十六七歳ノ頃無暗ニゲラ、笑フ様ニナリ云フ所モサツバリテザリシ故家人ハ之ヲ心配シ神佛ニ祈リテ漸ク治癒セリトシテ七左衛門ハ生家〇〇家ヲ出テ、斷絶セル〇〇家ヲ再興シ二十五歳ノ時妻ニト結婚後三人ノ男兒ヲ舉ゲ家庭圓滿ニ暮セリ然レニ〇〇家モ家業ハ農ナルヲ以テ冬春ニ百性ノ閑散ナル時被告ハ往々ニシテ遊女ヲ買ヒ又ハ賭博ヲナシテ樂シミトセリ或時被告ガ賭博ニ餘リ耽リシ爲メ實父ハ彼ヲ準禁治産ニナサントシ又大正元年頃ニハ賭博ノ

池中ニ投シタルガ如キ到底常識アルモノ、ナサザル所ナリ

(ハ) 現在徴候

此ノ如キ遺傳關係ト既往症ヲ有スル被告ノ現在徴候如何ト云フニソノ舉動ハ硬ク顔面ノ表出少ク恰モ木偶ノ如ク着坐シ醫師ニ對スル態度モ顯レズ
被告ハ父母同胞ノ名前及自己ノ生年月日、現所在及現月日ヲ詳細シ居レバ時所及人ニ對スル指南力ニハ大過ナシ彼ハ又妻ノ死後非常ニ覺エガ惡クナツタ此頃ハ少シハヨイガ先達中ハ氣ガ變テシタト云フト雖自己ノ精神異狀ニ對シテハ確タル病識ナク注意力モ幾分不充ナル所アリテ簡單ナル文字ノ脱卸ヲ見出ス能ハザルコトアリ

領解力ハ低位ニ在リ簡單ナル繪畫ノ題意ハ之ヲ解スルコトヲ得ルモ稍複雑ナルモノニ至リテハ甚ダ突飛ナル解釋ヲ下スコトアリ一短文ヲ一讀後ソノ意味ヲ領解スルコト困難ニシテ又相當ノ文字ヲ用ヒテ一文章ヲ完全ニ作ルコト能ハズ記憶力及記憶力モ亦甚ダシキ障害ヲ被リ居リ今上階下ノ御即位式ノ何時ナルヤ或ハ昨日如何ナル仕事ヲナシタルヤヲモ記憶セズ
計算力ハ彼ノ教育程度ニ比シ相當ナリト雖稍複雑ナル問題ハ之ヲ解クコト能ハズ即チ常人ニ比シ低位ニアリトスベシ判斷力ハ不充分ニシテ一般智能ハ尋常小學五六年ノ程度ニ在リテ現行尋常小學讀本卷六及七ハ其ダシト誤認ナクシテ之ヲ讀過シ得ルモ同卷八ハ既ニ困難ニシテ同卷十ハ不可解ノ所多キガ如シ算術モ亦尋常四學年程度ノモノヲ適當ニ解釋シ得ルノミ被告ハ現今ニ於テハ前記既往症ノ部ニ述ベタルガ如キ多種ノ妄想ハ之ヲ有セズト雖尙ソノ痕跡ト認ムベキモノアリ例ヘバ淺井家ハ死ニ絶ヘル家ナレバ今尙ソノナ様ナ氣ガスル或ハ自分モ女房ノ跡ヲ追ハネバナラヌ等ノ如

キ之レナリ但シ妄覺ハ之ヲ認メズ要之被告精神病發作時ニハ多種多様ノ妄想一定ノ聯絡ナクシテ發來シ且意識ノ濁濁モアルモノナルベケレド現今ニテハ之ヲ認ムルコト能ハズ

被告ノ話ヲ振リ及ビ上掲ノ検査ニ依リテ觀念聯合ノ狀況ヲ窺フニコノ促進及意識奔逸等ナク却テ稍凝滯粘着シ談話ニ迂遠冗長ニシテ所々斷裂ス但シ常識即答症、顯音聯合、新語作製症及虛談症等ナシ

感情ハ甚シク鈍麻シ居リ妻ノ死ヲ語り愛兒ガ闕死セル狀ヲ語ルモ毫モ感情ノ變動ナクニコノトシテ語リ續ケ(表情顯出症)妻子ノ死ニ對シ何トモ感ゼザルヤト問ヘバ今被告事件ニ氣ヲ取ラレテ居ル故ソノコトハ思ハヌト答フルノミ次ニ意志發動力ノ増進(例ヘバ多辨、常同運動放散亂舞器物破壞)及ソノ減退(例ヘバ緘黙、不動等)ナシト雖意志ノ液影響性ハ亢進シ強硬症狀及反響症狀ハ之ヲ認ムルコトヲ得但シソノ反射症タル拒絶症等ハ現今ニテハ之ヲ檢出セズ

言語ハ明瞭ニシテ發音ニ異常ナク閉語及文法等又常人ノ如ク手書ニハ常顯失簡亂雜等ヲ認メズ
身體的ニハ顔面左右不均等ニシテ兩耳鼓膜形ヲ呈スルノ他特記スベキ異常ヲ認メズト雖是等ノ異形ハ變質徵候ノ一端トモ見ルベキモノナリト信ズ

(ニ) 論斷

前記ノ遺傳關係、生活史、既往歴及子ガ檢診ノ現在徴候ニヨレバ被告ハ現今一種ノ精神薄弱ニ陥リ居ルモノニシテツガ先天的ノモノニ非ラザルコトハ被告ハ小學ヲ卒業シ補習科ヲ修メ一定ノ家業ヲ正シク取ルコトヲ得タリシニ依リ推知スルニ足ル然ラバ彼ノ精神薄弱ガ後天的ノモノトスレバ如何ナル疾病ヨリ由來セルモノナル

ガ氣ガ違フテドウスルト云フコトハアリマセナシ且氣ガ小
サクテクシレテ居ツタノデアリマス云々

同日付〇〇政平調書中ニ

問、參考人ノ身内ニ氣違ヒヤ馬鹿ナ人間ハナイカ

答、わさガ小々足ラヌ位ヒデ外ノモノハ一人前デス本年三月ニ
姉ノふさガ亡クナリマシタガコレガ十年前程前ヨリ病ンデ居リ
マシタ云々

大正〇年五月十九日〇〇つと聴取中ニ

問、わさハ姉ガアツタカ

答、アリマシタガ本年三月十六日ニ死亡シマシタ其姉ハ何モ仕
事ヲセズ私ガ御膳ヲ上ツテクレト云フテモ返事ヲセズ本當ノ
阿呆デアリマシタ云々

同日付〇〇又吉聴取書中ニ

問、〇〇わさノ姉ニ精神病者カ或ハ白痴ノ様ナモノガ居ツタカ

答、精神病者ノ様ナ姉ガ居リマシタ

トアリ要之被告ノ姉ハ一種ノ精神病者ナリシガ如ク兄政平ハ一回
監禁罪ニ關ハレタルコトアリ又兄及妹ノ生レタル小兒ハ何レモ天
死セルガ如シ即チ被告ノ血族ニハ精神病ノ遺傳アルガ如ク少ク
モ彼ノ家系ニハ天死者多ク退化ニ傾ケル血族ナリト云フベシ

乙、既往歴

三、アンタ生レテカラ丈夫カ

チイサイ時ハ丈夫デナカッタ近年丈夫ニナリマシタ身體ニ色
々ノモノガ出来テヨク床ニ就イタ十六時分ニ毎年寒クナリ
カケルトヨク寝テ醫師ニ見テ買フテ田ニアル美シイ花ノサタ
草ノ風呂ヲ立テ、入ルト直リマシタ身體ガ眞赤ニナツテソレ
ガ出来ルト尿ガ眞赤ニナツタソウスルト下痢ヲシテ口ノ内カラ

不調法モノデスカラ阿呆トカ馬鹿トカ云ハレマス

學校ハドノ位ヒ行ツタカ

尋常三年テ落第シテ止マシタ

四、尙大正〇年五月十九日付〇〇つと聴取書中ニ

問、わさハ馬鹿ノ様ニ思フカ

答、働クコトハ能ク働キマスガ智慧ガ足ラヌ様ニ思ヒマス併シ
阿呆ト云フ程ノコトデアリマセム

問、わさハ氣違ノ様ノコトアルカ

答、氣違デハアリマセム智慧ガ足ラヌ丈ノ事デアリマス云々
大正〇年五月三十一日付〇〇政平調書中ニ

問、わさハ人並ノコトハ出来ヨツタカ

答、人並ニ行キマセム智慧モ行ヒモ人並カラスルト七分通り
位ヒシカ無イト云フテ宜イ位ヒデス云々

五、要之被告ハ生來身體ノ弱キ方ニテ度々發性性ノ疾病ニ罹リ又
喘息ヲ持病シ居リ身體ノ發育遅ク月經ハ二十才頃ニ至リテ初
メテ來潮シタリト云フ學校ノ出来ハ其ダ惡ク尋常三年ニテ落第
シテ後廢學シ爾來別ニ學業ニ意ヲ用ヒザリシ爲メカ智力甚ダ低
ク萬事人並ノコトハ逆モ出来ザリシ品行ハ比較的方正ニシテ一
度若林直吉ト結婚セシモ姑ト合ハヌ爲メ四、五日ニシテ破談ト
ナリ實家ニ歸リ爾後農業ノ手傳ヲナシテ兄ノ世話ニナリ居リシ
モ人並ノコトガ出来ザル爲メ往々嫂トトクシレ云ヒ合ヒ居
レリト云フ

丙、犯罪事歴

六、本件記録中ニ在ル〇〇春治、〇〇留太郎、〇〇又三郎、〇〇
兵太郎、〇〇わの、同つと、同政平并ニ被告等ノ聴取書調書乃
至豫審庭ニ於ケル中立ヲ綜合スレバ被告ハ〇〇縣〇〇郡〇〇〇
第三編 法醫學的精神病學

十一 精神病者ニ對スル鑑定書作成ニ就テ

三九一

ナル實兄政平居宅ニ兩親及兄嫂夫婦ト居住中嫂ト意見合ハズ常
ニ同人ヨリ嘲弄セラレ、ヲ怒ミ同家ニ放火シテつとヲ驚カサシ
ト企テ大正〇年八月一月午後十一時頃迄ニ起キ裏口ニ出デソノ
所ニ在ル竹ニ藪ヲ縛リ付ケ之ニ點火シ母家ト土蔵トノ間ナル母
家ノ壁ニ立テカケテ放火シ直ニ自己ノ寢床ニカヘリ知ラヌ頗ラ
シテ居リシニ火ハ其底ノ一部ヲ燒キツ、アル所ヲ幸ニシテ用便
ニ起ケタル母ワノガ發見シ大聲ヲ發シタル爲メ家人及村民直ニ
駆け付ケ防火ニ盡力シテ放火事ニ至ラズシテ止ミタリ

七、然ルニソノ當時警官ガ放火ノ狀況ヲ調査シタル所犯人ガ外ヨ
入りタル形跡ナク又同家ハ他人ヨリ放火ヲ受タルガ如キ覺エ毫
モナシト云フニヨリ周圍ノ狀態ヨリ嫌疑ハわさニカ、リわさハ
種々取調ラレタルモ知ラヌ存セムニテ押シ通シタルガ本年五月
ニ至リ又モヤ訊問セラレ怖カツタカラ遂ニ彼ノ放火ガ自己ノ所
爲ナルコトヲ自白スルニ至リシモノナリト云フ

八、犯罪事歴ニ付被告ト予トノ問答左ノ如シ

昨年八月一日ノ晚ホントニオ前ガ我家ニ火ヲ付ケタカ

私ガツケマシタ

自分ノ住ンデオル家ニ火ヲツケルナンテオカシイジヤナイカ

嫂ト氣合ハンサカイおつとサントオドソウト思フテアンナ

不調法ガ出来マシタ

始メノ中ハオ前ハ知ラント云フタロウ

怖カツタサカイ生レタ家ジヤサカイツケヤセント云ツテオツ

ツンナラナゼ一年モツタテカラ白狀シタカ

今年ノ五月八日ニ駐在所ヘ一寸來イト云フテ母サント二人デ

行キマシタスルト私ノ名ヲ云フテ何處モ、オ前トコノ家ハ

オ前ガ燒イタノダロウソレヲ云ハント何日タツテモカヘサン
ゾト云ハレマシタカラソレガコワサニ私ガツケタト云ヒマシ
タ
ホントノ事ヲ云ヘヨ私ハオ前ノ顔ヲ見テオルトホンマノコトヲ
云フテオルカ爲ラ云フテオルカ分ルヨ
私ノ生レタ家ダカラツケヤセント何度モ、ラシマシタケレド
モ巡査ガ大キナ聲デ叱ラハツタカラ白狀シマシタ
ホントノコトヲ云ヘホントハ誰ガツケタカ
大キナ聲デ云ハハツタカラソレガコワサニ云フテシマヒマシ
タ我住ンデオル家ニ火ヲ付ケルナンテソナコトハ夢更シヨ
ウトハ思フテ居マセンはつけ見ヨラ三十位ノ女ノ人ガツケ
タト云フタソウダ實際ハ私ガツケヤセン怖カツタカラ白狀シ
テシマヒマシタ大津デモソノ通りニ云ハントヒドイ目ニアハ
セルト云ハハツタカラ裁判所デモソウ云ヒマシタ私ハツケヤ
セン
誰ガツケタ心當リノ人ハナイカ
誰モ云フテ呉リヤハランカラ知ラン
オ前ニ罪ヲカブセウト思フテ誰カソナコトヲシタノデナイカ
私ハ馬鹿ナ人間デスケレドモ人ニ罪ヲカブセラレル様ナコト
ハ一寸モシタコトハナイ
娘ガオ前ニ罪ヲカブセル積デヤツタノデハナイカ
おつまサンモ様者デスケレドモソレ程ノコトヲスル人デナ
イ
ドウシテソナコトニ火ガツイタロウ
アンナ所デ一服スル人ハナイシドウシテツイタカ分ランソシ
テアソコハ常ニ人ノ行ク所デナイ

直サントハ關係ガ切レテオルカ
私ハ娘分トシテ行ツタノヤカラ何モ持つテ行ツテオランカラ
關係ハ直ゲキレタ
此頃直サンハ夜來ナイカ
ソナコトハ少シモアリマセン
此頃アンタノ關係シテオル男ハナイカ
アリマセン
火ノ原因ハソレデハ一寸モ分ランカ
分リマセン
ホントノ事ヲ云ハント萬事オ前ノ爲メニナラン裁判所デモオ前
ノ罪ヲ成丈ケ工合ヨクシテヤロウト思フテ居ナサルカラ此大私
ガ來ル迄ニヨク考ヘテオイトホントノ事ヲ云ヒナサイ(以上六
月九日ノ問答)
九、ドウヤ考ヘテオイタカ火ハ誰ガツケタ
私ガツケマシタ不調法ナコトヲラシマシタコラヘテオクレナサ
イ(泣ク)
ソナコトハイツケタ
去年ノ八月一日夜時間ハ分ラン
ドウ云フ風ニシテツケタ
庭ヲ掃ク様ノ様ナモノニ摺火デ火ヲツケ藏ノ底ニ立カケタ
ソレカラドウナツタカ氣モツカズニ庭所ヘ逃ケ込ミマシタ下
駄ヲ履イテオウツカドウカ分ラン
ネテカラドウナツタ
間モナクオ母サンガ手水ニ起キテ見付ヤハツタ
ドウシテ火ヲツケル氣ニナツタ

おつまサンヲ威ス積リデモ何デモナカツタ(嗚咽シテ語ル能
ハズ)毎日一所ニクヲシテ居ルモノヲ威スナンテコトガデキ
ルモンデスカ
何カ火ヲツケタ譯ガアロウ
出来心デフットソナコトハ氣ニナツタ
ツケタノハホントカ先キニハツケント云フタデヤナイカ
間違ハアリマセン私ガツケマシタソナコト云ヘバ早タカヘ
レルト思フテアンナコトヲ云ヒマシタ
毎月月經ハイツアル
大抵月末先月ハ二十三日カラ二十五日迄デス
去年ノ七月ノ月經ハイツ
ソレハ知リマセン
去年ノ盆ニハ月經ハドウダツタ
盆ガソデカラ間ガアツテカラアツタ
放火シタ時分ニ月經ハナカツタカ
ソノ時分ハドモオセナシタ(奇麗ナモノデシタ
(以上六月十六日ノ問答))

ドウシテソナコト結ビ方スルカ
私ハ不調法デスカラ後ロデ結ベンカラコウシマス
十一、指南方
名前ハ
〇〇わさ
内デハわさト云フテオランソウジヤナイカ
戸籍ト違ヒ内デハうたト云フテオリマス
コ、へ來タノハイツ
先月ノ二十三日(正)
今日ハ
六月八日カト一(九日(正))
私ハ何ヲスル人カ
私ハ江州ノ田舎者デコ、ラノ人ノシヤハルコトハ分ラン
(聴診器ヲ見セテ)コウ云フモノヲ持テオル人ハ何ヲスル人カ
オ醫師サント違ヒマスカ
私ハ醫師ヤカラナア一心安タナア一聞クコトヲ皆云ハントイカ
ソ
先達裁判所デハ醫師ニ見テ貰フタカト聞カハツテ親切ニ云フ
テ下サルトナア一(泣キ出ス)
ナゼ泣イタノ
コ、へ來テカラ御飯ヲ戴カレンサカイナア一(ト泣ク)
ナゼ戴カン
ウチノコトガ心配ニナツテ御飯ガ一寸モタベラレン親ガドウ
シテオルト思フトナア一(嗚咽シテ語ル能ハズ)
コ、カラ云フト東ハドナラジヤ
コナラ(ト指南方ヲサス)

十、被告ガ檢診ヲ受クル爲メ檢者ノアル室ニ入り來ルヤ極メテ丁
寧ナル挨拶ヲナシテ着座シ着衣尋常談話ヲ進ムルヤ大シタコト
モナキニ直ニ泣キ出スカト思ヘバ一寸シタ事ニモ笑ヒ出シ時々
痴笑ヲ漏ラスコトアリ顔面ヲ表出ハ少シト雖表情ノ露出ヲ見ズ
作法及舉動等ハ常軌ヲ逸スルコトナシ只帶ヲ結ブニ當リテ所謂
なたい(結目)ヲ先ツ前面ニテ作り面シテ後之ヲ後面ニ懸ハス
ヲ常トス之レ通常ノ婦人ノ爲サマル所ナリ

十、現在徴候
天、精神の徴候
十、精神病者ニ對スル鑑定書作成ニ就テ

兩親ノ名ハ

父ハ政平母ハわの

兄弟ノ名ハ

兄ハ政平嫂ハつま

妹ノ名ハ

〇〇なかつ

コ、ハドコヤ

〇〇ノ監獄ヤ

十二、検査記録第一及十一項ヲ併セ考フルニ被告ハ自己、父母及同胞ノ名前、年齢存否等ヲ漸ク答ヘ又彼ノ現在スル場所ノ何處ナルヤ現在ノ年月日、周囲ノ人ニ對スル考ヘ等ハ辛ク答フルコトヲ得即チ彼ノ指南方ハ確實ナルモノナリト云フ能ハズ

十二、病識
此頃ノ様ニ御飯ヲ呼バレント瀧園モ疊マレンカラ呼バレル様ニナリマシタ身軀ハ何トモナイガ末ノコトヲ考ヘルト頭ノ工合ガ悪クナツテ泣ケル(泣キ出ス)
ドウシテ泣ケル

家ノコトヲ思フタリスト泣ケル(ト云ヒナガラ嗚咽シ語ル能ハズ)一年寄リモアルシ

ソノ他彼ノ談話ヲ綜合スルニ彼ニ確タル病識ナキコトハ明ナリ十四、領解力、被告ハ種々ノ物品ヲ見テソノ品名及使用法ヲ知ラザルモノ往々アリ又檢者ノナセル談話及質問ヲ了解スルコト遅ク時トシテ全ク了解シ能ハザルコトアリ

左ノ問答ニヨリテソノ大要ヲ知ルヲ得ン
コレハ(小ナル瓜切)
釘抜キ(形ハ能ク似テオレ故間違ヘタルナラン)

コレハ(毛抜キ)

毛抜キ(正)

コレハ(寒暖計)

ウチニカケテアルコレカラ異ナナルコトヲ計ルモノダ

寒イコトハ計ラシカ

知ラン

何ト云フモノダ

知ラン

コレハ何ンダカ匂フテ御覽(アルコール)

コレハ(石炭酸)

石油

即チ被告ノ了解力ヲ不充分ナルモノト云フベシ

十五、注意力、被告ハ檢診ヲナセル室ニ入り來レルモノアルモ之ニ注意ヲ向クルコト少ク對話中彼ノ周圍ニ起レルコト例ヘバ窓外ニ見ユル人ノ去來、時計ノ時鳴、或ハ被告ノ手ヲツ、キ足ヲ踏ムモ無頓着ナルコト多シ即チ彼ノ注意力亦減退シ居ルモ散漫ナルコトナシ

十六、記憶力ヲ檢セン爲メ次ノ問答ヲナス
年ハイタク
三十二

三十四ヤナイカ明治十七年生レノモノハ
愛知川デモコ、デモソウ云フテオクレルケレドモ内デハ三十ニナツテオリマス

ソナラ明治何年生レジヤ
何年生レカ知ラン(痛哭シテ、アリ)

自分ノ生レタ時ガ分ラントハオカシイヂヤナイカ
阿呆ドスカラ分ラン

三十二オトシタラ明治何年生ヤ
分ラン

今年ハ明治ニスト何年ヤ
(熟考ノ後)分ラン

明治ガ大正ニナツタノハイツヤ
知ラン

今年ハ大正何年ヤ

學校ヘ行キマシタケレドモ分ラン三年デスカ
出舞目ヲ云フナ

四年カイナア——六年六年

被告ハ自己ノ年齢生年月日ニ就テスラモ正確ナルコトヲ知ラズソノ他種々ナル通常ノ出來事ニ付テモソノ何年何月ニ起リシヤヲモ記憶セズ即チ彼ノ記憶力ハ甚ダ減退セルモノト云フベシ

十七、記憶力

昨日ノ天氣ハ

昨日ハ一寸雨がフツタ六時頃カラ小降りデシタ

一昨日ノ天氣ハ

ヨロシカッタ——親ガアルサカイ一日モ早クイニタイ

今日ノ晝めしノ菜ハ

オ香物ト胡麻鹽デシタ(正)

昨晚ノ菜ハ

大根ト軟ト魚ノ漬入ツタ汁ヤ(不正)

ソノ他被告ニ暗算ヲ爲サシメ後數分ニシテ今爲シタル暗算ハ如何ト問フモ答フルコト能ハズ一般ニ記憶力モ亦減退セリ

十八、計算力ヲ檢セン爲メ次ノ暗算ヲ試ム

五ト七ト合セルト

分リマセン

棒七ツト五ツデイクツ

十四

五錢ト七錢デイクツ

十六錢

田草取りデ一日イクラ買フ

三十錢クイヤハツタケレドモ釣錢ヲカヘシテ二十三錢買フタ

ソノツリハイクラ

七錢

上手ノソウスルト五錢ト七錢デイクツ

十二錢デスカ

五ト七ト合セルト

十二錢

只ノ五ト七ダセ

十二本(指折り勘定シテ)

只ノ五ト五ト合セルト

十錢

數ノ五ト五ジヤセ

十本(指折り勘定シテ)

五ト五ト合セタノト五錢ト五錢ト合セタノトハ同ジカ

同ジデス十錢

七カラ五ヲ引クト

十三錢

七錢持テ行ツテ五錢ノモノヲ買ヘバ釣ハイクラ

三錢

ソノナ風ヲ草取リノ賃金ヲ胡亂化サレンカ
私等ノ在所デハソノナコトヲスル家ハナイ

八錢ノ金ヲ二人ノ子供ニ分ケテヤルト一人分イクラ
四錢

八ヲ二デワルト

四錢

九錢ヲ三人ニ分ケルト一人分ハ

二錢五厘

少シ違フ

三錢ヲ

九ヲ三デワルト

分リマセン

三ヲ二倍ニスルト

分リマセン

出鱈目ヲ云フナ(ト叱リ付クレバ)

ホニニ分リマセン(ト泣キ出ス)

三錢ヲ二週買フト合セテイクラ

六錢

三ヲ二倍スルト

六錢

只ノ三ヲ二倍スルンダヨ

六本

此等ノ暗算ニヨリテ見ルニ被告ハ恰モ八、九才ノ小兒ノ如キ答
ヲナシ抽象的ニ數ナル觀念ナク彼ヲシテ計算セシメントセバ具
體的ニ金錢或ハ指數等ノ單位ヲ附加セザレバ了解スルコト能ハ

ズ即チ被告ノ計算力ハ甚ダ低位ニアルモノト云ハザルベカラズ、
十九、一般智能ヲ檢スル爲メ次ノ問答ヲナス

一ヶ月ハ何日アル

三十日

フノ月モ三十日カ

二十日ノ月モアル

二十日ノ月ハ何日アル

知リマセン

一日ハ何時間アル

日中ハ六時間——六時頃ニ日ガ暮レル

夜ハ九時間半——九時半ニチマスカ十二時間

合セテ一日ハ何時間

知ラン

一時間ハ何分アルカ

五分間

ホントカ出鱈目ヲ云フナヨ

半時間——時計ヲヨムコトハ知ラン

一年ハ何ヶ月アル

知リマセン——家デモ知ランコトバカリデ叱ラレテオ

牛ト馬トドウ違フ

牛ノ方ガヨロシイ馬ハコワサウニオスソレ丈ケデス

頭ヤ足ニ違フタ所ハナイカ

根ツカラ違フ

松ト桐ト違フ所ハ

桐ハフシガアアリ松ハ榊梅ヨク生エテオ

枝ハ同ジコトヤ

ソレ丈ケカ

(手ニテ測定シテ)錯誤アリ

眼デ見テ井ベテゴラン

眼ニテハ正シク並列セシム

魚ノ名ヲ五ツヲ云フテ御覽

鯉、鯛、鯊、うるめ、するめ、鱒(縮美シナガラ考へ考へ長

時間ニシテ答へ終ル)

鳥ノ名五ツヲ云フテ御覽

鷄、鳥、雀、さんび、燕

犬兎猫等ハ合セテ何ト云フカ

けもの

日ハドチカラ出ル

(敢テ怒ラズシテ)東カラ出テ西ニ入ル

十月サンハ

東ノ一寸南カラ出ル

日本ノ一番大キイ町ハ

京ヤ大阪

一番高イ山ハ

ひる谷——茨ヲ賣ラハル山、富士山

大キナ川ハ

私ノ在所ニハ大キナ川ガナイ流車ニ乗ルト大キナ川ガアル

日本デ一番エライ人ハ誰ジャ

郡長サンデス

郡長サント裁判所ノ列事サントドチカラガエライ

ドチカラガエライカ分ラン

昔ノエライ人ノ名ヲ云フテ御覽

殿様

ハイ

此ノ机ノ長サハドノ位ヒアルカ(三尺机)

二尺位ヒジャ

(長短二本ノ線ヲ示シ)ドチカラガ長イ

コチカラガ長イ(正)



此畫ニ足ラヨ所ハナイカ

首カラ下ガ足ラン眼ガ片方外ナ

イ

ソノ外ニハアリマセン

花ノ中デ一番キレナモノハ

牡丹ノ花

(美人トオ田福ノ畫ヲ示シ)ドチカラガキレナカ

美人ヲサシテコチカラガキレナカ

コレハ何角ジャ(四角形)

樹形ジャ何角ト云フコトハ知ラン

コレハ何角ジャ(菱形)

菱形デス

(子供ガ仰向ニ地上ニ仆レ四肢ヲ天ニ沖シテ大人ガ驚イテ助ケ

ントセル畫ヲ示シ)此畫ノ意味ハ

子供ガ地ベタデダ、ケテオ

子供ガダ、ケテオニシテヤ大人ガ餘リ吃驚シテオ

カ

ヘエ(默シテ語ラズ)

五個ノ重量異ナル小箱ヲ重サノ順序ニ井ベシム

オ前芝居ヲ見テ譯ハ分ルカ
譯ハ分ラン美シイノガ面白イ
舉行アセニヤナラン譯ハ
生シテ買フタカラ
ソレ丈ケカ

何ヤカヤコシラヘテ買フタカラ
兵隊サンハ何ノ爲メニアル
方々ヲ囑梅ヨク廻ハツテ下サル
兵隊ノ鐵砲ハ何ノ爲メニ持テオル
キツカラソコトハ知ラン
乃木大將ハドウ云フ人カ
知ラン

東郷大將ハ
知ラン
加藤清正ハ
本ニアツタ一刀ト鎧ヲ持テ居ヤハツタ
東京ハドウ云フ所ヤ
私ハ行ツタコトハナイカラ知ラン
琵琶湖ハドウコニアル
知ラン

近江トハドウコヤ
私ノ國ヤ
丸ヲカイト御覽
三角ヲ書イテ御覽
四角ヲ書イテ御覽

○
▽
▽

先キ教エテ買フタト云ヒナガラ
五角ハ
手ガフルヘテ書ケン(實ハ五角ナルモノヲ知ラズ)
此等ノ問答ニ依リテ見レバ被告ノ一般智能ハ彼ノ計算力記憶力及
領解力等ト平行シテ其位ニアリ恰モ八、九才ノ小兒ノ程度ノ
智能ナリト思料セラル

二十、被告ノ話シ振リニ依リ觀念聯合ノ狀況ヲ窺フニソノ促進、
意思弄漫亂常用等ヲ見ズト雖其ダ流瀆シ話ニハ語數甚少シ
之レ觀念内容ノ貧弱ナルヲ示スソノ他強迫觀念、當意即答症、新
語作成症等ヲ見ズ

廿一、妄想
世ノ中ニ不思議ト云フコトハナイカ
ナンニモナイ
思ハソ所ヲ物音が聞エルト力無イ物ガ見エルト力云フコトハナ
イカ
ソコトハナイ
氣ヲ理ノ化物ニ遇フタコトハナイカ
ソコトモナイ
怖イモノハナイカ
惡イコトヲセンカラ怖イモノハナイ
人ニ自慢スル様ノコトハナイカ
何ソニモナイ
非常ニ悲シカツタコトヤウレシカツタコトハナイカ
ソノ他被ノ態度等ヲ合セテ考フルニ被告ニハ妄想ヲ有セズ
ナイ

廿二、感情
被告ノ感情ハ遲鈍ナレド甚變移シ易ク一寸シタコトニ泣キ出シ
止マルコトヲ知ラザルガ如キカト思ヘバ故モナキニゲラノ笑
ヒ出スコトアリ
毎日何ヲシテオツタカ
幸ノ鐘ヲナツテオル
内ヘカヘリタイコトハナイカ
親ガ年寄りダカラ歸リタテ仕方ガナイ(泣キ出ス)
意風ジヤナイカ
コ、ニ居マスト親ノコトガ心配テ泣ケテ協ハン色々ノコトヲ
考ヘテ仕方ガアリマセン

廿三、意志運動、意志發動力ノ増進セル微候(例之饑舌證書、多
樂放散物品破損等)ナク却テ無氣力ニシテ茫然タルコト多シ次
ニ意志被影響性ノ昂進(例之極微運動ノ強梗症狀反響症狀常同
症狀奇症狀)ナク又ハソノ反對症狀(例之拒絶症狀及疑點症
狀)ヲ認メズ顔面ニハ往々空茫タル表出アルノ外表情ニ特記ス
ベキ異狀ナシ

廿四、聲音拙ナリト雖言語ハ明瞭、用語モ亦數少ク手書ハ被告ノ
教育低キ爲メ拙ナリト雖失節等ナク食慾ハ甚ダ不振、便通ニ異
常ナシト云フ

廿五、被告ノ身體ヲ檢スルニ體格中等營養又之ニ適フ皮下脂肪層
及筋肉發育稍貧、皮色少シク蒼白ニシテ外觀シ得ベキ粘膜血色
尋常ナリ

頭骨ハ左右均等ニシテ輕打スルモ特ニ疼痛ヲ訴フル所ナク顔面
モ亦左右均等ニシテ顏面神經ノ諸枝ニ麻痺又ハ痙攣及疼痛ナク

中、說 明

廿八、上記検査ノ結果ニ依レバ被告ハ精神病ノ輕キ遺傳アリ
且退化ニ傾ケル血族ニ生レ(記録第二項参照、以下括弧内ノ項數
ハ記録ニアル參照スベキ項ヲ示ス)生來身體ノ弱キ方ニテ度々
發疹症ノ疾患ニ罹リ又喘息ヲ持病トシ居リ身體ノ發育遲カリシ
コトハ幼時ノあるキぞめ及月經ノ通常ヨリ甚ダシク遅レタルコ
トニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得彼ガ精神發育ノ充分ナラザリシ

右眼球ハ左ヨリ少シク多ク外轉スト雖運動尋常、瞳孔ハ左右共
圓形ニシテ同大、調節機能ニ異常ナク對光反應銳敏野ニ異常
ナシ舌ヲ伸出セシムルニ直ニシテ著變ナク振頭ナシ齒列整ナレ
ドモ一二ノ齲齒アリ懸壺垂ハ直ニシテ發音ノ際ヨク鼻上ニ硬口
蓋及咽頭反射尋常兩耳形及聽力ニ異常ヲ認メズ
廿六、胸廓尋常、肺臟打、聽診上異常ナク脈搏正ニシテ一分凡七
十至、心音清朗ナリ
脊柱ニ異常ノ彎曲ナク腹部ニ異常ノ硬結壓痛ヲ見出セズ
筋ノ粗大尋常、四肢ヲ他動的ニ屈伸セシムルモ抵抗ナク指
指、指ノ鼻尖、足趾關節接觸試驗ハ拙ナリト雖失調ナシ
觸覺及痛覺ハ全身ニ於テ稍鈍第一助間神經ニ麻痺アリ皮膚被蓋
症者明位位置々々異常ナクろんべるぐ氏微候ナシ
廿七、上肢ニ於ケル深反射及腹反射左右均等ニシテ尋常、膝蓋
反射右ハ稍ク左ハ消失シあひれり膝反射ハ之ヲ認ムルコト能ハ
ズ足趾反射ハ趾ノ蹠屈ヲ來シ足現象ヲ認メズ
要之被告ノ身體ニハ觸覺痛覺筋鈍ニシテ第一助間神經ニ壓痛アリ
皮膚被蓋症者明瞭反射一、二ノ輕度ノ異常アリテ波ガ神經
的變質性微候ヲ存スルコトヲ知ルソノ他身體的ニハ精神病學上
特記スベキ微候ヲ認メズ

コトハ落第シテ尋常三年ニテ醫學セシコト及本件記録中ニ在ル
〇〇、〇〇、〇〇三選査、〇〇つま、〇〇又吉、〇〇惣次、〇
〇政平〇〇松治郎及わの等ノ申立ニ依リテ之ヲ推知スルコトヲ
得(第三、四乃至五項)

廿九、此ノ如キ既往歴ヲ有スル被告ノ現在症候如何ト云フニ指南
力不確ニシテ(第十一、十二項)確タル病識ナク(第十三項)領解
力甚ダ不充分(第十四項)注意力ハ散漫ナラズト雖モ減退シ(第
十五項)記憶力及記録力亦甚低位ニ在リテ自己ノ年輪スラモ
確答スルコト能ハズ(第十六、十七項)次ニ計算力及一般智能ノ
劣等ナルコトハ恰モ八、九才ノ小兒ノソレニ相當ス(第十八、十
九項)而シテ觀念内容ハ貧弱ナルノ他ノノ聯合法ニ異常ナク(第
廿項)又妄覺妄想ヲ檢出セズ(第廿一項)感情ハ遲鈍ナレドモ變
移シ易ク一寸シタコトニ泣キ出シ止ムコトヲ知ラザルカト思ヘ
バ故モナク笑ヒ出スコトアリ(第廿二項)意志運動及顔面ノ表出
ハ特記スベキ異常ナシ

要之被告ハ精神病ニハ各方面ニ於ケル發育甚ダ低位ニアリ且身
體之ニハ觸覺痛覺新鋭皮膚致遠者明ニシテ體反射ニ一ノ異常
ヲ認ム(第廿五、六、七項)即チ被告ハ現在低位ニ在ル痴愚者ニシ
テ時々襲來スル精神の打撃ノ爲メ輕キヒステリー症ニ罹リ居レ
ルモノナリ

卅、被告ノ痴愚ハ生來性ノモノナルコトハ前記廿八項ニ記載セル
ガ如ク彼ノ既往歴及證人參考人ノ申立ニ依リテ見ルニ殆んど疑
ヲノ餘地ナシ且此ノ如キ痴愚者ハ常人ノ耐得ル如キ輕微ナル
精神の刺激ニ依リテモ容易ニヒステリー性トナリ或ハ甚キ興奮
ニ隔リ理否ノ辯別ナク衝動的ニ諸種ノ行爲ヲナスモノナリ本件
ニ於テ假ニ被告ガ實際放火セルモノナリトスルモ被告放火ヲナ
シ

スコトニ至リシ動機ハ「出來心ニフットソツナ氣ニナツタ」ト
云(第九項)位ノ所ニシテ何等ノ思慮ナクフット放火スルニ
至リシト云フガ恐ラケハ眞ニ近キモノナラン

卅一、尙被告ノ言行ニ些ノ思慮モナキコトハ彼ハ現今早ク歸宅シ
タキガ概一杯ニシテソレガ爲メ早ク歸シテサ(ヤルト云)ハ前
後ノ考ヘモナク或ハ放火シタリト云ヒ忽チニシテ我が家ニ火ヲ
ツケルモノガアリマススコト之ヲ否認シ檢査ノ意ヲ迎ヘタル如キ
返答ヲナシモモ一定セザル申立ヲナスコトニヨリテ略推知スル
コトヲ得且被告ノ申立不定ナルコトハ本檢査記録第八、九項
及次ノ豫審廷ニ於ケル彼ノ申立ヲ參照スレバ自ラ明瞭ナラン

卅二、大正〇年五月廿四日付〇〇地方裁判所豫審廷ニ於ケル被告
調書中

被告ノ事ガ眞ガ立ツテ填ラヌノ一層内ノ家ニ火ヲ付ケテ燒ヲ吃
驚サシテヤロウトノ氣ニナリ其レカラ輕間ヲ出デ次ノ間ニ置イ
テアツタ機寸ヲ持ツテ外ニ出マシテ小便ノ壺ノ所ニアツタ壺ヲ
取り機寸ノ横ヲ通リテ彼ニ建テテ倉ノ前ヘ來テ其處分竹ニ壺ヲ括
リ付ケサウシテ機寸デソノ壺ニ火ヲ付ケテ家ノ庭ノ裏ニ覺ラセ
カケテ置イタノデアリマス 中略

問、ソウスルトオマヘハ警察デ云フタカラ裁判所デモ其ノ通り
ニ云ハニヤナラント思フテ覺エノナキコトヲ申シテ居ルノデ
ナイカ

答、實際私ガ火ヲツケタノデス故前ニ申シタコトハ嘘デハアリ
マセヌ 中略

問、ソレナラバ何セ被セラレタノダト申シタカ

答、サウ申シマシタラコラヘテ買ラヘルカ知ラント思フテヒヨ
ット口ニ出シタケレドモ其レハ間違デアリマス 中略

問、尙能ク念ヲ押シテ置クガ嘘ナラバ嘘デアツタト云ヒ直シテ
宜イガドウカ

答、相違イゴザリマセヌ 後略

卅三、前記ノ如ク被告ハ生來性痴愚者ガ輕キヒステリー性ニ傾ケル
モノナルヲ以テ彼ノ精神状態ハ大正〇年八月一日夜ノ本件犯行
當時ニ於テモソノ前後ニ於テモ且引續キ今日ニ至ルマデ現今ノ

狀態ト大差ナカリシナラント思料ス

下、鑑定

上記説明ノ如キ理由ナルニ依リ左ノ如ク鑑定ス

一、被告ハ現今生來性痴愚者ニシテ且極メテ輕微ナルヒステリー症
ニ罹リ居ルモノナリ而シテソノ智力ハ特ニ高尚ナル方面ノ程度
ハ十歳内外ノ小兒ニモ及バザル所アリ

二、被告ノ精神状態ハ大正〇年八月一日夜ノ犯行當時ニ於テモソ
ノ前後ニ於テモ且引續キ今日ニ至ルマデ現今ノ狀態ト大差ナカ
リシモノナリト思料ス

此鑑定ハ大正〇年〇月〇日著手
同年〇月〇日終了
大正〇年〇月廿五日 宿所

小南 又一 郎 謹

精神病患者ノ伴
狂ト医狂

視力或ハ聴力障害ヲ詐病スルモノ往々之レアルハ既ニ前述スル所ナルガ、一般ニ云ヘバ精神健全ナルモ
ノガ詐病ヲナスコトハ極メテ少ク、精神界ノ何レカニ缺陷アルモノハ種々ノ目的ノ爲メニ詐病ヲナスコト
アリ、殊ニ精神病ハ一見詐病シ易ク見ユルモノナルヲ以テ罪ヲ免レン爲メ、或ハ民法上ノ能力ヲ制限セラル
、ヲ恐レ、伴狂或ハ医狂ヲナスモノ屢アリ、故ニ訴訟事件ニ關係アル人ノ精神状態ヲ鑑定スル場合ニハ、
常ニ此點ニ留意セザルベカラズ。

十二 精神病患者ノ伴狂ト医狂

伴狂ハ精神健全者ニテモ、精神病患者ニテモ見ルコトナルガ、後者ニ於テハ實際既ニ存在スル精神障礙ト

伴狂者

伴狂トハ注意シテ鑑別セザルベカラズ、伴狂ハ精神病學ヲ知ラザルモノ、或ハ精神病者ヲ見タルコトナキモノニハソノ目的ヲ達スルコト甚ダ困難ニシテ殆ンド不可能ナリト云フベシ、例ヘバ躁狂ヲ詐病セント企ツルモ躁狂ナレバトテ無暗ニ騒キ廻リ、遂ニソノ度ヲ越エテ伴狂ナルコト發見セラル、ガ如キ之レナリ。

伴狂者ハ先ヅ精神病ノ症候ヲ精密ニ模擬セザルベカラズ、而シテ此模擬症候ハ眞ノ精神病症候ノ如ク、徹底的及相關的ニ非ラズ、發作或ハ再發ニ關シ合理的ナラザルヲ以テ遂ニ鑑定者ヲシテ疑ヲ抱カシムルモノナリ、更ニ伴狂者ノ既往歴發病ノ狀態、其動機等ヲ探究スレバ益々ソガ疑ヲ深カラシム、次デ檢者ハ彼ガ詐病セルノ疑ヲ抱ケルコトヲ患者ニ悟ラシメズシテ、注意シテ且再三、或ハ不意ニ、時トシテハ夜半之ヲ檢診スベシ、此目的ニハ患者ヲ精神病院ニ入院セシムルヲ便利トス。

詐病者ガ常ニ大業ニ模擬スル精神病症候ノ外ニ、他ノ客觀的身體的症狀ヲモ檢者ハ注意シテ檢セザルベカラズ、コハ決シテ伴狂者ノ模擬スルコト能ハザル所ナレバナリ、此ノ如クスル時ハ伴狂ヲ觀破スルコト極メテ容易ナリ、例ヘバ躁狂詐病者ハ實際ノソレノ如ク晝夜ヲ通ジテ運動促進ヲ模スルコト能ハズ、憂鬱狂詐病者ハ實際ノソレノ如ク抑鬱性氣分ヲ生ズルコトヲ得ザルガ如キ之レナリ。

記憶缺損ヲ詐ルモノアレバ、鑑定人ハ患者ガ實際之ヲ惹起スベキ疾病即意識濁濁ニ陥リシコトアルヤ否ヤヲ研究スベシ、若シ患者ニ此ノ如キ疾病ノ既往歴ナキニ於テハ、注意シテ記憶缺陷ノ範圍ヲ檢査スベシ。然ル時ハ詐病者ニハ實際記憶缺損ノ存在シタルモノ、如ク決シテ正確ニ之ニ返答スルコト能ハザルモノナリ。

匿狂者

匿狂ハ伴狂ヨリモ尙甚ダ屢來ルモノニシテ、精神病院ヲ退院セントスルモノ、或ハ處分能力ヲ制限セラ

各論

レントスルモノニ特ニ多シ、此際ニハ患者ノ既往歴、匿狂ノ原因疾病ノ經過及狀態病識等ヲ注意シテ檢スベシ、治癒者ハ無造作ニ疾病ノ狀態ヲ告白スルモノナレドモ、匿狂ハ尙身體的障害ヲ訴へ、而モ之ヲ再三觀察スレバ、ソノ行爲及行動ニ依リテ、ソガ匿狂ナルコトヲ觀破スルコトヲ得ルモノナリ。

乙、各論

本論ニ於テハ精神病ノ各病形式、法律的關係トノ相互連關スル所ヲ述ベントス、故ニ各病症ノ臨床的症狀ニ就テハ、敢テ詳説セズ即チコハ精神病學書記載ノ範圍ニ屬スレバナリ。

一般ニ精神病者ハ犯罪シ易キモノナルコトハ既述ノ如クナルガ、今巢鴨精神病院ニ於ケル患者ニ就テ見ルモ、入院患者四百十五人中、二百〇九名ハ常ニ一定ノ監督ノ下ニ在リテモ、種々反社會的行爲ヲナスモノナリト云フヲ見テモンノ大體ヲ察知スルコトヲ得ン。

一、生來性精神發育不良

生來性精神發育不良

コハ吾人ノ想像スルヨリモ多ク社會ニ散布シ居リ、ソノ道德的概念ノ構成不十分ナル上ニ、判斷作用又圓熟セズ、且感動ニ驅ラレ易ク、衝動性動作ニ陥ルコト多ク、假令、他ヨリソガ惡事ナルコトヲ教エラル、モ、之ヲ抑制スルノ意志少ク、加之、意志ノ被影響性大ニシテ、教唆暗示ニ依リ犯罪ニ傾キ易シ、即些少ノ動機ニ由リ、彼ハ猛然トシテ暴行脅迫等ヲナシ、且一度犯行ニ慣レ常習トナスニ至レバ、ソノ批判力ノ乏シキト、意志薄弱ナル爲メ、遷善改悟スルコト能ハズ、遂ニ社會ノ罪惡者トシテ、其安寧ト秩序トヲ蝕害シテ已マザルモノナリ。

二十日、二十七日及十一月六日、四回〇〇監獄ニ於テ被告ノ心身
状態ヲ檢診シ且〇月八日十三日〇〇月一日ノ三回〇〇地方裁判所
ニ於テ一件記録ヲ審閱シ被告ニ綜合シ此鑑定書ヲ作ル

原籍〇〇縣〇〇郡〇〇町大字上重原
百番戸平民農兵右衛門四女
住所〇〇市祐金町五十番地〇〇健次
郎内縁ノ妻
現時〇〇監獄在監中

明治二十八年六月生
(二十三年)

(甲) 検査記録

検査ニ先チ一言セントス被告檢診ノ状況ハ成ルベク筆記者ヲシテ
之ヲ記載セシメタリ之レ檢診ノ真ヲ寫センガ爲メナリ故ニ問答中
往々辻褄ノ合ハヌ様ナルコトアルモ之レ筆記者ノ錯誤ニ非ラズシ
テ被告ノ應答ソレ自身ガ實ニ然リシモノナリ

(天) 第一回檢診(大正〇年〇月九日)

被告ハ粗雑ナル結髪及着衣ヲナシテ檢診ヲナセル室ニ入り來リ檢
査ノ顔ヲ見ズシテオ辭義ヲナシ着座後ハ始終俯向テ即ギ見ルコト
少シ彼ト談話ヲ始ムルヤ不相變俯向キタルマ、答ハ低聲ニシテ往
々聞キ取レザルコトアリ談話中亲切ヲ弄ビヒ子ク廻ハシ常同的
ニ系屬ノ小塊ヲ作リツ、アリ
オ前ノ名ハ何ト云フカ
〇〇五ツト云ヒマス
年ハイタクツ
二十三才デゴザイマス

生年月日ハ

知リマセヌ

生レタ月位ヒハ知ツテアルダロウ

知リマセヌ

所ハドコ

知立テ御座リマス

知立ト云フトドコノ國カ

刈谷ノワキ尾張ノ國テ御座イマス

三河ノ國ト違フカ

三河ダカ知ラン一東ノ方ニアリマス

(イ) 遺傳歴ニ關スル問答

兩親ハアリマスカ

オ父サン一人アリマス

名ハ何ト云フカ

〇〇兵右衛門

今年幾才ニナラレルカ

三十位、昔ハ大酒吞デ一升位吞ミマシタ

二十三才ノ人ノオ父サンガ三十トハ變ジヤナイカ

三十位ト思フテ居マス

マア胎定シテゴランオ前ノオ父サンノ何オノ時ニ生レタコトニ

ナルカ

知リマセン私ハ九人目ノ子デ私ガシマイデスシツカリシタコ

トハ知リマセヌ

(注)被告ノ言語ハ甚小供ヲシク又旨簡ニ過ケルノ變アリ

オ母サンハ

二度目ノ人デ私ヲ産ンダ人ハ死ニマシタ

オ前ノ實母ノ名ハ

忘レマシタ

母ノ名ヲ忘レルヤツガアルカ

知リマセン

次ハ

女デシリデス泉田ニ嫁付キテオ牛半道バカリ隔ツテオ

次ハ

女デしんデス大字牛城土ニオ私ヨリ四ツ上デス

同胞ノ年ヲ上カラ順番ニ云フテ御覽

(答ハナシ)

知ランカ

ヘイ

一人位ヒハ知ツテアルダロウ

知リマセン

次ハ

私テ御座リマス

オ前ハ九人目ト云ヤ未ダ足ランセ

私ヨリ先キニ生レタ序ニ死ンダ子ガアリマス

今度ノ母ニハ子ハナイカ

ナイ

同胞ハ皆片付キテアルカ

皆嫁付キテオリマス

三代吉サンニハ子供ハ何人アルカ

三人アリマス皆丈夫デス

ソノ子供等ノ學校ノ出来ハ

知ラン

おきりサンニ子ハアルカ

四人アリマス

ソノ四人ノ名ハ

(答ハナシ)

ヘイ一人死ニマシタ生レタワイデニ死ニマシタ

今ノ母ノ名ハ

おごよデス

何年前オ前ノ實母ハ死ナレタカ

私ノ九ツノ時デス

ソウスルト今カラ何年前ニナルカ(答ハナシ)

分ラヌカ

ヘイ

祖父母ノ顔ヲ知ツテアルカ

知リマセヌ

祖父母ノ名ハ

知リマセヌ

同胞ノ一番上ハ何ト云フカ

もうト云ヒマス

もうトハ怪シナ名ダナア

ヘイ

もんとカ何トカ云フダロウ

知リマセヌ

次ハ

男デ死ニマシタ

次ハ

男デ三代吉デス

今ノ兄サンカ

ヘイ

三代吉サンハ幾タクツ

幾ツ位ヒカ知リマセン

次ハ

〇〇まきト云ヒ兵隊ニ行キ死ニマシタ

牧太郎トカ何トカ云フダロウ

おしんサンニ子ガアルカ
 三人アリマス皆丈夫デス
 三人ノ子供ノ名ハ
 頭ガおふみ次ハおあき末ハ茂一
 きり、しんノ夫ハ皆ヨイ人カ
 (イ) 被告ノ血統ニハ幼死者多ク亦彼女ノ父ハ彼女ノ受胎當時大
 酒家ナリシガ知シ
 (ロ) 生活史及既往歴ニ關スル問答
 前ハ自分ノ子供ノ時ノコトヲ能ク知ツテオカ
 子供ノ時ハ弱ク御座リマシタ連レモナク一人空遊ビニ遊ンデ
 オリマシタ
 朋友ハナカウツタカ
 大抵ハ家ニスクンデ居マシタ
 朋友ガ前ヲ仲間ニシナカウツタカ
 イエ連レガナカウツタカ
 學校ハドノ位ヒ行ツタカ
 尋常三年迄行キマシタ
 何デ止メタ
 身體ノ工合ガ悪ク母ガ死シテ力ヲ落シテ氣違ヒ見タ様ニナツ
 テ止メタ
 氣違ヒトハドウナツタカ
 自分ハ知ランケレドモ皆ガ氣違様ニナツタト云ハレマシタ
 皆ガドウナツタト云ハレタ
 知リマセン
 九ツ位デ氣違ニナルト云フコトハナイカラ嘘ダロウ
 自分ハ覺ニハナイカラ知リマセン
 學校ヲ止メテ後ドウシテ居タ
 何モセンテ毎日内ニ居タ針事モヤランデ

百姓ノ手傳ハセナカウツタカ
 (イ)
 幾ツ迄ツウシテ居タカ
 刈谷町(針事ニ行ク迄
 幾ツノ年カラ針事ニ行ツタカ
 十三ノ時カラ三年間毎日内カラ通ヒマシタ
 針事ヲ止メタノハイツ
 十五ノ時
 其後ハ
 夫レカラ内ニ居テ百姓一手ニヤツテ居リマシタ
 兄嫁ハ前ヲ可愛ガルカ
 (イ) 曖昧ナル返事ヲナス
 嫂トノ仲ハヨイカ
 惡ウ御座リマス
 ドウシテ
 (答ヘナシ)
 嫂ハ意地悪カ
 (答ヘナシ)
 三代吉サンハソノコトヲ知ランカ
 (イ) ヨウ知リマセン
 嫂ノ名ハ
 なくわ
 兄ノ子供ノ名ハ
 つれ、きぬ、しげかつデス
 ソノ年ハ
 十六ト十三ト十トデス
 ソノ三人ノ子ハ前ヲ意地メルカ
 ソノ二居ランカラ知ラン私トオ父サントオ母ト別ノ所ニ居
 ス

夫レデ嫂ガ意地メルトハオカシイジヤナイカ
 私ガ子供ノ折ニ見サンノ子ヲ守ノシタ時分ニ意地メラレマシ
 タ
 ドウシテ

私ガ我儘ヲシタカラデムイマス
 何時カラ家ヲ分レタカ
 ズト前カラデス
 今度ノ母ハ前ヲ可愛ガルカ
 (イ) 可愛ガリマス
 十六七ノ時ニ變フタコトハナイカ
 (イ) アリマセヌ
 初メテ月經ノ來タノハ
 十五ノ時デス
 ソノ外病氣ニナツタコトハナイカ
 一昨年めんちうト云フ中氣ニカ、リ口ガ曲ツタコトガアリマ
 スツレカラ一年位シテ片一方ノ手足ガ一寸動カヌ様ニナツタ
 其後手足ハ未ダニ悪ルイ
 初メテ嫁入ツタノハドコ
 二十一オノ時申村ト云フ所ノ正吉ト云フ内ヘ行キマシタ
 正吉サンハ何ト云フ姓ジヤ
 知リマセン
 亭主ノ苗字モ知ランテオカシイジヤナイカ
 (イ) 平然トシテ(イト云フノミ)
 正吉サントコノ家内ハ何人
 正吉一人身デス
 其處ニハ何ヶ月居タ
 三月デス
 ドウシテ分レタノカ
 思フ様ニシテクレンモノダカラ

ツレハ何ノコトダ
 ドウモ氣ガ合ハナカウツタカラ分レタ
 正吉サンノ職業ハ
 ボッコ買ヒ
 ボッコ買ヒトハ何ヲスルノカ
 ボロヤ紙屑ヲ買フノデムイマス
 分レテ歸リテカラハ何ヲシテ居タ
 始終出商買デスカラ
 (註) 被告ハ往々質問ニ相當セザル答ヲナシ時トシテ出目目ヲ云
 フガ如ク見ユルコトアリ
 夫レデハ内ハ百姓デナイノカ
 (イ) アノ内ハヤハリ買デスモトハ百姓ヲシテ居ツタケレド
 モ
 二度目ハドコヘ嫁入ツタカ
 其後一ヶ月シテカラ依佐美村大字八尾ノ〇〇安五郎ノ家ヘ行
 キマシタソコハ刈谷カラ近イ所デス
 安五郎ノ仕事ハ
 百姓デムイマス
 安五郎サンノ年ハ
 私ヨリ五ツ若イ十八デゴザリマス
 安五郎サンノ所ヘ行ツタノハイツカ
 今年ノ正月
 安五郎サンノ内デ何カアツタカ
 (答ヘナシ)
 安五郎ノ父ノ名ハ
 駒吉
 其處デ何カイヤナコトガアツタカ
 亭主ガ餘リ若カウツタカラ止メテ歸ツタ
 其外ニアツタロー

(答(ナシ))

安五郎ハ今何ヲシテオトル

名古屋(小僧)ニ行ツテオトル安五郎ハ年よりノ癡ヲ貰フタト云

フテ人ニ意地目ヲレテヨク遊ビニ行ク様ニナツタカラ止メテ

歸ツタ

駒吉ハヨイ人カ

(答(ナシ))

オ前ノ處ヘ夜來タト云フチヤナイカ

ハイ

安五郎ノトコカラ歸ツタ後ハ

正月ガスンデカラ直ダ歸ツテツレカラ十五日ガスンデカラ又

嫁入ツタ

今度ハ何處ヘ

〇〇健治郎ノ所ヘ

健治郎ノ年ハイツク

知ラン

(註)被告ハ檢者ガ發問シテヨリ餘程時間ヲ經過セザレバ返答セ

ズ

其内ノ家内ハ何人

姑ガ櫻屋ヘ行ツテオツタカラ私モツイテ行ツタ

ドウシテ櫻屋ヲ止メタ

ドウツテ云フコトハナイガツレカラ健サンノ所ヲ欲止メテ

里ヘ歸ツタ

健治郎ハ耳ガ遠イカ

ハイ耳ガ遠イ機デ御座イマス

健治郎ノ仕事ハ何ニカ

大工ノ職ニ出カケル

安五郎サンノ子ヲ生ンダノハイツ

尙欲ガ過キテ四日前ニ男ノ子ガ生レタソレデ安五郎ト名ヲツケ

マシタ

安五郎ハ丈夫カ

弱ウ御座イマシタ

ツレカライツ健治郎サンノ處ヘ亦行ツタカ

ハイ水ガ汲メル機ニナツテカラ又行キマシタ

(ハ) 犯罪事歴

健治郎サンノ所何カアツタロウ

ハイ一夜寝テ又里ヘ歸ツタ

夫レハ何日ジヤ

知リマセン

何故直ニ里ヘ歸ツタ

安五郎ノ死ンダ有様ヲ詳シク述ベテ御覽

其晩ノ夜明ニ安五郎ガ泣イタカラ乳ヲ吞マセテ寝セテオイタト

ロムトシテ起キテ見タラ安五郎ノ頭ガ冷メタカウツノマ、

ニシテオイテ御飯焚キニ起キタラ安五郎ガ死ンデオルト云ハレ

マシタ

警察デハ切ハツマツテ乳ヲ押シ殺シタト云フテオトルナイカア

ノ申立ハ嘘カ

書イタモンノ通りデス死ンデカラ里ヘ行ツテ葬式ヲセヨト云

ハレタノ内ヘ連レテ行キ知立ノオ醫者サンノ處デ診斷書ヲ

買フテ來マシタ

オ醫者サンハ診斷書ヲ直ダクレタカ

知リマセン兄ガ取リニ行ツテクレタカラ

ドウモ警察デオ前ガ云フテオトルノ合ハンガ子

安五郎ノ死ニ三日前カラケラケラシヤミツシ又生立カラ弱イ子デシ

タ死ンダ晩モ乳ヲ吞マセテ鼻カラ口カラト出シマシタソ

レデ工合ガ悪ク乳モヨク吞マズニ死ンダト云フタケレドソ

ウデナカロウト云ハレルカラソナラ乳ヲ押ヘテ殺シタニシ

月經ノ止マタノハイツ

安五郎サンノトコカラカヘル前三月ナカウツ

歸ツテカライツ時分子供ハ動キ出シタカ

知リマセン

産ハ重カウツタカ

あかんばハチイサカウツタカラ輕カウツタ

健治郎トノ仲ハ

(答(ナシ))

岡崎(岡リタイカ)

ハイ岡崎ニ行ケベ年ガキマルガ年ヲ早キメテ貰ハヨト困ル

金デユルシテ貰ヘレバソレ程結構ナコトハナイ

(註)被告ハ子ヲ殺シタコトニナツテオトルカラ早キメテ貰マリ

ヲ付ケテ貰イタイ貰ハ殺シタノナイガツウナツテオレバド

チラデモヨロシイ監獄ニ居ルコトモ大シタ苦痛ニ非ラズト所

謂不關性ニシテドウデモヨイト云フ風ナリ

茲ニ於テ第一回身體的檢査ヲ行フ身體的檢査ノ結果ハ前後四回共

略相等シキヲ以テ本章最後ニ一括シテ之ヲ記載スルコト、セリ

(地) 第二回檢診(大正六年十月二十日)

被告ガ檢査ニ對スル態度ハ前回ニ同ジ

私ヲ何ト思フカ

オ上ノオ役人

アノ人ハ(看守)

知リマセン

今ハ何時頃カ

(答(ナシ))

何時頃カ時計ヲ見テゴラン

短イ針ハ二時ト三時ノ間ニ長イ針ハ七時ノ所ニアリマス

ソレハ何時カ

知リマセン

テオイチオクレヤスト云フテオキマシタソレカラドウ云フ譯

カ知ランガ一寸来イト云フテ監獄ニ行キマシタ

岡崎監獄ニハ何日居タカ

知リマセン

此處ニハ何日居ルカ

五日前ニ來マシタ

此處ハドコヤ

私ハ知リマセン

岡崎カラ此處ヘ來ルニドノ位ヒカ、ウツ

大分長クカ、リマシタ

名古屋ヲ通ツタカ

通リマシタ

岐阜ヘ

通リマシタ 巡査ガ教ヘテ下サツタコ、ハ岐阜ジヤト云フテ

産根ヤ大津ヘ

ソナナ所ハ皆目知リマセン

今日ハ何日カ

何日カ知リマセン

月ハ

知ランデ御座イマス

安五郎ハ死ヌ前カラ咳ヲシテオツタト云フタネ

死ヌ三日前カラ鼻ヤ口カラ乳ヲ出シ又下痢モシテ居リマシタ

元氣モアリマセンデシタ

ソノ日四時頃乳ハヨク吞ンダカ

ドタイ吞ミマセンデシテ夫レカラトロトロスルト頭ガ冷クナ

ツテオリマシテオ母サンガ頭ガ冷イカラ内ノ方ヘ連レテ行ツ

テクレト云ハレマシタ

健治郎ハ安五郎ガ死ンダコトヲイツ知ツタカ

私ガ起シテカラ冷イト云フコトヲ知ツテオツタ

三十カラ二十三ヲ引クト幾ラ

(答ナシ)

分ラナイノカ

デハ教エテヤルガネーソノ勸定テ行クトオ前ハオ父サンノハツノ時ノ子ニナルガソレデヨイカ

(答ナシ) 不思議ソウナル顔付ヲナス)

ソナナ時ニ子ガ出来ルカ

(イ)

ソナナオ前ハ九人目ノ子ト云フカラニヤオ父サンハ一年ニ一人子ガ出来ルトシテオ前ノオ父サンハ一ツノ時カラ子ヲ作ツテモ勸定カ合ハンネ

(答ナシ) 但シ初メテ自己ガ父ノ年齢ヲ知ラザルコトヲ會得シタルガ如ク俯向キナガラ微笑ヲ漏ラス)

ソナナ二ツト三ツデイクツ

六ツ

コレハイクラ(五十錢銀貨二枚)

壹圓

コレハ(同三枚)

壹圓五拾錢

合セテイクツ

貳圓テ御座リマス

考ヘ直シテゴラン

(答ナシ)

數ニシタライタクツ

五ツアリマス

ソナナ二ツト三ツデイクツ

五ツ

四圓ノ金ヲ二人ニ分ケルト一人イクツ

(答ナシ)

貳圓ヲ二人ニ分ケルト一人イクツ

壹圓

ソナナ四圓ヲ二人ニ分ケルト

貳圓五拾錢

一寸工合ガ悪イナア!

壹圓五十錢

出題目ヲ云フナ

(答ナシ)

オ前ガ拾貳錢ノ下駄一足、三代吉サンガ拾參錢ノ下駄一足ヲ買

フタ合セテイクツヲ拂フテヨイカ

(答ナシ)

貳錢ノ筆一本ト參錢ノ鉛筆ヲ買フタラ何程拂フベキヤ

五錢(直チニ)

參錢ノ切手二枚デ

六錢(直ニ)

三ト三トヲ加ヘルト

六ツ(直チニ)

貳錢ト八錢ノ買物ヲスルト

九錢(直チニ)

モウ一度考ヘ直シテ御覽

拾錢(暫時ノ後)

貳錢ト參錢ト五錢ノ買物ヲシタラ合計何程

拾參錢(二分ノ後)

少シ違フナ

(答ナシ)

二ト八トノ和ハ

四デス

八ト四トドナラガ多イカ

(答ナシ)

八錢ト四錢トドナラガ多イ

八錢ノ方が多イ(直チニ)

八錢カラ四錢トルトイクツニナルカ

六錢ニナル

八錢カラ貳錢トルト

(答ナシ)

(註) 被告ハ十以下ノ數ノ計算スラモ困難ニシテ具体的ノ數ナレバ勸定比較的容易ナルモ抽象的ノ數ニ至リテハ殆ンド爲ス所ヲ知ラズソノ計算力凡ソ八九歳ノ小兒ノソレニモ及バズ

コレハ何カ(爪切)

釘抜キ

ソウ形ハ似テオolgドコカ違フ所ハナイカ

小サイ丈ケデス

コレハ(小鉄)

木鉄

コンナ小サイモノガ何ノ木ヲ切ルニ用ユルカ

木鉄ノ様ニナツテオolg一寸先キボノ方が違フ

コレハ(耳掻キ)

耳糞掘リ

コレハ(鉛筆)

鉛筆

何ヲスルモノカ

字ヲ書クモノデス

コレハ(ペン)

知リマセヌ

何ニスルモノカ

字ヲ書クモノデス

(註) 被告ハ質問ノ意ヲ領解スルニ困難ナルガ如ク又此ノ如キ箇

字ヲ書クモノデス

單ナル物品ヲ示シテツノ名及使用法ヲ問フモ満足ナル答ヲ得

ルコト少シ思フニ被告ノ領解力ハ甚ダ低位ニアルモノナルベシ

を云フサンオ日サンハドナラカラ出ルカ

知ラヌ

オイ馬鹿ナコトヲ云フナオ日サンノ出ル方ヲ知ラヌ奴ガアルモノカ

西ノ方カラ出ルガロウト思ヒマス

オ月サンハドナラカラ出ルカ

東カラ

オ月サントオ日サント出ル方ガ違フカ阿呆云フナ

フ、フ、フ(笑ヒナガラ答ヘナシ)

馬ト牛トドウ違フ

牛ニハ角ガアリマス鳴ク聲ガ違イマス尾ツボモ違ヒマス

モウナイカ

ヘイ

歸ハ (ヘ) 睡モ違フ牛ノヤツハワレテオolg馬ノハ割レテオラヌ

大ト猫トハドウ違フカ

顔ガ違ヒ又啼キ聲ガ違フ猫ノ方ハ一寸圓イシ犬ノ方ハ長イ

茶碗トコップトハドウ違フカ

コップハ條ガアツテ圓イ茶碗ハ圓クテ平タイ底ガ少シ淺イ

(註) 被告ノ智力ハ甚ダ低位ニアリ言語ノ使用亦拙ニシテ自己ノ

足ラザル智能ヲ充分ニ發表スルコト能ハザルガ如シ

一寸話ハ變ルガ先日中氣ニカハツタト云フタネソノ時ハドウナ

ツタノカ

片一方ノ手ト足トガキカナカツタツシテ泣ケテ仕方ガナカツ

タツレハ何時ジャツタイナア!

去年デムイマス

ドナ風シテ

車體ヲ穿イテオロコトハ分ラント云フ程デハナカウタケレドモヨクハ分ラズ御飯モ左手ト腹ベテオウダ橋ナコトシタ去

安五郎トハ仲ガヨカウツタカヘイソレカラナンデ御座イマスソナツタモノダカラ仲ガ惡クナリマシタツマリ駒吉ト安五郎ト示合セテ私ヲソウ云フ

父ガ自分出シテケレマスソレテ安ハ今中氣デコロコロデス三廻り分ノ中氣ノ藥ハ四圓位カ、リマス

初メハ中村ヘ嫁入ツタガ中村ハ見込ガナイカラ離縁シテ賈フテ歸ツタ中村ニハ初秋カラ晩秋迄オツソレカラ駒吉ノ子

ナシトコトヲ聞カナカウツツノ内ニ安五郎ハ青年會ノ人ヲナカカラアソビテヨリ年上ノ女房ヲ賈フタツテ嫌ガラセラレタ

ルコトガ多イソウル中ニ又駒吉ガ私ノ寢床ヘ來テオロ時安

五郎ガ戻ツテ來タモノダカラコトナ風デハ逆モ仕方ガナイト云フテ仲人ニ話シテ賈ヒ自分ハ縁ガナイカラ離縁ニナシテ歸ル

安五郎トハ仲ガヨカウツタカヘイソレカラナンデ御座イマスソナツタモノダカラ仲ガ惡クナリマシタツマリ駒吉ト安五郎ト示合セテ私ヲソウ云フ

父ガ自分出シテケレマスソレテ安ハ今中氣デコロコロデス三廻り分ノ中氣ノ藥ハ四圓位カ、リマス

初メハ中村ヘ嫁入ツタガ中村ハ見込ガナイカラ離縁シテ賈フテ歸ツタ中村ニハ初秋カラ晩秋迄オツソレカラ駒吉ノ子

ナシトコトヲ聞カナカウツツノ内ニ安五郎ハ青年會ノ人ヲナカカラアソビテヨリ年上ノ女房ヲ賈フタツテ嫌ガラセラレタ

其オ母トハ私ハ好クナイシ仕事ガ一所ダモノダデネーソレカラ里ニ歸ツテオツテ今年ノ盆ニ子ガ生レタカラ安五郎

カラツグツグ云フテオロ○三代吉ガ親モ子モ受取ツテケレト云フテ行クト金ヲヤルカラ子ヲソナテ育テ、ケレト親モ

子モイラント云フテ來タカラ此度ハ岡崎ノ方ヘカケテ健治郎ノオ母ノ所カラ親モ子モイラント云フテ來タカラ荷物ヲ

取リニヤルト健治郎サンハ子ハイラシケレドモ親ハイラント云ハント云フテオ母ニ何ト云フテ手紙ヲ出シタト云フテ大變

ニ怒ツテ朝御ニ御出タカラ私ハ子ニハ離レトモナイ金ガツクカラト云フテ健治郎ハ子モ育テヨウト云フテ安五郎ヲ連レテ又

岡崎ヘ行キマシタ安五郎ハ生レタテカラ小サイ子デ早ノ子デムリマシタツレバ二三日前滿園ヲカケズニ寐セテオイト

ラ鼻ヲクシクシ云ハセテ風ヲ引イテオリマシタ乳モヨク吞マズ又吐イテオリマシタ夜明ニナツテ私ガ起キマストキ頭ヲ觸

ツテ見ルト冷カウツツレテ享主ヲ起シテ頭ガ冷イト云フテオイト御飯ヲ焚キニ行キマシタストツノ中ニ享主モオカシ

ナアト云フテ得ヲ呼ビニ行キマシタストツノ母方來テ見テコレハ死ンデ居ルコトナデハ葬式ガ出來ント云フテ早速知立ヘ歸リ醫者ノ診斷書ヲ賈ヒ葬式ヲセヨウトシテ居ル所ヘ還査サ

ナゼホントノコトヲ云ヒ通サナカウツタカ

アナタモ色々云ハズト書イタモノ、通りニシテオクレヤス(面倒ナリト)顔付ヲナシ)

(註)被告ノ談話ハ自己ノ問題ニ觸ル、今迄ト態度ヲ異ニシ潤々トシテ談ズルト雖談話ハ支離滅裂ニシテ略シテ其要旨ヲ知

ルニ若シモ所ト時ニ關スル序列錯綜シ被告ノ談ズルマ、速記スルコトヲ得バ左記ノモノヨリモ尙談話不明ナルモ常人ノ頭腦ヲ通シテ筆記セルモノナレバ談話ノ理義明トナリシ據ナキニアラズ即チソノ眞ヲ寫ス能ハザルヲ遺憾トス

先ノハ長ク御座イマス
コレハ(菱形)
三角形
ヨウ見テゴラン
四角デフナノ方ガ違フ
コレハドナラガ長イカ(長短ノ二平行線)
コナラ(止)
次ニ赤、黄、綠青等ノ色紙ヲ示スニ赤及黄ハ正シク答フルコトヲ得ルモソノ他ノ色ニ付テハ應答明カラズ例ヘバ綠色ヲ青ト云ヒ紫色ヲ知ラザルガ如キ之レナリ次デ重量ノ異ナレル小箱數個ヲ與ヘ外見上其重サノ不明ナルモノヲ手ニテ秤價セシムルニ大體ニ於テ正常ナル答ヲ得進ンデ耳鼻眼手足等ヲ缺ケル數枚ノ繪畫ヲ示シテ所ヲ指示セシムルニ大過ナシ但シ口ノ不足セル繪ヲ見テ之ヲ製成シ能ハザリシコト一回アリキ尙婦人ノ畫數個ヲ示シテ美醜及年齡等ヲ云ハシムルニ略正常ナル答ヲ得タリ
問、コレハ何ノ畫カ(子供ガ眼隠シヲナシ鬼ゴツコノ如キ遊戯中人ト誤リテテロブル掛ヲ引キタル爲メ茶碗ノ轉倒シ水ノコボレ居ル圖)
答、盲目ゴツコヲシテオソウシテツラマヒ合ヒテシテオソルニゲヨウト思フテ手ヲ廣ゲテオソル觀ツマツイテ茶碗ノ水ヲコボレシタルレテオソル
問、コレハ何ノ畫カ(小僧ガ窓前子ヲ破壊シ垣後ニ隠レ居ルヲ老人出テ來リ偶々通行セル學校ノ生徒ヲ捕ヘテ叱責シ居ル圖)
答、シカラレテオソル
問、コレハ何ノ畫カ(青年ガ乙女ノ顔ヲ見テ居ル間ニ小供ニ遊キ小兒ヲ轉倒セシメタル畫)
答、知リマセン

答、小供ノ轉倒シテ居ル子供ノコトヲ問イテオソル
被告ノ讀書力ヲ檢スルニ尋常小學讀本卷一中ノ「ハタ」、「カサ」、「アメ」等ハ讀ミ得タルモ「ハカマ」、「マツ」、「モノサシ」等ハ讀ムコト能ハザリキ又被告ノ云フ所ニヨルモ實驗ニヨルモ彼女ハ片假名及平假名スラモ完全ニ讀過シ能ハザルガ如シ尙讀本中ニ在ル種々ノ畫ヲ示シ其畫意ヲ問フニ簡單ナルモノ例ヘバ寺、動物、人物等ハ個々ニ之ヲ解スルコトヲ得ルモ複雑ナルモノ例ヘバ牛若丸ガ五條橋上御慶ニ切リカケラレシ圖并ニ桃太郎ノ畫等ハ「何ダカ知リマス」と答フルノミ次ニ三正ノ子猿ガ親猿ノ傷口ヲ手ニテ温メ居ル圖ヲ示シテ何ノ意ナルカラ問フニ子猿ガいたづら事ヲシテ居マスト答フルニヨリ其大意ヲ丁寧ニ説明シ直ニ今私ノ話シタコトヲ同ジ様ニ大體話シテ御覽ト云ヘバ「鐵砲ヲ打タレタ親猿ヲ子猿ガ可受想ナト思フテ助ケタ」と極メテ言葉少ナニサモ五月蟬クテ叶ハント云フ調子ニテ答フ
問、親ヲ尋イテ米ニスル迄ノ道行ヲ話シテ御覽
答、親ヲ尋イテ田ヲ掘ツテ田ノ草取ツテ一イキ過ギルト標ガ出ルソノ標ヲ千カシテ白ク換イテ米ニスル(ト吐キ出ス様ニ談ズ)
問、馬鹿ニ早ク出來ルネ
答、ハコハフハ(ト大笑ス)
問、數ハドノ位ヒ迄上手ニ數ヘルカ
答、四十迄ハ知ツテオソル
問、數ヘテ御覽
答、(五十一迄正シク數フ)
問、ソレソナニ上手ダソソナラ四ト二デイクワ
答、知リマセン
問、ソソナコトガアルモノカソレナラ四拾錢ト貳拾錢デハ
答、五拾錢
問、違フ(ト云ヒテ)、銀貨ヲ一方ニ四拾錢他方ニ貳拾錢オキテ)之ヲ加ヘルト幾何

答、六拾錢
問、拾五錢ニツデハ
答、ナシ
問、(現金ニテ十五錢ニ組ヲ示シ)之ヲ加フレバ
答、參拾錢
問、四ト三デイクワ
答、五デムイマス
問、四木ト三木デ
答、七木
問、貳拾錢デ一丁五錢ノ豆腐何丁ヲ買フコトヲ得ルヤ
答、四丁
問、拾錢持テ行ツテ六錢ヲ使用スレバ幾ハ何程
答、四錢
問、オ前ノ所ニ山ヤ川ガアルカ
答、アリマス
問、山ト川トドウ違ウカ
答、ナシ
問、池ト川トハドウ違フカ
答、池ハ始終水ガタマツテオソル川ハ水ガ代ル
問、オ前ノ所ハ町カ
答、在デス
問、何軒位家ガアルカ
答、知リマセン一五百軒位
問、何ト云フ村カ
答、上原
問、村長サシノ名ハ
答、知リマセン
問、村長サシト巡査トドナラガエライカ
問、知リマセン

(註)、前記ノ問答或ハ檢査ニヨリテ見レバ被告ハ假名サ(モ讀ムコト能ハズ又十以下ノ數ヲ勘定サ(モ充分出來ズ恰モ就學兒童程度ノ智能アルノミナルガ自己ガ經驗シタルコトハ比較的詳細ニ知悉シ居レルガ如シ
問、おふつさん何カ不思議ノコトハナイカ
答、アリマセン
問、奇妙ナモノデモ見エンカ
答、ナニモ見エマセン
問、オカシナ音デモ聞エンカ
答、キコエマセン
問、今迄ニ何カソウ云フコトハナカッタカ
答、アリマセン
問、安市ハ夜盜房ヘ來ンカ
答、來マセン
問、ソレデモ殺サレタダカラオ前ヲ想ンテ幽霊ニナツテ出テ來ルガロウ
答、私ハ想マレル様ノコトヲシテ居ランカラ出テ來マセン
問、人玉デモ見エンカ
答、見エマセン
問、狐ニ化カサレタコトハナイカ
答、アリマセン
問、狸ガトツツイガコトハナイカ
答、アリマセン
問、何カソウイモノハナイカ
答、アリマセン
註、被告ハ何等妄覺及妄想ヲ有セザルコトハ此等ノ問答ニ依リテ見ルモ亦彼ノ態度ニヨリテ推考スルモ明白ナリ
茲ニ於テ第三回身體的檢査ヲ行フ
(黃) 第四回檢査(大正六年十一月六日)

發音ノ態度ハ前同検査時ニ同ジ

ドウデスおまつサン

（イ）

岡崎ハ歸リタウナイカ

早ウ歸リタウ御座リマス私ヨリアトニ來タ人ガ皆モウ出テシ

マヒマシタ

コ、ハ大阪カ名古屋カ

名古屋ジヤナイガ所ハ知リマセン

誰ニモ聞カンカ

話ヲスルトシカラレマスカラ聞キマセン

身體ノ工合ハ

逆上セル丈ケデス岡崎ハ歸リタイト思フトボーツトシテ來マ

ス

私ハ何ノ爲メニ來テオルト思フカ

私ノコトヲシラベテ罪ヲ重クスル爲メデス

オ前ハオ父サンノ年ヲホンマニ知ラシカ

（イ）

此前三十位ジヤト云フタナア

（イ）ソレヨリハ年ヨリデス

オ前ハ耳ガ遠イカ

（イ）亭主ヲ追カケテカラ耳ガ遠クナリマシタ

亭主ヲ追カケタトハ

（イ）

ソノ譯ヲ話シテゴラン

（答ヘナシ）

註、被告ハ是等ノ問答ノ間常ニ俯向キ膝チニシテ特別ニ出聲目

ヲ云フガ如キ様子見エズ

岡崎ハ歸リタラドウスル

警察デアナンコトヲ云フタカラドウデ年ガアリマシヨウ年ガ

アイダヲ知立（歸ツテ百性ヲシマス
モウ〇〇健治郎サンノ所ハ行カヌカ
モウ男ニハコリマシタ始メ安布ヲ隠居ノ相續人ニスルコト
ヲ親類ガキメテ榮レヨガアレモ死ンダシ一人身デタラシマス
養子ハ買ハユカ
男ノ兄弟ノアル所ハ養子ハ來テクレマセヨ
オ前三河ノ人ダカラ家康公ヲ知ツテオトルカ
知リマセヨ
太閤様ハ
知リマセン
大星由良之介ハ
知リマセン
桃太郎ノ昔話ハ
知リマセン昔聞イタコトハアリマス
日本中デ一番エライ人ハ
天皇陛下
此前三十位ト云フタジヤナイカ
監獄デ聞キマシタカ
本日ノ検査ニ於テモソノ他計算力、智力等ヲ檢セシモ前同ニ於ケ
ルモノ大同小異ナレバ煩ヲ避ケテコレヲ省略スルコト、セリ
茲ニ於テ第四回身體の検査ヲ行フ
前後四回ニ於ケル身體の検査ノ所見ハ略同ナルヲ以テ一括スレ
バ左ノ如シ

（宇）身體的徵候
體格中等、身體各部ノ發育略年齡ニ適シ皮色蒼白、皮下脂肪層及
筋肉ノ發育モ亦稍少シ身體ノ外表ニ於テハ特記スベキ異常ヲ認メ
ズ
頭形ハ尋常ニシテ癩癧ナク輕打スルニ左顳頂部ニ疼痛ヲ訴フ顔面
鼻尖及足趾際皮膚試驗ハ拙ナリト雖失節ナシ要之被告ノ身體的ニ
ハ顔面ノ左半側ニ輕キ癩癧ノ痕跡アリ瞳孔ノ對光反應、純、右眼
關節ハ他動的運動充分ナラズ膝蓋及アヒルス腫反射ハ著シク昂進
シ特ニ右側ニ於テ著シキ等ノ異常所見アリ即被告ノ神經系統ノ何レ
カニ異常アルモノナルベシト雖其位置ニ就テハ現今之ヲ確言スル
コト能ハズ

ハ左右少シク不均等ニシテ左半ハ稍小ナリ筋調亦稍シ弱顯ニ癩癧
ヲ作ラシムルニ左ハ淺ク右ハ尋常鼻樑淺モ左ハ淺クシテ低ク頰部
ニ於ケル吹張力モ亦左ニ於テ弱シト雖顔面神經ノ諸枝ニ特記スベ
キ麻痺及痙攣等ナシ但シノ出現點ニ於テ左側ニハ皆麻痺アリ右
側ニハ之ヲ認メズ
眼瞼ハ左稍狭シト雖眼動ニ異常ナク調節機能尋常檢結膜ハ前引赤
シ結膜反射尋常瞳孔ハ左右同大ニシテ中等大圓形對光反應ハ稍鈍
ニシテ十分ナラズ舌ハ濕潤シ之ヲ挺出セシムルニ少シク左ニ曲リ
稍短縮ス軟口蓋及咽頭ニ於ケル反射ハ鋭ナリ耳形ニ異常ナシ聽力
ハ弱ク懐中時計ノ秒音ハ二十種逐漸ク聞クコトヲ得ウニベルハ右
ニ偏シリシトハ兩耳共陰性ナリ

頸腺及射腺ヲ觸レズ胸廓ハ左右均等ニシテ呼吸運動尋常肺搏一分
時七十至整ニシテ力アリ心尖ハ第五肋間ノ乳線ノ内方二指ニ見且
胸ルコトヲ得心臟濁音界ニ異常ナシト雖心音ハ大動脈口ニ於テ第
二音稍昂進シ其他ハ尋常、肺ニハ特記スベキ異常ナシ
腹皮反射ハ不定ナレドモ多クハ左ハ尋常ニシテ右ニハ之ヲ見ルコ
トヲ得ズ腹部ヲ按摩スルニ異常ノ硬結又ハ壓痛アル部ナシト雖右
ニ明葉痛アリ脊柱ヲ輕打スルニ胸椎ニ疼痛アリト稱スレドモソノ
位置ハ時々變化スル爲メ之ヲ決定スルコト能ハズ
上肢ハ他動的ニ屈伸セシムルニ異常ナク又拒絶症狀強硬症狀等ヲ
見ズ上肢ニ於ケル深反射ハ左右略同等ナレドモ左ガ稍高キカニ思
ハル、コトアリ
右膝關節ハ他動的運動ノ際少シク抵抗ヲ感ズ左側ハ尋常膝蓋腫反
射ハ兩側共昂進スレドモ右側ニ於テ著シクアヒルス腫反射ハ左右
均等ナリ足趾反射ハ趾ノ趾風ヲ來シ足現象ヲ認メズ步行尋常ナリ
觸覺辨別位置辨別等ニ異常ナクロンベルク氏徵候ナシ指一指、指一

乙、記錄摘要
子ハ検査ノ大要ヲ終了シタルヲ以テコト、ニ本件記録中ヨリ被告ノ
精神鑑定ニ必要ナル部ヲ摘要シ以テ前記被告自身ノ申立ト相對照
シテ鑑定資料トナサント欲ス
大正〇年〇月二十二日付參考人〇〇三代吉ノ申立ニ依レバ「私ノ
親族ニハ精神病者ハ一人モアリマセム」トアリ又同二十八日付同
人調書中ニハ「父ハ中氣ヲ疑テ居ル」旨記載セリ其他一件記録中ニ
ハ被告ノ遺傳關係ニ付特記スベキ記載ヲ見ズ
被告五つハ明治二十八年六月ニ生ル一件記録中ニハ被告ノ生活史ニ
就テ記載甚ダ少ク只其中最モ近日ヲ蓋クハ被告ガ生來一人前ノ智
力ヲ右セザリシコトノ記述ナリ即實兄三代吉ハ「五つハ元來ガ鈍
イ人間デアリマス」ト云ヒ（大正六年〇月二十八日同人調書中）且
三代吉ガ〇〇健治郎方ニ五つノ姉弟ノ件ニ付談判ニ赴キシ際「健
治郎ハ不在デ其母ガ居リマシタガ母ノ申スニハ「ドーモ五つハ鈍イ
人間デ亭主ノ辨當セヨ」出來ヌト云フ様ナ次第ガ買フコトハ
出來ヌト云ヒマシタ云々」ト述ベ又「五つハ如何様ニ鈍イカ」ア聞
ニ對シ「總ベテ何事ヲ申シテモ難クタコトヲ云ハマセム錢勘定デ
モサセマス一錢著クハ二錢計リナラ勘定ハ出來マスガ色々ノ錢
ヲ取交セテ勘定ヲサセマスト十錢ノ勘定モ出來ヌノデ誠ニ困
ワタモノデアリマス」ト補足セリ夫健治郎モ亦「五つハ懶功ノ女

亡セリト雖ソノ病歴ハ詳ナラズ被告ノ同胞ハ九人アリシモ内ニ幼
死セシモノ二、三人アルガ如シソノ他ノ詳細ニ至リテハ被告ノ談
話ニヨルモノ一件記録ニ載スルモノ之ヲ知ルコト能ハズ然レドモ被告
ノ血族ニハ精神病者ナキガ如シ但シ被告ハ父ガ大酒セル時代ニ生
レタルモノナリト云ヘバ彼ハ幾分ソノ害ヲ受ケテ生レタルモノト
見做スヲ至當トス

二、生活史及既往歴

被告ノ胎生時及出生時ノコトハ之ヲ知ルニ由ナシ彼ハ幼ニシテ連
レモナク一人遊ビヲナシ居リテ外ハ出ルコトモ少ク所謂孤立兒童
ナリシガ如シ學業ハ尋常ニシテ學業セリト云フヲ以テ被告ニ
其理由ヲ問ヘバ丁度其際實母死亡シ非常ニ悲嘆シ其極達ニ氣狂ノ
様ニナリシ故ナリト答フ但シソノ時ノ狀態ニ就テハ全ク不明ナリ
思フニ被告ハ此頃ヨリ尋常ノ兒童ニ在ラザリシナルベシ
癡學後被告ハ何ノ爲スコトモナク家ニ在リテ其日ヲ送リ十三歳ノ
時初メテ刈谷町ヘ裁縫ノ稽古ニ行キ三年間毎日自宅ヨリ通ヒ居リ
タリ十五歳ニシテ初メテ月報開キソレヨリ後月報ニハ大シタ異常
ナカリシト云フ同年亦裁縫ノ稽古ヲ止メ爾後家ニ在リテ百姓ノ手
傳ヲナシ居リシガ始終兄嫁ト衝突シタルガ如シ其故ヲ被告ニ問ヘ
バ皆私ガ我儘ナカラデアリマス答フ蓋シ或ハ然リシナラント思
ハル被告ガ此頃ヨリ衆人ニ愚鈍ナル人間トシテ取扱ハレタルコト
ハ已ニ(乙)一件記録摘要ノ部ニ詳述スル所ナリ
二十一歳ノ時被告ハ性不詳正吉ト云フ人ノ所ニ嫁セシ居ルコト
三ヶ月ニシテ同所ヲ離縁セラレ未ダ一ヶ月ヲ経過セザルニ〇〇安
五郎ト結婚セリ茲ニテモ鏡イ人間トシテ取扱ハレ安五郎ハ彼女ヲ
嫌ヒテ自宅ニ宿泊スルコト少ク終ニ同時ニ身ヲ隠スニ至リ新ル
有様ニテハ連モ同家ニ見込ナシト云フハ本年正月離縁ノ上生家

ニ歸リシガ四五日ニシテ亦モヤ間崎市祐金町〇〇健治郎ト内縁ヲ
結ベリ然ルニ五つハ先夫安五郎ノ胤ヲ宿シ居ルヲ以テ分後ハ其
子ヲ稻垣方ニ引取ルカ或ハ養育金ヲ支出スルカノ契約ヲナシ居リ
山本モ之ヲ承知ノ上結婚セルモノナリ本年八月下旬被告ハ産ヲ
ス爲メ知立町ノ生家ニ歸リ間モナク九月二日男子ヲ分娩シテ安市
ト命名シタルモ安市極中五つハ顔面神經ノ麻痺及半身不隨症ニ
罹リ癡鈍ニ視シ爲メ安市ハ生レタル時モ非常ニ小サキ子ニシテ
實兄三代吉等ハ連モ生立セザルベシト云ヒ居リシ位ナリト云フ尙
九月十五日頃蒲團ヲ被セズニ寝セタル爲メ風氣ニテクシヤアノ
ヲナシ居リシ此間ニ於テ尙安市ノ處分問題進行シツ、アリテ安五
郎方ニ種々談判セシモ工合ヨク談議ラズ被是スル中新夫〇〇健治
郎ノ母ヨリ五つヲ離縁スベシトノ書狀來リシ故實兄三代吉ガ五つ
ノ養育金ヲ引取リ〇〇方ヘ行キシ所健治郎ハ子ハイラヌガ親ハ離
縁セヌト云ヒ又々談判困難トナリシモ結局安市ニ養育金ヲ附スル
コトニシテ母子共健治郎方ニ引取ルコトナレリ

三、犯行

安市ガ前記ノ如キ狀態ニ在リシヲ以テ五つハ其前同崎行キテ全ク
喜バザリシモ九月二十日健治郎ト共ニ祐金町ニ行キ同夜該宅ニテ
疑ニシ安市ハ數回目ヲ覺マシ嗜淫スレドモ乳モヨク吞マズ鼻ヤ
口ヨリ戻シタルコトアリ然ルニ二十一日午前五時頃安市ノ頭ガ冷
クナリ居リシヲ以テ夫ヲ起シ始ヲ呼ビ來リテ見テ其始メテ安市
ガ死亡シ居ルヲ確知シ知立町ニ歸リテ葬式ヲ執リマントシテ尙
後ノ事情ヨリ安市ノ死因ニ頗ル疑ハシキモノアリトテ遂ニ警察ニ
控致サル、ニ至リシモノナリト云フ一般ニ此ノ如キ癡弱ナル幼兒
ハ催殺ノ原因ヨリ極メテ容易ニ望息急死スルモノナレバ假令安
市ノ屍ニ剖見ノ望息急死ノ所見アリトスルモソノ他ニ有力ナル據

所ナシトスレバ之ニ犯罪ノ手が加ハリシヤ否ヤ判定スルハ非常
ナル注意ヲ要スルモノトス況ンヤ安市ハ死直前ニ氣管枝炎若シク
ハ肺炎ノアルガ如キ微候ヲ呈シ居リシニ於テオヤコレ等ノ疾
病ハ幼兒ヲ俄然窒息死ニ至ラシムルコトアレバナリ
果然被告ハ九月二十二日ノ聽取書及調書ニ於テハ極メテ詳細ニ且
確實ニ自己ノ境遇ヲ序シ然シテ後乳房ヲ以テ切迫マツテ安市ヲ
壓殺セルコトヲ申立テ置キナガラ九月二十九日ニ至リテ第二回調
書中ニ全ク之ヲ否定シタリ吾人ハソノ何レニ信ヲ措クベキヤ予ハ
先づ以テ彼ノ現在微候ヲ詳述シ而シテ後此點ニ論及セントス

四、現在微候

子ガ前後四回ノ検査ニ依リテ得タル現在微候ハ左ノ如シ
イ、精神の微候
指南力并ニ病識 被告ハ自己ノ現在ヲ知ラズ同胞ノ名前ヲモ完
全ニ知ラザルモノアリ又父母同胞ノ年齢ニ至リテハソノ大約ヲモ
答フルコト能ハズ彼ノ父ヲ三十歳ナリト云ヒ二十三歳ナル被告ノ
父ガ三十歳ナルハ不合理ニシテ而モ被告ハ九人目ノ末子ニアラズ
ヤト懇々説明シテ初メテ父ガ現今三十歳ニアラザルコトヲ知ルモ
尙凡ソ何處位ヒナルカヲ確知スルコト能ハズ現今ノ年月日并検査
ノ何人ナルヤ了解スルコトヲ得ズ即チ時、所及人ニ對スル被告ノ
指南力ハ甚ダ不明瞭ナルモノト云フベシ
被告ハ現今身體的ニハ何等ノ疾病ナク只腹ニ手頓ナイト云フノミ
精神のニモ亦何等ノ病識ヲ有セザルモノ、如シ
領解及注意 被告ニ種々ノ物品ヲ示シソノ品名及使用法ヲ問フニ
極メテ簡單ナルモノニアリテハソノ返答容易ナルモ稍複雑ナルモ
ノニ至リテハ應答困難ナルカ或ハ全ク不能ナリ又時トシテ甚ダ不
當ナルハ、九歳ノ小兒モ敢テセザル如キ答辯ヲ與フルコトアリ例

ヘバ極メテ小ナル鼻毛切リ鏡ヲ以テ木鏡ト云フガ如キ之ナリ此
際被告ノ舉動頗爾ヲ注視セルモ出目ヲ云フガ如キ様子モナシ
ソノ他種々ノ繪畫ヲ示シテソノ畫意ヲ問フニ畫中ノ個々ノ物體人
物等ハ之ヲ知ルモ全體ノ畫意ニ至リテハ全ク領解スルコト能ハズ
ルガ如シ即チ領解力ハ甚ダ低位ニ在リト云フベシ
被告ハ談話中モ周圍ニ起コレル事ニ注意ヲ向ケルコトナク諸種
ノ簡單ナル繪畫中ニ在ル缺陷ヲ見出サシムルニ敏速ニ之ヲ發見ス
ルコト能ハズ即チ被告ノ注意力モ亦甚ダ鈍キモノト云フベシ
記憶力及記銘力 被告ハ同胞ノ名前及兩親并ニ同胞ノ年齢、自己
ノ生活史ノ大要、最初結婚シタル夫ノ姓名、安市出生ノ月日、御
大典ノ月日、前回ノ検査檢診日及昨日如何ニシテ暮シタル等何レ
モ之ヲ明答スルコト能ハズ即被告ノ記憶力及記銘力ハ甚ダ貧弱ナ
リト云ハザルベカラズ
計算力 被告ガ十以上ノ數ノ勘定出來ザルコトハ實兄三代吉ノ申
立ツル所ナルガ子ノ検査ニ於テモ單ニ實物ヲ追次的ニ數フルニハ
凡ソ五十迄位ハ可能ナルモノノ加減乘除ニ至リテハ十以下ノ數ニ
テモ甚ダ困難ニシテ特ニ抽象的ノ數ニ於テ然ルガ如シ例ヘバ二
三ト加ヘバ何程ト問フ時ハソノ加算困難ナルモノ二錢ト三錢ト加
フレバ如何ト問ヘバ比較的容易ニソノ答ヲ得ルガ如シ減乘除算ニ
於テモ亦然リ例ヘバ二十ヲ五ニ除セヨト云ヘバ全ク答アルコト
能ハザルモ二十錢持チ行キ一丁五錢ノ豆腐何丁買フコトヲ得ル
ヤトノ問ニ對シテハ比較的迅速ニ返答スルコトヲ得ルガ如キ之レ
ナリ而シテ此等暗算ノ問彼ノ舉動ヲ視フニ毫モ眞面目ノ態度ヲ失
ハズ即チ當意即答ヲナシツ、アルニアラズ要之ニ被告ノ計算力ハ
甚ダ低位ニ在リテ凡ソ就學當時ノ兒童ノソレニ比較ス
一般智能 モ亦甚ダ低位ニ在リ被告ハ假名スラモ完全ニ讀過スル

コト能ハズ簡單ナル繪畫ヲ畫シテ解スル能ハズ自己ハ少時ヨリ百
 姓家ニ生レテナガラ報ヲ前キテヨリ白米ニナル迄ノ經過ヲ詳細ニ語
 ルコトヲ得ズ現行尋常小學讀本卷一ヲモ大牛讀ムコト能ハズソノ
 他前記被告ノ領解力計算力及記憶力等ヲ併セ考フルニ被告ノ一般
 智能ハ甚ダ低位ニ在リテ凡ソ八九歳ノ尋常兒ノソレニ相當ス然レ
 ドモ彼ノ實地經驗シタルコトニ至リテハ之ニ比シ稍高キ智能ヲ有
 スルガ如キモ之トテモ決シテソノ智能ヲ利用シ得ベキ能力ナキガ
 如シ尙判斷力モ一般智能ニ相當シテ甚ダ低位ニ在ルコトハ検査ノ
 部ニ於テ明カナリ

妄覺妄想 被告ハ如何ニ注意シテ檢スルモ妄覺妄想ヲ有セズ

觀念 被告ノ語シ振リニ依リ推考スルニ觀念聯合法ニ違逆ナク却
 テ流涕シ居ルガ如シ但シ被告ノ智能餘リニ低キニ過キ充分ナル檢
 査ヲ施行スルコト能ハザリシヲ遺憾トス思考ノ方法ハ甚ダ小供ヲ
 シキモノニシテ異常ナクソノ他思想ノ常同迂遠拒絶癡想逸詞語
 ノ粘着強迫觀念等ハ之ヲ認メズト雖思想ノ散亂アリテ被告ノナセ
 ル少シク長キ談話ハソノ意ヲ解スルコト困難ナリ

感情 ハ甚ダ鈍感シ居リ獄中ニ在リ只端坐シテ何ノ爲スコトモナ
 クシテ別ニ退屈トモ思ハズ殺人事件ニテ入監シテナガラ心配スル模
 樣モナクサリトテ心神爽快ナリトノ風ニモ見エズ苦悶ナク憤怒ナ
 ク又甚シキ感情ノ轉換モナク只茫然トシテ其日々を送リソノア
 ルガ如シ

精神運動 トシテハ意志ノ亢進例ヘバ多辯、多動、不安、器物破
 壞等ナク却テ稍減退シ茫然トシテ消日スルコト多シ但シ緘黙症、
 拒絶症等ナク意志ノ被影響性ニハ著變ナク強硬症狀反響症狀等ヲ
 見ズ

言語及手書 言語ハ小供様ナルノ他發育ニ著變ナク手書ハ甚ダ拙

ナレドモ失節振顫等ヲ見ズ食慾及便通ニ異常ナシト云フ

ロ、身體的徵候

身體的ニハ顔面ノ左半側ニ輕キ麻痺ノ痕跡アリコトハ先年被告ガ顔
 面神經麻痺ヲ患ヒタル遺殘ナルベシソノ他瞳孔ノ對光反應鈍、藍
 蓋及アヒルス腱反射ハ昂進シ特ニ右側ニ著シキガ如キハ被告ガ中
 樞神經系統ノ何レカニ何分ノ障礙アルベクコトハ半身不隨症ノ痕跡
 ト見レベシト雖ソノ半身不隨症ガ顯出血、腦検査或ハソノ他何レ
 ノ疾病ニ起因セルヤ今日之ヲ知ルコト能ハズ尙一般ニ精神病弱者
 ハ腦ニ或疾患ヲ有スルヲ普通トスルモノナルコトヲ附言ス

五、診 斷

檢診ニ依リテ知得セル所ヲ通覽スルニ五つハ神經系統ニ多少ノ器
 質的變化アリト見ザルベカラズ而シテ精神のニハソノ各方面ニ於
 テ稍重キ薄弱ヲ示シ殊ニ一般智能ニ於テ甚ダ欠クル所アリ日常直
 接ニ經驗セル具體的觀念ハ比較的存在セルニ拘ラズ此等觀念ヨリ
 其主要部分ヲ抽出シテ之ヲ綜合シ以テ一般的概念ヲ構成スルノ能
 力十分ナラズ換言スレバ觀念乃至概念構成ニ於テ著明ニ幼稚ニシ
 テ其發育中絶ノ狀態ニ在リ感情ノ鈍感亦甚シク周圍ニ對シテ自發
 的ニ適應スルノ能力ニ乏シ從テ高尚ナル情緒ノ完成ナク羞耻及道
 徳的責任等ノ道念ニ於テハ著明ニ貧弱ナリ

界ニ於テハ下等ナル感情例ヘバ生硬惡意等ハ比較的發達シ居ル
 ニカ、ハラズ一般智能道德的觀念等ノ發育甚ダ低ク此等八九歳
 ノ兒童ノソレニモ及バザルコトアリ然ラバ斯ノ如キ被告ノ精神薄
 弱狀態ハ先天性ノモノナルヤ將タ後天性ノモノナルヤト云フニ恐
 ラクハ先天性ノモノナルコト此ノ如キ精神の諸機能アララユル
 方面ニ於ケル薄弱狀態ハ一定ノ精神病或ハ弱病等ニ續發スルコト

少クシテ先天的ニ來ルコト多ケレバナリ尙被告ノ實見并知人等ガ
 口ヲ摘ヘテ彼女ヲ純イ人間ナリト云ヒ又被告ノ父ハ大酒家ニシテ
 且彼女ガ幼時ヨリ孤立兒童ナリシコトモ亦ソノ證左トナスコトヲ
 得ベシ抑モ先天的精神發育抑止ハ其程度甚ダ多クシテ下ハ殆んど
 散智的作能ノ痕跡ダモ之ヲ認知スルコト能ハザルモノヨリシテ上
 ハ所謂精神健康人ニ近キモノニ至ル一般ニ之ヲ三大別シ具體的觀
 念ニ於テモ已ニ著明ノ缺點ヲ呈スルモノハ之ヲ白痴ト稱シ具體的
 觀念ノ蓄藏ハ可ナリニ之ヲ有スルモ抽象的觀念ニ著明ノ缺點アル
 モノハ之ヲ痴愚ト稱シ抽象的觀念ニ於テ多少ノ不完ヲ呈スルモノ
 即チ健康人ニ極メテ近接スルモノヲ之ヲ魯鈍ト云フ而シテ是等三
 階級ノ間ニハ漸次ノ移行形ヲ存スルモノニシテ之ヲ嚴密シ能ハザ
 ルハ云フ迄モナキコトナリ

被告五つノ心神薄弱ノ程度ヲ此區分ニ照ラスニ被告抽象觀念ハ甚
 シク不完ニシテ具體的觀念ニ於テモ亦欠クル所アリ即チ彼女ハ痴
 愚ト白痴トノ間ニ位スルモノニシテ而モ何レカト云ヘバ寧ロ白痴
 ニ近キ位置ニ立テルモノト云フベシ

六、犯時ノ精神狀態

被告ハ現時白痴ニ近キ痴愚者ニシテ而モソガ先天的ノモノナリト
 セバ犯時ニ於テモ現今ノ狀態ト大差ナカリナルベシ而モ犯時一時
 性ノ意識濁濁或ハ興奮狀態等ニ陥リ居ラザリシコトハ大正〇年〇
 月二十二日ニ聽取書及調書及同二十九日被告第二回訊問調書ノ記
 載ニ依リテ明カナリ然ラバ何ガ故ニ被告ハ前二回ノ訊問ニ於テハ
 明ニ安市ヲ乳房ニ壓殺セシト申立テ且ソノ壓殺狀況ヲ述ブルニ
 詳細ヲ極メタルカト云フニ愚鈍ナル彼ハ將來ノ結果ヲモ考慮スル
 コト能ハズ一時迷レニ司法官ノ取調ニ際シテコトヲ云フ云ハ
 ルレバ「ハイ」ヲ以テ應ジタルモノナルベク感情鈍麻シ道德的觀念

少キ被告ハ二三ノ虛談ヲ其中ニ點綴シタルモノナルベシト思ハル
 予ノ檢査ノ際ニモ犯罪事件ニ付餘リ根柢ヲ問詰ムレバ彼
 ハ如何ニモウ囑ハント云フ風ヲナシ「裁判所デ書イタモノ」通リ
 ニシテオイオウ吹レヤス」ト吐キ出ス様ニ答フルヲ常トシ然ル
 ニ九月二十九日ノ第二回訊問ニ於テ被告ハ飽クマデ問ヒ詰メラル
 ハ、ヤ果前二回ノ申立ヲ否定シ安市ハ知ラマ問ニ死ンデオリシト
 云フニ至レリ被告ノ如キ低位ニアル痴愚者ノ口供ノミニテハソノ
 何レヲ信ナリトモ確定スルコト能ハザレドモ被告ノ態度、彼ノ安
 市ヲ愛シ居リシ様子、安市ガ生前ヨリ顯著ナル幼兒ニシテ而モ死
 直前風ヲ引キ乳汁ヲ口ヤ鼻ヨリ戻シ且下痢ヲナシ居リシ等ノ事情
 ヲ綜合シテ考察スルニ五つノ最後(九月二十九日)ノ申立ヲ眞實ト
 思フスルヲ適當トス

七、法律的觀察

被告ハ醫學的ニハ精神病弱者ニシテ而モ極メテ低位ニアル痴愚者
 ナルコトハ已述ノ如シ然ラバコトハ刑法ニ所謂心神喪失或ハ耗弱ノ
 何レニ相當スルカト云フニソノ鑑別困難ナリ刑法第四十條ニヨ
 レバ瘖啞者ノ行爲ハソノ精神の發育不完ノ爲メ之ヲ罰セザルカ或
 ハソノ罪ヲ輕減シ同第四十一條ニ依レバ十四歳未満ノモノハ責任
 無能力トナセリ刑法ノ此精神ニ依レバ五つノ如ク八九歳ノ小兒ニ
 モソノ智能及バザル痴愚者ハ責任無能力ト見做スヲ至當トス

丁、鑑定

上記檢査及說明ノ理由ニ依リ左ノ如ク鑑定ス
 一、被告五つハ犯時(大正〇年九月二十一日)ニ於テモ現時ニ於テ
 モ甚ダ低位ニ在ル痴愚者ニシテ法律上責任無能力ト云フベク強イ
 テ之ヲ刑法上ノ語ニ適用スレバ刑法第三十九條ニ所謂心神喪失者
 ト見做スヲ至當トス

此鑑定ハ大正〇年〇月八日着手
同年十一月〇〇日終了

鑑定人 醫師 小南 又一 龍爾

變質性精神病

本症ハ退行性精神病又ハ病的的精神狀態トモ云ヒ、身體及智力ノ發育ニ著シキ異常ナキモ、性格ノ或方面ニ於テ幼時ヨリ著明ナル偏倚ヲ來シ、社會或ハ仲間ヨリ變人、畸人トシテ除外セラル、ヲ常トス。變質者ハ狹義ノ精神病者ト健康者トノ中間ニ位スルモノニシテ、或ハ之ヲ中間者又ハ低格者ト名ヅク、中間者ノ大部分ハソガ遺傳關係ヲ有スルモノニシテ、多クハ所謂變質徵候ヲ有ス、通常變質者ヲ分テテ神經質者、色慾異常者、體質性神經衰弱者、強迫觀念症者、體質性沈鬱者、同與奮者及病的性格者ニ區分ス。今此等ノ大體ニ就テ述ベシ。

二、變質性精神病—變質者

(イ) 神經質者

又ハ偏倚者トモ云ヒ、能力ノ發育ニ不均等ヲ來スモノニシテ、例ヘバ詩歌、文學等ニハ巧ミナルモ毫モ數學的智識ナキモノ、或ハ或技術ニハ非常ニ秀デアルモ、品性素行ノ少シモ修ラザルガ如キモノ等、所謂天才肌ノ人ニ神經質者多ク、想像豐富、虛構ニ巧ニ、感情ハ平靜ナラズシテ烈シキ變換性ヲ示シ、意志強固ナラズシテ倦怠シ易ク、從テ行狀放肆、散漫ニシテ、恒常的生活ヲ營ミ難シ、常ニ感覺過敏、頭痛、食慾不振、睡眠障礙、色慾異常等ヲ訴ヘ、變質症狀ヲ有スルモノ多シ。

本病者ノ犯罪的行爲ハ輕キモノニテハ責任能力アリト云フベク、甚シキ變質者ニテハ心神耗弱者ト見ルヲ至當トス。

神經質者

民法上ニハ患者ノ職業ト、疾病ノ程度ニヨリ、處分能力アルトキアリ、或ハ準禁治產トスベキ時アルモノナリ。

(ロ) 色慾異常者

變質者ノ外ニ、白痴、痴愚、或ハあるこほる中毒者、早發痴狂者ニモ、色慾異常ヲ來スコトアリ。自然ノ交接ヲ嫌ヒテ手淫ニ耽ルモノ、色慾甚シク昂進セルカ或ハ全ク之ナキモノ、猥リニ陰部ヲ異性ノ前ニ暴露シテ喜ブモノ、同性愛ヲ好ミ、同性愛ヲ快トスルモノ、苦痛ヲ加ヘ或ハ加ヘラレテ色慾的快感ヲ感ズルモノ、殺人淫樂症者、異性ノ糞尿ヲ食ヒテ快トスルモノ、獸姦ヲナスモノ、或ハ屍體ヲ姦シテ色慾ヲ滿スモノ等ハ變質者ニ多シ。

法醫學的ニハソノ行爲ノ動機ト、犯者ノ精神狀態トヲ探究シテ或ハ責任能力者トシ、或ハ心神喪失者トシ、又處分能力等ニ就テモノノ有無ヲ一概ニ論ズベカラズ。各個ノ場合ニ就テヨク探究スベシ。

(ハ) 體質性神經衰弱者

本病ハ精神過勞ニ依テ生ズル神經衰弱症ト殆ド同様ナル症狀ヲ生來性素質トセルモノナリ、而シテソノ精神能力ハ甚ダ高等ニ達スルモノスラアリ、常ニ疲勞シ易ク、頭重、眩暈、睡眠障礙、生殖或ハ消化機能ノ障害ヲ訴ヘ、時トシテ妄覺ヲ來シ、多クハ感情冷酷ニシテ、自我心強シ、即チ本病ハ輕度ノ痴愚、破瓜病、躁鬱病或ハ麻痺狂ノ初期ト相類似セル點アリ、本病患者ノ大部分ハ、法律的ニハ責任能力及處分能力ヲ有スルモノナリトス。

(ニ) 強迫觀念症者

色慾異常者

體質性神經衰弱者

強迫觀念者

衝動性精神病

體質沈鬱者

體質興奮者

病的性格者

生來性犯罪者

意志薄弱者

病的虛言者

狂醉感病者

偽好詐病者

本病ハ多クハ生來性神經衰弱ト相伴ヒテ來リ、或事ニ遭遇スル時ハ、堪ヘ難キ苦悶ニ襲ハレ、而モ此苦悶カ不合理ニシテ笑フベキモノナルコトヲスラ自身ニ十分承知シ居リテ尙之ヨリ離脱スルコト能ハザルモノナリ。即チ臨場苦悶、閉鎖恐怖、暗黒恐怖、水淫、異性恐怖、疾病恐怖、鐵道恐怖及ビ恐怖苦悶等ノ如キヲ見、又是等ノ恐怖ニ附隨シテ一種ノ強迫行爲アルコトアリ、例ヘバ疑惑症、記名症、計算症、穿鑿症等ノ如キ之レナリ。此強迫行爲ノ著シキモノヲ名ヅケテ衝動性精神病ト云フ、コハ自己ノ犯行ヲ自制スルノ能ナク、強迫性放火、殺人、姦淫乃至罵詈等ヲナスモノニシテ、此強迫性衝動ノ起ルトキハ、如何ニシテモ之ヲ制御スルコト能ハズシテ敢行シ、ソノ目的ヲ達スルヤ多大ノ慰藉安堵ヲ感ズルモノナリ、變質者ニ非ラズシテ強迫觀念或ハ行爲ヲ起スモノハ、早發痴狂、癲癩、ひすてり等ナリ。

法醫學的ニハ極メテ慎重ニ各個ノ場合ヲ鑑定スベシ、即チソノ行爲ノ原因、行爲間或ハソノ後ニ於ケル精神狀態ヲ注意シテ診定シ、責任能力ノ有無ヲ決定スベシ、ソノ重症ナルモノニハ勿論責任能力ヲ問フ能ハズ、次デ民法上ニ於テハ處分能力者ナルカ或ハ準禁治產トナル場合多シ。

(ホ) 體質性沈鬱者

コハ生來性神經衰弱者ノ一變型ニシテ、患者ハ萬事ヲ悲觀的消極的ニ解釋シ、自ら求メテ苦悶憂慮シ、或ハ厭世觀ヲ起シ、或ハ自暴自棄トナリテ暴行ヲ働キ、鬱ヲ遣ラント試ム、一般ニ刺激性ニシテ睡眠障礙アルコト多シ、憂鬱病、躁鬱病ノ抑鬱期等ト區別スルヲ要ス。法律的ニハ多クハ責任能力者ナレドモ、時トシテ中間者トシテ取扱ハレ心神耗弱者ナルコトアリ。

(ハ) 體質性興奮者

コハ生來性素質ニ基キ、精神發育ノ偏頗ナルモノ多ク、亦能力缺損アリ、感情輕移シ意思奔逸ス、働作ハ浮薄陋劣ニシテ、節度規律ナク、放逸、遊蕩、怠惰、自恣ナリ、輕躁症等ト區別スベシ、法律的ニハ各個ノ場合ヲ注意シテ診定スベキモ、多クハ中間者トシテ取扱フ。

(ト) 病的性格者

之ニ屬スルモノハ亦生來性素質ニ基キ性格異常者ニシテ、一見精神及身體ニ異常ヲ認メザルモ、多少常規ヲ逸スル性格ヲ有シ、思想及行爲ハ一方ニ偏倚シ、所謂中間者ニシテ、寧ロ精神的健康ニ近シト云フベシ病的性格者中ニハ、生來性犯罪者、意志薄弱者、病的虛言者、狂醉感病者、偽好詐病者等アリ。

生來性犯罪者ハ思慮淺薄ニシテ同情ノ念ナク、幼少ヨリ悍猛ノ性アリ、生物ヲ虐待シ、虛言巧ニ、放肆怠惰ニシテ漂浪シ、乞食シ、正道ニ歸ル望ミナク、遂ニ常習性犯罪者トナル。

意志薄弱者ハ生來意志發動、行爲ノ制止力極メテ薄弱ニシテ、一定ノ業ニ永ク從事スルコト能ハズ、誘惑ニ陥リ易ク、虛榮ヲ追ヒ、生活ノ困難ニ陥レバ直ニ犯罪行爲ヲナスモノナリ。

病的虛言者ハ空想兀進シ、想像ニ馳セ、不確實ナル追想ヲ追ヒテ、無暗ニ虛談調色スルモノナリ。

狂醉感病者ハ宗教ニ非常識ヲ以テ狂醉シ、常人ヨリ見レバ恰モ狂者ノ如ク見エ、ソノ爲メ暗示性高度トナリ、判斷不良トナル。

偽好詐病者ハ利己心徒ラニ大ニシテ、自己ニ不利ナルコトアレバ飽クマデ自己ノ權利ヲ主張シテ訴訟ヲ提起シ、飽クマデ自己ノ權利ヲ主張セズンバ止マズ、常ニ他人ノ非ヲ鳴ラシ自己ノ正ヲ吹聴ス、真正好詐病ノ如ク、妄想ヲ形成スルニ至ラザルヲ以テ之ト區別スベシ。

病的性格者ハ多クノ場合心神耗弱ヲ以テ論ゼラルレドモ、各個ノ場合ヲ充分ニ探究シテ鑑定ヲ下スコト必要ナリ、ソノ疾病度ノ重キモノニ於テハ責任能力ヲ問フコトヲ得ザルモノアリ。

實例、選舉法違反被告事件—變質者—中間者

鑑定書

中間者鑑定實例

大正〇年五月一日〇〇區裁判所判事〇〇〇ハ〇〇勸四郎選舉法違反被告事件ニ付同庭公判廷ニ於テ

一、其精神状態ニ異状アルヤ否ヤ異状アリトスレバ其疾患ノ程度及原因ノ系統的ニコルモノナルヤ或ハ漸次的ニ出ズルモノナルヤ

ノ鑑定スベキ旨ヲ子ニ命ゼリ依テ子ハ同月三日、十日ノ二回同區裁判所ニ於テ一件記録ヲ精讀シ尙同月十日、十七日、二十四日ノ參同〇〇監獄ニ於テ被告勸四郎ノ心身状態ヲ檢診シ彼是ヲ綜合シテ此鑑定書ヲ作ル

〇〇縣〇〇市〇〇町七番地平民 米穀仲立業 〇〇勸四郎 當五十二年

上、検査記録

子ト被告トノ談話ハ診斷ノ用ニ供スルモノナレバソノ用語等成ルベク被告ノ語リシマ、マ、マ、冗長ヲ賦ハズ記録スルコトトセリ

一、遺傳ノ關係ニ就キ被告勸四郎ノ余ニ語レル所左ノ如シ

祖父ハ勸四郎祖母ハ...

祖父ハ勸四郎祖母ハ...

祖父ハ勸四郎祖母ハ...

兩親ノ名ハ

父ハ勸四郎母ハたけ、たけハ多モト書キマス

兩親ハドウ云フ病氣ヲナクナラレタ

父ハ明治廿三年ニ五十三歳ノ時腦痛ニテ死亡シ母ハ大正二年七十四歳ニテ年ノせいニテナクナラレタ

兄弟ハ何人

妹二人ト第一、私ハコウ云フ風ノ男デスシ弟ハ少シボケデスカラ弟ト私トツキマズルト丁度ヨイト云ハレテ居リマス

弟ハ聖田デ何モズズツトスタンデ居ル何ソボ云ハレテモ働イタラ損ヤト云フ性デス妹一人ハ榊屋町ニ居リ丈夫デスシモ一人ノ妹ハ京都ニ居ルガ之モ丈夫デス

ソノ他血族ニ變ツタ人ハナカリシカ

叔父ノ庄太郎ガ十二三年前氣違デ物ヲブツケタリ人ノ頭ヲハツタリシ私等モ二三度タ、カレマシタ歳ノ内ニ七八年監禁セラマシタ母親ノ弟ハ何カナシニ一本筋ノ人デ切腹シテ死ニマシタ一歩モアトヘ引クコトハセン我が惡カウツラ死ンダラエ

二度ハ死ヌコトハナイト云フ人デス

二、被告ノ遺傳歴ニ就キ〇月二十六日付第二回公判始末書中ニ參考スベキ左ノ申立アリ

(一)〇〇政男ノ申立ニ

一、勸四郎ノ家庭ノ状態ハ大抵知ツテオリマス同ノ母方ノ叔父ニ當ル庄太郎ト云フ人ハ三十年程以前ニ其宅ニ在ツタ日木刀腹ヲ切リ傷ニ突立テ自殺シマシタガ其死因ガ癡狂デ

アルカドウカ知リマセヌ又母方ノ叔父ノ弟ニ當ル庄太郎ト云フモノハ之モ三十年程以前ニ癡狂シタツウデアリマスガ近所ノ人ノ言ニ依ルト非常ノ力ガ起ツタ時ハ近所ノ人ガ澤山ヨツテ押ヘタリ又監守シタコトガアルト聞イテ居リマス(中略)

(二)〇〇忠七ノ申立ニ(前略)

一、勸四郎ノ父方ノ叔父ニ當ル〇〇庄太郎ト云フモノガ癡狂シタコトガアリマス夫レハ十四五年カ二十年以前ノコトデ四五年前ニ癡狂シテ一時ハ監禁シタ事モアリマスガ死ヌル時ハ普通ノ死ニ方デアリマシタ又勸四郎ノ母方ノ叔父ニ當ル人ハ聖田デ切腹シテ死ニマシタガ夫レハ平素癡狂シテ居タモノデハナイ様ニ聞イテ居リマス自殺ノ原因ハ事業ニ失敗シタ爲メカ又ハ精神ニ異状ガアツタカ如何ナル都合デ自殺シタカソレハ知リマセヌソノ以外ニハ勸四郎ノ親族デ癡狂シタ人ノアルコトハ聞キマセヌ云々

(三)〇〇藤吉ノ申立中ニ(前略)

一、勸四郎ガ京都ニ行キタ時ヨリズツト以前ノコトデアリマスガ勸四郎ノ叔父カ何カニ當ル人ガ切腹シテ死ンダ人ガアリマス夫レハ癡狂シテ切腹シタノコト聞イテ居リマスガ實際ノコトハ知リマセヌ又勸四郎ノ叔父カ何カモ一人第カ何カ四十近イ人トコレハ何レモ癡狂ト云フ程ノコトハアリマセヌガ二人共世帯ガモテ又變人デ聖田ニ住ンデオル云々

三、此等被告自身ノ陳述及證人〇〇政男、〇〇忠七并ニ〇〇藤吉ノ申立ヲ綜合スレバ被告ハ漸進性ナル精神病ノ遺傳關係ヲ有スルモノト云フベク即チ父方ノ叔父〇〇庄太郎及母方ノ叔父ノ一人ハ精神異常ナリシガ如ク勸四郎ノ實弟聖治郎モ亦完全ナル精神發育ヲ遂ゲシモノナラザルガ如シ

乙、既往歴

四、既往歴ニ就キ被告ノ予ニ語レル所左ノ如シ

子供ノ時カラ今迄ニ大シタ病氣ヲシタコトハアリマセンカ

若イ時分ニ左ニ羅リマシタ中年ニナツタカラ癡狂デ困リマシタ私ノ惡イ癖ハ若イ時カラ酒ヲヤリマスト一升ガ二升デモ

仲レ流ヤリトウ酒ノ上デ人ト喧嘩ヤリ酒ガサメテカ

ラコレハワルイコトヲシタト思ヒアト断リニ行カニヤナラ

コトガ度々アツタノデソレデ酒ヲ止マシマシマシタソノ

他ニハ大シタ病氣ハ覺エマセヌ

子供ノ時分カラ氣分ニむらガナクツタカ

むらバカリデス死損ヒト何遍シタカ分リマセヌ九歳ト十七歳

ニハ癡狂デ死ニカケマシタソシテマタ自殺シカケマシタ

ソレハドウ云フ時ニ

明治三十一年ニ大失敗ヲシテ

ドウ云フ失敗デス

米相場失敗シマシタソノ時ハ一ヶ月程ハ丸テ夢中デシタ

ソノ夢中トハドウナツタノデス

人ガ金取リニデモ米ルト切ルナラ切レ取ルナラ取レト云フテ一寸現ニナツタ丈ケテス昔日物ガ分ラナダノデハナイヒキツケタコトモナイ

ソノ時トノ位ト損ツタカ

初メハ儲ケタデス最初ハ千圓ノ金ヲ持テ來テ三十一一年ノ四月

月ニハ僅カノ間ニ六七萬圓ニシマシタソノ時ハ神戸ノ諏訪山

ニ陣取ツテ天子様ノ様ナ氣ヲ張ツテ居リマシタウチノ家内

モコレ熱ニウカサレ位ノ有様デシタソノ中ニ西班牙トめ

きシコガ戦争ヲ始メルト云フノデ又實ヒマシタ彼是スル中ニ

失敗ガ來テソノ上ニ京都ノ倉庫ガ燒ケテ燬イ目ニ遇ヒ泣キ面

ニ餘デ定期ガ下ル十二月ニナツテ精算シタラ貳萬圓計リ借金

ニナツテ親父ノモノニ手ツケニヤナラシ様ニナリ切齒ツマ

ツテ自殺シヨウトシタノ家内ニ押ハラレテ止メマシタ何シ

ト物ニ熱心ニナルト分ラン様ニナルト云フ性分デシテ人ニ違

感ヲカケテ仕方ナク此所(監獄)へ御厄介ニナツテカラモ一
生懸命ニ學業ヲヤリ坐禪ヲシテオリマス坊主ニテモナツテシ
マツタラ問違フシナイト思ヒマス

今迄仕事が出来ヌキテ我ナカラ愉快ト思フタコトハナイカ
ソリヤアリマスモ景氣ノヨイ時ハ車ノ先引キヲ三人モツ
ケテ走ラシテ居テソレモモダシケテ仕方ナクナリト云フ位デ
ス榮屋町、新町新地ヲ一軒々々ニ飲ンデ歩イタコトモアリマ
ス私ノ景氣ノヨイ時ハ誰レデモ私ヲ見ルトオ前ハイツモ酒ヲ
呑ンデオム様ナ人ジヤト云ハレマシタ
ソリヤ何時ジヤ
金方モウカルトイッデモデス
モウケナイ時ニ元氣ヨクナツタコトハナイカ
分ケモノシニマイト嬉シタテマランコトモアリマス
損セナイ時ニ馬鹿ニフサイゴトハナイカ
分ケモノシニ景氣ノヨクナリト云フ位デモヘコソデ居
マス併シヤリ出スト何處迄モヤリマス
此頃ニナツテソリヤ元氣ニナツタコトハナイカ
若イ時分カラコト云フ元氣ノ男デス別ニ變リハアリマセン
ソウスルト堅田カラ出テ來テ今迄米相場バカリヤツテ居ラレタ
カ

初メ魚屋ヲシテ草ヤ大阪へ通ツテオツタ次ニ米屋ヲシテ明治
十二年頃カラ肥料屋油屋ヲナシ其中デモ米屋ヲツマケテオ
ツテ三十一年失敗シマシタ
學業ハ
學校ハドナヤガチヤデジタガ詩書、大學、中庸、實語教等ヲヤ
リマシタ併シ算術ナドハ餘リヤリマセン
何時結婚セラタカ
明治二十年デシタ妻ハ祖母ノ家カラ來マシタ
今迄妻君ト折合ハ

今度云フコトヲキカナカッタカラ疑シタガ今迄ハ非常ニ折
合ハヨカウツタ
子供ハ
十六歳ノ女子一人
女子ナラアナタノコ、ニ居ラレルノラ心配シテ居ラレルデア
ロウ

ハイ手紙ヲコシテオリマス(此時顔面甚ダ悲痛ヲ帶フ)先
年大阪デ私ノ家内ガ胃弱ヲ起シ嘔ベタモノヲスワカリモド
シテシマヒマシタ腹ガモンドリ返ツテ性根ガナイ位ニナリ
マシタカラ私ガ迎ニ行ツテ連レテ歸リマシテ升屋町へ小サナ
家ヲ一軒カリテ家内ヲ養生サセ親モ學校ヲ止メサセテ家内ノ
介抱ヲセマシタソレカラ百五十日モ休ンデ妻ノ病氣モ治ツ
タカラ女學校へ行ケト云フタケレドモコンナニ遅レテシマヒ
マシタカラト云フテ學校ヲ止メテオシ職ニ進ツテオリマシタ
私ガコ、へ道入ツテ學問ノ大切ナモノジヤト云フコトヲ知リ
マシタ娘ガ學校ヲ止メテカラ丁度今日(五月十日)デ滿一年
ナルカラ今日カラ行ケバ丁度ヨイト思フテ校長サンニ頼ンデ
見タイト思フテ居マスコウ云フコトノ分ツタノモコ、へ來タ
デス

五、尙被告ノ平素ノ行動ニ就キ大正〇年四月二十六日付第二回公
判始末書中
(一) 證人〇〇政男ノ申立ニ(前略)
一、勘四郎ガ明治三十二年頃失敗シテ堅田ヲ去ツタ時書置ヲ持
ツタリ又發狂シタト云フコトハ聞キマセマ併シツノ當時餘程
精神ニ異常ガアツタノ力途中デ會ツタモノモ云ハズ變ナ様子
ナノデ私ハ失敗ノ結果混亂シテ居ルモノト思ヒマシタガ私ハ
發狂シタモノトハ思ヒマセヌデシタ
(二) 證人〇〇忠七ノ申立(前略)

(3) 〇〇藤吉ノ申立ハ

一、勘四郎ハ平素ヨリ通上セル性質ヲ親族ノ人ニ出會テモ挨拶
モセヌ様ナ非常識ナコトガアリマスガ其失敗シタ時ハ全デ
狂人ノ様ナコトヲ行ツテ親族ノモノモ氣狂ジヤト申シマシタ
ガ別ニ醫者ニ見セタコトハナク發狂ト云フ程ノコトハアリマ
センデシタ云々

(4) 〇〇藤吉ノ申立ハ

一、明治三十一年頃勘四郎ガ大津デ定期ヲシテ失敗シ貳萬圓計
リモ損シタト云フコトヲ聞キマシタガ其時私ハ米ヲ送ツテ居
リマシタノデ其金ヲ勘四郎ノ方ニ請求ニ行キマシタ所勘四郎
ハ暴レ廻ツテ金ガ欲シケレバ首ナト罵ナト引ツテ出シテ持ツ
テ行ケト申シ別ニ又物ヲ振リ廻ス様ノコトハアリマセンナ
ガ無茶ヲ云フテ仕方ガナイノデ親族ノ人ニ話シタ所神戸カラ
差押ヘテ受ケテ居リ本人ハ誰ガ來テモ無茶ヲ云フノデ勘四郎
ガ拂ハネバ幾分デモ自分ノ方カラ拂フ故本人ノ氣ノ靜マル迄
待テ免レト申シマシタ(中略)
一、勘四郎ハ大體少シ勝手ナコトヲ云フ人デ米ヲ十何匁買フテ
來テクレト申シマス故買フテ行クト左様ナモノヲ注文シタコ
トハナイトカ何トカ云フテ少シ變ツタ人デ今デモ左様ナコト
ガアリマスカラ人々ガ「トシケツ」トカ「一分間」トカ絶名ヲ付
ケテ本名ヲ呼ブ人ハアリマセヌ云々(中略)
トアリ

(5) 〇〇藤吉ノ申立ハ

六、上記第四五項ニヨレバ被告勘四郎ハ生來健全ニシテ大シタ病
氣ニ罹リシコトナケレドモ九歳及十七歳ノ時水腫ニテ死ニカケ
タコトアリ學業ハ彼ノ若年時代ノ常トシテ不充分ナナルモ漢
書ハ相當ニ修メタルモノ、如シ若イ時分ヨリ氣むらニシテ酒癖
アシタ人ト噂シテ困ルコト度々アリシ故此頃ハ全ク禁酒シ居
タアリ

七、大正〇年〇月十三日付〇〇警察署ニ於ケル〇〇正毅、〇〇久
吉、〇〇弘、〇〇勘四郎等ノ聽取書及同年同月十四日付〇〇區裁
判所檢事局ニ於ケル〇〇久吉、〇〇勘四郎聽取書及同十六日同
局ニ於ケル〇〇政治部聽取書同四月十九日報告〇〇勘四郎公判
始末書等ヲ綜合シテ被告ノ犯罪事歴ヲ略記スレバ左ノ如シ
大正〇年四月十四日午前十一時頃〇〇市橋本町有効温泉ニ於テ
衆議院議員候補者〇〇氏ノ運動員〇〇政治部ガ顧問ノ餘リ〇〇
太治郎ト云フ名刺ニ〇〇勘四郎ナル印ノ捺シタルモノヲ見セビ
ラカシテ曰ク之ハ調法ナモノデアル之ヤヘアレバ我ノ十時過キ

八、大正〇年〇月十三日付〇〇警察署ニ於ケル〇〇正毅、〇〇久
吉、〇〇弘、〇〇勘四郎等ノ聽取書及同年同月十四日付〇〇區裁
判所檢事局ニ於ケル〇〇久吉、〇〇勘四郎聽取書及同十六日同
局ニ於ケル〇〇政治部聽取書同四月十九日報告〇〇勘四郎公判
始末書等ヲ綜合シテ被告ノ犯罪事歴ヲ略記スレバ左ノ如シ
大正〇年四月十四日午前十一時頃〇〇市橋本町有効温泉ニ於テ
衆議院議員候補者〇〇氏ノ運動員〇〇政治部ガ顧問ノ餘リ〇〇
太治郎ト云フ名刺ニ〇〇勘四郎ナル印ノ捺シタルモノヲ見セビ
ラカシテ曰ク之ハ調法ナモノデアル之ヤヘアレバ我ノ十時過キ

ニハ何處ノ組織屋成ハ料理屋ヘ行ツテモのみくハ勝手次第ナリト云ヒオモラ仕出シ屋〇〇久吉方雇人〇〇弘ガ難キ不思議ナコトガアルモノナリト思ヒ翌十一日朝野選擧事務所ニ至リテ序ニ同所ノ〇〇直毅ニ此事ヲ語リ且有効温泉ニ行キ昨夜名刺ヲ見セビラカセシ人ノ名ヲ聞訊シ之ヲ〇〇ニ傳ヘシニ同日午後六時頃〇〇久吉方ヘ〇〇派ノ運動者被告〇〇勘四郎ト〇〇政治部トノ二人來リナジツテ曰クオ前ノ所ノ小僧ハ怪シカラヌ奴デ〇〇派ノ間諜ジャソウ云フモノヲ履テオイテハモウオ前ノ所ノ當ハ米穀商仲間ニテハ取ラヌト云ヒテ會退シ右雇人〇〇弘ヲ解雇セザル可カラザルノ止ムナキニ至ラシメ尙同十二日ニ至リ前記久吉ニ嚴談シ必ズ〇〇派ニ投票スルト云フ運動承諾書ニ捺印セシメタルモノナリト

八、次ニ犯罪事實ニ付被告ノ予ニ語レル所ハ左ノ如シ
 〇〇サンノ選擧事務所ガ六、七ヶ所アツテ私方ハ〇〇派米友會ノ選擧事務所デシタ何シロ運動員ガ澤山アルコトデアアルカヲ願モ分カラシカラ運動員皆ニ制符ガクバツテアツテ便利ヲ計ツテオリマシタ
 合ハスモノデス事務所カラ出シテ運動員ニ持タシテ置イテソレヲ持ツテオレバドコノ事務所デモ辨當ヲ喰ベサル様ニシテアツタノデスソレヲ〇〇政治部ガ有効温泉デ酌量ノ餘リ權兵衛ヤナド蹈ソタ序ニ餘ケリナツマラン事アツテ見セビラカシタモノジヤカラコナコトニナリマシタ
 魚久ノ小僧ガ密告シタト云フテ魚久ハ談列ニ行ツタソウデスネソノ翌朝デシタカ〇〇ガ一寸來テクレト云フナデ一所ニ魚久ヘ連レテ行カレマシタガ大将ガ留守デシタカラ主人ガ歸宅セ

レタラ直ニ私ノ事務所ヘ來ラレル様ニ話シテ置イテ歸リマシ
 魚久ノ小僧ヲ解雇シタノハドウ云フ譯ケデス
 魚久ノ主人ガ留守デワツタカラ歸ロウトシテ居ルト〇〇ガソコノ小僧ヲ捕ヘテコノ人ジヤノト云フカラドウシタノカトキタト此人ガ私ノ制符ノ事ニ尾懸ツツケテ〇〇ニ密告シタ人ジヤト云フソレカラ事務所ヘ誰カ來テケル様ニ頼ンデオイテカヘリマシタ後デ事務所ヘ番頭ガ來テケレマシタ
 番頭ガ來テドウシマシタ
 番頭ガ來テカラコレハオ前事務所ノ制符ジャツテオ前ノ所ノ丁雜ガエーケライナコトヲ云フナデ〇〇ニ密告シタソウダ怪シカラランオ前ノ所ハ此所ヘモ辨當ヲ入レテオレヨリヤナイカ好意ヲ持テ買ハナクハコナクガ勢ヒソレ相當ノコトヲセニヤナラント云フト番頭ハソレハ誠ニ濟マンコトヲシタト云フテ歸リマシタ小僧ノコトハ私等カラハ何トモ云ヒマセン
 ソウスルト魚久ノ小僧ヲ解雇シタノハ向フノ好意上カラデスカ
 ハイソウデス私等決シテ強イタ譯デアアリマセン
 ソレカラマダ魚久ハ運動承諾書ヲ以テ行ツタデシヨウ
 ソノ晩(十一日)私ガ事務所歸リマシテ歸ツタ事務所ノモノガ云フハニハ魚久ノ主人ガ來テ待ツテオツタガアナタガ餘リ運イモノダカラ〇〇サンニ宜シクアヤマツテクレト云フテオイテ歸ヘリマシタト云ヒマスカラア、ソウカト云フテ何ニモ氣ニカケズニソノ晩ハソレデスミ十二日朝運動員ヲ集ツテ見テコリカ丸屋町ヘ少シカラ入レニヤナラン丸屋町ハ此所ノ
 〇〇ノ選擧ニ石木ト云フ時計屋ガ骨折ツテケラカト今度モソコヘ行カウト思ヒ運動承諾書ヲ懐ヘ入レテ石木ヘ行キオ
 ル途中丁度魚久ノ表ヲ通ツタモノダカラ一寸顔ヲ出シソレカラ石木ヘ立ちヨツテ運動ノ話ヲスマシ歸リ途ニ又魚久ノ門ヲ通ルト魚久ノ主人ガマアオ上リトス、メルカラソコノ離レ座

數ヘ通りマシタスルト主人ガ誠ニスマンコトヲ致シマシタト云フカラ私ハア、云フコトハ主人ガ注意セント困ルト云フタラ主人ハ私モ數ガ立チマシタカラ小僧ヲイシテシマイマシタト云フカラソナニマデセンデモヨイト云フテ話ツテオ
 リマシタソレカラ、私ガフト選擧承諾書ヲ懐カラ出シテ置イテアツタ所ハ辨當ヲ〇〇、〇〇、〇〇三人共入レテオカト云フトハイト云フカラ私ハソレハ西川派計リ頼ムコトハ出來ント云フト魚久ハイエドウデ西川ニ入レルコ、ロデスト云フカラソレデハ承諾書ニ署名シテクレト云フト直ニ署名シテクレ
 タノデス(刺戟サレテ手眞似振ヲシテ話ス)
 ソレガ此度ノ事件デスナ
 ソリヤツマランコトデコウ云フカ、リ合ヒニナリマシタ
 今思フト丸デマサレタ様ナモノデス
 Fコデダマサレタノデスカ

〇〇ノ警察デス警察ヘハ晝ノ一時嗚呼バレマシタ警察デ云ハレルニハモウ魚久ノ小僧モ調ベテアルカラソノ通り二言ハント十日モ二十日モ留メテオクゾト云ハレタソリヤ困ル二十日迄ハ運動モセニヤナランシ貴重ナル一票モ投ゼニヤナラン
 シ二十日カラアトテ首ヲ取ラレテモヨイカラ勘忍シテオタ
 レ大體私ハ人ニ頼マレタコトナラ火ヘデモ飛ビ込ムト云フ性
 デスドウゾ二十日迄ハ一分間デモ大切ナ身體ジヤ勘忍シテオ
 クレト云フトソナラ魚久ノ云フタ通りニシテオクヨイカ
 ト云ハレルカラハイドウデモソノ通りデヨロシイト云フテオ
 ル中ニ罪餘ガ出來上ツテ讀ムサカイ間イテオレト云ハレタケ
 レドモヨク分リマセンデシタソレデヨイカト云ハレルカラヨ
 ロシイノト云フト署名セヨトコトデシタカラ無我夢中デ
 自分ノ名ヲ書イテカヘリマシタソレガモトコトナコトニナ
 リマシタ馬鹿ナコトヲシタモノデス此度ノ選擧ニ就テ一番馬
 鹿ヲ見タノハ〇〇サント私デス

〇〇サンハ何派デス
 憲政會
 アノ人ハ政友會デス
 ソウスルトオ上ニ手心ガアツタ譯ケデスナ
 ツイワハ知リマセン大體私ハ米南デスカ大版ヘ行クト此度
 ハシツカリヤラントイカンセント同業者ガ云フカラドウシタト
 聞クト此度政府派ヲ入レルト聞クヲ引上ゲテ日本人ノ稅デチ
 ヤンヤンヤ肥ヤスト云フ支那探査ヤカライカント云フカラ
 コリヤ政府派ハイカンワイト聞クナツテシマツタ〇〇サンノ
 運動員ニナツタ譯ケデス
 關稅ガ上ルトアナタガタハ餘程コタヘマスカ
 ソンナコトハ分リマセンガ何シロ日本人ノ油ヲチヤンノニ
 吸ハセルト云フソレガ氣ニ入リマセンソナラ馬鹿ナコトガア
 ルモノカイト思フタ私ハ人ニ頼マレルト夢中ニナツテヤル性
 デスコレガイヤキマセンナ
 俵氣ガアルンデスナ
 (滿面笑ツ含ミツ、)人ニ頼マレタラ火ニ飛ビコム位ヒハナン
 デモナイデス選擧事務所ノ費用モ大分自腹ヲ切ツテ居マス事
 務所ノ看板モ私ガ八十五錢デ自分デ買ツテ來テカヤ様ナ次
 第デス

九、被告ガ檢診ヲ受ケル爲メ檢査ノアル室ニ入り米ルヤ極メテ粗
 略ナル挨拶ヲナシテ着坐シ衣服ニ緊リナク不作法ナリ談話ヲ進
 ムルヤ始終ニコトシ餘リ長時間ニ亘ル時ハ往々ニシテ鼻血
 ヲ出シ又通上セルト稱シ手拭ヲ冷水ニ浸漬シテ頭上ニ置キ水滿
 ガ衣服ニ落トスルモ敢テ意ニ介セズ或ハ話頭佳境ニ入ルヤ激シ
 キ身振手眞似ヲナシ或ハあつさるト稱シテ上衣ヲ脱シ下着ノ
 天、精神の發候

ミトナリテ話ヲ續クルコトアリ顔面筋稍弛緩スト雖表情ノ錯出
或ハ至顔症等ナク舉動稍常軌ヲ逸スト雖尙奇症狀ヲ認ムルコ
トナシ

十、指南力

アナタノ名ハ
〇〇勸四郎
〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

〇〇市〇町七番地

外にくらべると出来の悪い王だ



ト何等種々の根柢なき説が流布された二十六日の株式界は大
混亂を惹起し郵船、海上保険を初め海事に關係ある株式は暴
落したこの奇怪なる風説は株式界の混亂に乗じて奇利を博せ
んとする者が企てたに相違ない(此文章ヲ一讀セシメ直ニソ
ノ大體ノ意味ヲ演説セシム)
軍艦ガ二隻沈ンデ株式ガ暴落シタ一惹起ト何ノコトデス
奇利ト何ノコトデス一モウ一度見セテ下サイ(更ニ一回讀
過シテ)ドウモハツキリシタコトハ分リマセンナ分ラン分ラ
アナタハ株ヤ相場ノコトハ專門ジヤナイカソソナコトハ分ラン
コトハアリマスマイ
米相場ノコトハヨク分ルガ株ノコトハ分リマセン(表情等ニ
ヨルモ驚リテ云フトモ見えス)
左ノボンチ畫ノ意味ハ

コ、ノ御方ハ何ヲスル人
看守(正)

十一、前記第一、四項ニ於ケル問答及前項ノ指南力検査ニ對スル
應答ヲ綜合スルニ被告ハ自己及親父母、父母兄弟ノ名前年齢存
否等ヲ能ク答ヘ又彼ノ現在スル場所ノ何處ナルヤ現在ノ年月日
周囲ノ人ニ對スル考ヘ等ヲ略説ヲナク知り居レリ即チ彼ノ指南
力ハ殆ンド尋常ナリト思惟ス

十二、病識

身體ノ工合ハ

話ヲシテオルト混イテアツクアツトスル室ニ入リテ機ナ氣ガ
スル胸ガドキツクコトガアリマヌ時々眼ガ見ニクイコトガア
リマヌ

氣分ハ

逆上セル丈ケデ機嫌ハ悪イコトハナイコ、ハ醫學ヲヤルニハ
ヨイ所ジヤ

コ、(監獄)ニ居テ何ト思ヒマス

家ニ居ルト勝手ヲスルガコ、ニ居ルトソウ云フコトハナイカ
ラ身體ノ爲メニハ結構ヤ

病氣ニカ、ワタ様ナ氣ガシマセンカ

逆上セル物ガ分ラン様ニナルコレハ昔カラデス今ハ別ニ何
トモ思ヒマセン

即チ被告勸四郎ハ此等ノ問答ニヨルモソノ態度ニヨルモ自己ガ
逆上セル以外何等病氣ニ纏リ居ラズト思惟セルガ如ク又實際病
識ハ存在セザルガ如シ

十三、領解力、被告ハ種々ノ物品ヲ見テソノ品名及使用法ヲ知り
又檢者ノナセル談話及簡單ナル質問ヲ正シク且速ニ了解シ相當
ナル應答ヲナス但シ複雑ナル質問ニ對スル返答ハ左ノ如シ

大ノ文章ノ意味如何

曰ク淡路丸の沈没、曰ク我が郵便船二隻撃沈、曰ク何、曰ク何

分リマセンカ一番下ハ栗デスカ人間ノ頭ニコソナトソナトソナ
モノハアリマセンハ、アン日本ノ内閣ガ若シイ持テ内閣ノ
經濟ガ持テソナト云フテ流イテイヤハルノジヤロウ

ソウ云フコトハ餘リヨク分リマセンガ米相場ノコトナラチイ
タ分リマス(此時會心ノ笑ヲ漏ラシツ)、昨日(五月十七日)ノ
話モ大阪ハ米ガ高イト云フ電報ガ來タカラナセ米ガ高イカト
云フコトヲ電報デ聞キアワセタラ「朝鮮米暴騰、内地米從ツ
テ高イ正米強含」ト云フ返電ガ三時間目ニ來マシタ有難イモ
ソデス

コ、デ商賣ヲシテオイデマスカ

毎日面會人ガアリマヌソレニ命ジテ先キニヤツテオツタコト
ノ後片付ヤラ銀行ノ預金ノ仕末ヤラシテ居リマス又娘モ女學
校ノ校長サンニ頼ンデ行ケル様ニナツタソウデスカコレモ
私ガコ、ハ來タ得デス

次ノ各文句ヲ料工合ク排シテ一文章トナスベシ但シ一字ヲマシ
テモ減シテモイカナイ

問題

(山)の、獨帝、材料、と、答 獨帝の講和申込を材料とし

定期、して、講和、を、て定期米は一齊に暴落した

米、暴落、一齊、は、に、申込、

(四)生徒、守る、は、行儀、

よい、の、先生、教へ、

のを、よく

先生は生徒よく行儀を守るよ

い教へを

(の)ノ字ガ二字餘リマス勸考

ガアリマシカト云ハバドウモ

仕方ガオ(ン)ナアト云フア

考(ント)モセズ

被告ノ領解力ハ不平均ナル發達ヲナシ或一面ニ於テハ非常ニ能ク物事ヲ領解スルカト思ヘバ他ノ一面ニ於テハ恰モ小兒ノ如キ返答ヲ與フルコトアリ

十四、注意力、被告ハ檢診ヲナセル室ニ入り來レルモノアルモ多クハ無頓着ニシテ對話中彼ノ周圍ニ起レル事例ヘバ看守ノ交代意外ニ見ユルモノ去來時計ノ時鳴等ニモ不注意ナルコト多シ又一文章中ニ在ル一定ノ文字ニ傍柱ヲ附セシムルニ錯誤アリ例之次ノ文章ノ「の」ニ傍柱ヲ附スベシト云ヘバ先づ「附」シ開達アルナラント云ヘバ次ニ「附」シ尙殘餘ノ「の」ニハ三回目ノ注意ニヨリテ初メテ全部傍柱ヲ附シ終レリ

大の力を利用の研ぎ屋、カリフォルニア州の或又物研ぎ屋は近頃ナイフや鉄を研ぐのに大の力を利用して砥石を廻轉させる事にしてゐる即ち大きな輪の中に大な入れ輪の廻轉によつて砥石が廻轉する様に網で連絡して置くのであつて斯くする時は此の砥石屋の犬は主人が自分を喜ばす爲めこんな仕掛をしてくれるものと思つて一生懸命に走らうとするように外見には見ゆるが實は主人の思に對する奉公の念から犬は此の輪の中で走るのであつて其動力によつて及物が研ぎ上げられるのであるそして此の犬は半時間の休暇を日中取る丈けで一杯の勢に堪へるやうである

次ノ誤字ヲ訂正シテ御覽

問 題

近 江 解 答

島 根 縣 島 根 縣

大 坂 (開達ナレト云フ)

被告ハ諸事ニ無頓着ニシテ注意力ノ散漫ナル事ハ上記ノ検査ニ依リテ略之ヲ推知スルヲ得

十五、記憶力、ヲ檢セン爲メ次ノ問答ヲナス

〇〇サンアナタハ何年何月何日生レデスカ
五十三デスカラ慶應元年六月八日
何時結婚セラレシカ
確カ二十年前ノ親戚ノ死ンダ年デシタカラ二十三、四ノ時
大津ニ引移ラレシハ
明治三十一年ニヤリソコナツテ明治三十二年ニ來マシタ
娘ノ生レタノハ
明治三十八年三月八日
アナタノイッソノ時ノ子カ
三十七ハ
此所ニ來ラレタノハ
ドウジヤツタイナア、五月一日ニナル
何故コ、ニ來ラレタ
サツバリ分ラン二日餘リ夢中デシタ大學病院ノオ醫者サンニ
見テ貰フ爲メダト云フテ來タ
丁度一週間以前ニハ何處ニ何ヲシテオラレタカ
桃山御殿參拜ニ行キマシタ今頃ハ乃木神社ニ參詣シテオツタ
デシヨウ
此正月ハ何處ニ居リシカ
ソイツハ分ラン何シロ「一分サン」さんけつしサント云フ線名
ガアル位ヒジヤカラ直ク物ヲ忘レテ分ラン
明治天皇ノ崩御ハイツデシタ
アレハ六年前ノ八月二十六日ジヤ、計理部ヘ金ヲモラヒニ行
ツテオツテ聞イタ
今上陛下ノ御大典ハイツデシタ
一昨年十月トスジヤロウ
青島ノ陥落ハイツ
ソイツハ分ラン—自分ノ利害ニ關係ナイコトハ知ラン
旅順ノ陥落シタ日ハイツ

一月二日ジャツタコイツハウレシクテ一人デオドレタ

日清戰爭ハ
明治二十七年一日露戰爭ハ三十七八年私ハ此ノ時陸軍屋デ
シタ大津ト伏見ヘ私ガ正米ヲ納メテ居リマシタ日清戰爭ノ時
ハ大倉組ノ下働キヲシテ米ヤ麥ヤヲ大倉組ヘ納メテオツタ
即チ第一、四項及本項ノ問答ニヨリテ見ルニ記憶ニ往々誤リア
ルコトアリコハ彼ノ注意力ガ不充分ナル爲メニ起因スルモノナ
ルベクソハ往々常人ニテモ有勝チノコトナレドモ常人ノソレニ
比シ被告ノ記憶力ニハ不確ナル所多シト云フベシ

十六、記憶力、
私ノ顔ヲ知ツテオルカ(五月十七日ノ話)
分リマセン
五月一日ニドウ云フコトガアリマシタカ
公判ガアツテ今日カラオ醫師サンガキヤハルカラ見テ貰フガ
ヨイト云フテツノ時京ノ御方ト裁判所ノ御方ト話ヲシテオラ
レタガアトハドウナツタカ知ラン
公判廷テ私ヲ見ナカッタカ
見マセン何シロ向フヘ向ヒテ背申計リ見テオツタカラ分ラン
昨日ノ天氣ハ
好天氣デシタ併シ今日(五月十七日)ノ方が暖イ
昨晚ノ夕飯ノ菜ハ
ソイツハ分ラン
今日晝飯ノサイハ
肉カカシカ分ラン肉ラシカツタ肉ハ生レテカラ食フタコト
ガナイカラムカツキマシタ
先回私ノ來リシハ何日
五月ノ十日デシタナ(正)
昨日ハ何ヲシテオリシヤ
何ヤカヤデス面會モシタ〇〇ガ來タツノ外手紙ヲ出シ運動セ

シタ本ヲ讀ンダリ疑タリ起キタリシタ
即チ被告ノ記憶力ハ記憶力ト共ニ不十分ノ點アルヲ免レズ
十七、計算力、ヲ檢セン爲メ次ノ暗算ヲ試ム

問 題

2 × 4 解答 8 所要時間 2 秒

4 × 6 24 2 秒

13 × 12 不能計算ナラバ150 2(分) 1 秒

3 + 4 7 1 分

23 + 44 67 1分4 秒

13 - 5 8 3 秒

55 - 16 39 1 分

84 - 95 不能 1分10秒

32 + 4 不能

四、八何ト云ヒマスカ
三十二、ア、ハジヤジヤ

50 + 8 58 秒

次ニ筆算及應用算ヲ試マシムソノ筆算ノ運算ガ一種特有ナルハ
注目ニ値ス

1057 × 327ノ積如何

(1)	19287	7	49	56	14	63	7	135009
(2)	19287	2	14	16	184	2	38574	
(3)	19287	3	21	24	276	3	57861	
(4)	135009	38574	57861	6306849				
(正)							38574	

鶴ト龜トアリ合セテ五十疋ニシテソノ足數ハ百二十本ナリト云
フ鶴龜各何疋ナルヤ
二十五疋ツ、ジヤ

ソレデハ鶴二十五正ト鶴二十五正ト足ハ何本トナルヤ
鶴ガ五十本、鶴ハ百本トア、違フ違フ四分經過後此度ハ出来
タク鶴ガ四十正ト鶴ガ十正トヤソレデ足ノ數ガ百二十本ニ
ナル

目ノ子テソウナランカウウナランカト云フヤツテ見ヨウル
中ニソウナリマシタ(愉快ソウニ笑ヒオトル)
算盤ナラ中々上手デスセ(得意満面)

此等ノ問答ニ依リテ見レバ被告ノ計算力ハ常人ニ比シ稍劣レル
モノアルガ如シ
十八、一般智能、領解力、記憶力、及計算力等ニ何等カノ
變化アレバ巴ニソノ智能ノ程度ヲ略々察知スルコトヲ得ト雖尙
念ノ爲メ一般智能ヲ檢セン爲メ次ノ問答ヲナス

一年ハ何週間アルヤ
一年ハ三百六十五日デヤカラ一週ハ七日ト……五十二週間
ト一日春夏秋冬ハ一ケ年中ノ月ナルカ
新デ云(ハ春ハ一、二、三月、夏ハ四、五、六月、秋ハ七、八、九月、
冬ハ十、十一、十二月)

豊臣秀吉トハ如何ナル人カ
ソリヤ好キヤツタカラヨク知ツテオリマセセー尾張ノ愛知
郡中村カラ穿テ出シ一十八史略ニハ詳シク書イテアルガ一松
下嘉平治ノ所テ關丸ノ籠ヲ六兩デ買ヒニ行キ監シタト云フ譯
ジヤナイガソノ金ヲ返サナカッタソレカラ矢はぎノ橋デネテ
オルト……

モウヨロシイソノナラ東郷大將トハ
コレハアタタ海軍大將ジヤ日露戰爭デばるちつく艦隊ヲヤツ
ツケタ人ジヤ
東京ノ人口ハ
分ラン一京都ノ二倍ハ大阪、大阪ノ二倍ハ東京ト云フコトハ

居ツタガコ、(監獄)ハ來テ見テ初メテ三界皆金ジヤト云フコ
トヲ知ツタ金ガナイトイカン私モ金ガ少シアルオ陸デ監獄デ
醫學ヲヤツカシワガタベテオラレル金ガナイト首ガナイト
同ジヤソノ人間ハ生アルモノハ必ず滅スジヤ人間ガナクナリ
ヤ三界モ分ラン様ニナルソコデ三界万零ジヤ
何故ニ納稅ノ義務アルヤ
オ上テ取ツテ又色々ノコトニ使ヒナサルソレ丈ケノコトデ體
ヨリ出デタルモノハ體ニカヘルデ皆又私等ノ懐ヘモドリマス
即チコトヤツテ監獄デ樂ヲシテオトルモ自分等ノ納メタ稅ノオ
應ジヤ

何故ニ徵兵義務アルヤ
國ノ爲メデス一國ニ兵隊ガナケリヤ無茶苦茶ニナツテシマヒ
マス
紙幣ノ意味如何
金貨ノ代リジヤ一日本銀行デ出シテオトル
紙幣ガヤケテナクナツタ時ニハ誰ガモウケルカ
ソイツハ分ラン
君ニ忠ナラザルベカラザル所以如何
日本ト云フ國ハ天皇陛下ガアツテ立ツテ行クノヤモシ國ニド
ウト云フ事ガアレバ私等ハ身ヲステ、飛ンデ行クソイツハコ
チラノオ箱ジヤ
慈善トハ如何
ツマリ積善ノ家ニ餘慶アリジヤソレデ藏ノ内ノ財ハ盡クル
時アリ心ノ内ノ財ハ盡クルコトナシト云フテアル
幸福トハ如何
しあはせト云フテエイトコトジヤソノ外ニ云ヒ様ハナイ
世ノ中デ一番キレナモノハ
天ノ背イ澄ミ渡ツテオトル程きれナモノハナイ天ニハ汚
ラハジイコトハ少シモナイ

知ツテオトル何シロ大キイカラ富テガツカン
天津ノ人口ハ
知ラン併シ有權者ガ七百四十八人アルト云フコトハ知ツテオ
ルソノ有權者ハザツト五十人ニ一人當ジヤト云フコトモキイ
マ
ソノナラソレカラ天津ノ人口ヲ勘定シテゴラン
八百ノ五十倍ト見ルト先ヅ四萬人デスカナ
日本ノ最高山ハ
富士山
マダ外ニナイカ滿洲ヤ臺灣ニ
アレハ日本ト云フテモ本當ノ日本ジヤナイカラ知ラン
日本ノ最大川ハ
矢はぎ橋ノカ、ツタ川、名ハ知ラン
犬猫馬豚ト云フ様ナ人間ノ家ニ飼フテアルモノヲ何ト云フカ
歌類
何宗ヲ信ジテオトルカ
禪宗、十代時分カラ峨山和尚ガスキジヤ
日本ニ在ル宗旨ハ
釋迦宗ジヤ之レガ色々ニ分レテオトル禪宗、天台、眞宗、淨土
等ジヤ
聖德太子トハ如何ナル人カ
佛ガ好キヤサカイ陸下ノ御位ヲ斷ハツテ佛法ニ歸依セラ
レタ
盆トハ如何ナル意味ノモノカ
盆ト云フハ供養ヲヤル日デス商人デ云ヤ誓文携ジヤツマ
リ押レ廣メルト三界万零ジヤ
三界万零トハ如何ナルコトデス
三界トハ天界地界人間ハ天ヲ載キ地ヲ踏ンデオトルソ
コデ陰陽ガ生ズル三界赤心アレバソレドイト今迄思フテ

惡事ヲスルト罰スル意味如何
惡イコトヲスルト罰スル法律デ叱ル心ヲ改メサセル爲メダ
子供ト人形トノ區別如何
癡テオツタラ分ラン起キテオツタラ動クト動カンド分ル
儉約ト吝嗇トノ區別如何
儉約ハ我が懐シムコトヤ吝嗇ハ物ヲ吝ムコトジヤ
尙被テ面會人トノ談話ヲ別室ニ在リテ當ニ之ヲ盜ミ聞キセル
ニ被テ商賣上及家事上ニ就テナセル談話ハ詳細明瞭ニシテ毫モ
常人ト異ルコトナシ
米ガ暴騰シタ相デスナ
此間毎日ノ號外デ讀申込ト云フノガ出マシタネアレダ賣ツ
テ損ヲシマシタアレテ持テ居ルト六千圓位ヒハ利ケテ居マシ
タニチア
ナゼソノナニ暴騰シタノデシヨウ
今コンナ所ニ居ルト材料ガナイカラ分ラン相場ヲスルニ材
料ジヤナシヤカデヤト云フテオツテハ買ヘマセンナ自分ノ
見込一ツデ買フンガ上デス一度手ヲ打ツタラ損ニナラウト首
ニナラウト違約センガ私等ノ意氣デス
金ナシテモハアナンタガタニハ何シテモナイネ
(エ今日裸デモ明日ハ一萬手ニ入ルト云フ職業デス金ヤナ
ソソニハ風托シマセン(意氣揚々タルモノアリ))
此等ノ問答ニ依リテ見レバ被告ノ一般智能ハ缺陷性ニシテ或方
面ニハ非常ニ高尙成ハ詳細ナル答ヲナスカト思ヘバ或方面ニハ
恰モ十二、三歳ノ小兒ノ如キ答ヲナス概シテ云ヘバ被告ノ一般
智能ハ常人ノソレニ比シ稍劣レルガ如ク彼ノ態度表情等又之ニ
比テ過ス

十九、觀念、被告ノ話シ振リニ依リ觀念聯合ノ狀況ヲ窺フニソノ
溢瀆、促進、意想奔逸、錯亂常同等ヲ見ズト難談話ハ稍迂遠冗
長ナリソノ他強迫觀念、當意即答症新語作成症等ヲ見ズ試ニ被

告ニ一定ノ刺戟語ヲ與ヘ直ニソレヨリ聯想スル言語(反應語)ヲ發言セシムルニ左ノ如シ

刺戟語	反應語	刺戟語ヲ與ヘテ反應語ヲ得ル迄ノ時間
白紙	天	1 秒
青	分ラン	2 秒
厚	分ラン	10 秒
丸	茶碗	2 秒
尖	きびしノ口	3 秒
速	飛行機	2 秒
軟	綿	5 秒
痛	タ、カレル	2 秒
湯	喋ル	5 秒
臭	バヤ	2 秒
甘	砂糖	2 秒
廣	天地	1 秒
選	分ラン	10 秒
靜	義經ノ妾	2 秒
つるつる	じゆんさい	2 秒
冷	水	1 秒
低	井戸	2 秒
美	天	5 秒
らんぶ	明ルイ	3 秒
頭	冷ヤ	3 秒
指	ドウモナイ	2 秒
田舎	住ヒ	2 秒
馬	山奥	1 秒
毛蟲	かける	2 秒
娘	痛イ	3 秒
	女子	4 秒

百姓 米 2 秒
 兵隊 國 3 秒
 醫者 身體 1 秒
 花 口ノ上 2 秒
 紅葉 木 2 秒
 夜 晩 2 秒
 今 ナイ 1 秒
 悲ミ 分ラン 1 秒
 眠リ 疲レ 2 秒
 死 分ラン 5 秒
 健康 たつしや 2 秒
 二十、安覺妄想、
 自分ハドンナモノデス
 平民ハ先祖ハ平家ノ落武者デ一ノ谷ノ合戦ニ柳田ノ庄ニ逃ゲ
 テ來テ漁師ヲシテオツタモノダソウデス
 表性ハ
 餘リヨロシクナイ切腹シタリ氣が違フテ死ニ様ナ人間ガアル
 位デス皆物ニ凝ル性デコレヲ直ス藥ハアリマスマイカ
 經歷ハ
 明治三十一年ニハ失敗シテモウダメト歸メテ付ケテ書置キマ
 デシマシタ併シ妻ニ止メラレテ止メテ明治四十三年ニハ伏見
 ノ騎兵隊ニ納米ヲシテ居リマシタガ或時納米ノ際生計ガ米ヲ
 手ニ揉ンデ見テ砂ガアルカライカント云フテハネラレマシタ
 二回目ニハ更ニ揉製シテ此度通ラニヤ西野文太郎ノ二ノ舞ヲ
 シテヤロウト思フテ短刀ヲ懐ヘ入レテ行キマシタガ幸ヒ旅團
 長ガ廻ワテコレヲ「コリヤヨイ米ジャナア」ト云ハレタ
 デ主計ガイヤナ顔ヲシテオツタニカ、ハラズ通りマシタソノ
 時ハモウ一寸ノ處デシタ
 人ニ輕蔑サレテ腹ノ立ツタコトハナイカ

末デスソノ中ニ重吉ガ伏見ヘ行キマシタガ此玉藻前ノ狐ガツ
 イテ行キマシタツマランコトジヤカラ別レト云ヒマシタケ
 レドモ重吉ガ云フニハコチラガ分レタケモ向フデ分レト
 フテ困ツテオシマシタツレトウ、八百圓出シテ分レテ
 來タ所亦間モナクツイテ來マシタヒビモ此女ハ大變イカン女
 ダト云フテオシマシタツレトウ、重吉ト阪本町ニ居ルト云フ
 コトデス危イカラ、コノ間郵便局ヘ頼ンデ電話モ其ジテシマヒ
 マシタ
 仇ヲ返サニヤナラン人ハナイカ
 ナイ明治三十一年ニハ職業上ノ邪魔ヲセラレタ之レハ商賣仇
 デアルカラアトハ光風雲月デス、此度ハ魚久ヲ買ヒ被ツタマ
 デス
 無禮ナコトヲスル人ハナイカ
 コ、ヘ這入ルナリ裸ニシ無禮ナコトヲセラレタツノ外ハナイ
 怖イコトハアリマセンカ
 ナニモナイ惡イコトヲシタ覺エガナイカラ
 誇ルニ足ルベキコトナイカ
 自慢スル程ノかいしよガアリマセン、人ニ頼マレタラ一心ニ
 赤心コメテヤルノガ私ノ性デス
 心配ニナルコトナイカ
 娘モ女學校ヘ這入ツタサウジヤシモウ心配ハアリマセン
 以上ノ問答ニ依リテ見ルニ被告ハ判斷力及智力不充ナル爲メ
 妄想類似ノコトヲ云フト雖實際ハ安覺妄想ヲ有セザルガ如シ
 二十一、感情、
 コ、ヘ來テカラドウデス
 マアドチラカト云ヘバ愉快ノ方デスナ、○モウカヘレト云ハ
 レルケレドモ、ハキマリガヨクテ身體ノ爲メニヨイ
 腹ハ立ナマセンカ
 家内ト重吉トノ仕打ニハ前申シタ通り腹ガ立ナマシタモウ二

始終腹ノ立ツコトガ多イ此度モ家内ヲ離別スル積ジヤ

何ゼ、妻君ハ家デ心配シテオラレルジヤロウ
 イエ中々エーグライナコトヲシテオラ私ハコヘ、假住居ヲシ
 テオリ阪本町ノ本宅ハ留守ニナルカラ升屋町ノ別宅ヲ引キ拂
 ツテ阪本町ヘ來テオレト云フテオクニ云フコトヲキ、オラン
 印刷ハドウシタト云ヘバ升屋町ニ置イテアルト云フ阪本町ヘ
 歸ツテオレト五六回モ云フテオラニ云フコトヲ一寸モキカ
 ン阪本町ノ電話ハオ上ノモノデ大切ナモンジヤナイカト云フ
 ト妻ハ阪本町ニ居テ夜ハ升屋町ヘカヘルト云フカラ誰ト疑テ
 オルカト云ヘバ三人ドスト云フカラ三人トハ誰カモウ一人オ
 ルカト云ヘバひげが來テオラソレト一所ニ疑テオルト云ヒマ
 ス

ひげトハ何ソノコトデス
 行者ノひげデスひげト一所ニ疑ルカト云フタラ平氣デハイト
 云ヒオラカラ男女七歳ニシテ席ヲ同ジウセズト云フテオラジ
 ヤナイカオ前ハ三十年ノ操ヲ一朝ニシテ反古ニスルカト云ヒ
 マシタケレドモ一向キ、メハナクひげサンガ水ヲアビテ神ニ
 祈ツテアタノ早ク歸ルノヲ待ツテオラナンテ云ヒマスカラ
 ムカツ腹ガ立ツテ仕方ガナイカラ離縁シマシタ(此時前會人
 アルト云フ話ヲキ、テ)女房ナラ會ハント云フテ下サイ(ト甚
 ダ不興氣ノ顔付ヲナシオラ)

○町ノ留守ハ誰ガシテオラノデス
 妻ノ弟ノ重吉ト玉藻前ガ入ツテオリマス
 玉藻前トハ何ソノコトデス
 女デスコレハヒドイ女デス○ヨリト云フ奴デス此女ハ神戶
 ト高島デ二ツ大キナ身代ヲ取ツテ來タバケモノデス始メ
 ○重吉ガ日露戦争ノ時ニ後備デ天津ヘ來テオシマシタツノ
 時此女トヘバ付イデシマツテ後備カラ歸ツテモ仲々離レマ
 セヌ阪本町ヘ重吉トツイツガ居リ本妻ハ堅田ニ居ルト云フ始

人共絶交シマシタノ外ニハナンニモナイ
商會人ニ會ヒタル時ノ心地ハ
何トモナイ御苦勞サシテシタト云フ計リデス
娘ニアヒタイコトハアリマセンカ
娘ニハ會ヒタイ先日モ娘ガ所ノ方ヘ向ヒテ毎日泣イテオ
ト云フテヨコシタカラ何ニモ心配スルナ身ノ明リハ直ニ立ツ
父ハ丸ノ内番外地デ職ヲ修メテオルト云フテヤツタ
被告ノ感情ハ稍多幸症ナリ家内親戚ガ非常ニ心配シ居ルニモ係
ラズ自己ハ未決監内ニ在リナガラ職ヲ修メテオルト云フテヤツ
カト云ヘハ愉快ナリ萬事自家中心ニシテ商會人ニ會ヒテモ別
何トモナイト云フガ如キ又顔面ノ表情モ常ニニコトシテ彼ノ
云フ所ト一致スルガ如キノ證ナリ
二十二、意志運動、予ノ診察時ニハ意志運動力ノ増進セル徵候、
(健舌、流涕、多痰、飲食物品破損等)并ニソノ反對症(無氣力
茫然無爲等)等ヲ認メズ且意志被影響性ノ亢進(模倣運動、反
響症候、常同症候奇症候等)又ハソノ反對ノ徵候(拒絕症候
及誠實症)等無ク表情運動ニモ記スベキ異常ヲ認メズ但五月
月一日初メテ入監ノ節ハ屋外ニテ裸トナリ亂舞セシト云フモ
ハ一時性ノ興奮ニヨルモノナルベク余ハ之ヲ實見セザルヲ以
テソガ如何ナル性質ノモノナルヲ斷言スルコト能ハズ
二十三、言語ハ明瞭ニシテ發音ニ異常ナク緩急其度ヲ得用語文章
等ニ特記スベキ異常ナシ手書ニモ亂雜誤脱遺失節等ヲ認メズ
食慾尋常ニシテ便通ニ異常ナシト云フ
地、身體的徵候
二十四、被告ノ身體ヲ檢スルニ體格大體重十七貫二百四十匁養
真、皮下脂肪層及筋肉ノ發育佳良皮色一般ニ淡赤色ヲ帶フ外視
シ得ベキ粘膜赤色ニ富ム
頭首ハ左右均等ニシテ輕打スルモ特ニ疼痛ヲ訴フル部ナク顔
面モ亦左右均等ニシテ顔面神經ノ諸枝ニ麻痺又ハ痙攣及麻痺ナ

ク眼球ノ運動尋常瞳孔ハ左ハ圓形右少シク不正圓形左右同大ニ
シテ調節機能尋常對光反應ニ鈍少シク遠視ナレドモ視野ニ異
常ナシ舌ヲ伸出セシムルニ直ニシテ白苔被リ極細ナシ齒列不整
ニシテ缺損アリ懸壺垂ハ直ニシテ發音ノ際ヨク鼻上ノ硬口蓋及
咽頭反射尋常兩耳ニ異常ナク聽力亦尋常ナリ
二十五、胸脈尋常肺ニ打診聽診上異常ナク脈搏正シク一分時約八
十乃至九十五ヲ算ス心臓濁音界、異常ナク心音清朗ナリ體温ハ
多ハ三十六度八分内外ヲ示ス
脊柱ニハ異常ノ彎曲ナク腹部ニ異常ノ硬結腫脹ヲ見出サズ
筋ノ粗大尋常四肢ノ他動的二屈伸セシムルニ抵抗ナク指一指
指鼻尖、足趾關節節間試驗ハ拙ナリト雖失調ナシ
觸覺痛覺、位置辨ニ異常ナクろんるる氏徵候ナシ
二十六、上肢ニ於ケル深反射、左右均等ニシテ昂進シ、腹皮反射左
右均等ニシテ尋常、膝蓋反射右ハ左ハ均等ニシテ昂進ナレド
モ昂進シ足趾反射ハ趾ノ趾腹ヲ來スト雖痛癢ヲ訴フ足現象ヲ
認メズ
要之被告ノ身體的ニハ瞳孔ノ對光反應鈍ナルノ他精神病學上
特記スベキ異常ヲ見出サズ
中、說明
二十七、被告ノ父方及母方ノ叔父各一人ハ精神異常者ナリシガ如
ク弟モ亦完全ナル精神病發育ヲ遂ゲシモノニ非ラザルガ如シ要之
被告ハ稍濃厚ナル精神病ノ遺傳關係ヲ有スルモノト云フベシ
(記録第一乃至三項參照)
被告ハ生來健全ニシテ九歳及十七歳ノ時水腫ニシテ瀕死セント
シタルコトアルモ大シタ病氣ニ罹リシコトナク學校教育ハ甚ダ
不十分ナリ壯年時代ヨリ氣むらノ性ニテ酒癮アリシ酒ノ上ニテ
陶分嗜嗜シタルコトアリシト云フ爲メニ近來ハ全ク酒ヲ用ヒザ
ルモ米相湯ヲ業トシ金ヲ利ケタ時ハ非常ナル元氣ニテ恰モ天子
様ニナツタルガ如ク思ヒ成ハ大津ノ酒樓ヲ一軒々々ニ飲ミ廻ハ

ルコトアリ反之失敗シタル時ハ甚シク落膽鬱憂シ自殺ヲ企テシ
コトアラリ往々ニシテ分ケモナク無上ニ面白クナリ或ハ鬱キ
込ムコトアリト云フ如ク被告ガ常軌ヲ逸シタル人間ナルコト
ハ公判廷ニ於テ證人等モ之ヲ中立テ居レリ(記録第四五六項參
照)此遺傳及既往歴ヲ眞トスレバ彼ハ定期性躁狂ニ罹リ居
レル疑ヒアリト云フベシ
二十八、抑一般ニ定期性躁狂症ニ於テハ多クハ躁病狀態ト鬱病
狀態ト相交代シテ來ルモノニシテ發作期間以外ハ精神のニハ普
通ナルヲ常トス而シテ躁病發作ノ輕度ナル時ハ注意散漫ニシテ
領解力障礙アリ病識缺乏シ加フルニ自家意識亢進意進等アレド
モ感情爽快ナリト雖小ナル刺激ニ興奮シ易ク作業促進等アレド
モ智力ノ犯サル、コト少シ甚シキ發作ノ場合ニハ意識濁濁指
南力不確トナリ妄想ヲ來シ囁言ヲラザルナキコトアリ反之鬱病
發作ノ際ハ不眠ニシテ苦悶ヲ訴ヘ悲觀シ考慮及精神運動抑止領
解障礙等アリテソノ極達ニ自殺ヲ企テスルコトアラリ
即チ被告ノ既往歴ト此躁鬱病變候ノ一般の記載ヲ比較スレバ
相類似スル所アレドモ予ハ被告ニ於テ發作ノ實見セザレバ
ソガ既往歴ノミヲ以テ被告ハ躁鬱病者ナリト決定スルコト能ハ
ズ
二十九、職ヲ被ノ精神の現在徵候ヲ見ルニ被告ハ甚ダ不法ニシ
テ衣服ニ緊リナシト雖表情ノ錯出等ヲ認メズ(記録第九項參照
以下之ニ依ヒ括弧内ニハ參照項ヲ記入ス)指南力希薄(第十
十一項)病識ナク(第十二項)領解力ハ不平均ナル發達ヲナ
シ或一面ニ於テハ非常ニ能ク物事ヲ領解スルカト思ヘバ他面ニ
於テハ恰モ小兒ノ如キ返答ヲナスコトアリ(第十三項)注意方散
漫ニシテ(第十四項)記憶力及記憶力(第十五、十六項)共ニ十分
ナラズ計算力劣弱(第十七項)一般智能亦缺陷性ニシテ或方面ニ
ハ非常ニ高尙或ハ詳細ナル答ヲナスカト思ヘバ他面ニ恰モ十
二三歳ノ小兒ノ如キ答ヲナシ概シテ當人ニ比シ一般智能ニ缺ク

ル所アリ(第十八項)且觀念聯合法ニハ特記スベキ異常ナク(第
十九項)又妄覺妄想ヲ證明セズ(第二十項)次デ感情ハ多幸性ニシ
テ自己ハ未決監内ニ在リナガラ番外地ニ在リテ職ヲ修メツ、ア
リ計ラザル得ラリト稱シ自家意識強ク始終ニコトト笑ヒ
ツ、アリ(第二十一項)意志運動力ニハ特記スベキ異常ナク(第
二十二項)言語ハ明瞭ニシテ發音ニ異常ナク手書尋常食
慾通尋常然リ(第二十三項)身體的ニハ瞳孔ノ對光反應鈍ナル
ノ他精神病學上特記スベキ異常ナシ(第二十四乃至二十五項)
要之被告ハ現今ノ狀態ハ精神能力不平均ニシテ缺陷性性格ヲ有
スルモノナリト云フベシ
三十、然ラバ被告現今ノ狀態ハ前記(第二十九項)ノ躁鬱狂ト關係
アルモノナルカ或ハ麻痺性痴呆ノ初期(被告ガ餘リ無頓着ニシ
テ多幸性氣分ヲ有シ且瞳孔ニ稍異常アル爲メ)ナルカ或ハ生來
性ノモノナルカ或ハ後天性ノモノナルカト云フニ予ハ彼ノ現在徵候
ニ徴シテソノハ先天性ノモノナルカト云フニ予ハ彼ノ現在徵候
ヲコウ云フ風ノ男デ近頃ニナツテ別ニ變ワタ譯デアアリマセン
ト云ヘル如キモノノ一證ナリ即チ被告ハ通常云フ所ノ精神病者
ト云フ程ノモノナラザレドモセリトナ健康者ニアラズ一種ノ精
神變質者ナリト云フベシ
夫レ精神變質者ハ極メテ些細ノ原因ニ依リ不十分ナル智識或ハ
領解力ノ爲メ不安ヲ感ジ或ハ自己ヲ忘レテ歡喜シ衝動的ニ諸種
ノ行爲ヲナスモノナリ被告ノ躁鬱病變候ノ發來ガ多クハ彼ノ米相
湯ニ關スル運不運ニ相一致シテ現出セルハ之レガ爲メナレバシ
三十一、被告ガ生來性精神變質者ナリト云フニ現令ノソレト大差ナカ
リシコトハ被告ガ行ノ経路及ソノ當時〇〇警察署并ニ同區裁判
所ニ於ケル中立ノ(大正四年四月十三、四日付右兩所ニ於ケル被
告聽取書)條理整然トシテ毫モ精神異常者ノ如キ言動ナキヲ見

ナモ之ヲ察知スルコトヲ得シ

下鑑定

上記説明ノ如キ理由ナルニ依リ左ノ如ク鑑定ス

一、被告點四部ハ精神變質者ニシテ通常精神病者ト云フ程ノモノ

ニ非ラザレドモサリトテ精神健全者ニモ非ラズ其中間ニ位スル

所謂中間者モシテ而モ孰レカト云ヘバ精神健全者ニ近キ中間者

ナリ

二、被告ノ精神變質ハ幼時ヨリ今日迄系統的ニ繼續セルモノニシ

テ本件犯行時ニ於テモソノ状態ニ變動アリシトハ認ララレズ

此鑑定ハ大正〇年〇月〇日著手

同 年〇月二十日終了

大正六年五月

日

鑑定人 住 所 小南又一郎

三、ひすてり

ひすてりハ全身性及性格的ノ生來性疾疾ニシテ、ソノ發現ハ諸種ノ身體的症狀ノミナラズ、其性格ノ表
ハル、所必ズ其病徵ヲ共伴シ、其行動ニ特異性ヲ帶バシムルモノナリトス。病因トシテハ遺傳ニ因ルモノ
多ク、且外傷、生殖器病、精神的感動、境遇ノ激變等ニヨリ誘起サル、ヲ常トス、女子ハ一般ニ男子ヨリ
モ本病ニ犯サレ易ク東洋人ハ歐米人ニ比シ罹病スルコト多キガ如シ。

重症ひすてり患者ノ身體的障礙トシテハ、不眠、麻痺、歩行或ハ起立不能、卵巢痛、食思缺乏、嘔吐、
失語、半身性乃至島狀感覺脫失、視野縮少、ひすてり球、痙攣等アリ、精神的ニハ重ニ感情界異常ヲ視、
氣分轉換シ易ク、自己感情亢進シ、虚飾ニ耽リ、珍奇ヲ逐ヒ、人ノ注意ヲ引カントシ、心氣性トナリ、疾
病ヲ誇張ス、意思薄弱ニシテ、暗示ヲ被リ易ク、他人ノ迷惑等ヲ敢テ意トセズ。

ひすてり性痙攣發作アルヤ、癲癇ノ如ク急激ニ來ラズ、通常癲癇様痙攣發作期、ひすてり性狂亂期、感
動的動作期及譫妄期相亞イデ來リ、遂ニひすてり性精神異常状態ニ移行スルコトアリ、ひすてり發作ノ際
ニハ意識錯亂シ、苦悶、不安、叫喚、啼泣、亂暴、幻視、夢視、譫妄等ヲ來シ、時トシテ昏迷状態ニ陥ル
發作後ニハ發作前、中、後、ノコトヲ追想シ得ザルガ通常ナレドモ、往々ソノ當時半夢中ニ經驗セシコ

ひすてり

ひすてり一症
癲癇發作

ひすてり性
癲癇發作

トヲ眞ノ事實ナリト信ジ、之ニ基キテ妄想ヲ發シ、犯罪行為ヲナシテ自ら不正ナルコトヲ知ラザルモノア
リ、又發作中ニ他人ニ強姦セラレタリナド誣告スルモノアリ。

ひすてり性癲癇狀態ハ、痙攣發作ノ前後ニ或ハ全ク獨立のニ來リ、比較的烈シキ意識濁ヲ伴ヒ、了解
不良、指南力喪失、聯想障礙ヲ呈スルコトアリ、ソノ他ひすてり性性格異常者ニハ、一時性ニ發揚狀態、抑
鬱狀態、睡眠發作、夢中遊行、人格變換、二重人格、病的虚言自殺企圖、伴狂等ヲ見ル。

ひすてりト鑑別スベキハ躁鬱病、早發痴狂及麻痺狂ノ初期トス、然レドモひすてり患者ニハ所謂ひすて
り性特徴アルヲ以テ、容易ニ之ヲ鑑別スルコトヲ得ルモノナリ。次ニひすてり患者ト中間者トノ鑑別甚ダ
困難ニシテ癲癇性癲癇狀態トひすてり性ノソレトハ稍相類似スレドモ前者ハ怒リ易クシテ行為ハ斷片的ナ
ルニ、後者ハ暗示性ニシテ行為ニ多クハ系統アルニ因リ鑑別スルコトヲ得。

法醫學的ニ見ルトキハ伴狂者ハひすてり性精神異常者ニ多ク又事實無根ノ誣告ヲナシ、或ハ癲癇狀態ニ
乘シテ窃盜放火或ハ殺人等ヲナスモノアリ、一般ニ云ヘバひすてり患者ノ癲癇狀態、譫妄狀態、大發作時
昏迷或ハ睡眠狀態ノ間ニ於ケル犯行ハ責任無能力ト見做スベキモノ多クレドモ、場合ニヨリテハ輕減責任
能力ノミニ過ギザルコトアリ、又民法上ニハ多クハ處分能力ヲ有スルモノナレドモ、鑑定者ハ須ラテ各個
ノ場合ニヨリテヨリ探究シ、情狀ヲ考ヘ合セテ鑑定ヲ下スベシ。

四、外傷性ひすてり

本病ハ又恐怖性神經症、或ハ外傷性神經症ト稱ス、コハ強劇ナル外傷性感動、例ヘバ列車或ハ電車ノ衝
突、墜落、汽船ノ顛覆、沈没等ニ起因シテ、ひすてり性症狀ヲ惹起スルモノニシテ、勿論其際受ケタル衝

外傷性ひすてり

動ニヨリ腦脊髓振盪ヲ起シ、之ニ依テ精神錯亂、興奮、麻痺狂樣或ハ癲癇樣症狀ヲ發シ、或ハ神經衰弱樣若シクハひすてり様トナリ、抑鬱、苦悶、作業力減退、疲勞亢進、強迫觀念、心氣症、睡眠障害、食慾缺乏、感覺異常、視野縮小、心悸亢進、運動障礙アリ、コレ多クハ變質者ガ偶々外傷等ノ驚怖ニヨリ、本病ヲ精神のニ作成スルモノニシテ、自己ニハ實際罹病セリト信ズルモノナレドモ、時トシテ患者ハ外傷後伴狂ヲナシ、又ハ誇張ノ談話ヲナスニ依リ、注意シテソノ眞偽ヲ鑑別スベキナリ。

本病者ガ稀ニ殺人放火等ヲナシ、刑法上ノ問題ニ上リ來ルモノナルガ、多クハ心神耗弱者トシテ取扱ハル。却テ民法或ハ工場法上ノ問題トナリ、損害賠償或ハ慰勞金ヲ出來ル丈ケ多ク取得セントシテ、詐病ヲナスモノ多シ、此詐病ヲ觀破スルニハ一定ノ病院ニ入院セシメテ絶エズ觀察スルヲ宜シトス。

五、癲癇

本病モ亦多ク精神病の遺傳關係ヲ有スル家系ニ出現シ、既ニ幼時ニ於テ發現スルモノ大部分ヲ占メ、誘因トシテハ外傷、傳染病、精神の感動、酒精濫用等ヲ數フルコトヲ得ベク、身體的ニモ種々ノ變質徵候ヲ有シ、所謂癲癇性顔貌ヲ呈スルモノ少ナカラズ。

本病ニ特有ナルハ所謂癲癇發作ヲ來スニ在リ、然レドモ本病者ハ此發作ニ關聯シ、又發作ニ何等ノ關係ナクシテ、一種ノ精神異常ヲ呈スルモノ多シ、固有ナル癲癇發作ノ際ニハ先ヅ一定ノ前驅症狀ヲ來シ、之ニ次デ俄然意識ヲ亡失シテ昏倒シ、全身ノ強直性或ハ間代性痙攣ヲ起シ、開牙唾液分泌咬傷等ヲ來スモノ多シ、此際瞳孔ハ開大シ、概テソノ對光及調節反應ヲ失フ、發作後ハ暫時昏睡ニ陥ルモノナリ、時トシテハ單ニ身體ノ一部ニ於ケル痙攣發作、眩暈及一時性ノ虛心等ヲ來スニ止マリ、上記ノ如キ定型性ノ發作ヲ

精神性癲癇

來サレルコトアリ、或ハ全ク身體的ニ何等癲癇ナク、精神の意識朦朧狀態ヲ來スコトアリ、之ヲ精神性癲癇ト云フ、然レドモ此模型の癲癇發作ト精神性癲癇トノ間ニハ、數多ノ移行狀態アルモノナリ。

精神性癲癇發作、或ハ朦朧乃至夢幻昏迷狀態間ニハ、指南力犯サレ、妄覺妄想ヲ生ジ、記憶記録ノ障礙アリ、行爲ハ全ク夢中ナルヲ常トスレドモ、時トシテ系統的ノ運動ヲナシ、一見有意的ニ見ユルコトアレドモ、之レ全ク妄覺ニ起因スルモノナリ、即チ純精神のノ發作ニ於テハ、平素ノ制止作用ヲ失ヒ、猥褻、放火、竊盜、殺人等ヲ犯スモノアリ、又ハソノ感情發揚シ、叫喚暴行スルコトアリ、尙癲癇病者ハ次ノ如キ奇行ヲ有ス。

夢中遊行

(イ) 夢中遊行、患者ハ突然夜半起キ上リ、無意識的ニ點火開扉、屋上徘徊等ヲナシ、此間ニ時トシテ秩序アル犯罪ヲ行ヒ、面モ醒覺後ハ夢遊中ノ行爲ヲ毫モ追想スルコト態ハザルモノナリ。

癲癇性昏迷

(ロ) 癲癇性昏迷、意識濁濁數日間持續シ茫然トシテ、拒絕症狀強硬症狀アリ、無識ノ間ニ衝動性ニ種々ノ行爲ヲナスモノナリ。

苦悶性譫妄狀

(ハ) 苦悶性譫妄狀、突然ニ發病シ、指南力ヲ失ヒ、妄覺妄想ヲ來シ、苦悶甚シク暴行ヲ伴フ、時トシテ妄覺妄想ニ驅ラレテ殺人ヲ敢テスルコトアリ。

悟性譫妄

(ニ) 悟性譫妄、意識濁濁甚シカラズ、一見常人ノ如シト雖、了解記憶等ノ作用ニ障礙アリ、妄覺妄想ヲ有シ爲メニ猥褻、竊盜、放火等ノ犯罪ヲナスコトアリ。

著明ナル意識濁濁ヲ伴ハザル發作ニ於テハ、發作性不機嫌、内性苦悶、消魂大悅、宗教性誇大妄想等ヲ來シ、發作間ニハ多少理性侵犯セラル、モノトス。

一般ニ癲癇病者ニ在テハ發作ナキ時ニ於テモ、所謂癲癇性精神薄弱ヲ示シ、談話ハ語路一律、迂遠冗長ニシテ、宗教心ニ富ミ、神佛ヲ尊信スルコト熱烈、感情ハ機嫌ヲ損ジ易ク、平素ヨリ爭論ヲ好ミ、些細ノコトニ憤怒シテ暴行ヲ働クコトアリ、一面ニハ剛情ナレドモ他面ニハ敬虔ニシテ綿密細心ナルモノアリ、自我心強キヲ常トス。

癲癇者ニハ飲酒不堪ナルモノ多ク、少量ノ酒ヲ用ユレバ忽チ重キ意識濁濁、憤怒性興奮ニ陥リ、或ハ酒類ノ強迫的濫用ヲナシ、財産ヲ傾倒シテモ飽クコトヲ知ラズ、ソノ結果臟腑狀態ニ陥リ、騷擾、暴行、徘徊等ヲナスコトアリ、之ヲ暴飲症ト云フ。

癲癇患者ニハソノ變質徵候ノ外ニ、頻回ナル痙攣發作ノ遺跡トシテ、癍痕、齒ノ缺損、火傷、舌傷、溢血、瞳孔ノ不同等ヲ見ルコト多シ。本症ト鑑別ヲ要スルハひすてり發作トス、然レドモ意識濁濁ノ深度、痙攣ノ特質、瞳孔ノ反射、舌ノ咬傷ノ有無等ニ依リテ、比較的容易ニ鑑別スルコトヲ得ベシ。

本病患者ノ法律的關係ハ頗ル重大ナリ、即チ癲癇性意識薄弱、或ハソノ興奮性憤怒性ナルニ起因シ、竊盜、詐欺、暴行猥褻、放火、傷害、逃走等ヲナシ、殊ニ臟腑狀態ニ在テハ、無意味ノ徘徊、動機ナキ大暴行ヲナシ、慘絶ナル殺人行為等ヲナスコトアリ、特ニ注意スベキハ輕度ノ發作、即虛心、病的發作、不機嫌等ニ基ケル犯行ナリトス、コハ無意識狀態ニ於テ尙且整然タル算數、書記、音樂等ヲナシ、而モ自ら記憶セザルコト多ク、從テ此間ニナセル犯行モ自覺セザルコト多キガ故ニ、司法官ノ注意ヲ喚起スルコト能ハズ、専門醫ト雖ドモ一、二回ノ診察ニテハ此ガ判定ニ苦ムコトアリ。

癲癇發作、臟腑狀態、精神の發作等ノ間ニ於ケル行為ハ責任無能力ニシテ、發作時以外ニ於テモソガ爲

實例、癲癇性臟腑狀態 十四人新

大正〇年〇月〇日〇地方裁判所檢事〇〇〇ハ×××××人發告事件ニ付當時密監獄在監中ナル×××ノ見時及現時ニ於ケル精神狀態ヲ檢案スベキ旨ヲ同體檢事廷ニ於テ命ゼリ依テ〇月〇日密監獄病監ニ於テ×××ノ心身狀態ヲ檢診シ且一件記録ヲ査閱シテ結果ニ依リ此檢案書ヲ作ル

人ノ子供ガアリマス、其方ハ昨日午後三時頃〇〇〇村大字〇〇〇ニ於テ夫××ノ爲メニ毆打セラレタカ

右××ハ大正〇年〇月〇日俄ニ精神ニ異常ヲ來シ午後三時二十分ヨリ同四十分迄ノ間ニ〇〇村通路二里許ノ間ニ於テ魚籠籠或ハ棒ヲ以テ自己ノ妻及ビ老若男女十二三名ニ重傷ヲ負ハセ内二名ハ生命危篤ニシテ其他ハ輕傷ナリ尙同人ニ毆打セラレタルモノハ百名以上ニ上ルト云フ(〇〇分署長ヨリノ電話報告ニ依ル)

昨日ハ午前六時半頃×××ハ家ヲ出テ魚ヲ賣リニ行キマシタガ八時頃ニ歸テ來テ魚ハ少シモ賣テ米×××通シ居リ體ガ種々ラケニナワテ居ルノヲ見テ私ニ對シテ「レハ氣分違フテ居ル故皆方後口指ヲサシテ笑フ故ヲレハハツカシクテ難ハレト云フテ歸テキマシタガ私ガ再び體ヲ來イト云フモノヲ再ビ外へ出テ暫クシテ歸テ來テ云フモノハ先ニ前ガ氣分違フテオト云フテ來レドモソガ氣分違フテ居ラマシタガ體ハレト云フテ又歸ツテ來マシタガ夫レ故私ハ×××ガ氣分違フテ居ラマシタガマイコロレハ金辨サンニ拜ンデ貰ヘバヨカリト思ヒマシタカ

神サンニ拜シテ買フカラ一儲ニ行カウトテ昨日午後二時頃家、出マシタ最モ××ハ魚ヲ擲テ出タノデアリマス

家ヲ出ル時ハ一儲デアリマシタガ途中デ分レテ天里サンノ表デ一所ニナリ共ニ來リマシタガ其間ニ××ハ商賣ヲシテ來タモノト見エ天里サンノ裏手ノ家ノ傍ヲ通ツタ時ニ此家デギヤ二杯貳拾四錢ヲ買フテ買フタト云フテ居リマシタ下龍華ノ金神サンヲ拜シテ買フ○○○方ヘ行キ××ハギヤヲ金神サンニ供ヘルト申シ供ヘマシタガ××ハ同家ノ主人ニ胸ヲナゼテ貫ヒ神酒ヲ吹キカケ貫ヒ居リマシタ主人ノ云フニハ大變ナ熱デアルカラ歸ツテヨク寝ヌトイカメト云フテ居リマシタ

豐吉ガ歸ロウト申シマシタガ其時私ハ一心ニ金神サンヲ拜シテ居リ再ビ歸ロウト申シタノデ私ハサア歸リマシヨウ御禮ヲ申シテオケレヤト申シタ處××ハ何ト云ヒナガラ魚ノ籠ヲ以テ私ノ頭ヲ毆リマシタ私ハ驚シテ家ノ内ヘ逃ゲテ進入リマシタスルト表デ何カ大聲ガアリマシタノデコソコ外ヘ出ルト××ノ妻ハ已ニ見エズ同家ノ主人ガ××ヲ追掛ケ行ツタト事デ又同家ノ婆サント娘トハ魚ノ籠ヲ叩カレタトコトデアリマシタ私ガ其家ヨリ歸ル途中新平ノ家ノ前ヲ通ルト御前トコノ内ノ干供ヲ殺シマシタト申シテ多勢ノモノニ怪我ガナクバト思ヒ居リマシタ所今宿ノ人ガ豐吉ガ多勢ノ人ニ傷ヲ付ケタト云フコトヲ聞キ且ニ捕ヘラレタト云フコトモ聞イタノデ家ニ歸リマシタ

問、其方ハ是迄○○○方ヘ何回位行ツタコトガアルノカ
答、本年十一月ノ末ニ一回ト昨日一回ト都合二回丈デアリマス
問、其方ハ昨日○○○方デ○○○ト恰モ私通關係アル様ナ素振ヲシタカ且又○○○ト關係デモアルノカ
答、私ハ決シテ○○○ト怪シイ關係ハナク昨日モ怪シイ素振等ハ致シタコトデアリマス

問、夫××ハ是迄發狂シタコトガアルノカ
答、左様ナコトハ一回モアリマセヌ唯昨年十二月ニ初メテ癡癡ヲ起シ其後四回癡癡ヲ起シタコトガアル丈デアリマス
問、今回××ガ多勢ノ人ニ傷ヲ貫ハシタコトニ付何カ譯ガアル様ニ思フガ如何
答、私ニハ少シモ分リマセヌ一後略

トアリ次ニ吾人ハ犯人××ガ犯時如何ナル精神的情況ニ在リシカハ大正〇年〇月〇日付被告入×××調書ヨリ左ノ摘録ヲ一讀スレバソノ大體ヲ察知スルコトヲ得ン

前署

問、
氏名、 ××××
年、 當三十二年
職業、 平民
住所、 川魚商
本籍、 ○○○○○(正)
出生地、 ○○○○○(正)
中署

問、其方ハ現今迄如何ナル職業ヲシテ居ツタカ
答、私ハ學校ハ尋常四年ヲ卒業シ二十六年迄農ニ従事シ夫ヨリ大津ニ行キ手傳職ヲシタリ又郵便局ノ架線工夫ヲ務メタリ魚商ヲ營ミ居リマシタガ昨年十月末カラ本年ノ十一月一杯迄京都電燈會社〇〇支社ニ電工ニ雇ハレ小野出張所ニ務メ居リマシタ

問、電燈會社ヲ解雇ニナツタノハ如何ナル譯カ
答、私ガ古い電柱ヲ勝手ニ他ヘ賣ツタノデ聖田分署デ取調ヲ受ケ夫レガ爲メ解雇ニナリマシタ

問、其方ハ財産アルヤ
答、財産ハ何モアリマセヌ且下川魚商ヲ營ミ一日ニ五十錢ノ收入

ガアリマス

問、其方ノ家族ハ幾人アルカ
答、私ト妻ト九歳ニナル男ノ子七歳ニナル女ノ子本年六月生レノ女ノ子ト合計五人暮シデアリマス

問、其方ハ豐カニ生活シテ居ルカ
答、豐カニハ生活シテ居リマセヌ妻ガ一文菓子ヲ賣リ居リ私ノ收入ト合シテドウカコーカ生活シテ居リマス

問、其方ハ昨日多クノ人ヲ魚ノ籠ヲ擲等ヲ以テ毆打シタルコトヲ覺エテ居ルカ
答、覺エテ居リマス然シ人ト思フテ毆ツタノデハナク狐サ石ノ地蔵サント思フテ毆ツタノデアリマス

問、其方ガ覺エテオシク文ケノ始末ヲ申立テヨ
答、私ハ一昨日ノ晩聖田川魚ヲ仕入レテ來テ昨日ハ朝カラ附近ヲ賣リニ歩キ午後八家ニ休息シテ居リマシタ處午後二時頃妻ノ〇〇ガ私ニ下龍華ノ金神サンヘ一儲ニ參詣シヨウト申シタノデ私ハ其金神サンハ是迄一度モ參詣シタコトナク妻ハ三四ヶ月程前ヨリ參詣シテ居ツタノデアリマス妻ガ私ニ參詣シヨウト云フタノデ私ハ川魚ヲ商賣シナガラ妻ト共ニ下龍華ニ行クコトニナリ魚ヲ擲ヒ行キマシタガ其途中天里裏ノ水車ノ家デギヤ二杯ヲ貳拾四錢ヲ買リ下龍華ノ金神サンヘ行キマシタ金神サンノ家デ私ハギヤ一杯ヲ金神サンニ供ヘ同家ノ主人ニ拜シテ買ヒマシタ主人ハ私ノ胸ヲ頭等ヲ擲テ此處ハ痛クナイカト尋ネ神酒ヲ私ノ顔ニ吹キカケテマシタ

私ガ妻ニ歸ロウト申シタ處妻ハ歸ロウト云ハズ尙私ガ先キニギヤヲ金神サンニ供ヘタ時ニ主人ハ妻ノ腹ノ邊ヲ手ヲ觸レ探リ居リ様子ガ怪シク今又私ガ歸ラウト申シテモ妻ガ歸ロウト云ハズノデ之ハ必ズ妻ト同家ノ主人トガ怪シイ關係ガアルト思ヒ腹ガ立チ私ハ金神サンノ入口デ魚ノ籠ヲ以テ妻ノ頭ノ右ノ邊ヲ毆リマシタ處妻ハ聲ヲ上げて家ノ内ヘ還入ツタノデ私ハ外ヘ出ルト

同家ノ前デ狐ガ二疋大根ヤ薯ノ葉ノ機ナモノヲ洗フテ居ル様ニ見エマシタ故持ツテ居ツタ籠デドノ邊カ覺エマセヌガ毆グルト聲ヲ上ゲテ下ヘ落チマシタスルト家ノ内カラ又狐ガ來リ機ニ見エタノデ籠ヲ毆リマシタ

スルトソノ者ガ後ヨカラ追カケテ來タノデ少シ行ツタ所ノ家ノ内ヘ行キ助ケテ喚レト云フタ所同家ノ人ガ私ヲ外ヘ出サウトスルノデ入口ニ有ツタ籠ノ柄ヲ一寸借リテ行クト云フテ持テ出シマシタ

夫レヨリ其神ヲ以テ下ヘ下ガツテ來ルト家ガ皆地蔵サンノ家機ニ見エ道ニ狐ガ居ル様ニ見エマシタ故夫レヲ擲テ毆グリ少シ下道ト向フ方カラ阪本ノ辰ト云フモノガ上ガツテ來ルノニ出遣ヒ同人ガ私ノ持ツテ居ル籠ヲ奪ヒ取ツタノデ私ハソノ籠走ツテ下ルト細ノ中ニ一人ノ男ガ居ツタ様ニ見エマシタ故其男ノ傍迄行ツテ「コラト云フト其男ガ頭ヲ上ゲタノデ手ヲ同人ノ頭ヲ毆グルト擲ツテ逃ゲテ行ツテ仕舞マシタ故其籠ヲ拾ヒ持テ又走ツテ下リマシタ途中デ宮サンノ裏迄來ルト石ノ地蔵サンガ道ニ二ツアマリマシタ故無テゴソゴソトイワスト倒レタノデ後ヲ振り返ヘルト矢張地蔵サンガ二ツ倒レテ居リマシタ

夫レカラ矢張走ツテ下ル途中多クノ狐ガ居ル様ニ見エタノデソレヲ擲テ毆リマシタ所狐デアツタカ人デアツタカ忘レマシタガ私ノ持ツテ居ル籠ヲ奪ヒ取ツタノデ私ハ一旦宅ヘ歸リ一錢ノ菓子ニツ食ヒ水ヲ呑ンダ處氣ガ付イテ今迄毆ツタノハ多勢ノ人デアルトコトガ判リ駐在所ヘ自首スル積リテヤツテ來タ所駐在所ノ手前ノ所デ二十四五人ノ人ニ縛ラレタノデアリマス

問、其方ハ其宅ヨリ駐在所迄ノ間デ子供三人及老母一人ヲ手ニテ毆リ居ルニアラズヤ
答、毆ツタコトハ覺エテ居リマセヌ石ノ地蔵サンニ見エタノデ毆ツタノデアリマス

問、其方ハ已ニ宅ニテ氣ガ付キナガラ自首スル途中デ再び石ノ地

蓋ニ人ガ見エルノハ理屈ガ合ハヌデナイカ
 答、ソレハ判リマセ
 問、此等ノ品ニ見エアルヤ
 答、此等ノ品ニ見エアルヤ
 此時押取ニ係ル紙ノ柄、紙ノ破片及魚ノ鱗ヲ示ス
 龍ハ只今御示シノモノニ相違アリマセン尤モ魚ノ鱗ハ私ガ證
 物ニ破レタ様ニ思ヒマスガ結局魚ノ鱗ト云フノハ御示シ
 機ナモノデ其破片ハ私ガナグツタ爲メニ壞レタ龍ノ破片ト思ヒ
 マス
 問、其方ガ人ヲ石地ニ置キ置キ思ヒ置キツタノハドニスル考ヘデアツ
 答、置キ置キ死セバ仕方ガナイシ死ナヌ時ハ其儘デ能ヒト思ヒ居
 マシタ
 問、其方ガ妻ヲ殺ツタ時ノ考ヘハ如何
 答、同様ナ考ヘデ置ツタノデアリマス
 問、其方ハ今取調ベテ居ル本職ノ類ガ孤カ石地ニ見エアルカ
 答、左様ニハ見エマセヌ人間ニ見エマス
 問、其方ハ實際人ト知リツ、紙ヲ棒ヲ以テ殺ツタノデハナイカ
 答、人トハ見エマセナシ
 問、誰レカ其方ニ紙ヲ棒ヲ殺レト教エタカ
 答、誰ニモ教ヘテ置ヒマセヌ
 問、然ラバ其方ハ如何ナル理由ニテ孤カ石地ニ置キ置キナラヌ
 ナカ
 答、何モ判リマセヌ
 問、其方ハ多勢ノモノヲ殺リ傷ヲ負ハセタコトハ惡イコト、ハ思
 ハスカ
 答、惡イト云フコトハ判リツ居リマスガ其方ガアリマセヌ
 問、其方ハ是迄病氣ニ罹ツタコトガアルカ
 答、アリマス胃弱ヲ患フタコトガアリマス昨年十二月月編

ニ罹リ今迄四五回モ罹リマシタ
 問、其方ノ兩親兄弟親族等ニ病氣ニ罹ラリ又ハ發任シタリ又用
 へ隔リ死シタリ頭ヲ絞ツテ死シタリ様ナ人ガアルカ
 答、左様ナ人ハ誰モアリマセヌ
 (犯人×××××名、正當)
 尙被告ガ犯行當時ノ状況ヲ確實ニスル爲メ多數ノ証人等中ツ
 云フ所犯人ノ精神狀態鑑定ニ參考トナルベト部分二三ヲ摘要ス
 レバ左ノ如シ但シソレ等ノ證書ハ皆大正六年十二月七日付ナル
 ヲ以テ各部ニ於テ一々之ヲ附記セズ
 ○○○○(當二十五年)ノ申立
 前略
 私ガユツボト云フ如即チ本日現場ヲ申シタ所デ仕事ヲシテ
 居リマシタ所一人ノ見知ラヌ男ガ上カラ下ノ方ヘ道路ヲ走ツテ
 來マシタガマサカ私ノ傍ヘ來ルト思ヒマセテテ放物ヲ仕事
 ヲシテ居ルト其男ハ不意ニ道カヲ細ク切ツテ私ノ居ル場所ガ
 ラ一箇程ノ處ヘ來テ「コラスコハツテヤロカ」ト申シ手ヲ振り上
 ゲタノデ私ハ怖ロシサノ餘リ持ツテ居リマシタ其場ヘ放ツテ下
 手ノ方ヘ逃ゲマシタ其男ハ紙ヲ持テ下ノ方ヘ走ツテ行キマシ
 タ云々
 ○○○○申立ニ
 前略
 昨日午後三時中頃家デ懸テ掛リ居ルト一人ノ男ガ私方ヘ走ツテ
 來テ助ケテ來レ孤カ石地ノ様ヲ奴バカリジヤト云フテ來シタ故
 ハ私ハ何ヲ云フテ居ルノカト云フテ其男ハ家ノ入口ニ置キテ
 ツタ魚ヲ捕ル網ヲ以テ之ヲ伏セテヤルト云ヒ居リマシタガ不意
 ニ其網捨テ夫ヲ同ジ家ノ入口ニ在ツタ棒ヲ持ツテ其處下ノ方
 へ送ケテ仕舞マシタ其後一時間モ經過セヌ内ニ何處ノ人カ判ラ
 ヌ前トハ違フ男ガ私方ノ網ヲ持テ家ノ前ヲ通ツタノデア
 リ其ノ網ヲ自分トコノモノデアルト云フテ返シテ置フタノデア
 リマス云々

前略

○○○○ノ申立ニ
 午後四時頃同家デ島村ト一所ニ門前へ出マシタ處東ノ方ニ一人
 ノ體サガ付レテ居ツタノデ「エライ事ジヤナア」ト云フテ居
 ルト紙ヲカテテ居ツタ一人ノ男ガ突然島村ノ頭ヲナグリテ
 レモカト云フテ私ニモ紙ヲナグリテ來タノデ私ハ左ノ手ヲ止メマシタ
 ガ思ハズレ紙ノ柄ヲ握リマシタガ其男ハ其柄ヲ私ノ手ヨリ奪
 ヒ傍ニ居ツタ○○○○ノ頭ヲ殺ツタノデ私ハ直ニ關子ノ方ヘ逃
 ゲテ仕舞マシタ其後ノ事ハ知リマセヌ云々
 ○○○○ノ申立ニ
 前略
 私ト××××トハ極親密ナ間柄デアリマスガ其子代拾錢ノ借リ
 ガアルノデ昨日午後三時中頃拾錢ヲ持テ×××方ヘ支拂ニ行ツタ
 所留守デアツタノデ歸リ今宿ノ四ツ角ノ菓子屋デ遊ビ居リマ
 スト××××ガ上ノ方カラ紙ヲカテテ平氣デ歩イテ東ノ方ヘ
 行クノデ私ハ×××對シ何處ヘ行クノカト尋ネルト散髪ニ行
 ノダト云フタノデ私モ一所ニ行カント云フテ共ニ東ノ方ヘ下リ
 私ハ○○ノ門デ○○今日ハト挨拶ヲシテ居リマシタ其間ニ×
 ×ハ五六間先キニ行ツテオシマシタノデ其方ヲ向クテ○○○○
 ○ト云フ友人ガ○○ト呼ビマシタノデ其方ヲ向クテ「ドスン」ト
 音ガシタノデ東ノ方ヲ見ルト一人ノ體サガ倒レテ居リ××ハ
 紙ヲ棒ケテ平氣デ少シ東ノ方ヘ行キ又再ビ西向テ來マシタガ私
 ハ體サガ倒レテ居ルノニ××ガ助ケヌノハオカシイト思ヒ居
 ル内××ハ不意ニ○○ノ門前デ○○ノ頭ヲ「コン」ト殺リマシタ
 ハ其傍ニ居ツタ○○ノ頭ヲ「コン」ト殺リマシタ故之ハ○○ト○
 ○トガ二人寄ツテ××ニ恨ヲ抱カレテ居ルノカ思ヒ居ルト今度
 ハ不意ニ××ハ私ノ頭ヲ紙デ殺リマシタ故之ハ氣方違フテ居ル
 ノデアロウト思ヒ其場ヲ逃ゲ○○ト醫者ノ宅ヘ行キマシタ云々
 ○○○○ノ申立ニ
 前略
 昨日午後四時頃山カラ柴ヲシテ居リ宅ノ前テ柴ヲ片付ケ居リマ

前略

シタ所名前ハ知リマセヌガ一人ノ男ガ紙ヲカテテ下ノ方ヘ行
 キ新車輪ノ男ヲ追懸ケ居リマシタガ私ハ何カ紙ヲモシテ居ル
 ノカト思ヒ氣ニモ留メズ居リマシタガ此ノ男ハ又上ノ方ヘ上ツ
 テ來マシタガ私ハ本日現場申上ゲタ場所デ柴ヲ括ツテアツタ
 等繩ヲ丸メテ居リマス不意ニ後ロカラ頭ニ何カ當ツタ様デア
 リマシタガ其儘覺ユメ機ニナリ氣ガ付テ卒主ニ呼バレテ居リ
 私ハ其場所ニ坐シ居リ頭カラ血ガ出テ血ハ地面ノ上ニ澤山流レ
 テ居ツタノデ云々
 ○○○○ノ申立ニ
 前略
 昨日午後四時頃家デ集合シテ居ルト○○○○ト云フ人ガ來テ
 前所ノ母サシテ紙ヲ殺ル人ガアルト云フテ來タノデ私
 ハ直ニ戶外ヘ飛ンデ出テ見ルト四ツ角ノ一寸東ヘ入ツタ所ニ一
 人ノ體サガ倒レテ居リテ見レテ居リ其場ヨリ三尺程離レタ東
 手ニ××××ガ立テオシマシタ私ハ××ガ殺ツタト云フコトモ
 知リマセヌ又手ニ紙ヲ持テ居リシコトモ氣付キマセナシ故誰
 ガコソナコトヲシカト云ヒナガラ見ルト私ノ母デナク○○○○
 ○ト云フ婆サシテアツタ私ガ私ガ倒レテ居ル時××ハ不意ニ
 私ヲ殺リ來タノデ其時左ノ手ヲ受ケ止メテ所紙ヲ私ヲ殺リ私
 ハ其傍ニ居リ左ノ脇ニ抱ヘ紙ヲ奪ヒ取ラウトシ××ハ柄ノ
 方ヲ以テ放ツマイト争ヒ居ル中私ハ其紙ヲ奪取ツテ仕舞ヒマシ
 タ其際××ハ私ノ頭ヲ見テ右膝ヲツカカ知ラナシト三回程申
 シ居リマシタ右膝ト云フノハ私方ノ商號デアリマス
 其ノ内他ノ見テ居ツタモノガ私ノ頭カラ血ガ流レテ居ルト云フ
 テ疑レタノデ觸レテ見ルト血ガ出テ居リマシタ中略
 私ノ妻ガ母サシテ殺サレテオルト云フテ報告シテ來タノデ吃
 驚シテ紙ヲ宅ノ内ヘ放ツテ見ニ行クト四ツ角カラ牛丁程東ヘ行
 ツタ所ノ道路デ母親ガ血ニ染マリ倒レ居リマシタ云々
 丙、說明
 上記ノ記録摘要ヲ綜合スレバ××ハ精神病ノ遺傳關係ナキガ如ク

及譫妄性躁揚病ノ三種ニ分類ス。

輕躁病

躁鬱病

譫妄性躁揚病

輕度抑鬱狀態

昏迷性抑鬱狀態

妄想性抑鬱狀態

(イ)、輕躁病ニ於テハ意識濁濁ナク、理解記憶亦佳良ナリト雖、觀念進行ノ統一亂レ、注意轉移シ意想奔逸ス、妄想アルコトハ稀ナレドモ、自己誇張甚シク、誇大的言動ヲナシ、多業、多辨、放蕩、浮逸、亂酒、荒亡ニ流レ易ク、色慾亢進ス。

(ロ)、躁鬱病ハ多少ノ意識濁濁アリ、意想散亂シ、妄覺妄想顯著ニシテ、ソノ内容ハ誇大的或ハ被害的ナリ。

即チ跳舞、絶叫、破衣、拍手、物品破壊乃至狂暴行爲ヲナス。

(ハ)、譫妄性躁揚病ニテハ意識濁濁甚シク、指南力喪失シ、妄覺妄想豐富ニシテ、舉止一般ニ錯亂シ、身體的ニモ亦不眠、食思亢進、痙攣發作、心悸亢進等アリ。

乙、抑鬱狀態ニ於テハ一般ニ不快感情、聯想意志ノ制止及運動遲鈍ヲ主徵トス、抑鬱程度ニ應ジ、之ヲ輕度、昏迷性乃至妄想性抑鬱狀態ニ分類ス。

(イ)、輕度抑鬱狀態ニテハ、タゞ精神活動ノ制止ヲ示スニ止マリ、妄覺妄想ナク、意識ノ障礙ナシ、氣分ハ不快沈鬱ニシテ、萬事ニ興味ヲ失ヒ、怏々トシテ樂マズ、不快ノ裡ニ消光ス。

(ロ)、昏迷性抑鬱狀態ニテハ指南力ヲ失ヒ、感情發動セズ、全ク昏迷狀トナリ、タゞ茫然昏中ニ横臥ス。

(ハ)、妄想性抑鬱狀態最モ重症ナルモノニシテ、上記諸症ノ外ニ追跡、罪業、心氣性ノ妄想ヲ加ヘ、幻視幻聽ヲ有スルコト多ク、感情ハ絶意失望ニ陥リ、痛嘆ノ極自殺ヲ企ツルモノアリ。時トシテ躁揚狀態ト抑鬱狀態ト相混合シテ來ルコトアリ、即チ無爲性躁揚病、躁揚病性昏迷等之レナ

リ、上記ノ相反セル躁揚、抑鬱ノ二狀態ハ各自獨立ノ病型ヲ作ルモノニ非ラズシテ、互ニ相關シ、循環性ニ反復發現スルコトアリ、或ハ躁揚狀態ノミ長クシテ抑鬱狀態ノ短キコトアリ、或ハ一方ノミ來リテ他方ノ顯レザルコトアリ。

本病ノ輕度ナルモノハ往々變質者、ひすてり患者、或ハ神經衰弱者ト誤ラル、コトアリ、抑鬱ノ甚シキモノハ痴呆者ト思ハレ、又發揚ノ狀態ニ在ルモノハ、緊張病、癲癇性興奮或ハ酒客譫妄ト誤ラル、コトアリ注意スベシ。

本病者ハ興奮ノ初期ニ於テハ輕忽ナル濫買、契約、物品贈與、企業等ヲナシ、躁揚狀態ニテハ漂泊流浪シ喧騒、暴行等ヲ行フ、又色情亢進ノ爲メ、猥褻行爲、強姦淫賣等ヲ働キ、或ハ無暴ノ舉ニ出デ、大暴行ヲナスモノアリ、抑鬱期ニテハ自殺、殺兒或ハ放火等ヲ行ヒテ苦悶ヲ洩ラサントス、即チ法律的ニハ重症者ハ心神喪失ヲ以テ論スベキモ、發作以外ノ時ハ平常ナレバ責任能力者ナリ、民法上ニテハ輕度ナルモノハ禁治産ノ必要ナシ、但疾病數年ニ亘リ精神弛緩シ、恢復ノ望ミナキモノニ在リテハ、處分能力ヲ奪フモ良シト雖、發作數年ニシテ後尙通常ノ精神狀態ニ復シタルモノモアレバ注意スベシ。

七、ばらのいあー偏執狂

本病ガ獨立シタル病型トシテ存在スルモノナルヤ否ヤハ、尙學者間ノ爭點トナリ未ダ決定スルニ至ラズ、寧ロ、妄想性痴呆者ノ智識ガ比較的犯サレザルモノナリトノ說ヲナスモノ多シ、然レドモ從來ノ慣習ニ從ヒ、茲ニ之ヲ他ノ疾病ヨリ分離シテ述ベント欲ス。

本病者ハ執拗ニシテ系統アル妄想ヲ有スルヲ以テ主徵トナス、患者ハ意識、清明ニシテ思慮整頓シ、記憶

妄想城府

好訴病者

亦佳良ニシテ、痴呆ニ陥ルコト晩シ、發病後永ク理性明確、學識亦相應ナル發達ヲ遂グレドモ、執拗ナル妄想城府ハ牢固トシテ拔ク能ハズ、爲メニ常軌ヲ逸セル行動、衝動性動作ヲモ敢テシ、一度他人ガ此妄想ヲ破壊セントスレバ、大ニ憤怒シテ之ガ防衛ノ策ヲ取ル、ソノ系統的妄想ノ種類ハ、被害的或ハ誇大的ナリ、時トシテ嫉妬妄想ヲ起シテ自己ノ配偶ヲ虐待シ、些細ノ原因ニ因テ傷害行為ヲナスコトアリ、病識ナク一見狂者ノ如ク見エザルヲ常トス。

本病者ニシテソノ妄想ハ被害性ニシテ、絶エズ自己ノ權限ヲ侵略セラル、ガ如ク考ヘ訴訟ヲ起シ、訴訟ニ破ルレバ他人ガ自己ヲ陥レ、或ハ自己ノ辯護士ガ敵ニ好意ヲ表シ、相通ズルモノナリト邪推シ、一意専心ソノ訴訟ノ爲メニ財ヲ投ジ、勞ヲ吝マズ遂ニ自己ノ財産ヲ消耗シ盡シテ怨ミズ、ソノ疾病ノ永キ間ニ漸次痴呆ニ陥ルモノアリ。之ヲ好訴病者ト云フ。

本病ハ妄想性痴呆トハ同病ナリト見做サル、位ヒナレバ、ソノ鑑別時トシテ殆ンド不可能ナリ、麻痺性痴呆ノ初期トハ身體的症候ニテ區別シ、中酒性或ハ癲癇性妄想トハ、ソノ病狀ニヨリテ自ラ差アリ、僞好訴病者トノ鑑別ハ既ニ前述セルガ如シ。

本病者ノ重キモノハ全ク妄想ニ支配サレテ行動スルガ故ニ、一見狂者ノ如ク見エザルモ、心神喪失ヲ以テ論ズベク、輕キモノハ心神耗弱者ナリ、民法上ニテハ多クハ心神耗弱ノ常況ニアルモノト見做スヲ適當トス、蓋シ本病者ハ妄想以外ノ事ニハ全ク常人ト異ナラザルコト多クレバナリ、本病者ハ往々ソノ妄想ニ驅ラレテ反抗、詐欺、放火、殺人等ヲナスモノナリ。

八、早發痴狂

早發痴狂

本病ハ青年期ニ發病シ、比較的急速ノ經過ヲ以テ痴呆ニ移行スルモノニシテ、ソノ原因ハ遺傳ニ關スルコト多ク、本病ニ罹ルモノハソノ初メヨリ強情、變屈或ハ不行跡ナルモノ多シ、本病ハ精神病者中最モ多キモシニテ、多クノ精神病院ニ於ケル入院患者ノ約三分ノ一ヲ占ムト云フ。

早發痴狂患者ハ外觀上痴呆狀ヲ呈セルモノニテモ、指南力比較的良、幻覺錯覺ニ富ミ、就中幻聽多ク、考慮紊亂シ支離滅裂症ヲ呈シ、妄想ヲ來シソノ内容ハ心氣性、追跡性被害性乃至罪業性ニシテ、條理甚ダ奇異不合理ナルモ患者ハ之ヲ信シテ疑ハズ、記憶障礙ハ少シ、本病者ニ於テ最モ注目スベキハ、感情ノ甚シキ鈍麻減退ナリ、患者ハ萬事ニ興味ヲ失ヒ、家族ニ對スル愛情モ冷却シ、花咲クモ鳥啼クモ亦ソノ心緒ヲ動カスニ足ラズ、遂ニハ甚シキ不關性ニ陥ルモノナリ、從テソノ行為モ亦意志ノ表示ヲ失ヒ、茫然、無爲ニソノ日ソノ日ヲ送ルコトヲ多シ。

時トシテ何等意志發動ニハ關係ナク、衝動性ニ種々ノ行為ヲナシ、暴行ヲ敢テスルコトアリ、ソノ他拒絕症、緘黙症、常同症、衝動症、強梗症狀及反響症狀等ハ本病者ニ屢發來スルモノナリ。本病者ノ精神的作用能力ハ常ニ著シキ病的障礙ヲ被リ、ソノ行為意匠凡テ錯亂奇警ヲ極メ、技巧ノ精緻等ハ再ビ之ヲ望ムベカラザルニ至ル、身體的ニハ著明ナル特徴ナシト雖、時トシテ癡癲發作、卒中樣發作、ひすてり樣發作アリ、ソノ他髓反射亢進、瞳孔散大、皮膚紋畫症、拒食暴食等ヲ見ルコトアリ。

本病ヲ通常三區分シテ、破瓜狂、緊張狂及妄想性痴呆トスト雖、各病型ノ間ニ界限アルニアラズ、相互ニ相移行ス、更ニ類破瓜狂ヲ區別スルモノアレドモ、予ハ成ルベク簡明ナランコトヲ欲シ、前區別ニ從フ。今各病型ニ就テ略述セン。

(イ)、破瓜狂、最モ慢性ニ發病シ妄覺妄想稀ニ、興奮、昏迷等ノ著シキ症狀少ク、不知不識ノ間ニ漸次痴呆ニ陥ルモノヲ云フト雖、時トシテ幻覺并ニ心氣性、追跡乃至被害性幻想ヲ惹起シ、幻聽幻視幻觸之ニ次ギ考慮發聲考慮現形亦稀ナラズ、從テ患者ハ苦悶性トナリ、恐怖不機嫌、憤怒、爽快、色情興奮等相亞イテ至レドモ遂ニ不關性トナル。動作ハ一般ニ因循不整ナレドモ、衝動的行動アリ、荒淫、破壞、亂酒、徘徊、浮浪、自殺、暴行乃至放火等ノ犯罪ヲ行フ。

實例一破瓜狂一殺人未遂

鑑定書

大正〇年八月十一日〇〇地方裁判所後審判事〇〇〇〇ハ〇〇〇地方裁判所〇〇支部ノ委任ニ係ル〇〇源作殺人未遂被告事件ニ付一、〇〇源作ハ目下精神ニ異常アリヤアラバ其程度如何一、大正〇年五月二十二日頃ニ於ケル〇〇源作ノ精神狀態如何若シノ當時精神ニ異常アリトスレバ心神喪失ノ狀態ニ在リシヤ或ハ心神耗弱ノ狀態ニアリシカ
(追而別紙遺言書(第二號)及一件記録ヲ閱覽シ參考トスルコト)ヲ鑑定スベキ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ同月十一日、十八日、二十日ノ三回〇〇地方裁判所ニ於テ一件記録ヲ審閱シ且八月十四日、十六日、二十一日、二十五日ノ四回〇〇監獄ニ於テ被告ノ心身狀態ヲ檢診シ彼是ヲ綜合シテ此鑑定書ヲ作ル
甲、檢査記録
〇〇縣〇〇〇郡武新大字小田木六十七番戸 〇〇源作 三十六年

(天) 第一回檢査(大正〇年八月十四日) 被告が檢査室ニ入り來ルルヤ獨り被リタル儘佇立シ居リ爲メ所

ヲ知ラザルモノ、如ク看守ニ注意セラレテ始メテ控ヲ脱シ下穿ナルヲ謝罪ヲナシテ着座シ始終ニコト痴笑シナガラ談シ且周圍ニ起レルコト例ノ窓外ニ於ケル人ノ去來等ニ直ニ眼ヲ轉ジテ注意シ談話ヲ始ムルヤ酒々トシテ聲ヲ話シ或ハ或ヨリ岐路ニ入りテニ其本旨ヲ失シ時トシテハツカガ何時果ツベシトモ思ハザルコトアリ其間不絶手ヲモミ顔、鼻等ヲ擽リ腕或ハ腕ヲ擽テ時同様に動作ヲ極返セリ第一回檢査中被告ハ何ガ故ニ檢査者ガ此檢診ヲナシクアルカラ毫モ了解スルコト能ハザリキ
子ハ被告ノ精神內容ヲ檢セン爲メ次ノ問答ヲ試ム面シテソノ應答ハ筆記シ得ル限リ被告ノ云フ所ノマ、ヲ記載セリ之レ檢診ノ眞實寫サシガ爲メナリ故ニ往々應答ニ理義不明ノ所アルハ被告ノ精神內容亦異常アルヲ示スモノニシテ被告ヲ筆記者ノ誤謬ニ非ラザルコトヲ附言ス
1、名ハ何ト云ヒマスカ
〇〇源作
2、年ハ
三十六歳デス
3、明治何年生レデスカ
明治十五年五月一日生レデス

4、今日ハ何日デスカ
八月十四日デス

5、両親ハ丈夫デスカ
母ハ丈夫デス父ハ幼時ヨリ弱ク御座イマス
兩親ハ血族結婚カ
ソウデナイ全ク他人デス

6、父ハドシナ風ニ弱イデスカ
胃弱デス人ト一所ニ御飯ヲ喰ベルノヲ待テ兼テノデス私モドウカコウカ二年許リ此方具合ガ悪ク胃弱ト氣管枝カタ
1ルノ様デ咽ガキリノシマストシテシバタクスルトコノ内(胸ヲ指示シ)熱イ呼吸ガ出テ來テ胸ウヂガシマス今デモ度々ソウナリマス名古屋ニ居タ時モ同様デアツテ醫者ニ見テ貰ヒ煙草ガアルト云ハレマシタカラ其後自分ノ身體ハモウアカント思フテ居マシタ併シ自分ガ死ヌト外ノモノガ心配スルト思ヒ他ノ醫者ニ見テ貰フタ所ガ自分ノ心配シタ肺病デハナク肺病ハソナモデハナイト醫者ニ叱ラレマシタ併シ自分ハ今尙心臓ガ苦シイ何カ病氣ガアル様ニ思ヒマス胃腸ガタマレテ居ルカ腹ノ中ニ何カ變ツタ蟲デモ居リハセヌカト思ヒマス

7、ドシナ蟲ガオ前ノ腹ノ内ニ居ルノカ
先日醫師ノ所テ顯微鏡見セラレタソノ蟲ノ様デス

(イ) 遺傳 歴

8、祖父母ハマダ居ラレマスカ
死ナレマシタ祖父ハ私ノ子供ノ時六十一才デはれる病デ亡クナラレ祖母ハりようまら見タ様ナ病デ六十四才五才死ニマシタ

9、父母ハ酒ヲ吞ミマスカ
親イ方デス私ハ子供ノ時ハ酒好キデシタ母モ酒好キデス私モ小供ノ時ハ酒分ヤリマシタガ出世ガ出來スト思ヒ一滿モ

飲マヨ様ニシテ居ツタガ三年前カラ少シ飲ミマス其頃頭ガ
ギケニナツテ夜睡ラレズ酒ヲ澤山吞ンデモ少シ吞ンデモ一時カニシレバ醒メテ眠ラレマシタ様ニナル様ニ居ルト身體ガうか／＼シテ居ル様ニ思フ

- 10、母ノ酒量ハ 若イ時ハ一升位吞ンデオモ
11、オ前ノ母ノ何オノ時ノ子カ 二十三才カソコヨリデス
12、算用シタラ分ルジヤナイカ 二十三才ノ時ノ子デスナ一イナ二十五才ノ時ノ子デス
13、叔父母ハ何人アルカ 六人アリマス
14、死ンダ人モ加ヘテジヤツ 七人アリマシタソノ中一人ハ死ニマシタガ何病デシタカ分リマセン
15、殘リノ六人ハ丈夫カ 短氣ノ人ハ多イガ酒飲ミハアリマセン
16、叔母ノ居所ハ 一人ハ名古屋一人ハ伊豆一人ハ田口アト三人ハ自宅ノキワニ住ンデ居リマス母ノ親戚ハ生活ガ豊カデスカ父ノ方ハ貧乏者ガ多クソノ爲メニ苦勞シマス
17、病身ノ人ハアリマセンカ 父ノスゲ弟ガ病イ
18、父母ノ名ハ 父ハ宇三郎、母ハこよデス
19、オ前ノ同胞ハ 三人アリマス一四人アツテ一人ハ生レエ前ニ死ニマシタ
20、一番上ハ 姉デ小デス

ドシナ人
喧デス
ふぢヤンノ知恵ハ
二十二、三迄ハ利巧デ何ヲシテモ通常ノ人位出来マシタガ
親達ガ壓制スルモノデスカラ、はけて今ハ何處へ連れて行ッ
テモ何ヲセイト云ハバ何デモシマス子供ニデモツカハレテ
居マス

21、妹ハ
子供ノ時ハ懶巧デ學校モ其ク出来テ居タ
(○) 生活史及既往歴
22、オ前ノ子供ノ時ハ丈夫カ
壯健デシタ
23、何カ病氣ヲヤツタコトガアルカ
何ニモ病氣ヲヤツタコトハナイガ時々風ヲ引キ又下疳ニ罹
リマシタツレテ治ス積リテ手製ノ薬ヲ吞ンデ身體ヲ痛メタ
様デス

24、學校ハドノ位行ツタカ
尋常三年迄一四年ノ半分迄行キマシタツレカラ母ノ在所へ
預ケラレシタ
25、小學校ハ幾才迄行キマシタ
九才ノ時ニ退入ツテ十三ノ時ニ止メタ
26、學校ノ成績ハ
中等迄行キカナル位ヒデシタ
27、友人トノ折合ハドウデシタ
何トモナカウツガ貧乏ノ爲メ友達カラ輕蔑ヲサレテ居マシ
タ

28、學校ヲ止メテカラ今迄ノコトヲ大略シテゴラン
十三才カラ二十才迄家デ百姓ヲシテ居リマシタ冬ハ山ノ木
ヲ伐ツタリ酒ヲ賣ツタリシテ居マシタソノ頃友人トノ折合
ハヨロシク信用モゴク上等デ私ノ氣分モ別條ハアリマセン

29、オ前ノ二十才ハ明治何年カ
明治三十四年デス
30、北海道へ行ツタノハ何才ノ時
二十六才ノ時デス
31、二十才オノ時デス
四十年頃デスツシテ北海道ニ行ク前信州ノ上田ニ行キツレ
カラゲルノ一編ツテ居ル中ニ北海道ニ行ク氣ガ起ツタソノ
内ヲ出ル時ハ北海道ニ行クナンテ氣ハ一寸モアラスカ
32、ソノ頃中央線ハ貫通シ居リシカ
中津迄外アラスカソレデ中津デ下車シツレカラ赤イテ飯田
ニ行キマシタ

33、北海道ニ行ツタ頃末ヲ委シテ話シテゴラン
丁度其頃氣ガフツノトシテオキマシタ内デ私ノ家内ヲ賣
フコトニナツタ方々カラ云フテ來タツレテ近所カラ買フ様
ニナツタノニ急ニ止メニナツタツレカラ家ヲ出カケマシテ
岡崎ニ出テ名古屋汽船デ行キ名古屋一日滞在シ又汽船
デ中津ニ行キツレカラ飯田迄赤キ又中央線ノアル所マデ出
テ汽船デ上田迄行キマシタ
34、ソノ頃其處ニ三河カラ來テ働イテ居ルモノガアツ
テ其物ト一所ニ種屋ヲ始メル積リテ考ヘテ居リマシタガソ
ノ人サヘ何年カヤツテ居テモ日給取りヲシテ居ル位デカラ

34、自分テ種屋ヲシテモアカント思フテ十日ベカリシテ止メタ
上田テ世話ニナツタ家ハ何トカ云フカ
長谷川デスソレカラ上田カラ汽車デ善光寺ニ行キ町ヲ歩
イテオルト八卦見テ手招キヲシテモシト云フカラ何デ
スト云フト八卦見テヤロウト云フカラ私ハ自分ノコトハ
自分デ分ルカラ見テイラント云フト色々云ヒマスカラ夫程
云フナラ見テ買フテモイガ私ノ氣ニ入ランコトヲ云フタ
ラ見料ハ拂ハント云フトソレデロシト云フコトヲ見テ
買フタラ目的ガ達スルト云フト八卦見テ出マシタ所ガソノ人ガ
丁度北海道カラ來タ人デ北海道ノコトヲ話シマスカラ直ッ
北海道ニ行クコトニシテ小樽ニ着イタ

35、善光寺カラ直ッ小樽ヘハ着タマイソノ間ノコトヲ話シテゴラ
ン
ア、ソウデシタカ善光寺カノ汽車ニ乗ツテ直江津ニ行キツ
レカラ新潟ニツキマシタソレデ新潟ノ町ヲ見物シテ歩イテ
オルト宿引キノ番頭ニ出合ヒ色々談判ノ結果三十五錢デ泊
マルコトニナツテ引札ヲ貰ヒ町ヲ見物シナガラ宿屋ヘ行ッ
テ見ルト直ニ大變立派ナ宿屋ニ案内サレ菓子ナドヲ出シマ
スカラコレハ變ダワイト思フテ居ル中番頭ガ參テ宿屋ハド
ノ位ヒノニシマシヨウト云ヒマスカラ私ハ實ハ北海道ヘ渡
ルモノデ金モ澤山ナイシコトナ宿屋デ永ク滞在スルト連モ
宿賃モ拂ヘヌ様ニナルカラドウカ安イ所ニシテクレ頼ム
ト番頭ハ船ハ明日出ルカモ分ラン私ノ所ニハ澤山北海道行
キノ人ガ居ナサルカラモシ船ガ明日出ント云フコトナラ部
屋モ代ヘマシヨウ今日ハ僅カコトデアアルカラ、テ御泊リ
ナサレト云フテ結局宿料ハ五十錢ト云フコトニシテ其家ニ泊
リマシタ幸ソノ次ノ日ニ北海道行キノ汽船ガ出テ其泊ツタ
宿屋カラ紹介ノ手紙ヲ買フテトウトウ小樽ニ着キマシタ

36、小樽ニ到着シタノハ何時
第三編 法醫學的精神病學 八 早發癡狂

37、ソノ泣イタ時ノ氣分ハ
暇ソモラツテカラ其人格ノ高イ人ニツイテ行キタイシ行ク
コトハ出来ナイシ宿ニ歸ツテ泣キマシタ山師ノ家デハ話ヲ
シテ居テ肝要ノ所ニナルトフツト話ヲ止メテ仕舞ヒイナナ
思ヒツレ又見込ミガナイカラ止メタ

38、大切ナ所デ話ヲ止メタト云フノハドウ云フ風カ
酒ナド呑ムコトハ進メラレマシタ何シロ北海道ハ豐澤ノ所
デ色々私ガ自分ノ目的ノコトヲ聞タト相手ニナラズ暇ヲ
買フコトナラズ情シガラレマシタ

39、ソノ時先方ノ態度ハ變リハシナカウツカ
ソノコトハ氣ガ付カナカウツカ三河ノ山師ノ所ヲ止メテ其
町ノ宿屋ニ止ツテソノ頼ンデヨイ口ヲ探シテ買ツタラ先
ヅ私ノ處ニ三日手傳デモシナサレト云フコトデ其宿屋ニ
一週間計リ手傳ヲシテ居リツレカラ其處ヲ出テ小樽ニ返リ
マシタガ萬事思ハシクナイノデ何カヨイ仕事ハナイカト思
フテモルト船業リハドウジヤト云ハレタノデドウ云フコト

デシタ併シ父トノ折合ハヨロシクナカウツカ
二十才ノ時兵ニ出マシタ日露戰爭ノ時分デシテ滿洲ノ沙河
迄行ツテ脚氣ヲヤツテ送還サレマシタソノ後内屋ヲシテ居
ツテ大分儲カウツツレハ二十才ノ冬デシタ百圓餘リモ儲カ
ウツツレカラ北海道ニ行キマシタソノ時戰爭ノ復興ヲ買
ヒマシタツレカラソノ年銀行ニ預ケテアツタ四十圓ヲ受取
ツテ北海道ニ行キマシタガソノ内ガゴマノシテ内ニ居
ルノガ嫌デアツタカラデアリマス

29、オ前ノ二十才ハ明治何年カ
明治三十四年デス
30、北海道へ行ツタノハ何才ノ時
二十六才ノ時デス
31、二十才オノ時デス
四十年頃デスツシテ北海道ニ行ク前信州ノ上田ニ行キツレ
カラゲルノ一編ツテ居ル中ニ北海道ニ行ク氣ガ起ツタソノ
内ヲ出ル時ハ北海道ニ行クナンテ氣ハ一寸モアラスカ
32、ソノ頃中央線ハ貫通シ居リシカ
中津迄外アラスカソレデ中津デ下車シツレカラ赤イテ飯田
ニ行キマシタ

33、北海道ニ行ツタ頃末ヲ委シテ話シテゴラン
丁度其頃氣ガフツノトシテオキマシタ内デ私ノ家内ヲ賣
フコトニナツタ方々カラ云フテ來タツレテ近所カラ買フ様
ニナツタノニ急ニ止メニナツタツレカラ家ヲ出カケマシテ
岡崎ニ出テ名古屋汽船デ行キ名古屋一日滞在シ又汽船
デ中津ニ行キツレカラ飯田迄赤キ又中央線ノアル所マデ出
テ汽船デ上田迄行キマシタ
34、ソノ頃其處ニ三河カラ來テ働イテ居ルモノガアツ
テ其物ト一所ニ種屋ヲ始メル積リテ考ヘテ居リマシタガソ
ノ人サヘ何年カヤツテ居テモ日給取りヲシテ居ル位デカラ

35、善光寺カラ直ッ小樽ヘハ着タマイソノ間ノコトヲ話シテゴラ
ン
ア、ソウデシタカ善光寺カノ汽車ニ乗ツテ直江津ニ行キツ
レカラ新潟ニツキマシタソレデ新潟ノ町ヲ見物シテ歩イテ
オルト宿引キノ番頭ニ出合ヒ色々談判ノ結果三十五錢デ泊
マルコトニナツテ引札ヲ貰ヒ町ヲ見物シナガラ宿屋ヘ行ッ
テ見ルト直ニ大變立派ナ宿屋ニ案内サレ菓子ナドヲ出シマ
スカラコレハ變ダワイト思フテ居ル中番頭ガ參テ宿屋ハド
ノ位ヒノニシマシヨウト云ヒマスカラ私ハ實ハ北海道ヘ渡
ルモノデ金モ澤山ナイシコトナ宿屋デ永ク滞在スルト連モ
宿賃モ拂ヘヌ様ニナルカラドウカ安イ所ニシテクレ頼ム
ト番頭ハ船ハ明日出ルカモ分ラン私ノ所ニハ澤山北海道行
キノ人ガ居ナサルカラモシ船ガ明日出ント云フコトナラ部
屋モ代ヘマシヨウ今日ハ僅カコトデアアルカラ、テ御泊リ
ナサレト云フテ結局宿料ハ五十錢ト云フコトニシテ其家ニ泊
リマシタ幸ソノ次ノ日ニ北海道行キノ汽船ガ出テ其泊ツタ
宿屋カラ紹介ノ手紙ヲ買フテトウトウ小樽ニ着キマシタ

36、小樽ニ到着シタノハ何時
第三編 法醫學的精神病學 八 早發癡狂

ヲスルノカト聞クト何ニ天變ヲ出ル材木ヲ積ミ取ツテ歸ッ
テ來ルノダト云ハレテ船乗リヲスル氣ニナリ一ヶ月計リ船
ニ乘リマシタガ暇方アウタラ博打ヲヤリ其中ノ一人が大變
私ヲ可愛クツテ分ニシテヤルト云フ様ニ次第博打ヲヤ
ツテオホ中給料トシテ取ツタマケ皆預ケテ三三三三三三
仕舞マシタツレド小樽ノ例ノ宿屋ニ來タ時ハ飯モ食ヘヌ程
デシタカラ警察ニ行ツテ自分ノモノヲ買ニ入レテモ差支ハ
ナイト云フ證明書ヲ買ハントシタガ仲々クレマセヌソナ
馬鹿ナ證明ハ出來ヌト云ハレタガ色々ト事情ヲ話シテ證明
書ヲ買フテ衣類ヲ買ニオキヨウヤ宿屋ニ泊マルコトニナ
リマシタ

所ガ宿屋デ人ノ云フ所ニヨルト夕張ノ炭山ヘ行ツテ見タラ
ドウカト云フノデ夕張ヘ行ツテ見タラ夕張ノ大住掛ケデス
一日丈ケ坑内デ炭ノ運搬ヲシタガ慣レテ居ラヌノデ頭ヲヒ
ドク打ナマシタツレド事務所ヘ行ツテ外ノ仕事ヲヤセテ
フ様ニ頼ンダ所承知シタト云フノデ二日外デ働キ夫レカラ
半里計リ隔ツタ所ニ送ラレテソコデ又運搬ニ從事シマシタ
ガ一ヶ月位シテソノ仕事モ終リ又前ノ所ヘ歸ツテ仕事ヲ
シテオウタガ風ヲ引イテ肺病見ケ様ニ成ガ出ル程場デハソ
レデハ君モ歸ツタ方ガイロウ云ツテ大變ニ惜ムレカラ手
紙ヲヤツテ家カラ十五圓送ツテ買ヒツレテ旅費トシテ其處
ヲ立チ室園カラ汽車ニテ貴森ニ行キ東京上野ニハ朝著キマ
シテ室園カラ上野迄汽車買ハ七圓程デシタ夫レカラ汽車
費橋ニツキ次デ自宅ニ歸リマシタ皆ガヨク歸ツタト喜ンデ
タレマシタ(彼ハ始終癡笑シナガ語リ老モ談話ノ内容ト
一致セル表情ヲナスコトナシ)

40、二十七日ノ時ハ
自宅デ炭燒キヲシテ一年クラシマシタ

又家ノ中ガモマシタ親近ガ變テ人デ例ヘバ癡癡モカマハ
ユ盛モ正月モナイ、成ルベク人ト反對ノコトヲスル、冬單物
ヲ着テ夏編入ヲ出スト云フノデ人デモアレバ一日デモ馬鹿
話ヲシテオホ仕事デモコニスルト云ヘバア、セイト云フ人
デ一日出來ル仕事ヲ三日位マゴカセ人ガ山ト云ヘバ川
ト云フ人デス本年モ炭燒キデクラシマシタ貴父ガ變テ人ヲ止
メル様ニ談判ヲシテ買フテ思フテ叔父ニ頼ミニ行クト承知
シテ英レマセヌカラ勝手ニシヤガレト思フテ錠デ右手ノ示
指ヲ切テ叔父ノ内ニハ又來ヌト云フし、二投ゲツテマシ
タスルト叔父ハ短氣ナ人故出テ來テ私ヲ捕ヘ内ノ中ヘ引込
ンデ美レカラ又談判シマシタガトウドウ叔父カラ醫者ノ所
ヘ運レテ行カレ療治ヲシテ買フタガ醫者ハニライコトヲシ
タモノダドウシテコンナニナツタト云ハレラカラ實際ノコ
トヲ云フモ誠シイカラ様ヲ切ツテオウツテ押切リテ切リマシ
タト云フテオウツテシタツレカラ一旦叔父ノ家ニカヘリ其ノ
日ノ内ニ叔父ノ所ヲ去リ歩イテオウツトト或宿ノ前デ前ニ
土方ヲシテ居テ人ニ出會ヒ色々話ヲシタ末ニ一寸自宅ニ歸
リ金ヲ二十錢持ツテ又家出シ岡崎ニ行キ勸業債券ヲ買ニ入
レテ五圓ノ金ヲ借リマシタ

フカラデス又始テ賣ラウト思フテ人ノ家ヘ這入ツテモ直ニ
此家ハ賣レル家ヤ否ヤヲ見極メマス之レハ餘りむこい様ニ
家ヘ這入ルト始テ賣ラズニヤツテシマヒタケナルカラデス
ツレカラコンナ二三ヶ月デ仕事ノナクナル様ニ商賣ハ駄目
ト決心シテ始テ製造ヲ覺エヨウト思フテ色々苦心シテ幸サ
ント云フ人ノ世話デ八百圓ニ這入リマシタガ此幸サント云
フ人ハ逆モ知オナイ人デ豆腐ノ角ノ缺ケタノヲ人ニ賣ツ
テ向フ人ガソナナ缺ケタ豆腐ハイカント云フノデイヤコレ
ハオ前ニ賣ラウト思フテしるし付ケテオウツト云フノデ大抵
ノ人ハ幸サニカ、ウツラ駄目ト云ツテ居リマシ
タ併シ私ノ本心ハ始製造ノ研究ニアリマスカラ間モナク此
處ヲ止メ名古屋ヲ經テ伊勢ノ間ニ行キマシタ尋ネテ行ツ
知人ガ居ラヌカラ亦名古屋ニ引返シ所々方々ヲ尋ネテ或町
ノ館屋ニ入りマシタ

42、ソレハ何時頃デシタカ
二十九才ノ新春ノ時分デスツレカラ溜屋ニ人ガ入ルト云フ

ノデ行ツテ見タガ己ニ人ガアツテベケデシタツレカラ口入
屋ノ主人ガ人力車引キヲヤツテ見シカト云フノデ承知シテ
親方ノ所ヘ行キマシタコレハ二十九才ノ舊正月頃デス人力
車ノ親方ノ所ヘ行ツテ先ツ車ガ引キタイガト云フト今丁度
内ニ車ガ一臺アツテ夜ハ苦學生ノ方ガ挽イテ居ラレカラ
晝丈ケマア挽キテ見ナサレト云フノデソノ車ガ五六十蒸モ
ズラリト井ノ邊オリマシタガ親方ガ此度此人ガ車ヲ引イ
見タイト云ハレラカラ頼ムト云ハレルト皆ガヘイト頭ヲ
下ゲテコリヤ此親方ニ付イテオレバ大丈夫ト思フテオウ
人ハナイソレデ私ニ行ツテ見シカト云フ人アルノデ私ハ客
サヘアレバヨロシト云フテ車ガガラガト引キ飛ビ出シタ
ガ何シドウシタモノカト思フテ突然且那參リマスト云フト
一寸振り向イテ人ガアルノデソノ人ジヤ直ダ分ツテ客ヲ乗
セ無茶ニ走り出シガオ客サンニ向ウテ實ハ本日車挽ヲ始メ
タモノダ一寸モカラ勝手ガ分シメン何卒車ノ上カラアテ
ノ行キナサレ所ヲ教エ下ヤイト云フト客人モヨイ人ダツタ
ト見エテヨロシト云フテ先ツ行ツテ所迄ハ行ツタガサリ歸
ル時ハ大變デ無茶苦茶ニ形イテウウウウウウウウウウウ
モト十五錢デ共運會ヘ行ツテ客ガ一寸私ノ出テ來ル迄待ツ
ノ人ヲ乗セテ共運會ヘ行ツテ客ガ一寸私ノ出テ來ル迄待ツ
テオウツテ英レト云ハレマシタ丁度此時ハ名古屋ニ共運會ノ
アツタ時デスシバラク待ツテ客ガ出テコレソノ人ヲ載セ
テ歸ツテ來ルト今度ハ又六聯隊ヘ行ケト云フ人ガアツテ
此人ヲ乗セテ六聯隊ニ行キモウ閉口シテ歸ラウトシテ居ル
ト隊カラ上等兵ガ出テ車ヲ停車場迄行ケト云フカラ私ハモ
ウ逆モ行ケヌト云フト車挽キガ行ケヌト云フコトガアルモ

ノカト叱ラレテ挽キ出シテ所汽車ニ運レルカラ早ク早ク
セカレテ世島へ行ク道モ上等兵ト私ト大分意見違ヒマシ
タ現ニ角濱車ニ同ニ合フタノ兵隊カラ三十餘貫ヒマシ
ツレカラモウ足ガイタクナツテヨロヨロシテ歸リオルト提
灯が無クテハイカキト人カラ注意サレテ提灯ヲ買ヒツレハ
モウヘトヘトニナツテ夕方歸リ晩方モウケタ金丈ケハ苦
生サンニ遺ル積リデシタ人カモウケタ金丈ケハ苦
テオ前ヲ見テオルト思フカ

43、今日ハモウ此位ヒニシテ置カウ一體私ハ何故コンナコトヲシ
テオ前ヲ見テオルト思フカ
アタタハ判事サンデシヨウ(被告ハ檢者ガ聽心器等ノ診察
道具ヲ持テオルモ醫師ナル事ヲ判定スルコト能ハズ)
茲ニ於テ第一回身體檢査ヲ行フ身體的徵候ハ毎回略ソノ所見ヲ一
ニセルヲ以テ最後ニ一括シテ記スルコト、セリ

44、此ノ前ニ來タ日ハ
一昨日十四日デス
45、何ヲ聞キマシタ
私ノ履歷デスナア
46、幾才ノ所マデ聞キマシタ
ワマリ二十九才迄デス名古屋デ車夫ヲヤツタ成マデ、ス
47、其後ハドウシマシタカ
其後身體ガ逆モ續カンカラ車夫ヲ止メ一旦内ニ歸リマシタ
ソレハ二十九才ノ三月デス百姓ノ手傳ヲシテ居テ四月
ニ〇〇修太郎ノ村木店ニ入り込ミ主人ニハ次第ニ見込マレ
タカラ連レノ別業ト來タラ私ヲゴツカセヨウノトス
ルカラ喧嘩シタコトモアツタソレレ頼シテ事務室ノ方ニ使
テ置テタガ荷ノ方モ注意セムヤナランシ夜ノ八九時迄モ
働イテワリヤ連モ急ガシカツタ餘リ働キ過キテ頭ヲ惡クシ
體ガ弱ツテ來テ食物ヲ食フテモ身ニナラヌ機ナ氣ガシテ耐

48、庚申サンノ頁ツテ掃除シテ居ツタコトガアツタチアレハイ
ツカ
私ハ一昨年來夜ヨク眠レマセンソノ上内デモムカラ一
層ノコト死ヌ方ガヨイト考ヘ刀ヲ買ツテ來テ不動サンノ所
ニ祭ツテ居タコレハ女ノ月經等不淨ガアツタハイカキト
ノ願ヲ果シタコトハ一度モナイ大抵十四日自位ニテ一日
付ケラレマシタ人ニ見付ケラレト効能ガナイノデアリマ
スソレハ大正四年ノ秋二時水垢離ヲ取ツタコトモアルソレ
ヲ其外寒中ノ夜一時二時水垢離ヲ取ツタコトモアルソレ
ヲ續ケル中一週間バカリデ精切リニ人ガ來テ見付ケラレタ
カラ駄目ニナツテ家ニ歸ツタ不動サンノ頁ツテ掃除シテ
オツタコトハアリマセム
49、妙ナ石塔ヲ立テタノハイツカ
アレハ去年デス私ノ子供ノ時人ガ職人ニナレト勸メタケレ
ドモ親ガツカマヘテ放サヌ人間ハ自自ニ職ガアレバ世ノ中
ニ立ツコトハ出來ヌソ云フ風ニ不仕合セ勝ダカラ不動サ
ンニ石塔デモ上ゲテ運ブ間イテ買ラオト思フテ石屋ニ注
文シマシタ
50、其石塔ニ妙ナコトヲ書イタジヤナイカ
一面ニハ士農工商ヲ彫リマシタコレハ人間ノモト、ナルモ
ノダカラデアリマセム一面ニハ大正五年十一月ト書キツ
レカラ上面ニハ四方ガ知レル機ニ東西南北ト彫ラセマシタ
51、マダ朝鮮へ行ツタウウジヤナイカ
石塔ヲ立テナドシタガドウモ死ヌコトガ出來ヌ又氣ニカ、
ル妹ガ一人アル此妹ハ幼時ハ學問モ出來マシタカラ獨立生
活ヲ出來ル機ニシテオカネバナラヌト思ヒツレハ朝鮮へ
デモ行ツテ金ヲモウケテ來ヨウト思ヒマシタ朝鮮ニハいこ
こガ居テ始終來イ來イトス、メテ居ツタカラデアリマセム其
前人が不動ニ取リ行テまひたげ洞穴カラ引抜イタ

ラマカラ愛知病院見テ買ツタラ十二指處ガ居ルト云ハ
レタソレデ入院メテラカヲ叔父ニ相談シテオレガ
見テヤルト云フテ檢便シテコレマシタ叔父ハ一寸ソラノコ
トガ出來マスソレデ檢査ノ結果癲癎ノ外居ラマカラ入院ノ
要ガナイト叔父カラ樂ヲ買ツテ服藥シテ歸リテ山ノ手傳ニ
行ツタガ尙身體ガ瘦レテ來ル機ニダカワツタカラ逆モ行カ
ヌト心デ思フテ居タ併シ板子シテ二ヶ年計リ續ケタ
此加條ニ半ヶ年程居タ後主人ノ信用ヲ得候場ニ使ハレテ居
タガ自分ハ板子ニナリタチ耐ラヌソレハ金ガ澤山取レテ
身體ガ樂アルカラソレデ希望シタノデシテ併シ主人ガ之
ヲ承知セズ最後ニ二日三日モ所リ込ミ談判シテ珠ニ私ガ指
ヲ切ツタコトモアルカラ氣違ヒニナルコトヲ心配シテ仕方
ガアリマセン三十才ノ十二月ニ親類デナイコトニシテ手ヲ
切ルコトニシタ此ヨリ先キ三十才ノ春何處カデ死ニタイト
思ヒ刀ヲ買フテオトヨイト考ヘ新城ニ二日計リ滞在シ
タガ九寸五分ノヨイノナイカラ仕方ナシニ鍛冶屋ニ注文
セヨウト思ヒナガラ其邊ヲ見物シ買來等ニ行キ一泊シタ然
シナンドカ氣ガ鬱々シテ次第本郷ニ出デ急ニ石屋ニナリタ
タナツテソレモ考ヘテ見ガ尙死ニ度クテ刀ヲ注文スルガ爲
メ鍛冶屋ヲ探シ廻ル内ニ又あら子ノ不動ノ所ニ來テ途ニ種
々考ヘタ末内ニ刀ガアルコトヲ思ヒ出シ其處ヲ立ツテ四五
里歩キ時過自宅ニ着テ裏カラ内ヲ覗イテ見ルト人ガ澤山
集ツテ居ツタカラ裏ワウロロシテ居ル内裏ニ在ル池ヲ何
トモ澤ツツメメ物ガマシラレテ仕方ナク急ニ出スコ
トハ思ヒ切り四五日滞在シテ居ル内ノ隙ヲ覗ツテ取り出
トシテ内ニ遺入ルト覺ガヨク來タト云フテタレテ其日
ハ過キ翌日ニナツテモ死ニタイガ死ヌズソレデ家ニ在ツタ
刀ヲ取り出シ不動機ニ祭リ込ミ置キ其後行性ヲ手傳ヒ本年
ニ至ツタノデアリマセム

ラソコニ私ノ隠シテアル短刀ガアツタノデツノ刀ガ出テ來
テコレハ源作ノモノニ違イナイト云フテ私ニ聞キ來タカ
ラ私モソレハ私ノゾク併シホツテオイトケレ私ノ親ハ連モ
手ガツカヌ親ハ私ヲゴツカセテ極道ニスル考ヘテオレ私
ノ村ニ山本ト云フ勢力アル人ガアル此人ガ私ノ父ノ師匠デ
ヨク評ノ分ツタ人デアアルカラ此人ヲ頼ムヨリ外連モ親類
話シタ所デ話ノ纏リガツカヌカラソノ人ヲ頼ムニ行ツタ
其人ノ云フニハオ前ノ家ノモメモ二度三度ジヤナイソ
ンナニ來ラレテハ臨ハストノ挨拶シタカラ立腹シテ内ニ
歸ツテ寝テオルト私ノ方ノ山方ニ傳染病ガ來テ大騒ギニナ
ツタ傳染病ノアル山方ノ人切私ノ村ニ來テ家ヲ借セト云フ
ガ私ノ村デハ借サヌ方ガヨイト云フテ大分ハケ茶シタツタ
處ガ山本ト云フ村ノ隊長ガ貸シテハイカキト云フタノデ私
ハ自分ノ家ハ自分で勝手ニスル義ヲクラヘ村ノ遠慮ハ知ツ
テオレガ村ニ對スルガ大事カ自分ノ家ニ對スルガ大事カ自
分ノ家ガ之ヲ行ケヌ機ニ村中カ、ウテ仕掛ケテオイトソ
ンナコトヲ云フツタ談ガ合ハヌ村ニ對スル義務ガ大切カ家
ニ對スル義務ガ大切カト云フテ山本ノ頭ヲ下駄打ツタ
山本ハ私ノ手ニ喰ヒツイタ之ハ大正四年ノ秋デシタ其後ハ
無事ニスルガ私ノ家ハ山本ノ支配ヲ受ケテキ立チ行カヌ
ガ面モ山本ハ私ノ家ヲ惡クシカケルツマリ私ノ内ヲマゴツ
ク様ニシカケル舉意敵ト云フ關係ニナツテオレガソノ火元
ノ親類ト自分トガ氣ガ合ハヌト云フコトガ問題ノ元デスカ
ラ私ハ親類ガナクナレバ家ノ残りノ財産モマタル機ニナ
ルソレデ二人共死ヌ氣ニナツタノデアリマセム
朝鮮行キノ話ハドウシタカ一向話ガ外ヘソレシマツタデハ
ナイカ
朝鮮行キデスカ親ト相談シテ家ヲ賣ル機ニシ親類モ承
知シテ本家ニ賣ルコト、ナリ親ノサシ當リノ手當金トシテ

三十圓餘ニ五十圓與ヘ借金二百圓餘ヲ支拂ヒ尙二百圓計リ
 ハイッデモ受取レル様ニシテオイト噴金五十圓程ヲ以テ
 岡崎ニ出テ名古屋カラ船ニテ朝鮮ニ行ク積リテシタ名古
 屋カラ大邱迄ノ汽車賃ガ七圓何ニガシテ案外安カッタカラ
 汽車ヲ行クコトニキマシタ尙妹ハ裁縫ノ先生ノ所ヘ頼ミ
 岡崎ニテハ不動様ニ參ツテ武運長久ヲ祈リマシタソレカラ
 名古屋ハ夜一時ニ立テ下關デハ已ニ連絡船ガ來テ居テ直ニ
 乗船シ翌日大邱ニツキマシテ從弟ノ家ヲ尋ネテ所從弟直ニ
 村ヲ初メヨウトシテ居マシタガ見レバ器械ニハ帶歸ヲ用ヒ
 テオツタカラ私ノ經驗上ソレハ迷モ駄目デアルトソノ裝置
 ニ反對シタラ從弟モ非常ニ機嫌ガ惡ク私モソノ話ヲ止メテ
 シマヒマシタソレカラ從弟ハ製材ニ取カ、リマシタガソノ
 事業ハ案ノ如ク失敗シテシマヒマシタ私ハソノ從弟ノ家ニ
 居ル中ニ從弟ハ私ヲ敬ノ生レ代リノ様ニ恐ロシガツテオツ
 タ或夜睡事ヲシテ負ケタモノニハ顔ニ墨ヲ塗ル約東ヲシ
 テ置イテヤリマシタガ從弟ハ私ガ負ケタモノ機嫌ガ惡イモ
 デスカラ負ケマシテ私ノ顔ニ墨ヲ塗ルト云ヒマスカラ塗
 レテハ耐ラヌト思ヒ私ハ迷出シタラ追ヒカケテ水ヲカケ
 ヲト云ヒマスカラ私ハ機嫌ノ上ニ登ツテオツテ水ヲカ
 ルナラカケテ見ヨ私ハ機嫌ノ上ニ立ツテオルト云フト此
 野郎ト云フテ追カケテ來ルカ此度ハバラツクノ屋根ヘ逃
 ゲ上ツテ居ル中ニヨウヨウ彼奴等モ追カケルコトヲ止マ
 シタカラ此度ハ屋根カラ下リントシテ見ルト亞細屋根ノ恐
 ロシイ所デ自分ガヲヨウモコンナ所ニ登ツテオツテ思
 ヒマシタソ云フ調子デ其内モ面白クナクテ四月二十四日
 カニ歸ツテ來マシタ名古屋ニ着イテ大變病力ガナクナツ
 タ様ニ思ヒマシタ

53、歸朝シテカラドウシタカ
 四月二十二日ニ自宅ニ歸ツテ裁縫ノ先生ノ所ニ行ツタ妹

ハ父ノ内ニ引取ツタト云ハレタガ叔父ノ所ニ行ツテ手傳ヲ
 シテ居マシタ内デハ杉苗ガアツタカラソレヲ植エテヤロウ
 ト思フタガドウニモ構力ガナクツラ植エテシマフタラ死ナ
 ウト思フテ居タ夏ニナルト田植ヤリ色々ノコトデ忙イカラ
 成丈ケ聞ナ中ニ人ノ迷惑ヲカケヌ様夏ニナラヌ中ニ死ナ
 ケレバナラヌト思ヒ五月二十二日ニ不動様ニ參詣シマシタ
 ヤハリ二十一回御參リヨウウト思フテ居タガ十四回御參
 リラシタラ腹痛ヲナツテ止メテシマフタ

(江) 今回ノ犯行大要
 五月二十二日トハ此度ノ事件ノ起ツタ日デハナイカ
 ソウデス夫レカラ二十二日ノ暮方カラ〇〇番四郎方デ香
 デ凡ソ四五合モ飲ミ次ニ山田屋ニ來テ同ジ位ヒ飲シテ山田
 屋ヲ出タノハ十一時過ぎダツタ時計丈ケハ心配シテ見テ居
 マシタ金ハ〇〇デモ山田屋デモ三四十錢位ヒ携フタガシツ
 カリシタコトハ覺エテオラヌ

夫レカラ山田屋カラ四五丁ノ距離アル自宅ニ歸ツテ足ノフ
 ラツク様ノコトモナク天候モヨク星ガ見エテ居マシタ正氣
 デ自宅ニ戻ツタラ皆睡テオツタ私ノ宅ハ戸締ガシテナイカ
 ラ睡ナク戸ヲ明ケテ内ニ進入ツタラランプニ火ガ點イテオ
 ヲツ上ニ上ツテ机ノ所ニ行ツテ靜ニ考ヘタ今日ハ不動様ニ
 モ參リモウ死ナケレバナララズグズグズシテ居ルハ不動様ニ
 ケルト思ヒ父ヲ起シ共ニ死ナウト思ヒ起シテグズグズ云ヒ
 ナガラ起キタカラ之レカラ二人共ニ死ナキナバナラヌ二人
 居ルカラ内モ此ノ様ナヤカマシイ不仕合セダ二人共ニ死ネ
 バ文句ハナイオ前モ年ハ六十以上ニナツテオトルカラ死ヌニ
 ハ苦狀ハアルマイ命ノ惜イ日ニハ私ノ方ガヨウボド情イ
 云ヒマシタ父ハ金ノ二十圓モ呉レバドウナリシテ生活スル
 ト云フカラ大體オ前ハ身體ガ弱イ何時如何ナル傳染病ニカ
 ヲツテ死ヌカモシレヌソナコトヲスレバ還所ノモノモ迷

55、オイハ親殺シノ一件ハドウシタ
 ソレデスカラ金太郎ハ私ヲ恐レテ居マス私ハ今デテノ一
 グト酷イ目ニアワスト云フタラジツトシテ何モセズニ居
 シタ裁判所ノ列事サンモ人が殺サレル場合何セザれ一人
 ヲ押ヘテ助ケル氣ニナラナカッタカト云フテ金太郎ヲ笑
 レマシタ私ハ刀モ出シハセヌシ飯モ食ハナイノニ金太郎ハ
 寢床ニカマデ居テ顔モヨウ上ゲナダ癖ニ刀ヲ出シタノ
 飯ヲ食フタノト云ヒオリマスソノ中ニ父ガ觀念シテ細香ヲ
 以テ出掛ケマシタ父ハ下駄ヲ穿キオリマシタガ私ハ大切ナ
 書置キヲ忘レタカラソレヲ取りニ行ツテオルトソノ間ニ親
 爺ハトイト逃ゲテ仕舞マシタ

56、ドウシテ追カケナカッタカ
 夫レハ迷ゲテ仕舞ツタカラ仕方ガナイト思フタカラデアリ
 マスソレカラ夜二時頃母ノ寢居所ヘ行キマシタケレドモ親
 爺ハ居ラズ其マ、其所デ疑テ朝起キア、外間ノ惡イコトヲ
 シタナアト思フタ内ニ行ツタラ鴉ガビイビイ云ヒオリマ
 スカラソレニ誤リヤツテソレカラ鳥屋ヲ修繕シタリシテ居
 リマシタソレカラ二三日親類ニ用達シニ行キ二十三日夜頃
 農工銀行ヘ金ヲ拂込ニ行ツテ村ノ幸四郎ト云フ人ニ私ハカ

57、書キ置キハ何時書イタカ
 事件ノ起ル五六日前カラ書キ初メマシタ紙ヲ二帖買ヒ
 一帖位ヒ書イテ反古ニシマシタソノ中ノヨイモノ丈ケ取ツ
 テオイトノデス何シロ學問ガナイカラアナンモノニナリマ
 ス

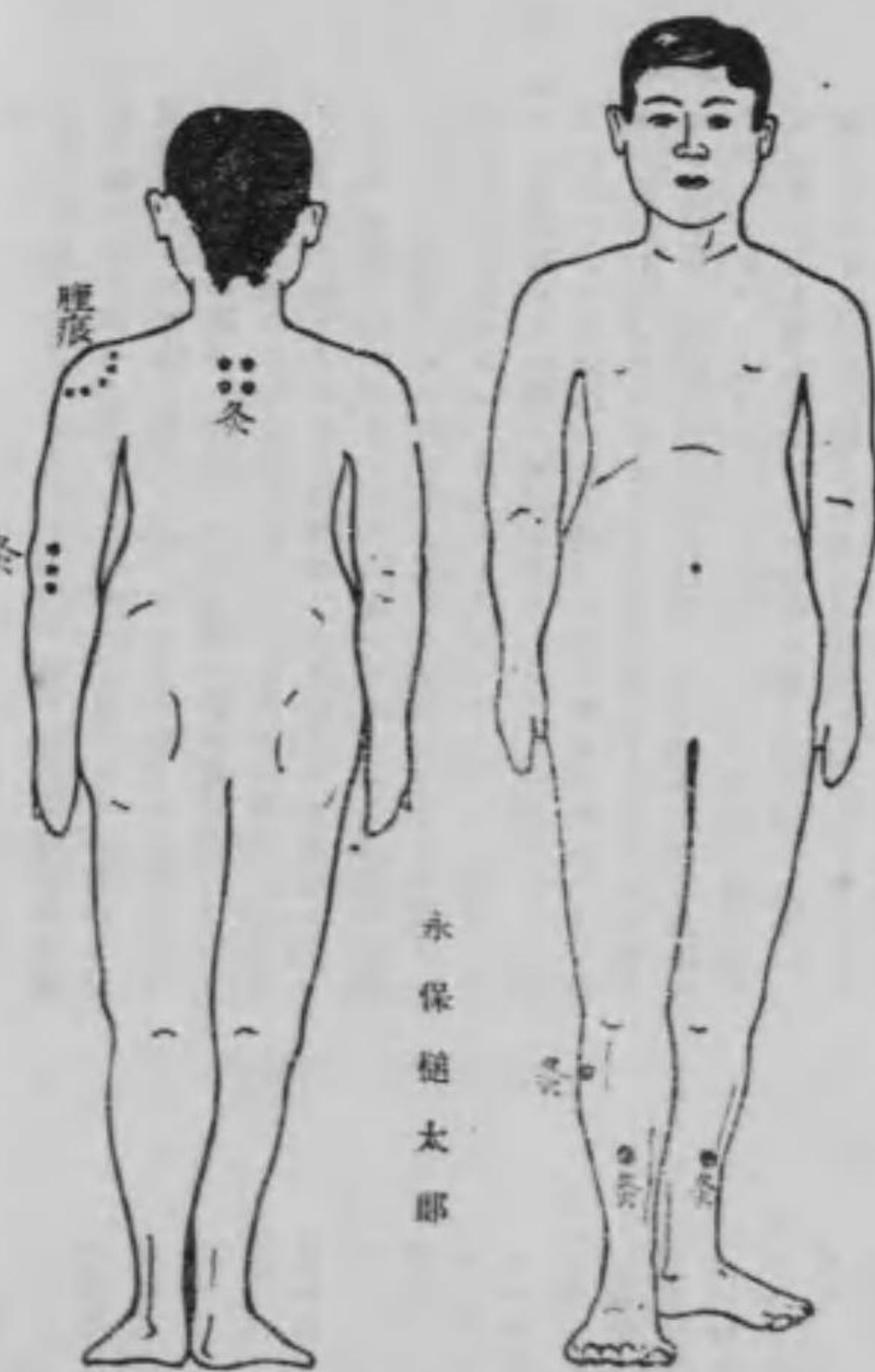
58、君ノ手紙ハ以前モアナンニ分ランモノジヤツタカ
 先生ノ云ハレルニハ人ガオ前ヲ氣遣ダノト云フガオ前ノ
 手紙ヲ見テ此度ハ分ツタト云ハレマシタ

59、ドウ分ツタノカ
 私ガ正氣デアルト云フコトガ分リマシタト云フコトデス
 初メノ女房ハサト云ヒ二里程ノ距離ノ所カラ來タモノデ
 シタ遠イ親類ノ娘デアツテ親爺ガ好キデ買ヒマシタガ父ハ
 愚痴ノコボシ夜ハ肩ヲタカセルシ又ソノ女ニ他ノ男ガア

惡シヤト云フテツコニ疑テオトル金太郎ト云フ人モ起シテ問カ
 セタラ馬鹿ナコトヲ云フナト云フテ私ヲ捕ヘタ此金太郎
 ハ手舞ガ惡ク方々ヲ引キカキ廻ハシテ歩タダカラ私モ只
 滿腹買ノミニテ家ヲ食シテ居ルノニ私ノ家ヲカキ探シ色々
 ナモノヲ盗ム飯サヘモ盗ムカラ飯櫃ニ錠ヲ即シタコトガア
 リマス又先達モウチニ米ガナイカラ金太郎一寸貸シテケレ
 ト云フタラ米ハナイカラ貸セラレト云フカラ高生ト思フ
 テ彼ノ米櫃ヲ見マスト一二モ入レテオトルノデス實ニ強盜
 ナ男デス女房モヨク似タ女デ似タモノ夫婦ト云フコトガア
 レデヒドイ目ニアハシタコトガアリマス

ルト云フコト三ヶ月半計リテ離別シマシタ次ハいと云フ女デアツテ親戚ハ外デハヨク嫁ニハツラク當リマシタカラコレモ中々年計リテ分レテシマヒマシタ第三ノ女房ハ恰情テ口モ利キ人好キノスル者デアツタガ私ノ氣ニ入ラヨシ又病身デアツタカラ中々年計リテ離別シマシタコレハ非常ニ私ノ所ニ居タガツタノデシタ

61、ソノ後ノ前ノ品行ハドウカ
私ガ女ノ方ニ氣ガ向ケバコソナニハナラカツタノデシヨウガ色々外ノコトガ氣ニナツタ女ニ迷フコトモ出来マセンデシタ併シ遊ブコトハ少シハ遊ビマシタ
(茲ニ於テ第二回ノ身體的検査ヲ行フ)



永保植太郎

62、私ガ何シニ來テオカ知ツテ居ルカ
醫者サンデスナアト私ノ身體ニ病氣ハナイカト見テ下サルノデ心臓ノ所ガ若シイデス

(支) 第三回検査 (大正〇年八月二十一日)

(七) 精神の現在徴候
〇〇監獄ニ於ケル監守ノ報告ニコレバ入監後異常ヲ認メザリシ被
告源作ハ第二回検査後(八月十六日)興奮ノ狀アリ京都大學ヨリ醫
師ガ來テ診察スルト稱シ自己ノ身體ヲイテクテハシ又其頃十五
〇〇ヨリ移監サル、時ハコンナ約東ニ非ラザリシヲ以テ〇〇(照
會シテ吳レナド云ヒ出シ釋カナラザリシト云フ

本日検査ガ被告ニ對スルヤ甚ダ丁寧ナルオ辭
義ヲナシ顔容澄然トシテ表情少シ氣分ハ不
快ナル如ク直ニ略泣ス併シ談話ヲ始ムルヤ痛
笑シツ、語リ塞モ靜止スルコトナク常同時ニ
手ヲ動かシ顔面ノ表情ニハ滑稽アリテ自分ガ
死ニタケテ耐ラヌナドニコノ、笑ヒナガラ語
レリ通常ノ如ク次ノ談話ヲ試ム

63、私ガ此前來タノハ何時デシタ
十六日デ御座リマシタ

64、私ガ十六日ニ診テカテ氣分ニ變リガアリ
マシタカ
先日私ガアナタノ前デ申上ゲタノハ私
ノ潔白ノ精神申上ゲタノデ私モ御別
レスル時充分申上ゲレバヨカツタガ
ドウシテカ申上ゲラレナカツタ自分
茲(來テオカ)ノハドウ言フ譯カト尋ネ
ラレタガ返事ガ出來ナカツタ私ハ精神
ヲ見メカレテ被處此處ト引キマハサレ

人ヲ戒ムル爲メニ入レル所デス

69、何ト云フ所カ

監獄デス(苦笑)

70、私ガ前ノ心ヲ潔白ト見メイテオ上(上申シタラドウナリマスカ)

71、ドウ云フ譯デ〇〇カラ此所(題サレタカ)

72、身體ニ工合ノ惡ルイ所ハアリマセンカ

73、何ト云フ内デスカ

〇〇政治郎デス正月ノ二日ニ〇〇方(行ツタラ正月デカラ
雜煮ヲ食ヘト云ハレテ食ヒカケタ所ソノ中ニキラシタ
油ガ見エタカラ之ハ不思議ト思フタガ私ハ氣性者デスカ
食フコトヲ止メルノハ何ダカ弱イ様ナ氣ガシテ無理ニ食ヒ
出シタガ私ハ食ヒ乍ラ眼ヲ配ワタデスルト嫁サンハ姓ナ
眼付ヲシテ私ニ異變ガ起ラナイカトバカリ見テ居マシタ
レデ私ハ五分間バカリシテ内ニ歸ツテ飲ンデ今日ハ
ライ日ニ合ワタト母ニ云ヒマスト母ハヨソノ者ニハヨク内

65、然シオ前ハ醫師ガ來テ身體ヲ觀ツタト云フテ怒ツタソウジヤナイカ

66、此中ニ永保某トアツテ永ク保ツテアツテヨイデハナイカ長生キスルヨ

67、今日ハ幾日デスカ

68、此所ハドウ云フ事ニスル處カ

ノ者ニ惡ルイ人デスカラ貴様ガ馬鹿ダカラソウサレルノダ
ト却ツテ私ヲ叱リマシタ

74、F-Iシテ毒ヲ食ハセタノダロウ

私ハ生來愛萬圓ノ財産ヲ作ル考ヘデシタ夫レ凡ベテノ仕
事ニ按目ガナイデス二十歳位ニハ人ノ二人前位ノ仕事ヲシ
テ居マシタガ三十二ナツテバツタラ變ツタ

75、胸ノ外ニ頭ニ病氣ハナイカ

頭ノ病氣ト云フト疳積デス然レ人ニ向ツテ行クト云フコト
ハナイガ腐レ根性ヲ出スコトガアリマス

76、オ前ハ氣違シヤナイノカ

ソナコトハアリマセン併レ人ガ吊リ込メンデ色々ノコトヲ
サセマス

77、女房三人ヲ貰ツタ月日ヲ云フテ御覽

ソレハ分ランデスナア一ナサハ二十歳ノ時ノ新正月ノス
ンダ時ニ貰ヒマシタ

78、ソースルト明治何年ヤ

三十四年デス

79、二人目ノ女房ハ

いまト云ヒマシタ二十一カ二ノ時デスナア一新正月ノ前デ
シタ

80、三番目ハ

二十六ノ年ノ新正月ノ前デシタコレハヨク仕事モシヨイ女
デシタガ身體ガ弱カッタカラ離別シマシタ

81、北海道へ行カウト新潟ヲ出タ日ハ

手帳ニハ付イテオルガ一二十六歳ノ五月廿七日頃デスナ
ア

コチヲ(正)

コレニハ何ガ足ラヌ

鼻ガナイ(正)

コレニハ何ガ足ラヌ

目(正)

コレニハ何ガ足ラヌ

手ガ足ラヌ(正)

コレハ

口ガ足ラヌ(正)

コレハ

菱形(正)

コレハドウシタ(畫若イ男ガ若イ女ノ顔ヲ見テオル中ニ小兒
ニツキタアリ小兒ヲ倒シタ畫)

男ノ人ガ子供ヲ落シタデスナアソウデス

コレハ(小僧ガ窓硝子ニ投石シテ之ヲ碎キ物影ニカクレテ居
ルヲ老人ガ通行セル學生ヲ捕ヘテ叱ツテオル畫)

叱ツテオル畫デスナア一學校デモ行カヌト云フテ叱ラレテ
ルナアアア此石デ窓ヲ打ツタナア

(誘導スレドモ物影ニ人ノ潜メル意義ヲ知ラズ説明スレバア
、ソウデスカト云フ)

「種々ノ重サアル小箱ヲ渡シ」重サノ順序ニ并ベテ御覽(正シ
ク並べル)

90、次ノ文句ヲ順序ヨク并ベテ意味ヲヨク分ル様ニシテ御覽俱シ
一字ヲ増シテモ減ジテモイケナイ

(イ)私バ、休暇、旅行を、田舎、中に、致しました

私は休暇中に田舎へ旅行を致しました

82、今上天皇ノ御即位式ハイツ

前ツタナア一ヘヘ何シロ大正ニナツタノハ七月三十日
ト三十一日ノ間デスア、何時ジャツタイナア一私ハソノ時
ニ酒ヲ吞ンデ居タ式ガアツタソノ一立派ナ國旗ヲ立テタ
デス

83、日清戦争ハイツ

明治二十七年

84、日露戦争ハ

明治三十七八年

85、奉天ノ大會戰ハ

豊エマセン

86、旅順ノ陥落ハ

元且デス分隊長ガ大變ニ喜バレタガ三十七八年ノ元且カ三
十九年ノ元且デス

87、昨日ハ何ヲシテ暮シタカ

頭ガドウカナツテ暮シタデス

88、コレハ(綠色)何色

青色デス

コレハ(藍色)

紫色

コレハ(黄色)

桃色イヤ黄色

コレハ(赤色)

赤色

89、(繪畫ヲ示シ種々ノ發問ヲナス)

コレハ何レガ美人カ

(ロ)一疋の、守る、主人の、よく、犬が、かしの、言葉を
主人の守る一疋の犬が言葉をよくかしの
(尙短文ヲ讀マシメ直ニソノ大體ノ意味ヲ語ラシムルニ大過
ナシ)

91、一週ハ

七日デス

92、一年ハ

三百六十五日

93、毎年ソウカ

三百六十六日ノ年モアリマス

94、夏至ト冬至トハ何時

冬至ハ十一月二十四日夏至ハ知ケン

95、一年中大ノ月ハ

一、三、五、七、八、十、十二

96、家康ハドンナ人カ

アノ人ハ大久保サンノ御蔭デ天下ヲ取ツタ天下ヲ取ル位ヒ
ノ人デスカラ七色ノ星ガツイテ廻ツタト云フ人デスソレデ
眞田幸村ガチヤントソノ星ヲ見テ家康ノ居ル所ヲ知リマシ
タ星廻リガヨカウタカラ格別戦ト云フコトヲセンデ天下ヲ
取ツタノデス

97、大關サンハドウ云フ人カ

ツマリ草履取リカラ天下ヲ取ツタノデス

98、日本ノ首府ハ

東京

100、東京ノ人口ハ

知リマセン

- 101、名古屋ノ人口ハ
知リマセストロクサイ方デスカラ讀ムト片ツ端カラ忘レテ
行キマス
- 102、日本ノ最高山ハ
富士山デス
ソノ外ニナイカ
- 103、臺灣ニアル相デスガ名ハ知リマセマ
最大川ハ
矢張臺灣ニアリマス石狩川トカ
- 104、三河デハ
信州ノ奥カラ來ル
- 105、山ニ在ル木ノ名ヲ云フテ御覽
杉、檜、榎、樺、栗、櫟
- 106、田畑ニハ何ヲ作ル
桑、麥、粟、豆、小豆、稗ナドデス
- 107、オ前ノ内ノ宗旨ハ
禪宗デス
- 108、本願寺ハ何宗カ
知リマセン
- 109、一休和尚ハドウ云フ人カ
上方ノ人デアナンナ頼智ハ師匠デモ協ハヌ
- 110、盆トハ何ヲスル日カ
七月十三日カラ十六日デ佛祭リスル日デ人間デ云ヘバ正月
デスナア!
- 111、今上陛下ノ御名ハ
知リマセン大正天皇トデモ云ヒマスカ

- 112、即位カラ何年目カ
六年目デス
- 113、兵隊ノナケレバナラヌ理ハ
國家ノ爲メツマリ世界ガ開ケテ行クト先方ノ國モ怒ガ出來
テソレデ日本ヲ防ケ爲メニ兵隊ガイルノデス
- 114、銀貨ノ種類ハ
五錢、拾錢、五拾錢
- 115、銅貨ノ種類ハ
五厘、壹錢、貳錢
- 116、札ト云フモノハ何ノ爲メニアル
ツマリ正貨ノ代リニナルモノデス
- 117、一斤ハドノ位ヒアルカ
百二十匁ト百六十匁トアル
- 118、鎊ノ一貫目ト鎊ノ一貫目トドチラガ重イカ
ソリヤ鎊ノ一貫目ガ重イ
- 119、オ前ノ村デ一日暮スニ何程イルカ
米相場ニヨルガ米一升拾五錢ト見テ家内四人デスカラ參拾
錢參拾五錢モアレバヨイデス
- 120、一日ニ參拾錢イレバ一年ニハ何程
百拾圓バカリ
- 121、稅ハドノ位イルカ
一年ニ拾圓位ヒデス
- 122、稅トハ何ノ爲メニ納メルカ
ツマリ自分ノ身代ヲ補フテ貰フ村稅ハ村費ヲ輕稅ハ輕稅
費ツツマリ自分ノ財產ヲ保管シテ貰フ費用デス
- 123、京都監獄ノ費用ハドコカラ出ル

- 124、ドウモ不思議デスナア!知リマセン
親ニ孝行スル理ハ
自分ノ身ニ關シテオルカラ申シニクイヘヘ
- 125、天子ニ忠義ヲセニヤナンノハ
ツマリ一家ニ忠ス様國ヲ繼繼スル様ニスルノデス
- 126、人ニめぐみヲ施スノハ
ツレモ精神ニ依リマスドコマデモ人ノ爲メヲ思ヒ忘レズニ
悪ヲカケナケレバナリマセン世ノ中ハイヤデス
- 127、惡イコトヲスレバ何故監獄ニ入レルカ
夫ハ打チヤツテオケバ世ノ中ガわやニナルカラデス
- 128、法律ハ何ノ爲メニアル
日本ノ立チ行ク爲メニ
- 129、馬ト牛トノ差ハ
マルデ違フ角モ尾モ爪モ身體ノ工合モ違フ
- 130、水ト水トハドウ違フカ
ムツカシイナア!
- 131、子供ト人形トノ差ハ
夫リヤ見レバ分ル
- 132、徳義トハ如何ナルコトカ
相方ヨイト云フコトデス
- 133、昨夕ノ御馳走ハ何カ
豆ノ煮付、豆ト菜デス茄子ガアリマシタガ同ジ茄子デモ三
ツハ三ツ味ガ違フタ様ニ煮テアリマス不思議デスナア!
- 134、先刻色々相異ナル點ヲ述ベテ貰ヒマシタガアレハ何ト何デシ
タカ
牛ト馬、水ト水、人形ト子供

- 135、此机ノ長サハ
マア三尺デスナア!(正)
- 136、拾錢、貳拾錢、五拾錢銀貨ノ大ヤツ書イテ御覽
(略正)
- 137、八角、九角、十角ヲ書イテ御覽
(八角ハ正他ハ書クコト能ハズ)
- 138、鳥ノ名ヲ十云フテ御覽
鶉、鶯、孔雀、吐鵝(コレハチガ選イカラ止メ)鶯、鶉、
鶇、山鳥、雀、ひこり(十數分ヲ要ス)
- 139、魚ノ名十云フテ御覽
くじら、いな、たい、さば、さめ、あめの魚、あい、はよ
いしや、うなぎ
- 140、次ノ暗算ヲ成ル丈ケ早クヤツテ御覽
問題 答 解答ニ要スル時間
6×8 48 7 Sekunde.
9×3 27 2
15-11 4 3
20-10 10 1
51-16 35 6
73-22 51 2
11+20 31 6
14+26 40 6
33+44 77 2
18+3 21 3
18+6 24 3
25+2 27 3
55+2 57 3
- 141、東京ト京都トノ間ヲ三百哩トシ京都ヨリ一時間二十哩走ル液

車が東京ニ向ツテ、之ト同時ニ東京ヨリ一時間十哩走ル貨車ガ京都ニ向フテ出發シタリトセバ兩列車ハ何時間ニシテ相會スルカ

142、 鶴ト鶴ト合セテ頭數五十、足數ハ合セテ百二十本ナリト云フ鶴何羽鶴幾足ナルヤ

143、 此ノ世ノ中ニ何カ不思議ト思フタコトハナキヤ

144、 不動様ヲ信仰シテ居ル中ニ御光ガサシタコトガアツタネアレハイツカ

145、 其外ニ何カ不思議ノコトハナキカ

146、 不思議ノ音ハ聞エヌカ

147、 前ニ話シタモノ、外ニオ前ヲ意地メ或ハ仕事ノ邪魔ヲスル人ガナイカ

148、 オ前ノ經歷善性等ニ自慢スル様ノコトハナイカ

149、 今迄何カ恐ロシイト思フタコトハナキカ

150、 義務デホフトシタコトハアルガソノ外ニハ何モアリマセヌ

151、 心配バカリテヌ

152、 仕事ガ如何ニモ面白ク出来テはしやいだコトヤ馬鹿ニヌツコソデオツタコトハナイカ

153、 仕事ノ出来タ時ハ嬉シイデスナ然シ不仕合バカリテアマリ嬉シカワツタコトアリマセヌ

154、 氣分ガ急ニ變ルコトハナイカ

155、 自分ノ思ヒガ強ハヌ時ハ急ニ變リマヌ其時ハワツト氣違ヒ見タ様ニナリマヌ

156、 譯モノシニ笑ツテ見タタハナランカ

157、 夫レハアリマヌ監房ニデモ居レバ歩キ廻リタケテ仕方ノナイ時ガアリマヌ

158、 親屬知人ガ會ヒニ來タ時ハドシナ氣ガスルカ

159、 松井及後藤ガ會ヒニ來テクレマシタ後藤ガ來テ笑レタ時ハ私ハ泣キマシタアリレハ人格ノ人デスカ

160、 親屬聯合ノ有様ヲ檢セント欲シタノ如ク先ツ檢者ヨリ任意ノ刺戟語ヲ發シ直ニ被告ノ思ヒ出ス任意ノ語ヲ云ハシメ(反應語)且解答ニ要スル時間ヲ測定セリ

161、 度度參リラシタ時ハ不思議シタナデモ兵隊ニ行ク前デシタ體ヲ持ツテ行ツテ裸體ニナツテ體ヲナメ川ヨモ體花デ消メソレカラ水垢體ヲ取ツテ御宮ヲ度度體ヲスルトソノ時風モナイノニ注連繩ガヘラヘラト動キマシタ神様ハ信ズレバ信ズル程價値ガアル參拜中ヲ人ニ見ラレト此價値ガナクナルガ此度度參リノ時モガラガラト戸ヲ開ク音ガシテ私ハ見付ケラレタ様ニ思ヒマヌ

162、 不思議ノ音ハ聞エヌカ

163、 ソノ度度參リノ時參ツテ手ヲ打ツトピンピント鳴リ如何ニモ訝エテ聞エタノハ不思議シタ尙其時流ガ聞ク音ガシマ

164、 度度參リラシタ時ハ不思議シタナデモ兵隊ニ行ク前デシタ體ヲ持ツテ行ツテ裸體ニナツテ體ヲナメ川ヨモ體花デ消メソレカラ水垢體ヲ取ツテ御宮ヲ度度體ヲスルトソノ時風モナイノニ注連繩ガヘラヘラト動キマシタ神様ハ信ズレバ信ズル程價値ガアル參拜中ヲ人ニ見ラレト此價値ガナクナルガ此度度參リノ時モガラガラト戸ヲ開ク音ガシテ私ハ見付ケラレタ様ニ思ヒマヌ

165、 不思議ノ音ハ聞エヌカ

166、 ソノ度度參リノ時參ツテ手ヲ打ツトピンピント鳴リ如何ニモ訝エテ聞エタノハ不思議シタ尙其時流ガ聞ク音ガシマ

167、 前ニ話シタモノ、外ニオ前ヲ意地メ或ハ仕事ノ邪魔ヲスル人ガナイカ

168、 オ前ノ經歷善性等ニ自慢スル様ノコトハナイカ

169、 今迄何カ恐ロシイト思フタコトハナキカ

170、 義務デホフトシタコトハアルガソノ外ニハ何モアリマセヌ

171、 心配バカリテヌ

172、 仕事ガ如何ニモ面白ク出来テはしやいだコトヤ馬鹿ニヌツコソデオツタコトハナイカ

173、 仕事ノ出来タ時ハ嬉シイデスナ然シ不仕合バカリテアマリ嬉シカワツタコトアリマセヌ

174、 氣分ガ急ニ變ルコトハナイカ

175、 自分ノ思ヒガ強ハヌ時ハ急ニ變リマヌ其時ハワツト氣違ヒ見タ様ニナリマヌ

第三編 法醫學的精神病學

八 早發癡狂

刺戟語	反應語	時間
光リ	朝	十秒
青イ	木ノ葉	三秒
高イ	天	十一秒
深イ	海	二十秒
静カ	品行ヨイ	四秒
ツルツル	水	四秒
ザラザラ	(答ナシ)	六十秒
冷メタイ	水	十五秒
美シイ	花	十五秒
痛イ	體ニサワル	十秒
月	夜	十秒
悪イ	氣ガ合ハヌ	三秒
兵隊	義務	六秒
眠イ	氣ノシズム時	二十秒

茲ニ於テ第三回身體的検査ヲ行フ而シテコハ前後三回共大差ナキヲ以テ一括シテ茲ニ之ヲ記載ス

黃、身體的現在徵候

體格大、營養良、皮下脂肪層及筋肉ノ發育亦之ニ適ス前胸部及腹部ノ皮膚ニハ淡黑色ノ小斑數多散在ス外視シ得ベキ結膜ニハ血量中等身體ノ發育ニ不適合ノ所ナク、左右均等ニシテ右手ノ示指ソノ中央ヨリ缺如スルノ他損傷ノ痕跡又ハ畸形等ヲ認メズ頭部ニハ黒毛密生シ輕打スルモ疼痛ヲ訴フル部ナク頭部及顔面左右均等ニシテ右半側顔面筋一般ニ稍弛緩セルノ疑アリト難顔面神経ノ諸枝ニ麻痺痙攣ナク兩眼大々尋常眼球運動及視野ニ異常ナク眼球結膜反射ハ陰性、瞳孔ハ左右同大ニシテ圓形、尋常大、調節機能良、對光反應常ノ如ク伸出セシムルニ直ニシテ震顫ナク咽頭及硬口蓋反射陰性懸壺垂ハ直ニシテ發育ノ際能ク舉上ス四肢ニハ強健症狀アリ又反響運動ヲモ起サシムルコトヲ得

147、 前ニ話シタモノ、外ニオ前ヲ意地メ或ハ仕事ノ邪魔ヲスル人ガナイカ

148、 オ前ノ經歷善性等ニ自慢スル様ノコトハナイカ

149、 今迄何カ恐ロシイト思フタコトハナキカ

150、 義務デホフトシタコトハアルガソノ外ニハ何モアリマセヌ

151、 心配バカリテヌ

152、 仕事ガ如何ニモ面白ク出来テはしやいだコトヤ馬鹿ニヌツコソデオツタコトハナイカ

153、 仕事ノ出来タ時ハ嬉シイデスナ然シ不仕合バカリテアマリ嬉シカワツタコトアリマセヌ

154、 氣分ガ急ニ變ルコトハナイカ

155、 自分ノ思ヒガ強ハヌ時ハ急ニ變リマヌ其時ハワツト氣違ヒ見タ様ニナリマヌ

156、 譯モノシニ笑ツテ見タタハナランカ

157、 夫レハアリマヌ監房ニデモ居レバ歩キ廻リタケテ仕方ノナイ時ガアリマヌ

158、 親屬知人ガ會ヒニ來タ時ハドシナ氣ガスルカ

159、 松井及後藤ガ會ヒニ來テクレマシタ後藤ガ來テ笑レタ時ハ私ハ泣キマシタアリレハ人格ノ人デスカ

160、 親屬聯合ノ有様ヲ檢セント欲シタノ如ク先ツ檢者ヨリ任意ノ刺戟語ヲ發シ直ニ被告ノ思ヒ出ス任意ノ語ヲ云ハシメ(反應語)且解答ニ要スル時間ヲ測定セリ

161、 度度參リラシタ時ハ不思議シタナデモ兵隊ニ行ク前デシタ體ヲ持ツテ行ツテ裸體ニナツテ體ヲナメ川ヨモ體花デ消メソレカラ水垢體ヲ取ツテ御宮ヲ度度體ヲスルトソノ時風モナイノニ注連繩ガヘラヘラト動キマシタ神様ハ信ズレバ信ズル程價値ガアル參拜中ヲ人ニ見ラレト此價値ガナクナルガ此度度參リノ時モガラガラト戸ヲ開ク音ガシテ私ハ見付ケラレタ様ニ思ヒマヌ

162、 不思議ノ音ハ聞エヌカ

163、 ソノ度度參リノ時參ツテ手ヲ打ツトピンピント鳴リ如何ニモ訝エテ聞エタノハ不思議シタ尙其時流ガ聞ク音ガシマ

164、 度度參リラシタ時ハ不思議シタナデモ兵隊ニ行ク前デシタ體ヲ持ツテ行ツテ裸體ニナツテ體ヲナメ川ヨモ體花デ消メソレカラ水垢體ヲ取ツテ御宮ヲ度度體ヲスルトソノ時風モナイノニ注連繩ガヘラヘラト動キマシタ神様ハ信ズレバ信ズル程價値ガアル參拜中ヲ人ニ見ラレト此價値ガナクナルガ此度度參リノ時モガラガラト戸ヲ開ク音ガシテ私ハ見付ケラレタ様ニ思ヒマヌ

165、 不思議ノ音ハ聞エヌカ

166、 ソノ度度參リノ時參ツテ手ヲ打ツトピンピント鳴リ如何ニモ訝エテ聞エタノハ不思議シタ尙其時流ガ聞ク音ガシマ

167、 前ニ話シタモノ、外ニオ前ヲ意地メ或ハ仕事ノ邪魔ヲスル人ガナイカ

168、 オ前ノ經歷善性等ニ自慢スル様ノコトハナイカ

169、 今迄何カ恐ロシイト思フタコトハナキカ

170、 義務デホフトシタコトハアルガソノ外ニハ何モアリマセヌ

171、 心配バカリテヌ

172、 仕事ガ如何ニモ面白ク出来テはしやいだコトヤ馬鹿ニヌツコソデオツタコトハナイカ

173、 仕事ノ出来タ時ハ嬉シイデスナ然シ不仕合バカリテアマリ嬉シカワツタコトアリマセヌ

174、 氣分ガ急ニ變ルコトハナイカ

175、 自分ノ思ヒガ強ハヌ時ハ急ニ變リマヌ其時ハワツト氣違ヒ見タ様ニナリマヌ

乙、一件記録摘要

子ハ一件記録中ニ於テ被告ノ精神狀態鑑定ニ必要ナル部分ヲ摘要シ之ト前記被告ガ子ニ語レル所ト相一致スルヤ否ヤヲ檢シ且現行當時ノ被告精神狀態ヲ推考スル資料トナシ被告ノ綜合シテ說明ヲ加ヘ次ニ鑑定ヲナサント欲ス

(此部ニアル記録摘要見)

丙、說明

上記検査ノ結果及一件記録ヲ綜合シテ說明ヲ加ヘ被告ノ精神狀態ヲ鑑定スルコト左ノ如シ

但シ說明中括弧内ノあらびや數字ハ検査記録中ノ参照スベキ問答ノ番號ヲ示シ日本數字ハ同ジク参照スベキ記録摘要中ノ各項目ヲ指示シ避ケル爲メ一々何問答或ハ何項参照ト記載セズ只數字ノミヲ記入スルコト、セリ

(天) 遺傳關係

被告源作ノ父ハ身體弱キ方ニシテ毎夕五勾位ヒノ酒ヲ用ヒ母ハ現今健康ナレドモ氣血若年ノ頃(被告等同胞姪中)大酒ヲ爲シ時シテ酒量一升ニ及ベルコトアリト云フ從テ被告ノ生メル子供ニハ正常ナルモノ少ク長女ふちハ癡ニシテ且白痴長男源

作ハ後述ノ如キ人物ニシテ其他一人幼死セルモノアリ末女たけ
のガ只正常ナル人ナルノミ(5, 6, 9, 10, 23)一乃至四)叔父母
ニモ短氣ノ人多シ(2)乃至(8)ソノ他ニハ被告ノ血族中特記スベ
キ精神病者ヲ見ズト雖モ(9)乃至(14)一乃至四)被告ノ血族關係
ヨリ云ハバ精神病ニ罹リ易キ素因ヲ有スルモノト云ハザルベカ
ラズ

(地) 生活史及既往症

源作ハ生來健全ニシテ小兒時代ニ特記スベキ疾病ニ罹リタル
コトナク學業ハ尋常小學三年ヲ修業シタルノミニシテ在學中ノ
成績モ良好ナラザリシ、故ニ學校ニ在リテモ常ニ友人ヨリ輕蔑
サレタリ(2)乃至(7)十三歳ノ時小學校通學ヲ止メ爾來二十歳迄
温順ニシテ家ニ在リテ百性及酒小費ノ手傳ヲナシ身體モ壯健ニ
シテ氣分ニモ異常ナク友人トノ折合モ良カリキ(28)二十歳ノ時
日露戰爭ニ際シ輻重輸卒ニ徵セラレテ出征シ沙河迄行キシモ脚
氣ノ爲メ送還セラレ家ニ在リテ肉屋ヲナシ百圓程ノ金儲ケヲ爲
セリ次デ戰後ノ行實ニ依リ動八等ニ叙セラレ一時賜金八拾圓ヲ
受ケタリ然ルニ被告二十四歳ノ頃ヨリ家庭圓滿ニ行カズ常ニ
父ト意見衝突シ始メタリ(29)思フニ被告ノ精神異常ハ既ニ此時
ニ始マリシモノナラン

明治四十年五月即被告二十六歳ノ時家庭不和ナルヨリ燒賣ヲ
起シ家出シ先ツ岡崎名古屋中津ヲ經テ信州上田ニ至リ長谷川
云フ種屋ニ入りシモ暫時ニシテ將來ノ見込ナシト同家ヲ辭シ
然トシテ善光寺ニ至リ院中易者ノ言ヲ輕信シテ北海道ニ
行ク氣ニナリ何等ノ計畫ナクシテ直ニ新潟ヲ經テ小樽ニ着シ茲
ニテ初メテ自己ノ奉公口ヲ探シ何ノ考フル所モナク紹介人ノ言
フ所ニ從ヒ直ニ夕張ニ赴キ或山師ノ家ニ入り込ミ拍ノ皮ヲ剥キ
瀝ヲ取ル仕事ヲ手傳ヒ大ニ主人ノ信用ヲ博シタルガフツ話ヲ
リ又其所ノ人ガ話ヲシテ居リテ肝要ナ所ニナルガフツ話ヲ
止メテ遂ニ思ヒマセラレ且北海道ニ二月計リ居ル中ニ大ニ

氣ガ太クナリテ小サイコトヲシテオツテモ駄目ダト思ヒ急ニ同
家ヲ辭シタリト云フ即チ被告ノ精神異常ハ益々著明トナリ行爲ハ
衝動性ニシテ思慮ナク人ヲ輕信シ易クナリ且妄想ノ痕跡顯レ始
メタルモノナラン(26)乃至(28)被告二十六歳迄ニ三回結婚シタル
モ皆離縁トナリシハ被告ノ精神状態ト關係アルモノニ非ラザルカ
一言附シテ參考トナス

次に次ニ仕事ガ小サクテ駄目ナリト山師ノ家ヲ辭シタル被告ハ
尙少張ニ在リテ一週間計リ富屋ノ手傳ヒヲナシ次デ一ヶ月計リ
天鹽通ヒノ船ニ船員トシテ乗込ミ給金ハ取ル丈ケ賭博ニ貢ケテ
仕舞ヒ道々ノ體ニテ小樽ニ歸リ再ビ夕張ニ赴キ炭坑夫トナリ一
ヶ月計リ勤キ彼ノ言ニヨレバ其處ニテモ非常ニ信用アリシガ風
ヲ引イテ肺病ノ様ナ咳ガ出ル様ニナリ急ニ歸國セント思ヒ立チ
國ヨリ送金ヲ受ケ渡事ニテ直ニ歸宅セリソレヨリ翌年迄ハ百性
ノ手傳ナドジテ二十七歳中ハ平穩ニ經過セリ思フニ此年ハ被告
精神病發作開始時ナリシナラン(30, 31)

ニ他ノ始製産屋ニ轉シ此處ニテハ大ニ信用ヲ博シタルガ仕事ノ
邪黨スル人ガ同店ニモ追跡シ來リ居リ又不景氣トナリテ職工ノ
減員ヲ行フコト、ナリタルヲ以テ之ヲ幸ニ同所ヲ辭職セリ被告
ガ奉公先ニテ直ニ信用ヲ博スルト云フハ其ダ疑ハシキコトニシテ
テ且被告ノ行ク所トシテ必ラズ不快ナルコト起ルカ仕事ノ邪黨
ヲスルモノ追跡シ來リ居ルハ恐ラクハ事實ニ非ラザルベク之レ
被告ノ精神状態ヲ視テ注目スベキ事柄ナリ(41)

一、些細ナル事ニ依リテ轉々變遷スル被告ハ二十九歳ノ春人方車
夫トナレリ名古屋廣小路ノ紀念碑ノ下ニ於テ人力車夫トナリシ
初日ノ出來事ヲ語ルヲ聞クニ甚ダ詳細ヲ極メ談話ハ冗長ニシテ
止マル所ヲ知ラズ(24)此ノ如キハ通常ノ人ニハ決シテ見ザル所
ナリ間モナク逆モ身體ガ續カマカラトテ車夫ヲ廢業歸宅シ百性
ノ手傳ヲシテ居リシカ同五月〇〇條太郎ノ材木店ニ入り直ニ主
人ニハ見込マレタリシガ朋輩ノモノニ故意ニ被告ヲマゴツカセ
ル者アリ又仕事ガ劇シクテ病氣トナリ逆モ務マラヌト云フテ愛
知病院ニテ受診後歸宅シ山ノ手傳等ナセシモ尙身體ニ疲勞來リ
テ仕方ナカリシト云フ併シ此加修材木店ニ半ケ年務メソレヨリ
二ヶ年板干ヲシテ日ヲ暮セリ尙三十歳ノ春妙ニ死ニタイ様ナ氣
ガシ自殺ノ目的ニ九寸五分ヲ買入レントシ新城實米寺等ヲ放浪
セシモ短刀手ニ入ラザリシガ刀ト自宅ニ短刀ノアルコトニ想到
シ之ヲ取出サントシテ急ニ歸宅セリ而シテ隙ニ乘シテ持出セル
短刀ヲ平常信仰セル不動様ノ洞穴ニ祭リ込ミ置ケリ而シテ死ニ
タクテモ何ダカ死ニ切レズ家ニ在リテ百性ノ手傳ヲナシテ五六
年ヲ暮ラシ本年ニ至レリ(47)

こ、ソノ他尙被告ニハ甚ダ奇行及非行多ク庚申サンノ頁フテ掃除
ヲシタリ、石碑ノ傍ニ矢來ヲ結ビ無暗ニ拜ミ土農工商東南西北
ト彫レル石碑ヲ不動様ニ獻上シタリ(25, 26, 27, 28)スルカト思
ヘバ時トシテ發作的ニ暴行ヲナスコトアリ例ヘバ明治四十四年

六月父ト口論ノ末父ヲ鐵棒ニテ毆打セントシ又大正二年七月同
ジク火箸ヲ以テ父ヲ毆打シ顔面ニ負傷セシメ又大正三年一月唯
唯仲成ノ仕方ガ不公平ナリト仲成者〇〇勝太郎ヲ酒家ニテ毆
打シ翌四年八月〇〇龜四郎ヲ下駄ニテ毆打シタルコトアリ(七)
或ハ父ノ印鑑ヲ盜用シテ相續届ヲナシ(五、六)或ハ自己ノ示指
ヲ切取ル(十)等ノコトアリ、大正六年五月八日付金田總堂ノ報
告書ノ言ヲ藉リテ云ハバ「性實忿憤ニシテ親慕ナリ平素實父ト
ノ仲甚惡シク自己ノ缺點ハ更ニ省ミ只父ヲノミ攻撃シトシテ
父ノ行爲ヲ頁トセズ」父ガ自己ノ意ニ從ハザル時ハ腕力ニ訴ヘ
テモ我意ヲ通サマレハ止マズ即チ社會ニ我ノミアリテ他人ナ
キガ如ク振舞フ自我的ノ人物ナリト云フ是等ノ行爲ヲ見レバ被
告ハ到底常人ニ非ラザルコトハ何人ト雖推知スルコトヲ得ン
也、大正六年二月被告ハ兩親及親屬ノ云フ處ヲ聞キ入レズシテ自
己ノ住家ヲ賣却シシノ實上金ノ幾分ヲ親及妹ニ與ヘ或ハ借金ヲ
返済シ殘餘ノ五六拾圓ノ金ヲ以テ從弟ヲ手續リテ親鮮大郎ニ赴
キシモ思フ様ニナラズ四月末歸宅シ杉苗ヲ植エタリナド致シ居
リシナガ段々精力ガ衰エテ來リドワモ死ナ、クテハナラヌ様ナ
氣ガシ昔ノ忙シク夏ニナラヌ中ニ死ヲ決行セントシ五月二十二
日ニ至リ遂ニ今回ノ犯行ヲ惹起セルモノナリ(52, 53, 54, 55, 五、六
七、八)

(支) 現在 徵候

り、此ノ如キ遺傳ト既往歴ヲ有スル被告ノ現在徵候如何ト云フニ
ソノ舉動ハ衝動的ニシテ常ニ痴笑ヲ漏ラシツ、アリ波ハ父母同
胞ノ名前及年齢自己ノ生年月日、現所現在月日等ヲ詳細シ居レ
バ(1)乃至(2)、(7)乃至(8)等)場所及人ニ對スル指南力ハ尋常ニシ
テ胸ノ工合ガ惡ク熱呼吸ガ出ル或ハ精力ガ次第ニ衰ヘルト云
スト雖(6, 7, 75, 76, 等)確タル病識ナク、注意力ハ散漫ニ
シテ常ニアチラコチヲ見廻ハシ檢論中彼ノ足ヲ踏ミ机ヲ打ツ

モ敢テ之ニ注意ヲ向ケントハセズ
ワ、領解力ハ低位ニ在リ檢者ガ醫師ノ器具ヲ以テ醫師ラシキ質問
ヲ被ニ向ケルニ係ハラズ被告ハ第一回檢診申列事ノ審問ヲ受ケ
ルモノト思惟シ第二回檢診ニ至リ予ノ説明ニヨリテ始メテ醫
師ノ診察ヲ受ケツ、アルコトヲ知レルガ如キ藍色ヲ紫色ト誤レ
ルガ如キ、簡單ナル繪畫ヲ見テソノ畫意ヲ領解スルコト能ハザ
ルガ如キ(89)又一定ノ文句ヲ排列シテ意義アル文章トナスコト
困難ナルガ如キソノ適例ナリ記憶力及記銘力ニハ大過ナク被告
ハ前回ノ檢診ノ日昨日ノ副食物被ノ生活史ノ大要例ハ何處ノ
時結婚シタルヤ、北海道及朝鮮ニ行キシ大要及日清日露大戦ノ
何時ナルヤ等(2)乃至(3)ヲ能ク記憶シ被告ノ生活史ヲ語レル所
如キ詳細ヲ極メ却テ一部ハ虛談症ニ罹レルモノ、談話ニ非ラザ
ルカヲ疑ハシム
る、暗算ハ彼ノ教育程度ニ比シ相當ニシテ(140-142)一般智能モ亦
然リト云フヲ得ベキモ常人ニ比シ低位ニアルハ明カナリ(92)乃
至(130)判斷力稍足ラザルガ如ク見ユルモ(129)乃至(131)被告ノ教育
程度ニ比シ此程度ニ位スルハ止ムヲ得ザルコトナルベシ
な、被告ハ其ガ多種ノ妄想ト二ノ妄覺ヲ有ス即チ胸カラ熱イ呼
氣ガ出ル、胃腸ガタマシ腹ノ中ニ何カ變ワタ由モ居リハセメ
カ(6)、7)兼テ居ルト身體ガうかうシテオトル様ニ思フ(9)人
ガ話ヲシテ居テモ肝要ナ所ニナルトアツト切ツテ被告ニ(9)人
ヲサセル(10)視察ハ變人デ成ルベク自己ノ反對ニ出ル自自分マ
ゴツカセテ極道ニスル(41)、51、19、20)朋輩ガ仕事ノ罪
ヲシテ覺エサセヌ(41)友人ガ自分マゴツカセヨウニスル(47)
山本ガ自分家ニワルク仕カケル、而シテマゴツカセヨウニスル(47)
敵ノ生レ代リノ標人ヲ(52)父ガ無罪罪被宣告ニ被セヨウニスル
ル(56)廿一)毒ヲ吞マサレタコトガアル(72)、73)屋主ノ心ヲ見抜
ク(21)等種々ノ連綿ナキ妄想アリ且二ノ妄覺アリ不動様
ヲ一心ニ拜ンデ居ツタラ光ガ見ユタ(14)風モナイノニ注連繩ガ

動キ痛ヲ問ク音ガシタ(145)等ノ如キ之レナリ被告ガ少
クニテモ變ワタコトニ遇ハバ之ヲ自己ニ關係アルモノトシテ妄
想ヲ逞クス例ハハ監獄ヨリ給與サレタル藥袋ノ裏ニ人體ノ畫ニ
炎點ヲ示シタルモノアレバ自己モ此ノ如ク刺射セル、標シナリト
云ヒ永保ト云フ字アレバ自己ガ永ク監獄中ニ保タル、コトナリ
ト云フ(64)乃至(66)即チ被告ノ精神界ニハ一定ノ聯絡ナキ種々ノ
妄想ガ時々發來セシモノナルベク父ガ變人ニシテ自分ト必ズ反
對ニ出テ自分ノ仕事ヲマゴツカセ極道ニスルヲ以テ自己ト父ト
共ニ死セバ母ヤ妹ガ安心シ家ノ爲メニナルト思惟スルガ如キモ
亦妄想ノ一種ナリト云フベシ
わ、被告ノ話シ振リ及第15回問答ノ検査ニ依リテ觀念聯合ノ狀況ヲ
窺フニソノ促進意思興等ナク却テ稍滯滞シ談話ハ迂遠冗長ニ
シテ滔々トシテ歸ジソノ止マル所ヲ知ラザルガ如キモ而モ語程
斷裂シ岐路ヨリ岐路ニ入り差ニ其末旨ヲ失シ被告ガ畢竟何ヲ語
リツ、アルカヲ知ル能ハザルコトアリ此際語頭ヲ主題ニ引展サ
ントシテ一ノ問ヲ投入スルモ不透過ニシテ彼ハ自己ノ欲スル
方面ニ談シ去ルヲ常トス(6、9、28、33、34、乃至43、47乃至
56)等)但シ當意即答症類音連合新語作製等ヲ見ズト雖虛談
症ハ認メラル、ガ如シ
か、感情ハ稍鈍麻セルガ如ク父ヲ脅迫シ叔父ニ強談スル如キコト
ヲ語ルモノ一向平氣ニシテ被告ガ自殺セント決心シ或ハ父ヲ殺サント
ト決意セルヲ語ルモノニコトシテ敢テ悲痛ノ情ヲ示シ即チ表情
銷出症アリト云フベシ次ニ意志發動力ハ多少増進セルモノ、如
ク其ガ多辯ニシテ且談話中靜止スルコト少ク或ハ顔ヲ撫テ手ヲ
モミ胸ヲサスル等ノ常同的動作ヲ繰り返シツ、アリ意志影響
響性ハ亢進シ強硬症及反響症ハ明ニ存在シソノ反響症狀タル
拒絶症狀狀狀ハ現今ニテハ之ヲ認ムルコト能ハズ
十四、言語ハ明瞭ニシテ發音ニ異常ナク抑揚アリ用語文法ニハ異

常ナク手書ニハ書蹟失前及亂雜ナシ
た、被告ハ身體的ニハ精神病學上特記スベキ異常ナシ
黄、診、斷

れ、前記(天)乃至(老)ニ記載ノ遺傳關係生活史既往歴及予ガ檢診
ノ現在徵候ニヨレバ被告ハ正シク一種ノ精神病ニ罹リ居ルモノ
ニシテソノ伴病ニアラザルコトハ第(150)乃至(160)問答ヲ見テ明
ナリ精神病學上此ノ如キ症狀ヲ早スルモノノ早發痴狂ト稱シ更
ニ分類シテ被告ノ如ク破瓜期ニ初發シ感情ノ鈍麻意志影響性
ノ亢進及連絡ナキ種々ノ妄想發覺等ヲ來スモノノ破瓜狂ト稱ス
そ、初メテ被告ノ本病ニ罹リシハ二十四五歳ノ頃ナラン本病ノ
症狀著明トナリシハ明治四十年北海道行キ前後ノコトナラン爾
來病勢ハ一進一退時ニハ怡モ全快シタルガ如ク見エシモノノ實
ハ然ラズシテ結局幾分ノ進展ヲ示シ病勢進展スルニ從テ漸次妄
想ヲ増シ痴呆加ハリ以テ今回ノ犯行時ニ至リシモノナリ

つ、假令病勢ニ弛一張アリシトハ云ヘ十年來早發痴呆(破瓜狂)
ニ罹レル被告源作ガ本年五月二十二日夕方ヨリ二軒ノ居酒屋ヲ
飲モ廻リ(酒量ハ凡ソ一升ニ達セシト云フ)酩酊シ酒氣ニ乘シテ
我家ニ歸リ日頃スルコトナスコト自己ノ反對ニ出テ自己ヲマゴツ
カセ極道ニ陥ラシメタノハ父ノ所業ナリトノ妄想ニ驅ラレ父ニ
自殺ヲ勸メ昔セザレバ自ヲ手ヲ下シテ父ヲ殺シ自己モ自殺シ
テ風波絶間ナキ一家ヲ平穩ニ復サシメント企テタルハ主トシテ
病的妄想ニ起因シ一部酒氣ノ手傳ヒタルモノナルコトハ言フ俟
タズシテ明ナリ(9)乃至(56)乃至(58)次ニ被告ガ犯行ノ當時
自己及周圍ニ對シ如何ニ辨別力ヲ失ヒ居リシカハ被告家ニ入り
テ喫飯シナガラ之ヲ知ラザリシニヨリテモ略推知スルコトヲ得
ン(十六、十八)又源作ガ如何ニ酩酊シ居リシカハ足元ガフツラ
ラシ顔色變リ總ベテノ舉動荒々シカリシトノ〇〇金太郎及父宇

三郎ノ申立ニ依リテモ明ナリ(十一乃至十八)
れ、次ニ被告源作ガ父ニ自殺ヲ勸メ聞カザレバ自ヲ手ヲ下サント
セルコトモ妄想ニ起因セルモノニシテ大シテ根柢アルニアラザ
ルコトハ犯行ノ際六十有歳ノ老人ガ源作ト僅カ十間足ラズノ距
離ヲ以テ小路ヲ逃走シ壯者ナル被告ガ之ヲ追電ケレバ直ニ其目
的ヲ達スルコト容易ナルニ係ハラズ敢テ之ヲ爲サントハ爲セズ
父ガ逃ゲタカラ駄目ナリト直ニ氣ヲ變ヘテシマフ如キ事ニ依リ
テ推知スルヲ得シ此ノ如ク氣ノ變リ易キコトハ往々早發痴呆患
者ニ見ルコトナリ尙被告ガ犯行ノ四五日前ヨリ既ニ思想シ錯亂
セルコトハ證據第二號トシテ提示サレタル所謂遺書、犯行ノ四五
日前ヨリボツボツ書キシモノヲ見ルモ明ナリ即チ

(其一) 申請
家名 一家ノ和合
親子ノ義務
家事ニ盡キ相當スル業務
家事ノ前後ニ盡キ
成力ウスキ時ハ前後ニ盡キ
信戚ノ信用ヲ有スル事
金ハ 惡心力ニ應リ合多レ
善心ハ金ノ廻リ合道シ
一生ノ前後ニ盡キ
困難ニ生スルトモ和合ニ盡テ
氣落スル者ハ行末ノ不仕合
世ノ中安泰ノモトイハ和合
男士ハ和合ノ聲イ
女子ハ

(其二) ジヤケ筆ヲ以テ後日ノ爲メ書置キ
生事若年ノ頃ハ相當諸人ノ信用有シモ一家ノ和合トナラズ
若年ナレバ智力モ少ク遂ニハ不和合、兼合モツカズ如何ナル

驚發シテモ相當屬スル考ヘ種々ナル考ヘシモ

(其三) 一書ノ後日、安心ノ爲メ前後ノ申請申候

小生事若年頃相當信用有リシモ親子ノ和合ニ至ル迄縁合ノ心

一智イタサズ

(其四) 弱筆ヲ以テ小生今回係ル不幸不仕合揃ヒニ至ル

事實何分一家不和合ニシテ心ノ一智カナラズ相當年ヲ至ル何

一トシテ目的タウシ難親戚ノ常用モナク家名行末後見ノ

(其六) 小生事、若年ノ頃相當信用受シ不仕合ノ家ニ生スルモ仕

合ハ宜シキ方ニ向ヒ居リシガ智力少クナリ所何々心餘リ多キ

クシテ種々ナル法心數回ニテヨビ其他萬事ニ就テモ精力ヲ一

回モナクシテ年モ相當至レバ精力モ考ヘルヨリモトロヘ入

ダシハ甚ナルニ落ナレバ行末困難信用ヲ見ハナサレ行末ノ見

末ハ日ノ前ニ至ルコトニ存シ

トアリテ假令彼ノ教育程度低クシテ庸常人ナラバ決シテ此ノ

如キ文意不明ノ文章ヲ作ラザルモノナリ

又、依之觀之數年來被告源作ハ當時ニハ法律上所謂心神耗弱ニ

シテ發作癡狂時ニハ心神喪失者ナリシナリ、夫レ早發癡呆患者

ハ一見シテ指力及領解力等比較的良好ニ保持セラル、ニ拘ハ

ラズ感情界及意志界ノ障礙ハ甚ダニシテ或ハソノ劇性ナル

トアリテ假令彼ノ教育程度低クシテ庸常人ナラバ決シテ此ノ

如キ文意不明ノ文章ヲ作ラザルモノナリ

又、依之觀之數年來被告源作ハ當時ニハ法律上所謂心神耗弱ニ

シテ發作癡狂時ニハ心神喪失者ナリシナリ、夫レ早發癡呆患者

ハ一見シテ指力及領解力等比較的良好ニ保持セラル、ニ拘ハ

ラズ感情界及意志界ノ障礙ハ甚ダニシテ或ハソノ劇性ナル

トアリテ假令彼ノ教育程度低クシテ庸常人ナラバ決シテ此ノ

如キ文意不明ノ文章ヲ作ラザルモノナリ

又、依之觀之數年來被告源作ハ當時ニハ法律上所謂心神耗弱ニ

シテ發作癡狂時ニハ心神喪失者ナリシナリ、夫レ早發癡呆患者

ハ一見シテ指力及領解力等比較的良好ニ保持セラル、ニ拘ハ

ラズ感情界及意志界ノ障礙ハ甚ダニシテ或ハソノ劇性ナル

トアリテ假令彼ノ教育程度低クシテ庸常人ナラバ決シテ此ノ

如キ文意不明ノ文章ヲ作ラザルモノナリ

又、依之觀之數年來被告源作ハ當時ニハ法律上所謂心神耗弱ニ

シテ發作癡狂時ニハ心神喪失者ナリシナリ、夫レ早發癡呆患者

ハ一見シテ指力及領解力等比較的良好ニ保持セラル、ニ拘ハ

ラズ感情界及意志界ノ障礙ハ甚ダニシテ或ハソノ劇性ナル

トアリテ假令彼ノ教育程度低クシテ庸常人ナラバ決シテ此ノ

如キ文意不明ノ文章ヲ作ラザルモノナリ

又、依之觀之數年來被告源作ハ當時ニハ法律上所謂心神耗弱ニ

シテ發作癡狂時ニハ心神喪失者ナリシナリ、夫レ早發癡呆患者

ハ一見シテ指力及領解力等比較的良好ニ保持セラル、ニ拘ハ

ラズ感情界及意志界ノ障礙ハ甚ダニシテ或ハソノ劇性ナル

トアリテ假令彼ノ教育程度低クシテ庸常人ナラバ決シテ此ノ

如キ文意不明ノ文章ヲ作ラザルモノナリ

又、依之觀之數年來被告源作ハ當時ニハ法律上所謂心神耗弱ニ

シテ發作癡狂時ニハ心神喪失者ナリシナリ、夫レ早發癡呆患者

ハ一見シテ指力及領解力等比較的良好ニ保持セラル、ニ拘ハ

ラズ感情界及意志界ノ障礙ハ甚ダニシテ或ハソノ劇性ナル

トアリテ假令彼ノ教育程度低クシテ庸常人ナラバ決シテ此ノ

如キ文意不明ノ文章ヲ作ラザルモノナリ

又、依之觀之數年來被告源作ハ當時ニハ法律上所謂心神耗弱ニ

シテ發作癡狂時ニハ心神喪失者ナリシナリ、夫レ早發癡呆患者

ハ一見シテ指力及領解力等比較的良好ニ保持セラル、ニ拘ハ

ラズ感情界及意志界ノ障礙ハ甚ダニシテ或ハソノ劇性ナル

トアリテ假令彼ノ教育程度低クシテ庸常人ナラバ決シテ此ノ

如キ文意不明ノ文章ヲ作ラザルモノナリ

又、依之觀之數年來被告源作ハ當時ニハ法律上所謂心神耗弱ニ

シテ發作癡狂時ニハ心神喪失者ナリシナリ、夫レ早發癡呆患者

ハ一見シテ指力及領解力等比較的良好ニ保持セラル、ニ拘ハ

ラズ感情界及意志界ノ障礙ハ甚ダニシテ或ハソノ劇性ナル

トアリテ假令彼ノ教育程度低クシテ庸常人ナラバ決シテ此ノ

如キ文意不明ノ文章ヲ作ラザルモノナリ

又、依之觀之數年來被告源作ハ當時ニハ法律上所謂心神耗弱ニ

シテ發作癡狂時ニハ心神喪失者ナリシナリ、夫レ早發癡呆患者

ハ一見シテ指力及領解力等比較的良好ニ保持セラル、ニ拘ハ

ラズ感情界及意志界ノ障礙ハ甚ダニシテ或ハソノ劇性ナル

トアリテ假令彼ノ教育程度低クシテ庸常人ナラバ決シテ此ノ

如キ文意不明ノ文章ヲ作ラザルモノナリ

緊張狂

(口) 緊張狂、本病ノ初期ニ於テハソノ症狀全ク破瓜狂ト同一ナレドモ病初ハ多少沈鬱ニシテソノ前驅期長ク、多數ノ妄覺妄想ノ發現アルヲ常トス而シテ奇行多ク、無爲茫乎トシテソノ日ヲ送り、突然徘徊無意味ノ訪問等ヲナシ、時トシテ毆打傷害、自殺企圖、放火等ノ犯罪ヲ敢テス、本病ノ特徴トスベキハ、所謂緊張性昏迷及興奮ニ陥ルニ在リ、此際ニハ、餓、拒食、常同、衝動等ノ諸症狀ト共ニ、表情茫乎トシテ自發運動ヲナスコト少ク、強硬症狀及反響症狀アリ、唾液及兩便ノ始末惡ク不潔汚穢トナリ、而シテ突然衝動的

起因シ成ハ妄覺妄想ニ驅ラレテ本心ヲ失ヒ諸種ノ行動ヲトシ由シテソノ行動タルヤ多クハ衝動的ニシテ健康者ノ如ク行爲ニ原因動機等アルニ非ラズ從テ盲目的ニ突然思ハザル暴行ヲ敢テスルモノナリ
鑑定
上記説明ノ如キ理由ナルニ依リ左ノ如ク鑑定ス
一、〇〇源作ハ明治四十年頃ヨリ早發癡呆ナル精神病ニ罹リ居リ該病ハ現今ニ於テモ尙繼續中ニシテ當時彼ハ刑法第三十九條ニ所謂心神耗弱者ナリ
二、〇〇源作ハ大正元年五月二十二日頃ニハ一種ノ精神の興奮發作アリシ如クソノ當時ハ刑法第三十九條ニ所謂心神喪失ノ狀態ニ在リシモノト認ム
附記、被告ノ本病ハ一時輕快スルガ如ク見ユルコトアルモ全治困難ナル疾病ナルヲ以テ何時如何ナル所ニテ衝動的ニ反社會的行爲ヲナスヤモ計リ難キヲ附言ス
此鑑定ハ大正〇年八月十一日著手
同 年〇月二十日終リ
大正〇年八〇〇〇日 宿所 小南又一郎 鑑定人

妄想性癡狂

動作ヲ行フ、此動作ハ無思慮衝動的ニシテ、外界ノ事情ヲ顧慮セズシテ盲動ス、言語モ亦衝動的錯亂性ニシテ、詞語新作、常同、反復等ヲナシ、不潔、不眠、食思不整、色慾亢進アリ、意識ハ少シク瀰漫シ感情ハ漸次鈍麻ス、一般ニ本病ハ妄覺妄想ノ多キ刺戟期、興奮昏迷期ヲ經過シ、ソノ大部分ハ癡呆ニ陥ルヲ常トス。
(八) 妄想性癡狂、本病ハ前二病型ニ比シ、妄想妄覺ノ持續長期ニシテ且顯著癡呆トナル迄ノ經過比較的長キモノナリ、本症ヲ又次ノ三型ニ區分ス。
(一) 幻覺性妄想性癡呆、初メ著シキ幻覺アリテ、之レヨリ妄想ヲ惹起スルモノナリ、即チ電氣光線等ニ依リテ身體ヲ迫害セラル、ナドノ所謂理學的被害妄想ヲ呈スルモノ多ク、又關係妄想ヲ有スルモノ少ナカラズ、行爲ハ凡テ衝動性ニシテ、何等ノ動機ナクシテ俄然暴行ヲナスコトアリ。
(二) 妄想性癡呆、多クノ連續ナキ追跡妄想、誇大妄想ヲ有シ、幻覺ヲ伴フ、情緒ハ刺戟性トナリ、暴行ニ陥ル、輕度ノ衝動行爲、拒絕症狀及色情亢進アリ。
(三) 空想性妄想性癡呆、コハ主トシテ秩序アル妄想ヲ有シ、ソノ妄想ハ幻覺ノ影響ヲ受クルコト少シ、而シテソノ想像的架空のニシテ、全ク根據ナキコト多ク、些細ノ事實ニ重大ナル空想的意味ヲ附會シ、已レト關係アルガ如ク妄想シ或ハ被害ヲ恐レ、或ハ尊大ニ構フルヲ常トス、行爲ハ妄想ニ依テ支配セラレ時トシテ放火殺人等ヲナスコトアリ。

上述ノ如ク早發癡狂ニハ種々ノ病型アレドモ、之ヲ一々鑑別シテ診斷ヲ附スルハ困難ナルコト多キヲ以テ非常ニ定型の病徵ヲ呈セザル限リハ、早發癡呆ナル病名ノ下ニ一括シテ鑑定スルコトトナリ居レリ。本病

ノ初期ニ於テハ甚ダ屢々ひすてり或ハ神經衰弱ト誤認セラルト雖、感情ノ方面ヲ精査スレバソノ鑑別容易ナルベク、癲癩或ハ躁鬱狂トノ鑑別モ往々困難ナルコトアリ、麻痺性癡狂トハ身體的症狀ヲ精査スレバソノ鑑別容易ナリ、破瓜狂病者及輕度ノ癡呆者ニ在リテハ、特ニ犯罪ノ傾向多ク、浮浪者ノ中ニ本病者ヲ見出スコト往々ナリ、本病者ハ比較的理力、指南力、智力等健全ナルニ係ハラズ、俄然衝動的或ハ衝動性犯行ヲナスヲ以テ、伴狂者ト誤マルコト多シ、刑法上ヨリ見レバ本病者ノ行爲ハ多クハ心神喪失ノ裡ニ行ヒタルモノニシテ、民法上ニ處分能力アルモノハ少ナク、多クハ心神耗弱者若クハ心神喪失ノ常況ニ在ルモノトシテ處分サル、ヲ常トス。

實例—妄想性癡呆—放火

檢案書

大正〇年六月二十六日〇〇地方裁判所檢事〇〇〇〇ハ〇〇大郎放火被告事件ニ付同應檢事廷ニ於テ
一、犯時及現時ニ於ケル被告ノ精神狀態
ヲ檢案スベキ旨ヲ命ゼリ依テ被告が現時入院中ナル京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院ニ於テ大正〇年七月一日十三日及二十四日ノ三回被告ノ心身狀態ヲ檢診シ同院ニ於ケル病床日誌及一件記録ヲ査閱シ被告是ヲ綜合シテ此鑑定書ヲ作ル
上、檢案記録

〇〇縣〇〇郡〇〇村大字志那 〇〇 浩 郎 三十五歲
甲、第一回檢査(大正〇年七月一日)
被告が診察室ニ入り乘ルヤ粗雑ナルオ辭義ヲナシテ着座シ常人ニ比シ微笑スルコト多シト雖姿勢及着衣等ニ著變ナシ彼ハ談

妄想性癡呆
放火

語ヲ連ルルヤ我ノ云フ所ヨク彼ニ通ズト雖彼ノ云フ所往々我ニ通ゼザルコトアリ之レ被告談話ノ理義淺嬰ニ歸スルコト多クケレバナリ
1、〇サンデスカ
ヘイ
2、名ハ
忠治郎
3、年ハ
三十五歲
4、所ハ
〇〇縣〇〇郡〇〇田村大字志那
5、ドウシテコ、ニ來マシタカ
一寸私ガ氣ガ違フテ病院ニ來イト云ハレマシタ
6、今日ハ
七月一日デス

7、生年月日ハ

明治十六年正月二日デス

8、アナタノ家ノ昔ノコトヲ知ツテ居マスカ

9、祖父母ハ生キテ居マスカ

10、父ノ兄弟ハ

11、母ノ兄弟ハ

12、ソレハ皆壯健デスカ

13、両親ハ丈夫デスカ

14、コレ迄毎日アナタハ何ヲシテ居マシタカ

15、家内ハアリマスカ

16、アナタノ子供ノ時ハ丈夫シデタカ

17、ヒドク病氣ハセナカッタコトバカリデ其外ニハ熱デニ

18、學校ハドノ位ヒ行キマシタ

19、成績ハドウデシタ

20、學業ヲ卒業シテカラ何ヲシテ居マシタ

21、兵隊ニハ行カナカッタカ

22、ナゼ

23、ソノ後ハウチデ何ヲシテ居マシタカ

24、アナタハ長男カ

25、百姓ノ外ニ何カヤッタカ

26、同胞九人ノ名ト年ヲ順番ニ言フテ御覽

27、同胞ノ親屬ニ氣ノ變ニナッタ人ハナイカ

28、此等ノ問答ノ間被告ハ診察室ニ出入スル看護婦等ニ注意ヲ拂ヒ一時間毎ニ開ユル時計時鳴或ハ會社ノ汽笛等ニ耳ヲツバダツルコト多シト雖談話中被告ノ足ヲ躍ミ或ハ机ヲ打ツモ敢テ注意ヲ向ケザルガ故ニ今何ヲシマシタト云ハバ足ヲ踏ミナサレタ机ヲ打チナサレタト答フ

29、之(診察器)ハナシデス

30、ソレハ先生ノ見ル道具

31、之(爪切)ハ

- 30、之(耳掻キ)ハ
其掻キ
- 31、之(ウサリ)ハ
ウサリ
- 32、胸算ハ上手デスカ
一向ヤリマセンデ
- 33、 55×32 ハ
七十五(十二秒ノ後)デス
- 34、 155×32 ハ
六百(七秒)デス
- 35、 17×32 ハ
八十一デス(二十一秒)
- 36、ドモ合ハシテ直シテゴラン
五十一デス(九秒)
- 37、 1917×32 ハ
一回出来マセン(一分ノ後)
- 38、今一番初メニヤツタ數ハ何デシタカネ!
一寸忘レマシタ
- 39、 57×31 ハ
二十六デス(十一秒)
- 40、 155×32 ハ
五十三デス
- 41、間違ヒナイデスカ
ヘイ
- 42、前ニ出来ナイト云フタ勘定ハ何デシタカネ
 3217×32 デシタ
- 43、算盤ハ
掛ケ算ハシマスガ割算ハムツカシイ

- 44、 15×32 ハ
七デスナ(十三秒)
- 45、ソナ馬鹿ナコトガアルモノカ
七デス 七デスナ
- 46、 5×32 ハ
三三九デス六デス
- 47、九錢ヲ三人ニ分ルテヤルト
三錢デス
- 48、貳拾七錢ヲ三人ニ分ケテヤルト
四錢デス 八錢デス
- 49、壹錢違フナ
九錢九厘ニナリマス(二十一秒)
- 50、話ハ變リマスガ御大典ノアツタノハイツデス
大正四年十一月デス
- 51、日ハ
知リマセヌ
- 52、明治天皇ノ崩御サレタノハ
明治四十五年九月デス
- 53、違イナイカネ
十月デスカイナア!
- 54、日清戦争ノアツタノハ
明治二十七八年デス
- 55、日露戦争ハ
三十七八年
- 56、旅順ノ陥落ハ
八月デスカナア! シツカリ覺エマセヌ
- 57、今年ハ明治五十年デス
明治五十年デス
- 58、紀元ニスルト

- 59、昨日ノ天氣ハドウデシタ
朝ハ曇天ソレカラ觀山ニ雲ガカ、リマシタ
- 60、昨日ハドウシテ暮シタ
煙草ヲ十時ニ呼バレテ休ンデ晝飯ヲ呼バレテ三時頃愉快散
歩ニ出テ四時頃ニ菓子ヲ賈ヒマシタ七時ニ休ミマシタ
- 61、昨日ノ夕食ニハドンナ御馳走ヲ食フタ
惣ト魚デスナア!
- 62、今朝ハ
葱ノ汁デス
- 63、病院デハ退屈デスカ
退屈デス歩イタリ遊ビニ行ツタリシテ居リマス
- 64、ドウシテ入院シタ
氣ガ違フテ知ラン中ニ病院ニ来イト云ハレテナア!
- 65、何カシタカ
嫁ヲ賈フテカラ自分ハ何トモナイガ人が氣違ヤ阿呆ヤト云
ヒマシテ合手ニシマセヌ
- 66、何カ惡イコトヲシタノカ
私ガホントニシタノジヤナイ皆ガ私ヲ殺シテシマフト云フ
氣ガシタ私ハ澤山ノ神様ヲ信仰シテ居マスデソナコトヲ
云フタカテアキマセンケレドモ
- 67、一ツノ神様ヲ信仰シテハ如何
色々ノコトヲ人ニ云フト價值ガナクナル私ノ信仰ヲ人ニ取
ラレル
- 68、信仰シテドウスル(話頭信仰問題ニ入ルヤ被告ノ顔面緊張シ
少シク紅色ヲ帯ビ流ル、ガ如ク談ズ)
今多クノ兄弟ガ丈夫デ暮シテ居ルガフト皆ガ私ヲ殺シテ
シマフ私ノ家ハ一代シカモテマツコトガ私ノ頭ニ浮ン
デ来ル

- 69、嫁ノ名ハ何ト云ヒマシタ
〇〇と云ヒマシタ
- 70、嫁ハナゼ送ケ歸ツタノ
コナコトヲサレトハ思ハナカワタ嫁マデガ世話人〇房
次郎ト腹ヲ合セテ私ヲ氣ノ違フ様ニスルノデスコナコト
ハ云ヘタコトデナイケレドモ(一寸後ヲ省ミテ低聲トナリ)
私ハ夜嫁ニ毒ヲ食ハサレマシタ朝起キチカやくめし(すし
ノコト)ヲ食フトハツト思ハレテ齒ガ鳴ツテ仕方ガナイ
- 71、毒ハ食ハセタノハさめ一人カ
外ニ誰モ居マセヌカラさめ一人デス夫レカラ氣ガ違フテさ
めハ迷ケテ仕舞マシタ
- 72、外ニ思ヒシルコトガナイカ
何モ知リマセヌ
- 73、〇其右隣門ト云フ家ヲ知ツテオルカ
一寸ヤリマシタアレハ私ガシタノデハナク神様ノ御告デヤ
リマシタゴツチカ肥料ニセイト云フ聲ガシタノデソナコ
トガ私ガ仕事ヲシテオル時ニ頭ノ中ニ寫リマスホントノ聲
見タ様ニハ聞エマセヌガフト私ノ頭ニ浮ヒマス又私ヲ相
續人ニセヌト云フコトガ分リマスコレハ神様ノ力デ私ノ頭
ニ直ケ分ルノデス
- 74、〇〇總四郎ト云フ人ヲ知ツテオルカ
ドウモアアリマセヌ一寸焦グタ丈ケデス
- 75、アノ放火モオ前カ
私デス

- 67、其右衛門ノ女房ト仲ガ善イダロウ
- 77、イヤ森通シテオルト言フ語ダセ
- 78、其右衛門ヲ殺シ家ヲ焼キ拂フテシマオト思ハナカッタカ
- 79、亭主ガアル女ニナゼ森通ヲシタソナコトヲスルト其右衛門ハ怒ラスカ
- 80、ドンナ顔ヲスル
- 81、其右衛門ハ怒ラナイカ
- 82、モウ一軒火ヲ放ケタロ
- 83、ドウ云フ積リデ
- 84、火ヲツケルノハソレ丈ケノ理由カ
- 85、神様ガ悪イコトヲ教ヘルカ
- 86、ソナナ村ヲ焼キ拂フテシマフ積リカ
- 87、イヤ森通シテオルト言フ語ダセ
- 88、總サシノ家ニ火ヲツケタノハ何日ソウシテドウ云フ風ニシテツケタノカ
- 89、其右衛門ノ所ハドウシテツケタ
- 90、藤藏サンノ所ハ
- 91、ソノ時村ノ人ハドウシテ居タ追カケラレテ呼バレハシナカッタカ
- 92、マダ焼キタイ所ハナイカ
- 93、警察デハ村中ヤイテシマフ云フツケヤナイカ
- 94、オ前ハ人ノ家ヲ焼イテドウナルト思フテオトル
- 95、ソナナ悪イコトヲシテオイト直ニ家ヘ歸レルト思フカ
- 96、此病院デ一日ニ金ガ幾何イルカ
- 97、オ前ハ私ガ何シニ來タカ知ツテオトルカ
- 98、申分アレバ
- 99、此病院ノ者ト思フカ
- 100、早ク歸リタイカ
- 101、オ前氣ガドウカ
- 102、今氣ガ付イテ來タカ
- 103、一日デモ早タイナシテ買イタイト念ジテ居マス
- 104、馬ハ側ニヨレヌ大キイシ角ガナイ鼻ゲクワリガナイ尾ハ長イ
- 105、池ト川トノ差ハ
- 106、日本デ一番エライ人ハ
- 107、近江デハ

- 94、オ前ハ人ノ家ヲ焼イテドウナルト思フテオトル
- 95、ソナナ悪イコトヲシテオイト直ニ家ヘ歸レルト思フカ
- 96、此病院デ一日ニ金ガ幾何イルカ
- 97、オ前ハ私ガ何シニ來タカ知ツテオトルカ
- 98、申分アレバ
- 99、此病院ノ者ト思フカ
- 100、早ク歸リタイカ
- 101、オ前氣ガドウカ
- 102、今氣ガ付イテ來タカ
- 103、一日デモ早タイナシテ買イタイト念ジテ居マス
- 104、馬ハ側ニヨレヌ大キイシ角ガナイ鼻ゲクワリガナイ尾ハ長イ
- 105、池ト川トノ差ハ
- 106、日本デ一番エライ人ハ
- 107、近江デハ
- 108、乃木大將ハドンナ人
- 109、加藤清正公ハ
- 110、岩見重太郎ハ
- 111、宮本武藏ハ
- 112、大星由良之介ハ
- 113、芝居ヲ見タコトハナイカ
- 114、日本ノ最高山ハ
- 115、日本ノ最大川ハ
- 116、最大湖ハ
- 117、村デ稅ヲ納メルノハ何ニ使用スルノカ
- 118、何ニ使用スルノカ
- 119、兵隊ハ何ノ爲メニナルカ

- 120、 皇陛下カ取ラレヌ様ニデスツマリ天皇陛下ノ差圖デス
次ニ私ノ云フ言葉ヲ聞イテ一番ニオ前ガ思ヒ出ス言葉ヲ云フ
テ御覽
刺戟語
電氣
時計
赤イ
白イ
神様
小鳥
金
鉛筆
天
善
反應語
テナライ
時間ヲ計ル
世間ニ見ル(日輪様ハ赤イカラ)
紙
人ヲ惱メル
氣ヲ惱マス
樂シミ
字ヲ書ク
地球
ヨイコトデスナア
121、 りもはりもてらせばひかるミト云フテ御覽
るりもはりもてらせばひかり
坊主ガ屏風ニ坊主ノ畫を書いた
122、 坊主ガ屏風の畫をかいた
(第一回ノ身體的検査ヲ行フ但シ身體的徵候ハ前後三回ノ檢
診ニ於テ大差ナキヲ以テ最後ニ一括シテ記スルコト、セリ)
乙、第二回検査(大正〇年七月十三日)
三、子ガ検査室ニ入ラントスルヤ廊下ニ於テ被告ニ出會セルモ恰
モ子ヲ知ラザルモノ、如ク挨拶モセズシテ検査室内ニ入りニコ
ニコシテ着座シ予ノ検査ヲ俟テリ
123、 此ノ前ノ私ノ來タノハ何日デシタ
七月一日(正)
124、 何ヲ聞キマシタカ

- 125、 アナタノ方デ色々オ尋テシタ
父方ノ祖父母ノ名ハ
知リマセン何シロ七歳ノ時ニ祖父母ガ亡クナラレタカラ
126、 普通祖父母ノ名ヲ知ランモノハナイモノダカナア
ア、忠左衛門
127、 父方ノ祖母ノ名ハ
コリヤ知リマセン
128、 母方ノ祖父ノ名ハ
〇〇忠一
129、 母方ノ祖母ノ名ハ
あきデス丈夫デス
130、 母方ノ祖父ハ何デナラレタ
腹ノ病氣一腹ノぞうもくガ廣ツテ
131、 父ノ名ハ
〇捨松
132、 丈夫カ
長イ病氣シテカラ身體ガ弱ク手傳ヒ位ヒ外出來マセン
133、 氣ハ確カカ
長イコト藥ヲ吞デオ
134、 〇捨松ト云フ人ハ
知リマセン
135、 親族ニ氣ノ違フタ人ハナイカ
アリマセン私ガ一寸氣ガ違フテ居マス
136、 兩親ハ血族結婚シヤナイカ
二代カ三代前ノ親族デス即チ曾孫同志ノ結婚デスナ昔ノモ
ロガ生レテ來タ(……三代四代スルト昔ノモノガ生レテ

- 137、 來ル昔ガ向フテ來ル一家デモ三四代スルト又昔ニ戻リマス
ドウシテソウ言フコトガ分ルカ
138、 私ハソウ云フコトヲ考ヘテ居マス三代スルトコロツト變リ
マスハ
139、 變ツタ人ハナイカ
甥ガ三人アリマス皆丈夫デス
140、 昨日ノ天氣ハドウデシタ
随分ヨカッタ
141、 毎日病院デ何ヲシテ居マス
何モ用ハアリマセン將基ヲサシテ遊ンデ居マス
氣樂デスカ
142、 面白クアリマセンナア一究屋デ仕方ガアリマセン外ニ出ラ
レンサカイ
143、 内ノ人ハドウシテ居ルダロウ
金ハ心配センデモヨイト警察デ云ハレマシタ縣カラ出ルノ
デショウー内カラ出ルナラ内カラデヨロシイ
144、 内ニ金ハアルカ
アリマス
145、 此間ハ貧乏ジャタト言フジヤナイカ
百姓ジャカラ取上ゲネバ收帳ガナイカラ
146、 一日ニアナタノ内デドノ位ヒ儲カルカ
詳シイ計算ハシマセンガ此處ニ居ルト飯代ガ一日ニ五拾錢
入りマス内デハソウナニ入りマセン
147、 アナタノ内ノ財産ハ大抵ドノ位アリマス

- 148、 一年ニ米三十五俵賣リマスツレト菜種トデ一年ノ生計ヲ立
テマス米一俵六圓トシテ一寸貳百圓菜種二石貳拾圓合セ
テ貳百貳拾圓アリマス
149、 税金ハ一年ニドノ位イルカ
七拾圓デス
150、 ソウスルト差引幾何ノコルカ
百參拾圓殘リマス
151、 一日、八拾錢ノ入院料トシテ百參拾圓何日入院スルコトガ
出來ルカ
百五十二日トひなかデス
152、 ドウシテ計算シタノカ
八拾圓デ十日、五拾圓デ五十二日合セテ百五
十二日トひなかデス
153、 一年ノ收入デ半年ノ入院ヲ支ヘカネタラアナタガソウナニ入
院シテ居ルト内ノ財産ガ減ズル筈デスネ
ヘイ私ガ居ナクナルト内ノモノガ働ケナイカラ心配デス今
日ナドハ田ヘ水モ引カナケレバナラヌ
154、 鶏ト龜ト合シテ頭數五十疋ニシテ足數ハ百二十本ナリト言フ
鶏龜各幾疋ツ、ナルヤ
二十五疋ツ、デス
155、 ソウナラ鶏二十五疋龜二十五疋足數ハ何本カ
五十本ト百本合セテ百五十本
156、 問題ト合ハンデナイカ
ドウモ分リマセンナア
此新聞紙ノ意味ハ
廿三日、日光方面は朝來の烈風に寒氣甚し御嶽の一行は今日
最終日にて大に努めたれど鹿二頭を得たるに過ぎず、初日

- 178、只〇〇二郎ノ家ヲ燒ケト浮シテ丈ケカ
ヘイ、私ガ子ガ出来ン様ニ行ツテモアカント云フコトヲ白
井ダガ云ヒラシタカラデスナ
- 179、ソノストオ前ノ惡ム者ヲ神様ガ燒ケト告ゲニナルカ
私ニ子ガナイノハホントタスセー私ハ兄弟ガ多イカラ私ニ
子ガナイト云フコトガ心ニ浮シタコトヲ云フタラたヤガソ
ノコトヲ云ヒラシマシタ
- 180、甚右衛門ノ處ニ火ツツケタ理由ハ
アレモドナラナト肥料ニセヨト心ニ浮シタカラデス別ニ燒
ケ積リハアリマセンケレドモ
- 181、アスコノ女房ヲヤツテ居タナソレデ甚右衛門ニ怒ラレタ爲デ
ハナイカ
ソノナコトハアリマセヌ、私ニ嫁ガナイカラ行ケト頭ニ浮
シタカラデス行キマシタガ甚右衛門ニハ見付ラレマセヌ
- 182、アノ女房ハ何トモ云ハナイカ
甚右衛門ト合性ガ惡イデ私ト馬ガ合ヒヤツバリヤルデスナ
- 183、〇〇藤藏ノ家ヲ燒イタノハ如何ナル理由カ
アレモ裏家ヲヤレト頭ニ浮シタカラヤツタノデス
- 184、何ンデソノナコトガ頭ニ浮アカ
信仰ガヒドイヨもめノ信仰デ分リマヌ私ノ親モアカヌト云
フテ嫁ノ世話ヲシテクレマセヌヒドイ親デス
- 185、ソノ馬鹿ゲタコトハアルモノカ頭ニ浮アナンテ嘘ダロウ
先生本間デスゼ疑ヒヲカケタラ駄目デス
- 186、火ツツケルト面白イカ
イヤラシイ、恐ロシイ
- 187、何故ソノナコトヲシタ

- 188、放火ヲシテモ警察デドウモセヌカ
神様ノ御告ノ通りニシタカラ罪ヲキセタツテ駄目デス
- 189、罪ヲ被レバドウナルカ
ソノナコトヲシテ遊シテ居ラレマセン
- 190、監獄ト云フ所ヲ知ツテアルカ知ツテ居ルナラドウシテソノ
コトヲスルカ
私ガ本氣デヤツタノト違ヒマヌ信仰デシタノハ自分デシタ
ノト違ヒマヌ
- 191、ソノナラ本氣デシタノト信仰デシタノトドウ違フ
惡心ガナイカラ違ヒマヌ
- 192、人カラ見テハソノ區別ハ分ラヌジヤナイカ
夫レハ神ノ精神ニアルノデスガ警察テ分ラヌデ監獄ハ入ル
レバソレハ仕方ガアリマセヌ
- 193、嘘ヲ云フテアルデハナイカ
私ハヤマシイコトガナイカラ警察ヘモ先キニ立ツテ行キマ
シタソノナコトヲ云フタラ私ノ信仰ガ無茶苦茶ニナツテシ
マヒマヌソノニセー二度ヤケト云フ知ラセガアツタカラ燒
キマシタマダアレヲ殺セト云フ知ラセモアリマシタ
- 194、誰ヲ殺セト云フ知ラセガアツタカ
三人ヲ殺セト云フ知ラセガアリマシタ云フナシマイマスト
人ガ怒リマスカラ云ハズニオイテ下サイ〇〇オサヘト隣リ
ノ〇〇與三郎ノ嫁ト〇タメノ三人デス
- 195、オサヘハイタク
十三、カ十四
- 196、〇〇ノ嫁ハ
二十一カイナア

197、タメハ

198、死ンデシマヒマシタ
ソノ外ニモウ殺サウトシタモノハナイカ

199、ソノ外ニモウ殺サウトシタモノハナイカ
哀私ノ寢床ノ傍ニ衣服ヲ着テ見貴ト云フテ立テアルモノガ
ノ様デシタソレデ逃ゲ出シテ大分行ツテカラ捕ヘラレテド
コヤラニ寝テオツタノハ知ツテオカガ私ガアカンサカイ親
ヤ親類ガ私ヲ殺サウトスル夫レデ私ノ親テオカ所ヘ來テ聞
打ツカラハセル積リデス

200、ソレハ何時頃カ

201、嫁ヲ買フテ直ゲダシカラ四月頃デシタロウ
ドウシテソノナコトヲスルノゴロ

202、兄弟ガ多イカラ嫁モ買ハセズニヤツテシマオト思フテ居
ルニ相違ナイ下ノ弟ニカ、ロウト思フテオカ

203、ホントニオ前ノ親所ヘ親筆方〇〇万歳ガ來タノカ
私ハコソワカッタカラ嫁ニ飛ビ出シ逃ゲタラ叔父ガ捕ヘニ來
テソコニ三日バカリ寝テオツタ人ガ私ノ氣ノ迷フ様ニ迷フ
様ニシカケテ來ルノデス

204、ソノ時ノ病氣ハ何日位ヒテ治ツタカ
ソレカラ先キ外ニ行ツテモ人ガ私ニイヤカル様ニ仕向ケテ
來ル

205、ソレハ何時頃カ

206、大正四年四月デス
此頃アナタノ所ヘ無線電信力無線電話ハカ、ラヌカ
親ノ信仰デ十日ニハ治ツテ迎ヒニ行クト云フコトガ二三日
前ニ頭ニ浮ビマシタ

207、何カ自慢話ハナイカ

208、何カ自慢話ハナイカ

209、ナンニモアリマセヌ

210、悲シイコトハナイカ
ソノナコトヲ居喰ヲシテオツテハドウモナリマセヌ
(第二回ノ身體的検査ヲ行フ)

211、此前三回検査(大正〇年七月廿四日)
丙、第三回検査(大正〇年七月廿四日)

212、此頃ハ私ハ何時來マシタカ
忘レタ

213、ソノナラ何日程前デシタ
十二、三日前デスナア

214、オ前ノオ父サン酒ヲ呑ムカ
酒デモアルト昔ノム毎晩二、三合宛ノミマヌ機附ハ一ヶ月
二升位ヒ入りマヌ

215、此の色々ノ考ヘガフツト頭ニ浮アト云ヒマシタガソノ工合ヲ
モウ一度話シテ下サイ

216、親ガ私ニ嫁ヲ買フト心配ヲセニヤナラン他人ガ家内ヘ這入
ツテクルコトデアルカラ心配ガ多クナルソシテ私ガツトナ
シク黙ツテアルモノダカラ私ヲナイモノニシテ弟ニカ、ロ
ウトスル村ノモノモ亦私ノ嫁ノ邪電ヲスルソレデ私ノヤも、
めノ信仰心デ色々ナコトガ頭ニ浮ア

217、色々ナコトハドンナコトジヤ
ソノナコトヲ話スト村ノ人ノ爲ノニナラズ又私ノ信仰ノ價
値ガ下ルカラ話セマセン

218、イヤ私ハオ前ノ腹ノ中ニ思フテアルコトヲ皆知ツテアルカラ
話シテ見ヨウカ
ヘイドウゾ

219、オ前ガ話サナクツテモ分ツテアルコ

220、オ前ガ話サナクツテモ分ツテアルコ

異常ノ硬結或ハ疼痛アル部ヲ觸レズ背面及四肢ニ特記スベキ異常ヲ認メズ膝關節ニ壓痛アリ上肢ニ於ケル深反射ハ左右均等ニシテ尋常、腹皮反射モ同様ニシテ皮膚紋蓋著明、膝蓋腱反射尋常アヒレス腱及足趾反射ハ見ルコトヲ得ス提摩筋反射尋常、ロシベルグ氏痙攣ナク強硬痙攣ヲ認メズ觸覺痛覺ニ異常ナシ指一指、指一鼻尖、足趾關節接觸試驗ニハ失節ナク發音尋常ナリ

六、被害ノ叔父〇〇十兵衛ノ諸ル所ニ依レバ

忠治郎ハ自宅ニアリテ平生農ヲ業トシ居リ今回發病ノ原因ハ再婚不能ニ歸スルモノ、如シト云フ、忠治郎ノ父ハ酒客ニシテ毎夕五合位ヒヲ用ヒ遺傳關係ニハ精神病者ナシ

忠治郎ガ生ル、時安産ニシテ兩親ノ膝下ニ抱育セラレ小兒期ハ健康、二歳ノ頃頭部ニ怪我シタルコトアリ平生小體ニシテ猜疑心深ク規律正シキ方ナリ學業ハ高等小學ヲ卒業シタルドモ成績不良ナリシ

七、大正四年五月陰氣トナリ仕事ヲ好マズ沈黙ヲ守リ不眠トナル此頃結婚セシメ二月ニシテ離婚シテ後一ヶ月ニシテ素人眼ニテハ正常ノ人トナレリ然ルニ大正六年四月又々陰氣トナリ仕事ヲ好マズアラブラ其日其日ヲ送り居リシガ六月二日午前三時ニ至リ突然起キテ村内をしゃべリノ家(〇〇忠治郎)ニ放火シ直ニ歸宅就床シ翌朝ニ至リ放火ノ細事ヲ記憶ス同月四日夜零時四十分再ビ或家ニ(〇〇其右衛門)放火ヲナシ全焼セシム此時モ放火ノ細事ヲ記憶シ二日ヨリ四日ニ至ル期間ニハ何等ノ變狀ヲ語メズ同十八日午前三時又々何等關係ナキ資家(〇〇藤次)方ニ放火セリ其理由ヲ正セバ神ガ放火セト命令スル爲メナリト答フ一般ニ友人及隣家等ノ薪夫婦ヲ焚ム風アリト

八、被害ハ六月二十日ニ入院セリソノ當時岩倉病院醫員ノ診察ニヨレバ

年輪ハ
三十五歳
生年月日ハ
明治十六年一月二日
學校ハ
五年迄學業ヲ好マズ
當時ノ校長ノ名ハ
駒井行盛
其校長何ハ目下ヲシテオラル、ヤ
自宅ニテ神職ヲシテ居ラレマス
結婚年月日ハ
大正四年四月八日
何處ノ娘ナリシヤ
中村ノ昔ノ親族デス
離婚セシヤ
然リ自分ノ精神ニ異常アリシ爲メ妻ガ逃ゲマシテ
再婚ヲ請求セシヤ
然リ然レドモ意ニ應セズ兩親及娘ガ説ト云フ
娘ヲ買フ意志アリヤ
意アルモ許ガナイ世話人ガナイ公認ニ據セズ
仕事ハ
農
一ヶ年ノ利益ハ
六十俵程アリマス一下分ナリ參百六拾四圓位、一俵六圓ナ
リ一拾五錢位デス
生活費ソノ他ノ雜費ヲ引テノ純利益ハ
貳百四拾圓
田地一丁位デス金錢ハ分リマセン

氣分ハ

夏クナイ恥シイ、結婚後精神異常ガアツテ嫁ガナイ恥シイ
病氣ハ
逆上ノ感
仕事ヲ好ムヤ
然リ
結夢アリシヤ
五月二日以来夢ハアリマセン
六月二日村内ニ變事アリシヤ
ナシ
六月四日ハ
ナシ
六月十八日ハ
ナシ
放火セシヤ
然リ放火シテモ差支ヘガナイト云フコトガ氣ニ浮ビシヲ以テ放火セリ
誰レノ家ニカ
六月二日ハ〇〇忠治郎時間ハ知ラズ「マツチ」ニテ火ヲ附ケ
燃エルノヲ見ズニ歸ツタ
六月四日ハ〇〇其右衛門、夜分デス機エテモカマワヌ機ケト
云フコトガ心ニ浮ビマシタカラ機キマシタ
六月十八日ハ〇〇藤次
今日ハ何日デス
六月二十日
此所ハ
病院ナリ
ソノ當時ニ醫員ノ診察セル所ニ依レバ
瞳孔反應ヲ有シ筋肉ノ器械的興奮性亢進シ知覺ナク膝蓋腱反

射擊常ナリシト云フ

六月二十五日
起居動作ニ異常ナシ
七月二日
沈黙
七月十一日
異常ナシ
九、尙忠治郎所持ノ看護人ニ彼ノ動作ヲ觀テ「同房者等ニハ決シテ今回ノ放火犯罪事件ヲ語ルコトナク睡眠不良ナリト雖夢ナキガ知シ看護人等ノ觀察ニヨレバソノ言語動作等モ常人ト異ナル所ナシト思フト食事及便通普通ニシテ院内外運動ニテ異常ノ舉動ナシト云フ

中、説
十、上記検査ノ結果及一件記録ヲ綜合スレバ左ノ如シ
但シ括弧内ノアラビヤ數字ハ参照スベキ検査記録中ノ問答ノ番號ヲ記シ日本數字ハ同ジク参照スベキ各項目ヲ指示シ煩ヲ避ケル爲メ一々何問答成ハ何項参照ト記載セズ

イ、遺傳關係
十一、被害ノ兩親ハ血族結婚ナリト雖左程近親間ノ結婚ニアラズ(15)父ハ酒客ニシテ毎夕數合ノ酒ヲ用フ(20)六)忠治郎ノ同胞ハ十六人アリ内ニ幼死セルモノ七人アリテ現今ハ九人健在セリ(26)即チ同胞ニハ其ダ幼死者多シト云フベシ被害及ソノ叔父ノ諸ル所ニヨレバ彼ノ血族ニハ精神異常者ナカリシガ如クナレドモ(9)乃至(13、27、26)一件記録中大正〇年六月十九日付〇房治郎聽取書ニヨレバ……前略……

(四)、忠治郎ノ身内ノ者テ精神病ニ罹ツタ事ガアルカ
(答)、忠治郎ノ親ノ捨松ノ祖父ニ當ル者トカガ狐ガ憑イテ健忘ニナツタ者ガアルト云フコトデアマリス其他ハ知リマセン

實好ニ保持セラル、ニ係ハラズ感情界及意志界ノ障礙ハ甚大ニシテ或ハツノ制性ナルニ起因シ或ハ定覺妄想ニ驅ラレテ本心ヲ失ヒ諸種ノ行動ヲナシ面モノノ行動タルヲ多クハ衝動的ニシテ健康者ノ如ク行爲ニ原因動機等アルニテアラズ從テ思慮ナク盲目的ニ突然暴行放火等ヲ敢行スルモノナリ

(八) 犯時ノ精神狀態
二十三、此ノ如ク早發痴狂ニ妄想性極果ニニ羅レル被告ガ犯行當時モ現今ノ如ク諸種ノ妄想ニ罹ラセ居ルコトハ本病ノ性質ヨリ見ルモ亦大正〇年六月十九日付〇〇縣警部〇〇忠信署名被告聽取書及翌十九日付檢事〇〇〇署名被告聽取書ノ記載ニ依リテ見ルモ自ラ明ナリ此兩書ハ異同様ノコトヲ記載シアルヲ以テ參考ニ實セシメ後者ヲノミ茲ニ摘録セシ

問、其方ハ昨日朝早ク村ノ〇〇藤藏方ニ火ヲ放ケタカ
答、私ハ〇〇藤藏ノ宅ニ火ヲツケマシタ火ヲツケテ家ニ歸ツタラ午前ノ三時前頃デアリマシタ

問、ドウ云フ風ニシテ火ヲ放ケタカ
答、私ノ宅ノマツチヲ以テ私ノ藤藏ノ居ル所ヲ出テ家ノ前ニ置イテアル藁ヲ一束(十六把)持テ歩下駄ヲ穿イテ私家ノ北側〇〇戸典三郎トノ間ノ細イ路ヲ通りテ〇〇藤藏ノ宅ノ前ニ行キ表ノ戸ニ藁ヲ凭セカケマツチヲ一寸摺ツテ藁ニ火ヲツケ其儘宅ニ歸リマシタ

最モ藤藏ノ家中ニ竊テオトルモノト思フテ居リマシタ後テ開クト藤藏ハソノ夜不在デアツタト云フコトニ家ニ歸ツテ藤藏ノウツシテ居ル所ニ母親ガ火事デアルト云フヲ知ラシニ米ヲノデ起キテ見ニ行キ道カラ見ルト藤藏ノ前ニハ澤山ノ人ガ居リマシタガ家ハ別ニ燃エテ居リマシタナリ……中略……
問、其方ハ何故〇〇藤藏方ニ火ヲ放ケタカ
答、私ノ村ニ祭ヲアラル十一面觀音様ノ御告ゲデ「ヤレ」ト云フ御

告ゲガアルト直チニ火ヲツケルノデアリマス
問、何故觀音サン其方ニ火ヲ放ケト云フ御告ゲガアルノカ
答、私ハ今ヨリ二年程前ノ四月ニ親類ノ〇〇房治郎〇〇十兵衛ノ世話ニ中村ノ〇〇岩次郎ノ如クトメテ歸ニ置ヒマシタガ一月程シテトメテ親ヤ世間ノ人ガ不意ニ夜私宅ニ來テ私ヲ毆打シシテ驚カスノデ私ハ氣ガ違ヒマシタ爲メニ歸ツテ了ヒマシタ所觀音サンノ御告ゲ世間ノ者ガ寄ツテせめイナシタノデアリ又世間ノ人ガオノ前ノ身代ヲ替フテ了フ又觀音サンノ堂ガ環ヒタリ紙ガ破レリシテオトルニ村ノ者ハ放ツテオタノデ觀音サンガ怒ツテ家ヲ肥ニシテ了ヘト云フ御告ゲガアツタノデ私ハ火ヲツケタノデアリマス

問、觀音サンノ御告ゲト云フハ如何ニシテ判ルノカ
答、夢デソウ云フ風ニ私ニ聞エルノデアリマス

問、尙其方ハ本月三日ノ夜ニハ〇〇其右衛門方ニ放火シタカ
答、之モ日ハ忘レマシタガ〇〇其右衛門ノ南ベリノ家ノ軒ニ藁ガ澤山積ンデアリマシタ處ニ矢張馬ノ首ノ燒寸ヲ以テ火ヲツケテ家ニ歸リマシタ
大正〇年七月二日ノ夜ニハ〇〇藤藏方ニ火ヲツケタカ
答、日ハ忘レマシタガ〇〇藤藏方ニ火ヲツケタカ
大レモ私ガ藤藏ノ居ル所ノ御告ゲデ〇〇藤藏方ノ北側ノヘコソダ處ニ火ヲツケケトノ御告ゲアリマシタノデ其處ニ行キマシタガ其處ニ火ヲ放ケケルト知レルトイカト思ヒ藤藏方ノ南側ノ戸ニ其脚ノ其右衛門ノ南側ノ軒ニ在ツタ藁ノチヨウボ一ツ(八把)ヲ持テ行ツテ立チカケ矢張馬ノ首ノ燒寸ヲ持テ火ヲツケテ歸ツタ

問、尙其方ハ本月三日ノ夜ニハ〇〇其右衛門方ニ放火シタカ
答、之モ日ハ忘レマシタガ〇〇其右衛門ノ南ベリノ家ノ軒ニ藁ガ澤山積ンデアリマシタ處ニ矢張馬ノ首ノ燒寸ヲ以テ火ヲツケテ家ニ歸リマシタ
大正〇年七月二日ノ夜ニハ〇〇藤藏方ニ火ヲツケタカ
答、日ハ忘レマシタガ〇〇藤藏方ニ火ヲツケタカ
大レモ私ガ藤藏ノ居ル所ノ御告ゲデ〇〇藤藏方ノ北側ノヘコソダ處ニ火ヲツケケトノ御告ゲアリマシタノデ其處ニ行キマシタガ其處ニ火ヲ放ケケルト知レルトイカト思ヒ藤藏方ノ南側ノ戸ニ其脚ノ其右衛門ノ南側ノ軒ニ在ツタ藁ノチヨウボ一ツ(八把)ヲ持テ行ツテ立チカケ矢張馬ノ首ノ燒寸ヲ持テ火ヲツケテ歸ツタ

麻痺性痴狂

九、麻痺性痴狂

或ハ麻痺狂トモ云ヒ、本病者ハ統計上甚多數アルモノニシテ、多クハ遺傳關係ヲ有スルモノナレドモ、此素質ノ上ニ壯年時ニ得タル微毒ニ促サレテ發病スルモノ多キヲ以テ、大多數ハ中年以後本病ニ罹ルモノナリ。男子ノ罹者數ハ女子ノソレニ數倍ス、本病ハ精神病中身體的徵候最モ顯著ナルモノニシテ、視神經萎縮、視力減弱、瞳孔左右不同、對光反應消失、或ハ減退、瞳孔ノ形狀不正、眼球振盪、四肢ニ於ケルリよまぢす様疼痛、痛覺鈍麻等アリ、顔面神經力左右不同ニシテ、表情ハ茫乎トシテ痴鈍性ナリ、手指ニハ震顫ヲ見、筆

問、其方ハ人ノ家ヲ燒イテ惡イト思ハヌカ
答、惡イト思ヒマスガ神ノ御告ゲデ其右衛門ノ先祖ガ私ノ先祖ノ財産ヲ取ツタ故其代リテ燒ハント云フ御告ゲアリマスカラ燒イタノデアリマス

問、其方ハ尙神ノ御告ゲガアレバ村ノ家ヲ燒ク積リカ
答、私ハ晝デモ仕事ヲシテ居ルト御告ゲ「ヤレ」ト云ハレルノデアリマスガ晝ハ人ニ告メラレルト思ヒヤリマセヌガ更ニ神ノ御告ゲ〇〇平吉ノ家モモシレト云フコトデアリマス故私ハ神ノ御告ゲガアレバ火ヲツケル考ヘデアリマス

問、其方ハ是迄云フテオトルコトハ殊更冗談ノコトヲ申シテ居ルノデナイカ
答、實際ノコトデアリマス人ニ新様ノコトヲ云フト皆ガ氣違ヒト云ヒマスガ之ガ實際ノコト折々死シタ兄弟ガ兄ハ一人デ可愛想ナト云フテケレマス

又夜フト眼ヲ開クト蚯蚓ヤ蛙ノ鳴聲デモ私ニハ能ク判ツテオリマス其鳴聲ハ私ニハ皆ガ藤藏トオトルカ起キテ居ルカ見廻ハツテ來イト云ハレマス
私ハ新様ノコトヲ申スト値打ガナクナリ神ノ御告ゲ段々薄クナ

ツテ來ルノデアリマス
トアリ即チ被告ハ犯行當時モ諸病ニ罹リ居リ妄想ノ結果今同ノ犯行ヲ敢テシタルモノナルコトハ殆ンド疑フノ餘地ナシ

(下) 檢案

上記說明ノ理由ニ依リ左ノ如ク檢案ス
一、被告忠治郎ハ大正三四年頃ヨリ早發痴狂ナル精神病ニ罹リ居リ該病ハ現今ニ於テモ尙繼續中ナリ
二、被告ハ犯時(大正〇年六月二、四、十八日頃)ニ於テ刑注第三十九條ニ所謂心神喪失ナリシト認ム
附記、被告ノ本病ハ一時輕快スルガ如キコトアルモ全治困難ナル疾病ナルヲ以テ何時如何ナル所ニテ反社會的行爲ヲナスヤモ計リ難キヲ附言ス
此檢案ハ大正〇年六月二十六日著手
同年七月 日終リ
大正〇年七月 日

京都府愛宕郡中村大溝二十一番地
鑑定人 醫師 小南又一郎

躡ハ震顛シ亂暴ニシテ字句ニ脱誤ヲ來シ、ソノ他ろんべるぐ氏症候、膝蓋腱反射消失、共濟運動障害歩行失調アリ、言語障礙亦著シク、錯語、言語蹣跚、分節言語、油滑言語發音不明症等アリ、營養障害トシテハ發疹、耳血腫、梅毒等ヲ見、血清及腦脊髄液中ニハわつさーまん反應陽性ニシテ、且後者ニハ蛋白質含量及白血球數増加シ居ルヲ認ム。

本病經過中ニ癲癩性痴呆發作アリ、即チ癲癩様癲癩發作、或ハ卒中様失神發作ニ襲ハレ爲ニ死ニ至ルモノアリ。

精神的症候トシテハ、先ヅ理解力犯ナレ、注意散漫トナリ、疲勞性亢進シ、記憶力、記憶力減退シ、判斷不良トナル、精神的能力ハ一般ニ鈍麻シ、氣分ハ概シテ冷淡不關心トナリ、初期ニ於テハ一時的ニ刺激性ニシテ、些細ノコトニ憤怒シテ暴行ニ陥ルコト少ナカラズ、妄想ハ判斷不良ノ爲ニ起リ、ソノ種類ハ誇大心氣、追跡、被害、憑依性ニシテ、内容ハ荒誕無稽、非理矛盾ニ富ミ、行爲ハ一般ニ無思慮ナルヲ常トス臨床的ニ本病ヲ分テテ典型性、興奮性、痴鈍性及抑鬱性ノ四トナス。

(イ)、典型性癲癩性痴狂、感情爽快ニシテ誇大妄想ヲ有シ、ソノ態度ハ尊大不遜ニテ非禮ヲ行ヒ、酒色ニ耽ルモノアリ、意識ハ多少混濁シ、思想奔逸シ、行爲不安多業トナル。

(ロ)、興奮性癲癩性痴狂、猛烈ナル興奮ヲ呈シ、歌唱跳躍、誇大的妄想アリ、又時ニ苦悶ヲ示シ、自殺、自傷、狂暴、不潔ノ舉動ニ及ブコトアリ、時トシテ經過極メテ急速ニシテ劇烈ナル錯亂の興奮ヲ示スモノアリ、之ヲ飛奔性癲癩性痴狂ト云フ。

(ハ)、癲癩性癲癩性痴狂、ハ癲癩狂中最モ多キモノニシテ、初期ヨリ已ニ痴鈍性ヲ示シ、一般ニ精神能力

減退シ、意識混濁、記憶不良、決斷薄弱、作業能力減退等ヲ呈シ、一時性ノ安覺或ハ興奮ヲ伴フコトアリ。

(二)、抑鬱性癲癩性痴狂、抑鬱性乃至苦悶性ノ感情異常、罪業及追跡妄想ヲ有シ、追想不良意識混濁ニ陥リ延テ漸次痴呆ニ陥ルモノナリ。

法律的關係トシテハ精神薄弱ニ起因スル竊盜、偽證、放火等ヲ爲シ、興奮ニ因ル酒精耽溺、風俗壞亂、強姦及傷害等ヲナス。刑法上本病者ハ多クハ心神喪失者ニシテ、民法上ニハ家財ノ濫費無謀ナル投機等ヲナスコトアレバ禁治産處分ヲナスベキモノトス。

實例—癲癩性痴狂—四人斬

癲癩性痴狂實例

檢案書

大正〇年四月十七日〇〇地方裁判所檢事〇〇〇〇ハ〇〇孫太郎殺人被告事件ニ付同應檢事延ニ於テ
一、犯時及現時ニ於ケル被告ノ精神狀態ヲ檢案スベキ旨ヲ命ゼリ依テ予ハ同延ニ於テ一件記録ヲ檢査シ且同月十七日、二十六日、五月一日、同十日ノ五回監獄ニ於テ被告孫太郎ノ心身狀態ヲ檢診シ結果ニ依リ此鑑定書ヲ作ル
〇〇縣〇〇郡〇〇町字登屋
〇〇孫太郎
五十二年

上、檢査記録

甲、遺傳 歴

一、一件記録中ニハ被告ノ遺傳ニ關スル記載ヲ缺キ、又之ニ對スル被告ノ自陳ニ後述スルガ如ク悉ク信用スルコト能ハズト雖數回ニ亙レル間診ニ於テ幾分信ヲ措クニ足ルモノヲ察アレバ左ノ

第三編 法醫學的精神病學

九 癲癩性痴狂

如シ此ノ被告トノ問答ハ皆後來診斷ノ補助トナルモノナルニ付
冗長ヲ厭ハズ成ルベクソノマ、ニテ記載ス

孫太郎サンアチノ生レタ所ハ

産根ノハツレノ新町一今ハ名ガ變ワテオス

祖父ハ丈夫カ

死ンダ、ツラン

何割デ

私ハ遺棄テ若イ時分カラ家ニ居ランカラ知ラン

兩親ノ名ハ

父ハ孫次、母ハ十五

父ハ二十年前ニナクナラレタ母モソレカラ二年バカリシテナ

クナリ兄弟モ皆死ンデシマツタ

ドフ云フ病氣ヲ死ンダ

父ハ小便ガ血ニナツテ死ンダアノ人ハ初メ高崎(?)ニ居テ江

州ノ日野ノ猫田ニ居タ

母ハドウ云フ病氣ヲ死ナレタ

弱ツテ死ナレタ

兄弟ハ何人

八人カ九人アツタガヨク知リマセンチイサイ時ニ死ンダノ
ハ私ノ知ツテオトル丈ケデ三、四人ハアルソノ他ハ私ノ居ラ
ン時ニ死ンダカラ知ラン

兄弟ノ名前ハ

孫藏コレハ一番アトノ子デスソノ他ハ忘レタ

兄弟ノ生キテオトルノハ

北海道ニ一人オトルガ何ヲシテオトルカ分
ラン

オ前ノ親戚ニ氣ノ馳ニナツタ人ハナイカ

知ラン

ホントニ知ランカ

知ラント云フタラ知ラン(怒氣顔面ニアラハル)

此等ノ問答ニ依リテ見ルニ被告ノ血族ニ精神病者或ハ癡癡者ノ
アリシヤ否ヤ之ヲ知ルコト能ハズト雖彼ノ同胞ニハ幼死セルモ
ノ多キガ如シ

乙、既往歴及生活史

二、孫太郎サン生年月日ハ

慶應ガ三年アリソノ一番ニ生レテオトルソノナリマセンカ

學校ハドノ位ヒヤツタカ

歳ヒヤツタカラ九歳カラ十二歳迄出テ止メタ

若イ小供ノ時ノコトヲ話シテゴラン

一番初メハ奉公ジヤ私ハ親デニツイテ猫田ニ居タソレハ九
歳ノ時ジヤ十二歳ノ時ニ暇ヲ貰フタ

ソレカラドウシタ

大津ノ店(使ハレ十四歳ノ時京都ニ行キ鳥丸松原上ル所ノ
繪具屋ニ奉公シテ注文開キヲシテ居ツタ

大津ト京都デハ何町ノ何ト云フ家ニ居ツタ

知ラン

ソコハ無事ニツトメタカ

九年間無事ニツトメタ

ソレカラ

ソレカラ自分デ二年程繪具屋ヲヤツテ止メテシマツタソレ
カラ横濱ヘ行ツタソコデ繪屋ヲシテオツタ

ドウシテ繪屋ヲ始メタカ

横濱デ遊ビマツツテオトル中ニ十日モ續ケテ毎日同ジ繪屋ヘ
遊ビ食ヒニ行ツタソノ中ニソノ繪屋ノ人ガこれラデ死
ンデシマワツコソコノ主人ガ云フニハウチニ今人ガナ
イカラ居ンカト云フテ聞カレタカラ早速ソコヘ遣入りマン
ダ

繪屋デドンコトヲシテ居タカ

水ヲ汲ムノヤツコラ遊ビマワル中ニ金ハナクナルシ親分ニ
頼マレテソコノ家ノ出前持テニナツタソコニ四年程居ツタ

拾五圓計リ借リガアツタカラ毎月寮間究カヘシテオツタソ
ノ中ニかなヤノ提灯屋ノ娘ヲ引ツカケテ親分ニ怒ラレテト
ウトウアママリニ行ツタ

繪屋ハソリヤヨイ家デシタセ繪ハ賣レンデモ家ガヨイカラ
大丈夫デ大將ト二人デ大馬場ヲ家ノウシロニ作ツテヤツテ
オリマシタ

ソレカラ

ソレカラ忘レタコ、サン(監獄)デ知ツテオリハルジヤロウ

私ハ眞直ナ男デ一軒デモ惡イコトヲシタコトハナイ皆聞キ
アハシテ下サイ

横濱ノ次ニハドコヘ行ツタ

京カドコカ忘レタ大阪(モ行ツタガ横濱カラト……八日市
ヘ行ツタ

イツ八日市ヘ行ツタ

ナンデモ私ノ三十二歳位ノ時ニ八日市ヘ來タ……二十一
年八日市ニ居マシタ酒セニ四年ト檢番ニ四年ト郵便局ニ十
三年居ツタ

八日市デ期間ハドウシテ止メタ

拾貳圓取ツテオツタノガ拾圓位ヒニシタカラ止メタソレカ
ラ車ヲシバラク引イテオツテトウトウ郵便局ヘ遣入ツタ

結婚シタノハ何歳

大分ニナル二十年ノ餘ニナル孫藏ノ死ニヨツタ年ジヤア
トハ分ラン

女房ヲイツ貰フタカ勘定シテ御覽

二十ハニ二十年位ヒノモノジヤロウ

妻ノ名ハ

たきヤラたつヤラ別リマセン家ニ居ヨウオトル洗濯ヤナニカ
シテオトル、横着物デ仕方ガナイ四年程サワリヤセン場ガア
ツタツテナイ様ノモノジヤ

子供ハ

一疋モナイ

生マレンカ

コレラヘモ生ミモセン

梅毒ヲヤツタコトハアルカ

アリマス

イツヤツタ

ホシ若イ時何シロ十五歳位ヒノ時カラ極道ヲヤツタ娘ヲヤ
ルホシ人ヲヤル、女郎ヲヤル、藝者ヲヤル後家ヲヤルソリヤ
エライモノデシタゼソノ毒ガ廻ツタソノ毒ガ頭ヘ遣入ツタ
ソレニ説イナイ何シロ時々頭ガヤメテ仕方ガナイ

三、上記ノ問答ニ依リテ被告ノ云フ所其ガ茫然トシ、其
眞偽ヲ判別スルコト困難ナリト雖數回ノ問答ニ依リテ得タル所

第三編 法醫學的精神病學 九 癡癡性痴狂

五一

ヲ綜合スルニ彼ノ生活史ニ於ケル一條ノ遺蹟ヲ發見スルコトヲ
得、即被告ハ幼時學問ヲ好マズ十二歳ノ頃ヨリ大津及京都ニ
於テ奉公ナシ繪具屋ノ業ヲ修得シ二ヶ年程繪具屋ヲ營ミシモ
遂ニ之ヲ廢業シ爾來數年間東京、横濱及其近傍ニ於テ極メテ放
漫ナル墮落的生活ヲナシ次イデ亦モ大阪等關西ノ地ニ放浪シ三
十二、三歳ノ頃〇〇縣八日市町ニ來リ不相變留東夫ノ如キ泥
水聲業ヲ營ミ居リシモ今ヨリ十三年程以前ニ〇〇郵便局ノ配
達夫トナリ忠實ニ勤務シ居リシ所近時誤配多キ爲メ本年一月ニ
在リ免職セラレ、爾來今回ノ犯罪事件ニ至ル迄何事モセズ家ニ
在リテ遊ビ食ヒナシ居リシモノナリ彼ハ正直ナル好人物ニシ
テ〇〇郵便局勤務中幾分ノ貯蓄ヲナシ之ヲ以テ一小長屋ヲ購
入シ二三家族ノ借家人ヲ置キシガ此等ノ人ニモ氣受好カリシコ
トハ大正〇年四月七日付〇〇檢事署名證人〇〇〇〇調書中ニ
答、平生ハ極ツトナシイ人間デアリマス是迄氣ノ狂ヲタ様ナ模
樣ハ少シモアリマセンデシタ云々トアリ

又、同日付證人〇〇〇〇初治郎調書中ニモ略同意味ノ
記載アリ尙同日付〇〇仁三郎調書中ニ

問、〇〇孫太郎ノ性行ヲ知ツテオトルカ

答、孫太郎ハ本年二月頃迄〇〇郵便局ノ集配人ヲシテ居リマ
シタ私モ同局ノ集配人ヲ六年程前カラ致シテ居リマスノデ
同人ハ能ク知ツテオリマス又孫太郎ト同ジ長屋ニ住ンデ居
リマシテ五ニ家中ノ事情モ知ツテオリマス私ノ見タ所デハ
孫太郎ハ極ツトナシイ人間デアリマス近頃少シボケテ氣味
ガアリ集配人ヲシテ居ツテモ時々誤配ヲヤルノデ到頭罷メ
テラ様ナ仕末デアリマス同人ノ妻ハ口喧シク人間モ惡イ
ノデ評判ナ女デアリマス

又同日付〇〇警察署長ノ報告書中ニ同人(孫太郎)ハ産根町大
字二番ニ生レ今日ヨリ二十年前〇〇町ヘ來リ遊蕩ノ期間ヲナ

明治三十九年頃ヨリ郵便局集配人ニ雇用セラレ居來忠實ニ職務中ノ所本年一月賃狀配達上誤リタルモノ多クアリシヲ以テ同月十五日解雇セラレ...

四、犯罪事歴

昨年未ヨリ被告ハ少シクボケタ氣味アリ、本年正月賃狀配達多カリシ爲メ免職トナリ爾來孫太郎ハ家ニ在リテ遊ビ食ヒラナシ...

大正〇年四月七日付〇〇〇警察署長ノ報告ニ依ルモ妻ナキハ強慾ノ性質ニテ加害者(孫太郎)集配人ヲ解雇セラレ...

後別ニ職業ナク居食ヒセルヲたさハ之ヲ貴メ口論アリシガ昨夜七時同機駕シタル模様ニテ之ヲ苦慮シ精神ニ異常ヲ來タシ...

トアリシノ大體ヲ察知スルヲ得ン新ノ如キ狀況ニアル被告ハ本年四月七日朝突然日本刀ヲ以テ妻ナキニ殺害シ更ニ彼ノ家庭事情ニ對シ何等關係ナク又些ノ怨恨ヲモ有セザル隣家數軒ニ闖入シ...

三郎、〇〇初治部、〇〇ノフ等ヲ毆打或ハ切傷シタル後取押ヘラレタルモノナリ被告同日ノ行爲ニ對シ同年四月十七日予ニ語ル所ハ左ノ如シ...

朝をたさヲナセアンナトコトヲシタなたさハコ、(監獄)來テオルカイヤ在所ヘインデオル著...

答、五ツ位ツイタ無茶苦茶ニヤツタ隣ノ奴等モヤルニハヤウタニ違ヒナイコレハヒドイコトヲヤツタツラカラドウシタヤ...

可愛ソウジヤナイカアンナ奴ハ死シタガコイヒドイ奴ジヤウタア、私ノ眼淚...

當ヲ小西ガ持テイキオツタカラコイツモヤツテヤレト思フヤツテヤレトハ...

イニ訴ヘル積リデスヨ私ハオトナシイモノヲ買フタモノハ必ズ前ノ日ニ拂フテシマフ...

前ノ日ニ拂フトハウシキツト先キニ拂フテシマフ(ト云ヒナガラ平然タリ)...

〇〇當吉、〇〇てつ、〇〇仁三郎、〇〇ノブト云フ人ヲ知ツテオ...

知ラントコノ奴ジヤイナ丁、現在證據天、精神の徴候...

五、被告孫太郎ガ檢者ノ前ニ來ルヤ或時(四月十七日)挨拶モセズシテ着座シ始終ニコニコト笑ヒ居リ...

亦甚ダ亂雜ナリ或時(四月六日)ハ泣キナガラ着座シ檢者ノ前ニ來リシ如キ態度ナク或時(五月一日)ハ呵々大笑シ...

力ガオセエ女ヲ隨分ヤリマシタルト云ヒナガラ着座モセズウロトシ居ルコトアリ時トシテハ(五月十日)頭ヨリ毛布ヲ被リ...

コ、ハ何町ジヤ町ハ知ラン〇〇ニ違ヒナイ...ツレガ分ラン...〇〇ノコ...

今ハ何時ジヤ二時頃(時計ヲ見テ)一時ジヤ(正)此等及前記(第一項)父母同胞ノ存否ニ就テナセル問答ニ依リテ...

七、病識今日ハ一寸惡イガイツモハドモナイ物ガ少シク云ヒニク...

イカラ病氣ガツイテオルニ違イナイ何故私ニ見テ貰フノカ...

直チニ忘レテコマル昨日モツメタクテネラレナカッタツリヤ不思議ジヤ...

一寸モ覺エハナイ氣遣ヒノ眞似ヲシテオリアセンカ...

氣遣ヒトハ何ンデス泣イテ計リ居リマス神様ノ名ヲ呼ブノ...

モエライ今日ハ一寸モ物ガ喋レン(笑ヒナガラ語ル)...

ガ病苦ヲ訴フル如クナラズ之ノ明ナル病識ハ存在シ居ラズ...

看護人ニ負ハレテ入り來リ「モウアカンアカン」ト云ヒツ、挨拶モセズ着座スルコトアリ...

福ナル氣分ニ轉換シ恰モ小供ノ如ク笑ヒナガラ話ヲ進ムト雖話頭直ニ他ニ移行シテ理義ヲ缺キ云フ所ノ主旨何處ニ在スルヤ不...

明トナルコト多シ顔面ノ表出ハ常ニ多幸性ナリ予ノ診察初期ニ於テ被告ハ恰モ程度ニ酩酊セル人ニ接スルガ如ク感ヲ起サシメ...

シガ日ヲ經ルニ從ヒ彼ノ態度ハ苦悶性色調ヲ帶アルニ至リヌ六、指南力、姓名ハ...

〇〇孫太郎所ハ今ハ〇〇町デス今迄ノ仕事ハ此頃郵便持テ止メテチヨイチヨイ人ノ小使ヲシテオツタ...

今日ハ何日知リマセン疑テバカリ居ルカラ知リマセン人ト突際ヲセン...

コ、ハドコ知ラン知ラン分ツタ城ジヤ眞劍ニボケテオル此頃ハ何ンデ...

私ハ何ヲスル人デスカサア知リマセン私ハボケテオルカラ何カツイテオルニ...

違イナイコノ方ハ何ヲスル人カ(看守ヲ指シ)一寸モ云フテクリヤハランカラ分ラン...巡査サンヤ、惡...

名ハ 知ラン

コレハ(小刀) 小刀

此机ノ長サハ(約三尺ノ机ヲサシ) 三尺

コレハ(鹿ノ畫) 鹿ヲシイ

コレハ(孔雀ノ畫) 鳥ヲシイ

コレハ(鳥ノ畫) 鳥ヲシイ

コレハ(鎮守ノ畫) 木バカリジヤア、鳥居モアル

木ト鳥居ツリヤナシヤ 分ルモンカ(俄然タリ)

ソノ他檢者ノナセル談話及質問ヲ漸ク解スルコトヲ得ルモ或ハ

長時ヲ要シ或ハ正答ヲ與フルコト能ハズ即チ被告ノ領解力ハ選

減セルモノト云フベシ

九、注意力、被告ハ檢査中室内ニ入り來レルモノアルモ之ニ注意

ヲ向クルコト少ク對話中彼ノ周圍ニ起レルコト例之看守ノ交代

意外ニ見ユル人ノ去來、時計ノ時鳴等ニモ敢テ注意セズ又次ノ

誤字ヲ正サシムルニ

滿智縣 鳥根縣

正答スルコト能ハズソノ他尙注意力ヲ檢セン爲メ種々ノ試驗ヲ

試ミントセシモ被告ハ之ニ應ゼザルヲ以テ十分ナル檢査ヲ行フ

能ハズト雖ソノ注意力ハ散漫ニシテ諸事ヲ輕々ニ看過スル傾キ

アリサレド未ダ人違フスルガ如キ程度ニハ達シ居ラズ

十、記憶力

日清戰爭ハイウヅヤツタ

京都ニ居タ時分一十四歳カノ時一ツレハ大變ジヤツタ

ソレハ西南戰爭ト違フカ

知ラン

支那トノ戰爭ダヨ

知ラン

日露戰爭ハイウ

何時八日市カラコ、ヘ來タカ

アリヤ何日ジヤツタイナアノ日ハボケサセテ居ルカラ何ニ

モ分ラン

誰ト一所ニコ、ヘ來タカ

手ヲク、ラレテ來タカ誰ト來タカ分ラン警察カラ連レラレ

テ來タ手ガ痛クテ仕方ガナイ

今日ノ晝ノ食事ノ菜ハ

菜葉トかんからんや牛ヤラ何ヤラ分ラン食フ所ノナイモ

ノジヤツレバ食フタラ身軀ガ至ンデシマツタ

昨晚ノ菜

味噌汁ハツリヤオイシイ御馳走ジヤツタ

ソノ他一定ノ文句ヲ云ヒキカセ置キ數分ニシテ反復セシメント

スルモ被告ハ之ニ努力スルノ意ナシト雖被告ノ記憶力ノ甚シク

減退セルコトハ前記ノ問答及種々ノ談話ニヨリテ之ヲ察知スル

コト容易ナリ

十二、妄想

孫太郎サン何カ不思議ナコトハナイカ

アリマセンナ

アナタノ身分ハ

士族、コンナモンジヤイ(俄然タル身振ヲナス)

素性ハ

ソナニヨイコトハナイケレドモ銀行ノ中用サント同ジデ

〇〇孫太郎ガ先祖ジヤ

係歴ハ

親買ヒ、散財、ウマイモノ食フコトガ好きデ賭博モチヨツタ

ラウチマス

人ニ馬鹿ニサレタコトハナイカ

ソナナコトハアリマセンナ電報ヲ以テ山ノ中ヘ行ツタ時ヨ

分ラン……明治十五年

日露戰爭ハイウ青島ヲ攻メタノジヤヨ

ハテモウ大分ニナル分ラン

今年ハ明治ニシタラ何年

私ハ五十三ジヤ

今ノ年號ハ何ジヤ

大正四年

出陣日ヲ云フナ(ト叱リ付クレバ)

五年カイナト(平然タリ)

明治ハ何年デスンダ

在ジマセン一三十四年デスンダカイナ一今迄何モカモ知ツ

テオツタガ身體ダルイノデ何モカモ忘レタ一親ノ名モ忘レ

御大典ノアツタノハ

アリヤ四月カイナ一大正四年四月ジヤ

今年ノ正月ニハ何歲ニ居タカ、

家デ疑テオツタ何ニモ分ランアノ時カラヤラレテオツタ

此問答ト前記第一項(既性應)ニ於ケル記載トヲ合セ考フレバ記

憶力ニハ著シキ障礙ヲ受テ追想ノ歲時ノ序列ノ如キ全ク混亂シ

遂ニ本年ノ大正何年ニ當レルカラモ忘却セリ。

十一、記憶力

此頃毎日何ヲシテオル

誠ニ結構ニ休マシテ買フテオル立派ナ御飯ヲ頂戴シテソノ

間ニハネテオル

昨日ハ何ヲシテオツタ

昨日ハ何モセン部屋ヲ拂フタ丈ケヤ疑テオル許リジヤソリ

ヤ結構ヤ

同ジ事デス大分外ト様子ガ違ヒネテナヘ居タラ御機嫌ガヨ

一昨日ハ

ハアツチヘ迷ヒコツチヘ迷ヒ一寸馬鹿ニサレマシタナ

誰ガ馬鹿ニシタ

郵便局ノ大將ジヤロウウオマセテ馬鹿ニシタ多分コ、ヘ

遣入ツテオルジヤロウウオマセテ馬鹿ニシタ多分コ、ヘ

ガ〇〇局カラ拾六圓買フテ來タラカ、ガ懐ヘ手ヲ入レテ

取りヨツタ

年賀狀ノ配達ノ間違ヘタツウジヤナイカ

誰カ惡イコトヲシヨウオツタニ違イナイ郵便局デモ色々ノ

コトヲシヤガルノデイヤエナツタ

電報ヲ持テ行キヨウオツタ夜山ノ中デ路ガ分ラン様ニナ

ツテ同ジ路バカリ歩イテオツタ朝ニナツテ又行ツタ山ノ

頂上ノ方ヘ行ツテシマツタ誰カ毒ヲ食ハセテボケサセタニ

違イナイ昔ガ馬鹿ヤトカボケテオルトカ云フテ眞ガ立ツタ

カラオ上ヘ願フテヤツタ

願フタラドウシヤ

コ、(監獄)ヘ二三人遣入ツテオルソウシテコ、デモソイツ

ガ私ガネテオル中ニ錢ヲ別當ヲ取テ行キオル

コ、ヘ錢ヲ別當ガ持テ遣入レルカ

持テ遣入レン

ソナナラドコデ

局デ局ノ奴ハヒドイコトヲシヨルオレツ馬鹿ニシヨオルノ

ダオレツ十分使ツテオイテ金ヲ參千圓カラ取ツテシマツタ

……大阪ノ局ヘ願ハニヤナラン

ア、大阪ノ局ヘ御禮ニ行カニヤナラン

ナンノ御禮ニ

年號ノ御禮ニ

十五年務メタ御褒美ヲ貰フテ勳章ガアルゼ一十三年務メ

タラ拾五圓トメタルヲクレタツレ丈ケ買フタモノガ外ニ

アルカイナ私が郵便袋一ツ取ラレタ時モアイツハ正直ジヤ
エライト云フテ罪ガナカワタ大阪カラ役人ガ来テ三四日探
サハツタツレデモ見付カラナカワタセ私ノ心イキガヨイカ
ラ罪ハナカワタ——汽車カラ落チタコトガアルケレドモ傷
ヲセナダ之レモ正直ノ神様ノオ蔭ジヤ
コ、デハ神様ノオ蔭ハナイカ
コ、(カンゴク)ノ大將ハソリヤヒドイ二週外飯ヲ食ハセン
金ガモウ来テオラニヤナランノニ一寸モ出シテタレン
金ヲドウスル
東京ヘ行ク
何レニ行ク
天子ノ所ヘ行ク
行ツテドウスル
金ヲクリヤハル筈ジヤ——誰カ来テオトル筈ジヤ

アツチノ東京ノ誰カ来テオトル筈ジヤ馬鹿ナコトジヤ此度東
京ヘ行ク時ノ私ノ風ヲ見テ居テ下サイ一通リノ風デハイキ
ヤセン
ドンナ風デ行ク
羽織トシヤツボ、コレヲ皆コシラヘル、大阪ヘ行カニヤナラ
ン、家ヲ一軒買ハニヤナランシヤカハナ此位ヒノ家
ヲ死ナシテモウ一ツ立テルカラマア見テ居テオケレ
天子様ノ所ヘ何レニ行ク
十五年ノ癡美ヲ買フタ禮ニ行ツツシテ五百圓カ六百圓買フ
テタル——金ガ貳圓程イル
天子ノ所ヘ行ク費用ジヤ——ソレカラトト北海道カラ亞
米利加ヘ行ク

フタツレデ大阪ヘ行ツタ
ツンナヲ神様ノ子ヤツタナ
マア見テ、下サイコ、一年モ立ダン中ニ神様ニナル時カ
ヘル——コナ所ニ居ルナシテ馬鹿ナコトガ——アルモン
カマア見テ、下サイ私ハエライコトニナル乞食デモ一日ニ
二週外飯ヲ食ハンナコトハアリマセンゼ——コ、ノ大
將様ハ澤山口錢ヲ取テオツテ飯ハ二週外食ハセマセンゼコ
、ノ大將ノ様ナモノハ外ニハアリマセンゼ
コ、トハドコジヤ
コ、ウツテコ、ジヤガナ
何ント云フ所ジヤ
ツンナコトハドウデモヨイ——(以上五月一日ニ語リシ所)
十四、女ハ好キカ
好キノ好キヤナイノツテ十萬人位ヤツタ彦根ノ袋町カラ新
地ノ女郎ヲ皆ヤツタ
何歳位カラ道樂シタ
十人ニ二人位外ヤラン〇〇ト云フ人ハエライ人ジヤ今ニ見
テ居テオケレ——エラクナラナシタ此世ニ居ラン——此
世ニ居レバ八十八迄イキル
女郎買テ散財トチラガスキヤ
兩方スキヤ
ソナナラドウシテ散財スル
甘イモノズクシヤ——コ、ノ大將ハアレ丈ケノナリヲシテ
居ツテ馬鹿ナ人ジヤ十二時ニ飯ヲ食ハシテアスノアサヨウ
ヨウ食ハスト云フヒドイ人ジヤ——御飯ハトツアツケレル
今日ハ一寸御飯ガスキヤ
別品ヲ見セヨウカ
今日ハアカンアカン(此時睡ヲハキ身體ニモリツ、アリ)

アメリカヘ行ツテドウスル
アスコヘ行ツテ散財スル——皆ウチヘ来テ喜ブヨ、
(以上、四月十七日及二十六日ノ妄想)
十三、オチーサンオチーサン人ダソウダナ
ウソオレ程ノ仕事ヲシタモノガ外ニアルカ一時間足ラズデ
人ヲ五六人モ切ツタモノガアルカイーウチノ妻ガ毒デ私ヲ
ボケサシタカラアイツヲヤツツケタツソレカラ直ニ警察ヘカ
ケツケテ私ハコレコレノモノヲヤツツケタ十年程監獄ヘ入
イデ下サレト云フタ——
コ、ヘドワシテ来タ
コツチヘ汽車カ舟デ送ラレタ毒デ眼ヲ無茶ニシテオトルカラ
一寸モ分ランソリヤコワイ
コ、ヘ来テモコワイコトガアツタカ
二度食物ニ毒ガ混入ワテオツタソノ時ハ新ラシイ膳ヲ換
使ハハルカラ分ル——其時ハ盛ニモドシテ又下痢シタ(ト
云ヒナガラ盛ニ睡ヲ着物ノ内ヘ吐キツ、アリ)
オイ何ニヤキタナイコトヲスル
コレ(睡)ハ非常ナキレナガニナルモンジヤ鼻汁デモア
ナタ方ノト私ノトハ全ク違フ皆身體ニ毒ヲテシマフト身體
ニ光澤ガ出テ丈夫ニナルコレ丈ケ長イコト居ツテ雪隠ヘ一
度モ行ツタコトハナイ小便バカリシテオトルコト十人間ガ外
ニアルカイナ皆オチーサン様ガコウシテ下サツタ
大便セズニ居ルナシテ神様ジヤナ
勿體ナイカラ遠カラ見テ居テゴラン神様ニナルト云フコ
トハ十二三歳ノ頃京都ニ居ル時分カラ云ハレタ——ウツジ
ヤト思フタラ京都ヤ伏見ノ人ニ聞イテゴラン伏見デ舟ニ
乗ツテオツタ男ヤ女ガ澤山ツノ時乗ツテオツタソシテオ
前ハ立派ナ人ジヤ日本ニハタシナイ人ニナル、アナタハキ
ツト出世スルト云フツツシテ八十迄イキル喜ビナサイト云

ドウシテソナキタナイコトヲスル
コンナキレナモノハナイコレヲモルト身體ニマヤガ出ル
アンタ金持チカ
大分アルジヤロウ家賃ヤナンカデ
ドノ位ヒ十萬位ヒカ
ウン六百圓位ヒ
怖イコトカ恐ロシイコトハナイカ
ナイ(俄然タル態度)
心配ニナルコトハナイカ
ナニモナイ、〇〇ガシタイ
コノ間ハセント云フタジヤナイカ
此頃ハ年ニ三番位外セン、東京デハ仰山シタ一萬ヤ二萬ジ
ヤナイ彦根ヤ横濱ヤ八日市デ大變ヤツタ餘程〇〇ハスキ
ジヤ金ヲモウケルト直チニ女ヲヤツタ——金ヲモウケルト
食物ニツカイアトハ皆女ニ入レタ(以上五月十日ノ談話)昨
夜ハ天ヘ昇ツタソウシテ海ノ上デ遊ンデ来タ此身體ガ二ツ
ニ分レルノモ明日ヤ皆見テオレ(前額ヲコスリナカサ)今ヨ
イ女ガ来ルハア、エイ花ガ見エル
以上ノ談話及態度ニヨリテ見ルニ被告ハ明カナル妄覺ヲ有セズト
雖其ダ愚鈍ナル誇大妄想ヲ有シ面モノノ妄想ハ決シテ因着スルコ
トナク日々ヨリ他ニ轉換シ且各日ノ妄想ノ間ニハ毫モ整理ノ一
貫スルモノナシ
十五、計算力
家ハイカラデ買フタ
五拾圓——井戸ニ參圓昔ンナデ六拾圓位カ、ツタジヤロウ
六拾圓計リテ家ガヘルカ
ア、五百圓ジヤ五百圓ジヤ——
五圓ト七圓デ
拾貳圓(直ニ)

拾貳錢ノ三倍ハ
 參拾九錢
 參拾六錢(一分廿秒)
 參拾六錢ノ二倍ハ
 六拾六錢
 ソンナコトガアルモノカ
 ア、七拾貳錢
 拾壹圓ノ十一倍ハ
 モウ分ランモウ分ラン
 今一番初メニヤツタ勘定ハ
 分ラン アキマセン
 次ニ單ニ數字ヲ以テ暗算ナサシム

問	答	時間(秒)
3-1	2	10
8-3	5	10
13-5	12(8+11E×)	30
40-13	27	35
8+2	4	5
18+3	分ラン	35
50+10	5	5
18+6	分ラン	22
21+9	分ラン	22

ソノ他尙數多ノ計算方ヲ試ミントシテ問題ヲ與フルモ時トシテ
 ハ全ク解答セント努力スルコトナク時トシテハ計算不能ニシテ
 正答ヲ得ルコト能ハザリキ要之被告ノ計算力ハ八、九歳位ヒノ
 小兒ノ計算能力ニ比通スル程低下シ居ルヲ認ム
 十六、智能ヲ檢セン爲メ次ノ問答ヲ試ム
 十二支ヲ云フテ御覽、

子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥
 一年ハ何ヶ月
 十二ヶ月
 一日ハ何時間
 六時カラ六時迄十二時間
 徳川家康トハドンナ人カ
 チヨットモ知ラン
 東郷大將トハ何ヲシタ人
 知ラン新聞ヲ讀マンカラ知ランコレガ(口ヲ指シナガラ)云
 ハマセン
 日本ノ主府ハ
 東京
 東京ノ人口ハ何程
 ソリヤ澤山アル千ヤ二千ヤナイ何シロ二里四方モアルカ
 ラ分ラン
 日本ノ高山ノ名ハ
 富士山
 日本ノ大川ノ名ハ
 關東ニハヨケーニナイマー愛知州ジヤナア
 日本一ノ大川ジヤ
 川ハ大阪ニモ京都ニモアル分ラン
 大猫馬牛等ハ總稱シテ何ト云フ
 大ハドコマデ行ツテモ大ジヤ時ニハ赤ジヤトカ黒ジヤトカ
 云フテオトルモアルソノ外ハ知ラン
 森ニアル木ノ名ヲ云フテ御覽
 分ランナイソソナニヨケーニハアラマセン松、杉、萩、檜
 モウコレデ勘忍シテ下サイ
 オチーサシ何宗ヲ信ジテオトル

門徒デスモ南無阿彌陀佛ヨリ外ハヨウ云ハン
 日本ニアル宗旨ノ名ヲ云フテ御覽
 門徒、淨土、マダアル神道、本道、ア、苦シイモウ云ヘン一法
 華天台
 聖徳太子トハ如何ナル人カ
 知ラン
 親鸞上人トハ
 モウ何モ知ラン南無阿彌陀佛ジヤ
 盆トハ何ナル日カ
 踊ヤ角力ヲシヨル此頃寺(行クコトハナイカラ知ラン佛様
 ノ世話ハカ、ガシテオトル
 先帝ノ御名ハ
 知ラン忘レタ
 今上陛下ノチイサイ時ハ知ツテオトル
 徴兵ハ何歳デ行ク
 廿一歳一三年行ク
 何デ兵隊ニ行カニヤナランカ
 軍ヲスル爲メニ一喧嘩ガモトジヤコイツハ喧嘩ジヤ
 ゼニ何種類アルカ
 壹厘、貳厘、五厘、壹錢、貳錢、五錢、拾錢、廿錢、五拾錢一壹圓
 銀貨ハ昔アツタガ今ハナイソノ上ハ總ガ知ツテオトル一錢ハ
 大抵キマツタモノダ
 一斤トハ何宛
 ソリヤ色々アル一斤ハ十三匁ノ時モアルシ十六匁ノ時モア
 ル砂糖一斤ハ百匁ジヤ
 一日一人ノ生活費ハ
 ヨケーイラン茄子ヤ大根ヲ食フテオルカラヨケーイラン米ハ
 六合位大シテイラン
 ソンナラ二人家内一ヶ月ノ生活費ハ
 七圓五拾錢位ヒデクラセタ私ノ小使ハ參圓アテダ

税ハ何ノ爲メニ納メル
 町内ノ費用ニ使フ町ノ官サンノ費用ニモスル〇〇〇〇ハ澤山
 金ノイ所ジヤ
 何故税ニ奉行セニヤナランカ
 ソリヤカイシヨガアリヤセニヤナラン私ハ親ノ金ヲダマシ
 テ取ル計リジヤツタ減多ニ奉行ハセンカラ何故奉行アセニ
 ヤナランカ知ラン兩親共死目ノ世話モセナラ
 ソンナ馬鹿ナコトガアルカ
 アリマストモ(平然タリ)
 君ニ忠義ヲセニヤナランノハ
 モウ拜マニヤ仕方ガナイ私ハコウ云フ藩馬鹿デ大變世話ア
 カケルカラ忠義ヲセニヤナラン
 慈善トハ如何ナルコトカ
 (急ニ元氣ツキ)ツイツハ私ハ上手ダツセ可哀相ジヤ苦シソ
 ウジヤト思ヤ誰ノ苦シム事モ同シヤ自分ノ食フモノヲ食ハ
 ナイデモクレテヤル
 幸福トハ如何ナルコトカ
 コチラサヘアランジヨスルノガ幸福デス局ニ居タ時ハ幸福デ
 シタ着物ヤ色々ノモノヲ買フテ……
 花ノ中デ何ガ一番キレイカ
 牡丹ガ一番スキ其ノ次ギハ菊ジヤロウ
 悪イコトヲスルト何故罰セラルカ
 ツリヤイカン人ノ物ヲ取ツテ取ルノハ一番イカン
 人ヲ切ルノハ
 ツリヤイカン私ハ毒ノ力デ人ヲ切ツタノヤ
 判事トハ何ナル人カ
 知ラン裁判トカ何トカ云フコトハソリヤ知ラン
 十七、判斷力

机ト椅子トハドウ違フ

エライ違ヒジャ机ハ轆轤ニ使フ蓋ジヤシ椅子ハコシヲカケルノジヤ

牛ト馬トハドウ違フカ

馬ハ馬、牛ハ牛ダコロツト違フ顔ガ違フ馬ハアホヅラデ牛ハオトナシイソレ丈ケカ

牛ニハ角ガアリ蹄ガワレテオム馬ハソソコトハナイ

子供ト人形トハドウ違フソリヤ分ルドレ丈ケ上手ニ作ツテアツタツテ人間ハ眼ガ動クシ柔ラカクイシ温イガ人形ハ固クツツメタイ

池ト川トハドウ違フカ

池ハ水ガ温イ川ハツメタイソレ丈ケカ

分ラン

儉約ト奢嵩トハ違フカ

ギョサン違フ儉約ニモ色々アルシ奢嵩ニモ色々アルカラ仲々分ラン

諸種精神能方ノ低下ト共ニ被告ノ判断力并ニ一般智能ハ亦甚シク減退シ居ルコトハ上記ノ問答ニヨリテ之ヲ推知スルコトヲ得

十八、感情、

気分ハドウデスソソコトハナイソソコトハナイ悲シクナルコトガアル

此頃ハ愉快デスカ

今日(五月十日)ハ芝居見ニ行クカ愉快ダ着物ヲ帽子ヲラ着出来テ来テ自轉車ニ乗ツテ行クノヤ

コ、カラソソコト所ヘ行ケルカ

行ケルモイケンモアルモンカ一寒イカラ火ヲ持テ来イ一皆コワイ顔シテ居ヤハル(ト云ヒナガテ毛布ニテ鼻ヲカム)

腹ガ立ツカ

ソソコトハナイ顔ガイタクテ仕方ナイモウ抜ケル皆親切ニシテ下ケルカ

ソソコトハナイ顔ガイタクテ仕方ナイモウ抜ケルハヤラン、風呂ヘハ三回外行カン一一度モ遊ビニ出シヒドイコトジヤ

コ、ハドコジヤ

コ、カドコジヤ知ラン何モ分ラン今日ハ聲ガ違フ自分ノ聲デナイヘーンヘーン(大聲ヲ發ス)

意風シヤロウ

イヤ意風シヤナイ一日ニ一時間位ニハヤベリツツメケテヤル散歩シタイコトハナイカ

コ、ヘ来テカラ一週ノ道モ歩カシテクレンジヤナイカ歩クノハ樂シムカ

起キテ居ルバカリデ何モ運動ハセンソソコトハナイ

患者ノ機嫌ハ甚ダ轉換シ易ク今迄多幸性ニ笑ヒツ、アリシカト思ヘバ忽チニシテ怒リ或ハ啼泣ス此ノ如ク興奮性ナル他面ニ感情ノ甚シク鈍麻シ家内及友人ニ對シ甚ダ冷淡ニシテ高貴ナル趣味ニ對スル快感等モ之レナキ如ク却テ自己ノ嗜好自體ニヨリ或ハ着用セル毛布ニテ鼻汁ヲカムガ如キ汚穢ナル所業ヲナシ平然ダリ

十九、意志運動、予ノ診察セル際ニハ一回モ意志運動力ノ増進セル徴候ナカリシト雖入監當時ハ監房内ニ在リテ磁石子ヲ破壊シ放散亂舞シタルコトアリシモ同セテナク靜慮トナリシト云フ

ル部ナシ顔面亦左右均等、顔面神經ノ諸枝ニ麻痺又ハ痙攣ナク顔面筋一般ニ弛緩ス眼球ノ運動尋常、瞳孔ノ調節機能保持サルト雖瞳孔右ハ卵圓形左ハ圓形對光反應遲鈍、大サ尋常右眼ハ視力弱ク左眼ノ視力ハ尋常、視野變ハ變化ナシ舌ヲ伸出セルモモ直ニシテ白苔ヲ被リ微ニ振盪アルコト多ク齒牙ハ缺損セルモノ多ク殘存セルモノモ七動搖ス爲メニ齒痛ヲ訴フ懸壺重ハ直ニシテ硬口蓋及咽頭反射者明ニ存在シ聽力ハ彼ノ年齢ニ比シテ尋常ナリ

廿四、胸膈、尋常、肺ニ打診聽診上異常ナク脈搏正一分時六十乃至七十至心臓濁音界ニ異常ナク心音清朗ナリト雖大動脈口ニ於ケル第二音稍昂進ス脊柱ニ異常ノ彎曲ナク輕打スルモ疼痛ヲ訴フル部ナシ腹部ニ異常ノ硬結ナク著明ナル「ラバリー」ヲ認ム

筋ノ粗大尋常、四肢ノ運動的ニ屈伸セルモ抵抗ナク指、指鼻尖、及足趾發覺探觸検査ヲ行フニ舉動甚ダ急促ニシテ拙ナルモ失調震盪ヲ認メズ

觸覺尋常、痛覺鈍鈍、位置等ニ異常ナクロンベルク氏徵候ナシ上肢ニ於ケル深反射尋常、腹皮反射及膝蓋反射ハ左右均等ナリト雖昂進シアヒルス膝反射ハ左右均等ニシテ尋常足趾反射ハ足趾ノ屈屈ヲ來シ且疼痛ヲ訴フ足現象ヲ認メズ

中、說明

被告ノ遺傳歴ニ付テハ殆ンド全ク之ヲ知ルコトヲ得ズ既往歴モ亦甚ダ不明ト雖被告ハ幼時學問ヲ好マズ十二三歳ノ頃天津及京都ニ於テ數年間奉公ヲシ後二ヶ年製糖具屋ヲ營ミシモ何故カ之ヲ廢業シ爾來數年間東京横濱及ソノ近傍ニ於テ極メテ放浪ナル墮落的生活ヲシ此間ニ梅毒ニ感染シテ次イデ亦モ大阪等關西ノ地ニ放浪シ廿二、三歳ノ頃〇〇〇町ニ來リ不相戀同車夫ノ如キ職業ヲ營ミ後〇〇都使局ノ配達夫ニ雇用セラレ十三年間忠實ニ勤職シ居リシ所近時誤配多キ爲メ本年一月ニ

現今ニテハ無氣力ニシテ茫然トシテ爲スコトモナク其日ヲ送ル事多シト雖時トシテ監房内ニ在リテ演劇ノ真似ヲナシ居ルコトアリト云フ次ニ意志被影響性ノ亢進(強梗症、模倣運動、反響症、常同症狀新奇症狀等)及拒絶症狀賦狀等ナシ顔面ニハ緊リナク往々ニシテ空談タル表情ヲナスコトアリ

二十、觀念、被告ノ話シ振リニ依リ觀念聯合ノ狀況ヲ窺フニ若干途滯促進及意思奔逸尋常等ヲ認メズ談話ハ甚ダ迂遠冗長ニシテ理義明瞭ナラズソノ他強迫觀念、當意即答症新語作製症等之ヲ發見スルコト能ハズト雖觀念ノ内容ハ甚ダ貧弱ナルヲ認ム

廿一、言語ハ多ク明瞭ナリト雖時トシテ發音ニ異常ヲ認メ時々發音ノ發音不能ナルコトアリ但シ彼ノ用語等ニ特記スベキ異常ナシ

るりもはりもてらせばひかるト云フテ御覽

るりもひかるハひかる

モウ一度云フテ御覽

るりもはりもてらせばひかる

豆らんぶト云フテ御覽

豆らんく

モウ一度

豆らんく(怒氣顔面ニ漲リ)〇〇〇三ツ牛、

廿二、手書ハ亂雜ニシテ談脫アリ少シク震盪スルモ著シキ失調ヲ認メズ

食慾ハ通常ナリト云フ次ニ色慾ハ被告尋常ニ張發ノ言語ヲ弄シツ、アルヲ見レバ幾分昂進セルニ非ラザルカ

地、身體的徵候

廿三、被告ノ身體ヲ精檢スルニ体格小、營養不良、皮色蒼白ニシテ前胸或ハ下腿ニ二、三ヶノ隆腫ヲ見ル頭首左右均等ニシテ顔頂部ニハ毛髮薄ク輕打スルモ頭部ニハ何處ニモ特ニ疼痛ヲ訴フ

至リ免職セラレ爾後四月七日ニ於ケル今回ノ犯罪事件ニ至ル迄
爲スコトモナク案居シ居タルモノナリ
彼ハ平生正直ナル好人物ニシテ都使局ニ在リシ時他ノ同僚、及
近傍ノ人ニモ氣受ケヨカリシ(記録第三項參照)然ルニ本年四月
七日頃突然大シタ理由モナク日本刀ニテ妻ヲ重傷ヲ負ハセ
又何等怨恨ヲ有セザル近傍ノ人數人ヲ毆打シ或ハ負傷セシメタ
リ

上記ノ既往歴(記録第二項參照)及犯罪事歴同上第四項參照)ニ
コレモ被告ガ當時常識ヲ逸シ居リシモノナルコトハ容易ニ判斷
スルコトヲ得ベク尙彼ノ精神ノ現在状態ニコレバ被告ノ檢査ニ
對スル態度ハ常軌ヲ逸シ甚ダ無作法ニシテ時トシテハ陰謀ヲ露出
シナガテ入り來ルコトスラアリ氣分ハ多幸性ニシテ常ニ小供ノ
如ク笑ヒツ、アルカト思ヘバ忽チニシテ興奮或ハ喧洩シ談話、
理義ヲ缺キ云フ所ノ主旨、全ク不明ナルコトアリ(第五項參照)
加之指力第六項參照)不確、病識(亦第七項參照)明ナル能ハ
ズ(第六項參照)減少ノ爲メ無常ニ時間ヲ要シ注意方(第
九項參照)亦極メテ散漫ナリ記憶力(第十項參照)ハ著シキ障礙
ヲ受ケ追想ノ順序ノ如キ混亂シ今年ノ大正何年ニ相當ス
ルヤスラヲモ忘却セリ從テ記録方(第十項參照)ノ其シク減退
セルコトハ言フ俵ナズ

次ニ明カナル實情ハ存在セザレドモ甚ダ愚鈍ナル小兒ノ如
キ誇大妄想ヲ有シ(第十二項參照)而モ同一妄想ノ
固着スルコトナク日々ヨリ他ニ轉換シソノ間ニ毫モ條理ノ一
貫スルモノナシ計算能力(第十五項參照)ハ甚ダ低下シ拾モハ
歲ノ小兒ノソレニ相當シ判斷力及智力(記録第十六項參照)亦
頗ル貧弱ナリ感情(第十八項參照)甚シク鈍麻シ家内及友人ニ
對シ甚ダ冷淡ニシテ高尙ナル趣味ニ對スル快感等モ之レナキ
ガ如ク氣分モ亦非常ニ轉換シ易シ、意志(第十九項參照)モ時
ニナリト認ム

十、老邁性痴狂

本病ハ高齡者ニ於テ漸次特有ノ痴呆状態ニ陥ルモノニシテ、其症狀ハ理解遲鈍、判斷不良、考慮スルノ力ナ
ク、茫乎トシテ不關性トナルヲ常トス、殊ニ甚シキ記憶障害、記録不能ヲ來シ、幼時ノ記憶等ハ比較的明
瞭ナルモ、現時ノコトハ一分間前ノコトヲモ忘却シ去ルコト多シ、而シテソノ談話ニ際シテハ、此等記憶
ノ缺陷ヲ自製ノ空想ヲ以テ補填シ、且之ヲ眞ノ追想ナリト信ズルモノ多シ、ソノ他心氣性乃至被害性妄想
ヲ有シ、感情ハ利己的トナリ、頑固剛情自恣ニシテ、行爲ニ不安ヲ來シ、色慾ノ亢進スルコトアリ、身體
的ニハ不眠、振顫、構音障礙、動脈硬化症等アリ、麻痺性痴呆ト鑑別スベシ。
法律的關係ヲ述ブレバ、初期ニ於テハ輕度ノ興奮ノ爲メ、風俗壞亂、少女強姦、竊盜等ヲナシ、又智力衰
弱ニ起因スル詐僞或ハ偽證等ヲナスコトアリ、即チ刑法上ニハ心神喪失乃至耗弱ヲ以テ論ジ、民法上ニハ
禁治產トスベキモノナリ。

十一、傳染病性精神病

種々ノ急性傳染病、即チ腸室扶斯、天然痘、丹毒、まらりあ、流行性感冒、恐水病、舞蹈病等ニ在テハ
其體温ノ急激ナル昂騰、或ハ毒素ノ作用ニ基キ、發熱中所謂熱性譫妄ヲ發シ、意識濁濁、妄想、興奮等ヲ
見、時トシテ昏睡状態ニ陥ルモノアリ、ソノ他傳染病後ノ衰態状態ニテモ、智力衰弱、感情減退、意識濁

トシテツノ發動力昂進シテ放歌亂舞癡病子ノ破碎スル様ノコト
アリト思ヘバ無氣力ニシテ茫然トシテツノ日ヲ送ルコト多シ但
シ意志被影響性ノ亢進或ハソノ減退ヲ見ルコトナシ顔面ニハ緊
リナク往々ニシテ寒涼タル表情ヲ呈ス
觀念(第廿項參照)聯合法ニ異常ナシト雖觀念内容ハ甚ダ貧弱ナ
リ言語(第廿一項參照)ハ多クハ明瞭ナレドモ時トシテ發音異常
ヲ認メ特ニ發音ノ發音不能ナルコトアリ手書ハ亂雜ニシテ(第
廿二項參照)誤脱アリ少シク遺蹟スルモ失調ヲ認メズ
上記ノ精神ノ現在状態ニコレバ被告ハ精神作用ノ殆ンド全部ニ
著明ナル障害ヲ被レルモノニシテコトハ顯明ニ一定ノ器質性病變
ノ存在スルニシテ即チ被告ハ精神病學上所謂典型性癲癇性痴呆
ニ屬レルモノナルコトハ殆ンド疑フ容レズ尙彼ノ瞳孔ノ右ハ卵
圓形左ハ圓形ニシテ對光反應ノ遲鈍ナルコトハソノ徵候ノ一ナ
リ只被告在院中ニシテ被ノ血清、腦脊液并ニ尿ヲ檢査シテ一
層ソノ診斷ヲ確實ニセザリシコトヲ遺憾トス
然ラバ被告ノ初メテ本病ニ罹リシハ凡ソ何時頃ナリシカト云フ
ニ已ニ本年一月頃ヨリボケテ來リ年買狀ニ誤配多ク(第三項參
照)又電報傳達ノ爲山中ニ入りドクシテモ途分ヲザリシ等ノ
事ヨリ考フルニ運タトモ昨年末ヨリ本病ニ罹リ居リシモノ、如
ク本年四月頃ニハ病勢ハ稍強度ニ進行シ居タルモノナルベシ故
ニ彼ハ他國ノ原因ヨリ病ニ其シキ興奮ヲ來シ前後左右ノ區別
ナク妻ニ重傷ヲ負ハセ又彼ノ興奮セル原因ト何等關係ナキ諸人
數名ニ無謀ナル行爲ニ及ビシモノナラント想像スル、
被告ガ犯時(四月七日)如何ナル精神状態ニ在リ且如何ニ無思慮
ナル行爲ヲナセシカハ次ノ記録摘要ニ依リテソノ大要ヲ推知ス
ルヲ得

(記録摘要省略)
下、檢、案
此檢案ハ大正〇年〇月〇〇日着手
同 五月〇日 終了
大正六年五月〇日
審 所
鑑定人 醫師 小南又一郎

老邁性痴狂

傳染病性精神病

中毒性精神病

濁、妄想、興奮等ノ症狀ヲ遺スモノアリ、此等ノ場合ニ於テ往々犯罪行為ヲナスコトアリ、又婦人ニ於テハ產褥ノ衰憊ニ因リテ、急性錯亂性精神病(あめんちあ)ヲ來シ、ソノ間ニ嬰兒殺ヲ行フコトアリ、此等ノ錯亂期間、刑法上所謂心神喪失ノ狀況ニアルモノナリ。

十二、中毒性精神病

醫療上ノ藥劑、或ハ食品中ノ毒物、乃至嗜好品ノ中毒ニ依リテ種々ノ精神病ヲ來スコトアリ、今ソノ中吾人ノ最モ多ク遭遇スルモノニ、三ヲ略述セム。

酒精中毒

(イ)、酒精中毒

酒精ノ飲用ニ依リテ來ル酩酊狀態ハ、即一種ノ急性酒精中毒ニシテ、此際常人ニテハ爽快、多辨、多動トナリ、遂ニ睡眠乃至昏睡ニ陥ルノミナルガ、生來性變質者、ひすてり或ハ癲癩ノ素因アルモノニテハ僅少ノ酒精飲用ニ依リ、所謂飲酒不堪症ヲ呈シ、意外ノ精神障礙ヲ來スモノニシテ、彼ノ病の酩酊狀態ハ酩酊ノ爲メニ意識溷濁シ、無意味ナル興奮若クハ衝動的行為ヲナスモノヲ云ヒ、暴飲症トハ時々不快遺ル瀾ナキ發作ニ驅ラレ酒盃ヲ手ニシテ、數日間鯨飲シテ止マズ、泥酔ノ極昏倒スルニ至ルモノヲ云フ、此等ノ種々ノ狀況ノ下ニ衝動的暴行、色情興奮ニ起因スル猥褻行為、放火、傷害竊盜、強盜、詐欺等ヲ構フルモノ少ナカラズ。

慢性酒精中毒

飲酒ヲ常癖トスルモノハ所謂慢性酒精中毒ニ陥ルコト多シ、慢性酒精中毒ニテハ、作業能力減退、疲勞性亢進、判斷不良、記憶減弱ヲ來シ、其程度進ムニ從ヒ、被害性并ニ誇大性ノ妄想ヲ生ムコト少ナカラズ、酒ニ對シテハ非常ニ意地汚クナリ、酒ノ爲メニハ道義ヲ失シ、恥辱ヲ買フモ意ニ介セズ、家族ニ對スル温情

病的酩酊暴飲症

ヲ失ヒ、自己感情亢進シ、他人ノ利害ヲ顧ルコト少シ、酒ニ酔ヘル時ハ爽快ニシテ、諧謔ヲ弄シ樂メドモ一度醒ムレバ不平不滿、灼悶苦楚暫クモ靜座スルコト能ハザルガ如シ。

慢性酒精中毒者ニハ心臟ノ脂肪變性、肝臟硬化、腎臟萎縮等ヲ起シ、且手及舌ニ於ケル震顫、上下肢ノ萎弱、知覺異常、陰萎等ヲ伴フ、ソノ他子孫ノ身體ニ恐ルベキ遺傳的素因ヲ與ヘ、其後繼者ニ精神病者、白痴等ヲ出スコト多シ、次ニ酒精中毒ニ基因スル精神異常ニ、特殊ノ型樣ヲ供フルモノアリ、今之ニ就テ略述セン。

酒客譫妄

一、酒客譫妄、本病ノ發生ハ四十歳前後ニ多ク、初メハ小ナル動物或ハ昆蟲類ガ蠢々トシテ眼前ニ躍動スル有様ヲ幻視スルモノ多ク、暗示ニ依リテ此幻視益々甚シクナル、ソノ他幻聽ノ來ルコトアリト雖、患者ハ一般ニ此等幻覺ニ對シ平然タリ。

尙記銘力及指南力ニ障礙アリ、身體的ニハ振顫、睡眠不良、癲癩樣發作等アリ、行為ハ不安ニシテ多辨饒舌トナル、時トシテ苦悶ノ爲メ、周圍ノモノニ反抗シ、暴行ヲ試ミ自殺企圖ヲナスコトアリ、此譫妄狀態ハ、凡ソ二、三日ニシテ經過消失スルモノナルガ、ソノ經過後譫妄時ノコトヲ追想シ得ザルヲ常トス。

こるさこふ氏精神病

二、こるさこふ氏精神病、本病ノ主徵ハ、著シキ記銘障礙、指南力喪失、及追想誤謬トナス、往々一分間前ノ事ヲ忘却シ、又錯誤セル追想ヲ以テ此缺陷ヲ填補ス、從テ虛談ニ陥ルモノ甚ダ多シ、身體的症狀トシテハ、酒精性神經炎著シ。

酒客幻覺性妄想

三、酒客幻覺性妄想病、本病ニテハ意識犯サレバ、妄覺妄想ヲ主トスルモノニシテ、被害、乃至追跡妄想

酒客嫉妬妄想

ヲ有ス、發病ノ期ハ多ク夜間ニシテ自己ヲ脅迫、罵詈スルガ如キ聲ヲ幻聽シ、苦悶ス、指南力及病識アリ、患者ハ此幻覺ノ爲メニ迫ラレテ、自殺或ハ逃走ヲナスコトアリ。

中酒性癡癡狂

四、酒客嫉妬妄想、酒精中毒ニ基ク夫婦間ノ不和又ハ生殖機能ノ減弱ニ基ク色情的嫉妬妄想ヨリ、潔白ナル妻ニ不眞ノ行爲アリト妄想シ、妻ヲ虐待シ、暴行ヲ加ヘ、爭鬭傷害スルコトスラアリ、本患者ハ此妄想以外ニハ、全ク病的症狀ヲ認メザルモノニシテ、飲酒ヲ廢スレバソノ妄想モ漸次消退ス、

中酒性癡癡狂

五、中酒性癡癡狂、コハ中間性ノ精神病ニシテ、癡癡狂ニ酷似スルモノヲ云フ即主トシテ幻覺、記憶障礙、震顫、腱反射消失、運動失節、瞳孔強直等殆ンド眞ノ癡癡性癡癡ト同様ノ性狀ヲ呈スルモノナレドモ眞ノ癡癡狂ニ必發スル言語蹉躓、多幸症等ノ症狀ヲ缺キ、又血清及腦脊髓液ハ異狀ナキヲ常トス。酒精飲用者ト犯罪トノ關係ハ極メテ密接ナルモノニシテ飲用自己ガ犯罪者トナルノミナラズ、ソノ子孫ニモ反社會的乃至非社會的ノモノヲ多出シ、甚ダ寒心スベキモノナリ。

もるひね中毒

急性酒精ノ際ニハ、侮辱、暴行、破壞猥褻行爲及竊盜等ヲナシ、慢性中毒者モ亦略同様ノ犯罪ヲナス外、浮浪ノ徒ヲ出シ、又妄想ニ驅ラレテ殺人ヲナスコトアリ、刑法上ノ責任能力ニ對シテハ甚ダ種々ノ程度アリテ、一概ニハ論ジ難シト雖、高度ノ意識濁濁ニ基クモノハ、心神喪失者トナシ、中等度ノ酒精、或ハ妄想ニ驅ラレザル慢性中毒者ノ行爲ハ、心神耗弱ヲ以テ論スベキモノトス、民法上ニ於テモ高度ナル中毒者ハソノ處分能力ヲ奪ヒ、輕キモノハ心神耗弱者モシクハ處分能力ヲ有スルモノトシテ取扱フベシ。

(ロ)、もるひね中毒

本病ハ神經痛、齒痛、りようまちす、喘息、胃潰瘍等ヲ有スルモノガ、ソノ劇痛ヲ療センガ爲メ、もるひね注射ヲ頻回繰リ返ヘスニヨリ遂ニ中毒ヲ來セルモノニシテ、時トシテハ一日ニ二、三瓦以上ヲ用ユルコトアリ、本中毒ハもるひねノ手ニ入り易キ醫師及藥商ニ於テ最モ屢見ル所ナリ。

本中毒者ハもるひねノ効アル間ハ爽快ヲ覺ユレドモ、之ヨリ醒ムルヤ茫乎トシテ苦悶不安ヲ感ジ、不快、快惱、遺ル方ナク、遂ニ萬難ヲ犯シテ、再度ノもるひね注射ヲ繰リ返ヘスモノニシテ、精神ノ作業能力一般ニ減弱シ、殊ニ記憶力ノ犯サル、コト最モ甚シ、睡眠ハ多ク障害セラレ、時々幻視ヲ來シ、之ニ加フルニ運動失節、振顫、言語障礙、複視等アリ、營養一般ニ不良トナル。

本中毒者ハ不正ノ告白及不注意或怠慢ノ爲メ事故ヲ起シ、或ハもるひねヲ得ントシテ處方箋等ノ偽造、竊盜、詐偽ヲ行フニ至ルモノアリ。本患者ノ甚シキ幻覺或ハ興奮ニ基ケル行爲ハ、心神喪失ナルベキモ、ソノ他ノ場合ハ事宜ニ從ヒ、或ハ輕減責任能力者トナシ、又ハ責任能力者トナスベシ。

(ハ)、こかいん中毒

コハもるひねノ代用品トシテこかいんヲ用ヒタル時ニ起ルモノニシテ、ソノ急性中毒ハ酒精様ノ好氣分ヲ誘導スルモ、ソノ後宿醉頗ル不快ナルヲ以テ、重子テこかいんヲ用ヒテ之ヲ免レントシ、遂ニ慢性中毒ニ陥ルモノナリ。

慢性こかいん中毒ノ症狀ハ、神經過敏、意思奔逸、精神作業能力失墜、記憶不良、意志減弱、刺激性ナリ、營養不良ニ陥ル、時トシテ俄ニ幻覺ヲ生ジ、或ハ蠅昆蟲等ノ小蟲ガ群集シテ襲來スル様ヲ見、或ハ電氣ヲカケラレ、針ニテ刺サル、ガ如ク感ズルモノアリ、背理的嫉妬妄想亦稀ナラズ、之ヲこかいん妄覺病ト

こかいん中毒

云フ。

こかいん中毒者ハ其道義心變性ノ爲メ、粗暴ノ行爲ヲナシ詐欺等ヲナスコトアリ、こかいん妄想病ニ基ク行爲ハ責任無能力ナルベキモ、其他ノ場合ニ於テハ全然責任無能力ト云フベカラズ、民法上ニ於テモ略同様ナリ。

醫事法令摘要

醫師法

(明治三十九年五月一日法律第四十七號)

- 第一條 醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス
 - 一 帝國大學醫科大學醫學科又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者
 - 二 醫師試驗ニ合格シタル者
 - 三 外國醫學科ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者
- 醫師試驗ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學科ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス
- 第二條 左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クル事ヲ得ス
 - 一 重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 - 二 公權停止中ノ者
 - 三 未成年者、禁治產者、準禁治產者、聾者、啞者及盲者
- 第三條 禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ
- 第四條 内務省ニ醫籍ヲ備ヘ醫師免許ニ關スル事項ヲ登錄ス
- 第五條 醫師ハ自ラ診察セシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セシテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診療中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此限リニアラス(明治四十二年七月法律第四十四號但

醫事法令摘要

書改正)

- 第六條 醫師ハ診療簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ(明治四十二年七月法律第四十四號改正)
- 第七條 醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位、稱號及專門科名ヲ除クノ外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス(明治四十二年七月法律第四十四號改正)
- 第八條 醫師ハ醫師會ヲ設立スルコトヲ得
- 第九條 醫師會ハ醫事衛生ニ關シ官廳ノ諮問ニ應ジ又ハ建議ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 醫師第二條第一號又ハ第三號ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ
- 醫師禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ醫業ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ
- 本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第三號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悔ノ情願者ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ
- 本條ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項及第三項後段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス
- 第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 附 則
- 第十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十三條 本法施行前ノ醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス
- 本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セサル官立、府縣立醫學

校卒業シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ有セザルモ免許ヲ與フルコトアルヘシ

本法施行前醫術假免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後ト雖醫業ヲ爲スコトヲ得但シ免許地域外ニ診察所、治療所又ハ其出張所ヲ設ケルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ハ往診治療ヲ爲ス事ヲ妨ケス

第十四條 本法施行後八箇年間ハ第一條第二項ノ規定ヲ適用セズ醫術開業試験規則ニ依リ醫術開業試験ヲ舉行ス

前項ニ依リ醫術開業試験ニ合格シタル者ハ大正三年十月三十一日迄ニ届出テ特ニ定メタル醫術開業後期受験資格名簿ニ登録スルヲ要ス

受験資格名簿ニ登録シタル者ニ限リ大正五年九月迄醫術開業試験ヲ舉行ス(大正三年四月二日法律第三十八號)

前項ノ試験ニ合格シタル者ハ第一條第一項ノ資格ヲ有スル者ト見做ス

醫師法施行規則

(明治三十九年九月三日內務省令第二十七號)

第一條 醫師免許ヲ受ケムル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出スヘシ(明治四十二年七月內務省令第十七號改正)

內務大臣ハ免許ヲ與フルトキハ醫師ニ登録シ醫師免許證ヲ下付ス

第二條 醫師ニ登録スヘキ事項左ノ如シ

一 登録番號及登録年月日

二 族籍(外國人ナラバ其ノ國籍)氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨

三 醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月

四 免許證ノ取消、廢業ノ停止其ノ事由、期間及年月日

五 免許證ノ再下付其ノ事由及年月日

六 抹消ノ事由及年月日

第三條 醫師前條第二條ノ登録事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ理由ヲ記シ免許證及戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ申請スルヲ要スヘシ(明治四十二年內務省令第十七號改正)

前條第三條ノ登録事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ申請スルヲ要スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 醫師免許證ヲ毀損シ失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

第五條 第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録費又ハ手数料ニ相當ナル収入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ既ニ納付シタル登録費又ハ手数料ハ之ヲ戻付セズ

第六條 醫師免許證ヲ申請セムルトキハ住所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第七條 醫師ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ

第八條 醫師自己又ハ他人ノ診察所、治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ住所ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止シ難止シ又ハ診察治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヘシ

官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ從事スル場合ハ前項ニ依リノ限ニ在ラス

診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應ジ診察又ハ治療ヲ爲ス場所ヲ謂フ

第九條 醫師死體又ハ四箇月以上ノ死産兒ヲ檢案シ異常アリト認ムルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第九條ノ二 醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由ナクシテ診斷書檢案書又ハ死産證書ヲ交付ヲ拒ムコトヲ得ス(明治四十二年內務省令第十七號本條追加)

第九條ノ三 醫師ハ其ノ診斷シタル患者ニ交付スル處方ニ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日ヲ記載シ及署名又ハ捺印スヘシ(明治四十二年內務省令第十七號本條追加)

第九條ノ四 醫師ハ診察簿ニ其ノ治療シタル患者ノ氏名、年齢、病名及療法ヲ記載スヘシ其不明ナルモノハ患者ニ問フ時及其ノ旨ヲ記載スヘシ(明治四十二年內務省令第十七號本條追加)

第十條 醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所、治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ

第十一條 地方長官ハ醫師法第十條ノ處方ヲ必要ト認ムルトキハ內務大臣ニ具申スヘシ

第十二條 醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ內務大臣ニ返納スヘシ

第十三條 醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所ノ地方長官ニ提出スヘシ

死亡診断書、死體檢案書、死産證書、胎檢案書記載事項ノ件

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間満了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十四條 左ニ掲タル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

一 醫師ニ登録シタルトキ

二 免許證再下付ノトキ

一 醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ

第十五條 第三條第一項、第四條第一項、第六條第二項、第七條及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ科料ニ處ス(明治四十二年內務省令第十七號改正)

第十六條 第九條ノ二、第九條ノ三、第九條ノ四、第十條、第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十二年內務省令第十七號改正)

附 則

本則ハ明治三十九年法律第四十七號醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

死亡診断書、死體檢案書、死産證書、胎檢案書記載事項ノ件

(明治三十三年九月內務省令第四十一號)

第一條 醫師ハ其ノ作爲スヘキ死亡診断書又ハ死體檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 死亡者ノ氏名其ノ職業及其ノ出生ノ年月日

二 病死者ニ在テハ其ノ病名、自殺者ニ在テハ其ノ手段、自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其ノ種類

三 發病ノ年月日

四 死亡ノ年月日時及其場所

第二條 醫師及產婆ハ其ノ作爲スヘキ死産證書又ハ胎檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 父ノ氏名、職業、私生子ニ在テハ母ノ氏名職業及父母ノ出生ノ年月日
- 二 死胎ノ胎出子庶子別及男女別
- 三 妊娠ノ月數
- 四 分娩ノ年月日時及ヒ其ノ場所

本令ハ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

醫師產婦ノ作為スヘキ死亡診斷書死體檢査書

(明治三十三年十月內務省訓令第二十八號)

本年(九月)當省令第四十一號ヲ以テ規定シタル醫師ノ作為スヘキ死亡診斷書、死體檢査書及醫師又ハ產婆ノ作為スヘキ死産證書、死胎檢査書ノ様式並ニ其記載方ハ左ノ各項ニ準據セシメラルヘシ

第一 死亡診斷書、死體檢査書

様式

- 一 氏名
- 二 男女ノ別
- 三 出生ノ年月日
- 四 職業、死亡者ノ職業、家計ノ主ナル職業
- 五 病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別
- 六 病名 (在テハ) 手段、自殺以外ノ變死者(種類)
- 七 發病ノ年月日 (變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)
- 八 死亡ノ年月日時

九 死亡ノ場所

右證書(檢査)候也

年月日 住 所 醫師 何 某印

記載方

- 一 戶籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 二 經久ノ死體ニシテ男ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 三 自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齡何歳ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 四 死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ、死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ
- 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ自殺者變死者ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 六 病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス
- 七 同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記ス

死亡診斷書(死體檢査書)

- 一 父ノ氏名、職業、私生子ニ在テハ母ノ氏名職業及父母ノ出生ノ年月日
- 二 死胎ノ胎出子庶子別及男女別
- 三 妊娠ノ月數
- 四 分娩ノ年月日時及ヒ其ノ場所
- 五 死胎ノ胎出子庶子別及男女別
- 六 病名 (在テハ) 手段、自殺以外ノ變死者(種類)
- 七 發病ノ年月日 (變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)
- 八 死亡ノ年月日時
- 九 死亡ノ場所(都市區町村大字及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ遺著セル死體ナルトキハ其遺著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ遺著ト記スルヲ要ス)
- 十 死産證書、死胎檢査書

第二 死産證書、死胎檢査書

様式

- 一 父ノ氏名 (私生子ノ場合ニ合ニ在テハ母ノ氏名)
- 二 父ノ出生ノ年月日 (私生子ノ場合ニ合ニ在テハ之ヲ除ク)
- 三 母ノ出生ノ年月日

醫事法令摘要

- 一 死胎ノ胎出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ
- 二 死胎ノ胎出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 四 死胎ノ胎出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其ノ母ノ職業ヲ記スヘシ
- 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
- 六 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト數シタル第幾月日ニ該當スルカヲ記スヘシ
- 七 分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 八 死胎ノ胎出子、庶子、私生子ノ別
- 九 死胎ノ胎出子、庶子、私生子ノ別

記載方

年月日 住 所 醫師 (産婆) 何 某印

- 一 父ノ職業 (私生子ノ場合ニ合ニ在テハ母ノ職業)
- 二 妊娠ノ月數
- 三 分娩ノ年月日時
- 四 死胎ノ胎出子
- 五 死胎ノ胎出子、庶子、私生子ノ別
- 六 死胎ノ胎出子、庶子、私生子ノ別
- 七 發病ノ年月日 (變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)
- 八 死亡ノ年月日時
- 九 死亡ノ場所(都市區町村大字及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ遺著セル死體ナルトキハ其遺著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ遺著ト記スルヲ要ス)
- 十 死産證書、死胎檢査書

醫師會規則

スヘシ
 八 死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男
 女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト
 記スヘシ
 九 死胎ハ捕出子ナルカ又ハ産子ナルカ若クハ私生子ナルカノ
 區別ヲ記スヘシ

醫師會規則
 (明治三十九年十一月内務省令第十三號)

第一條 醫師會ハ都市區醫師會及道府縣醫師會トス
 本會ニ依リテ設立シタル醫師會ニ非ラザレハ前項ノ名稱ヲ附ス
 ルコトヲ得ス

第二條 都市醫師會ヲ設立セントスルトキハ其ノ會員ト爲ルヘキ
 者十人以上發起人ト爲リ會則案ヲ作り其ノ會員ト爲ルヘキ者ノ
 總會ニ付スヘシ
 前項ノ總會員ト爲ルヘキ者ノ全員三分ノ二以上出席シ出席員三分
 分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非ラザレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス
 會員ト爲ルヘキ者百人以上ニ及フトキハ總會議ニ出席スル者ニ
 委任シテ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委任者ヲ出席
 員ノ數ニ加算ス

第三條 都市醫師會設立ノ議決ヲ經タルトキハ發起人ハ會則ヲ添
 (地方長官ノ認可ヲ請フヘシ)地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルト
 キハ都市醫師會設立ノ旨ヲ告示スヘシ

第四條 道府縣醫師會ノ三分一以上ノ都市ニ於テ都市醫師會設立
 ニ至ラタルトキハ道府縣醫師會ヲ設立スルコトヲ得

第五條 道府縣醫師會ヲ設立セムスルトキハ都市醫師會協議シ其
 ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ會則ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ請フ
 (ヘシ)

前項ノ場合ニ於ケル都市醫師會ノ同意ハ各其ノ總會ニ於テ會員

又ハ議員ノ總數三分ノ二以上ノ多數決ナルコトヲ要ス
 地方長官ニ於テ本條ノ認可ヲ爲シタルトキハ道府縣醫師會設立
 ノ旨ヲ告示スヘシ

第六條 都市醫師會總會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選舉
 シタル議員ヲ以テ組織スルコトヲ得
 道府縣醫師會總會ハ都市醫師會ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ組
 織ス

前二項ノ場合ニ於テ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ醫事衛生ニ
 關シ學識又ハ經驗アル者ニ就キ議員總數五分ノ一以内ノ特別議
 員ヲ命スルコトヲ得
 特別議員ハ總會ニ出席シ議事ニ參與シ議決ニ加ハルモノトス但
 シ會則ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 醫師會ハ其ノ總會ノ議決ニ依リテ之ヲ解散スルコトヲ得此
 ノ場合ニ於テ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ
 前項ノ議決ハ會員又ハ議員ノ總數三分ノ二以上ノ多數決ナルコ
 トヲ要ス

第八條 官立若ハ公立ノ病院ヲ除ク外自己又ハ他人ノ診察所、治
 療所、若ハ其ノ出張所ニ於テ醫業ニ従事スル醫師ハ總會ニ其ノ所
 在ノ都市醫師會ノ會員トス
 前項以外ノ醫師トシテ會則ノ定ムル所ニ依リ醫師會會員ト爲ル
 コトヲ得
 地方長官ハ必要ト認ムルトキハ前項以外ノ醫師ニ對シ醫師會加
 入ヲ命スルコトヲ得

第九條 道府縣醫師會ハ其ノ道府縣内ニ在ル都市醫師會ノ全部ヲ
 以テ組織ス

第十條 都市醫師會ハ會員中醫師法第二號第三號ニ該當シ又ハ業
 務ニ關シテ不正ノ行爲アリテ免許取消又ハ醫業停止處分ヲ必要
 ト認ムルトキハ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得

藥品營業及藥
品取扱規則

都市醫師會ハ會員中免許取消又ハ禁業停止處分ヲ受ケントスル
 者アル場合ニ於テ證據ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ事實ヲ内務大
 臣ニ具申スルコトヲ得醫師法第十條第三號ニ該當スル者アリト
 認ムルトキ亦同シ

第十一條 都市醫師會會則ニハ會則ニ違背シタル會員ニ對シ百圓
 以下ノ過怠金ヲ徵收スルノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ醫師會ニ命
 スルコトヲ得

第十三條 醫師會ノ費用ハ都市醫師會ニ在リテハ會員ノ負擔トシ
 道府縣醫師會ニ在リテハ都市醫師會ノ負擔トス

第十四條 醫師會會則ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ
 前項ノ外醫師會ノ議決ニシテ届出又ハ認可ヲ要スルモノハ地方
 長官之ヲ定ム

第十五條 醫師會ノ議決ニシテ法令、會則ニ違背シ又ハ公益ヲ害
 スト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ議決ヲ取消シ又ハ内務大臣ノ
 認可ヲ經テ議員ノ改選若ハ醫師會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
 役員ノ行爲ニシテ法令、會則ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムル
 トキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ解職ヲ命スルコトヲ得
 前項ニ依リ解職セラレタル者ハ三箇年間役員ト爲ルコトヲ得ス

第十六條 北海道神戶縣及島嶼ニ關シ別段ノ規定ヲ要スル者ハ地
 方長官之ヲ定ム

附 則
 第十七條 土地ノ狀況ニ依リ二以上ノ都市ニ於ケル醫師共同シ醫
 師會ヲ設立スルコトヲ得
 土地ノ狀況ニ依リ第二條及第三條ノ手續ニ準シ道府縣醫師會ヲ
 設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ都市醫師會ハ解散スルモノ
 トス
 前項ノ場合ニ於テハ道府縣醫師會ノ支部ヲ設ケルコトヲ得

醫事法令摘要

本令中都市醫師會ニ關スル規定ハ本條第一項ヲ除クノ外之ヲ本
 條第二項ノ醫師會ニ適用ス

第十八條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區醫師會ヲ設立シ區醫
 師會協議シ第四條及第五條ノ規定ニ準シ市醫師會ヲ設立スルコ
 トヲ得第二條及第三條ノ手續ニ依リ市醫師會設立ニ至ラタル
 キハ前項ノ區醫師會ハ解散スルモノトス此場合ニ於テハ市醫師
 會ノ支部ヲ設ケルコトヲ得本令中都市醫師會ニ關スル規定ハ第四
 條及第五條ヲ除ク外之ヲ區醫師會ニ準用ス道府縣醫師會ニ關ス
 ル規定ハ之ヲ本條第一項ノ市醫師會ニ準用ス

藥品營業及藥品取扱規則
 (明治二十二年三月法律第十號)

第一章 藥劑師
 第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方案ニ於テ藥劑ヲ調合
 スル者ヲ云フ

第二條 藥劑師ハ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第三條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年滿二十年以上ニシテ内務
 大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第四條 藥劑師免狀ヲ得タル者ハ試驗及證書ヲ以テ地方廳
 長ヨリ内務省ニ届出ヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ藥劑師名簿
 ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損シ又ハ氏名本籍ヲ變更スル等免狀
 面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳長ヨリ免狀書
 換フ内務大臣ニ届出ヘシ

第七條 (消滅)

第八條 藥劑師營業又ハ死亡シタルトキ十日以内ニ地方廳ニ届
 出ヘシ

- 第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス
- 第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出スヘシ
- 第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ
- 第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ
- 第十三條 藥局ニ備附ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ
- 第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ印刷シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中ニ疑ハシキ處アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス
- 第十五條 藥劑師ハ調劑後ニ處方箋ヲ精寫シ置クヘシ
- 第十六條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ノ間ハ何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十七條 藥劑師ハ正當ノ事故ナクシテ指定藥品ノ販賣ヲ拒ムコトヲ得ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第十八條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ請フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス
- 第十九條 毒劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ
- 第二十條 毒劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス
- 第二十一條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

- 第二十二條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ
- 第二十三條 藥種商ハ地方廳ノ免許證ヲ受ケルヘシ
- 第二十四條 毒劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ付録シタル容器ヲ開キテ零售スルコトヲ得ス
- 第二十五條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ
- 第二十六條 製藥者ハ地方廳ノ免許證ヲ受ケルヘシ
- 第二十七條 毒劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零售スルコトヲ得ス
- 第二十八條 日本藥局方ニ記載セル所ノ藥品ハ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ製造、貯藏、陳列、販賣又ハ授與スルコトヲ得ス但命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス(明治四十年四月法律第三十五號改正)
- 第二十九條 日本藥局方ニ記載セル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ製造、貯藏、陳列、販賣又ハ授與スルコトヲ得ス但命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス(明治四十年四月法律第三十五號改正)
- 第三十條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ
- 第三十一條 毒劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ漬籠ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ
- 第三十二條 毒劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、數量、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且ツ捺印シタル證

- 書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
- 前項ノ證書ハ其日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ
- 第三十一條 毒劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムルモノハ交附スヘカラス
- 第三十二條 毒劇藥ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒劇藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ附記スヘシ
- 第三十三條 藥劑師ハ指定藥品ノ容器及包紙ニハ藥局方ノ所定ニ適合スルコトノ證明ヲ記シ之ニ自己ノ住所氏名ヲ附記スヘシ(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第三十四條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス
- 第三十五條 藥劑師製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒劇藥ヲ賣買スルコトヲ得
- 第三十六條 毒劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ
- 但難句語又ハ外國語ト併記スルハ妨ケナシ
- 第三十八條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ
- 第三十九條 藥品ノ二、藥劑者ニ非サレハ指定藥品ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得ス但藥劑師製藥者間ニ在リテハ此ノ限ニアラス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第四十條 藥劑師製藥者ノ販賣授與スルハ前項ノ限ニ在ラス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第四十一條 命令ノ定ムル所ニ從ヒ藥劑師ヲ使用スル藥種商ハ指定藥品ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得但第三十二條ノ二ニ依

- リ其藥品ノ容器又ハ包紙ニ藥劑師ノ證明アルモノニ限ル(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第三十七條 毒劇藥ハ依リ地方官ノ期間及營業所在地ヲ定メ藥種商ニ指定藥品ノ販賣授與ヲ許可スルコトヲ得但其藥品ハ藥劑師又ハ前條ノ藥種商ヨリ得タルコトノ證明アルニ限ル(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第三十八條 第五條ノ二ノ規定ハ前二條ニ據ル藥種商ニ之ヲ準用ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第三十九條 內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ
- 第四十條 監視員ハ巡視ノ際其證書ヲ携帯スヘシ
- 第四十一條 何レノ藥局方ニモ記載セル藥品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルモノハ行政官廳ニ於テ其製造貯藏、陳列、販賣又ハ授與ヲ禁止スルコトヲ得(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第四十二條 前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ藥品ノ所有者若クハ所持者ヲシテ之ヲ検査セシメ又ハ直接ニ之ヲ検査シ其他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但所有者又ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ處置センコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第四十三條 藥局方ノ所定ニ適當セル藥品アルトキハ亦前項ニ同シ(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第四十四條 此規定ニ於テ指定藥品ト稱スルハ內務大臣ノ指定シタル藥品ヲ謂フ(明治四十年四月法律第三十五號追加)
- 第五章 罰則
- 第四十五條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ四百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十年法律第三十五號改正)
- 一 藥品ノ容器又ハ包紙ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者

第二十六條又ハ第二十七條ニ違背シタル者
 第三十八條ノ二項ノ禁止ヲ犯シタル者
 第三十九條ノ二左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 一 藥劑師ノ免狀ヲ受ケス又ハ其業務ノ禁止停止ノ處分ニ違背シテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者
 二 第三十七條ノ二第一項第三十七條ノ三又ハ第三十七條ノ四ニ違背シタル者
 第三十九條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 一 藥劑師ニシテ第十四條第一項ニ違背シ又ハ誤リテ調劑ヲ爲シタル者
 二 第十六條第十八條第二十二條第二十五條又ハ第三十條第一項ニ違背シタル者
 三 藥劑師ニシテ藥品ノ容器又ハ包紙ニ誤記ヲ爲シ又ハ事實ヲ知ラズシテ藥局方ノ所定ニ適合セサル藥品ヲ貯藏、陳列、販賣若クハ授與シタル者
 四 第三十七條ノ三ニ掲グル藥種商ニシテ事實ヲ知ラズシテ藥局方ノ所定ニ適合セサル指定藥品ヲ貯藏、陳列販賣又ハ授與シタル者
 當該官吏若クハ行政官廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其職務執行ヲ拒ミ若クハ之ヲ怠慢シ若クハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰則ニ關シ但し其罰法ニ正條アルモノハ罰法ニ依ル(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第三十九條ノ四 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 一 藥種商若クハ製藥者ノ免許ヲ受ケス又ハ業務ノ禁止若クハ停止ノ處分ニ違背シテ藥種商又ハ製藥者ノ業ヲ爲シタル者
 二 第三十八條ノ二第二項又ハ第三項ノ命ヲ受ケテ指定期間内ニ之ヲ履行セサル者
 第四十條 第十一條第十七條第一項第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第十五條ノ二第二十八條第三十六條第三十七條ノ五ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ二 此規則ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル者ハ罰法ノ減輕再犯加重及罰則俱發ノ例ヲ用キス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ三 當業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但し其業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限リニ在ラズ(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ四 當業者ハ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキハ自己ノ指彈ニ出テ罰金ヲ受ケテ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ五 前條ノ規定ハ醫師カ第四十三條ニ違背シタル場合ニ之ヲ準用ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ六 明治三十三年法律第五十條ノ規定ハ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ準用ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ七 當該官吏又ハ行政官廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者此規則ノ執行ニ關シ不正ノ所爲アルトキハ一年以下ノ重禁錮

ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但其罰法ニ正條アルモノハ罰法ニ依ル(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 行政官廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者此規則ノ執行ニ關シ人ノ囑託ヲ受ケテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ贈許シタル者ハ罰法第二百八十四條ノ例ニ照シテ處罰ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十二條 內務大臣ハ此規則實行ノ責任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但し製藥商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府知事ノ之ヲ定ムヘシ
 第四十三條 醫師ハ自ら診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ調劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受ケヘシ
 醫師ハ第三十四條ニ從ヒ製藥タルノ證明書ヲ以テ藥劑師製藥商製藥者ヨリ毒藥劑藥ヲ買取ルコトヲ得
 第四十四條 此規則施行前ニ於テ內務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効テ有ス
 第四十四條 (消除)
 第四十六條 醫科大學藥學科官立公立藥學專門學校若クハ醫學專門學校藥學科文部大臣ノ指定シタル私立藥學專門學校及高等中學校藥學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下附ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ(明治四十三年法律第二十四號改正)
 外國ノ大學藥學部若ハ藥學校ニ於テ卒業シタル者又ハ外國ニ於テ藥劑師免許ヲ得タル者ニシテ年齡滿二十年以上ノ者ハ其ノ卒業證書若ハ開業證書ヲ以テ藥劑師免狀ノ下附ヲ願出ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ內務大臣ハ其ノ證書ヲ審查シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ(明治四十年四月法律第三十五號改正)
 醫事法令摘要
 第三十八條ノ二第二項又ハ第三項ノ命ヲ受ケテ指定期間内ニ之ヲ履行セサル者
 第四十條 第十一條第十七條第一項第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第十五條ノ二第二十八條第三十六條第三十七條ノ五ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ二 此規則ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル者ハ罰法ノ減輕再犯加重及罰則俱發ノ例ヲ用キス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ三 當業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但し其業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限リニ在ラズ(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ四 當業者ハ其代理人、戶主、家族、同居者、雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキハ自己ノ指彈ニ出テ罰金ヲ受ケテ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ五 前條ノ規定ハ醫師カ第四十三條ニ違背シタル場合ニ之ヲ準用ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ六 明治三十三年法律第五十條ノ規定ハ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ準用ス(明治四十年四月法律第三十五號追加)
 第四十一條ノ七 當該官吏又ハ行政官廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者此規則ノ執行ニ關シ不正ノ所爲アルトキハ一年以下ノ重禁錮
 第四十六條ノ二 藥劑師其業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ所爲アルトキハ內務大臣ハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ其業務ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得藥劑師ニシテ癡癩白痴ト爲リ其他業務ヲ營ムニ堪ヘスト認ムタルトキ亦同シ
 藥種商又ハ製藥者其業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ所爲アルトキハ地方長官ハ其業務ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得
 內務大臣ハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ藥劑師ノ業務ヲ禁止又ハ停止ヲ解クコトヲ得
 地方長官ハ藥種商又ハ製藥者ノ業務ノ禁止又ハ停止ヲ解クコトヲ得(明治四十年法律第三十五號追加)
 第四十六條ノ三 此規則中地方長官ニ屬スル職權ハ東京府ニ在リテハ警視總監ニ之ヲ行フ
 第四十六條ノ四 此規則中醫師ニ關スル規定ハ齒科醫師又ハ獸醫ニ之ヲ適用ス(明治四十年法律第三十五號追加)
 第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス
 第四十八條 明治十三年(二月)第六號布告藥品取扱規則ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ廢止ス
 附 則
 (明治四十年四月法律第三十五號)
 本法ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス免許ヲ得テ五箇年以上藥種商ト爲リ本法施行ノ際現ニ其業ヲ營ム者ハ法人ヲ除クノ外本法施行後ト雖モ指定藥品ノ販賣又ハ授與スルコトヲ得但本法施行後六箇月以内ニ地方長官ニ其旨ヲ届出タル者ニ限リ第十五條ノ二及第三十九條ノ三第一項第四號ノ規定ハ前條但書ノ届出ヲ爲シタル藥種商ニ之ヲ準用ス、第二項 但書ノ届出ヲ爲シタル藥種商ニシテ正當ノ事故トシテ指定藥品ノ販賣ヲ拒ミタルモノハ罰則第四十一條ニ同シ、第二項但書ノ届出ヲ爲シタル者ヲ除クノ外本法施行ノ際現ニ營業スル藥種商ニハ本法施行ノ日ヨリ三箇年ヲ限リ第三十七條ノ二ヲ適用セス
 五三九

傳染病豫防法

(明治三十年四月法律第三十六號)

- 第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、傷寒、瘧疾、梅毒、發疹、猩紅熱、霍亂、及「ペスト」ト謂フ
- 前項ニ掲タル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス
- 第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得
- 第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉送ノ場合亦同シ
- 第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタリ家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貨物、營業場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス
- 第五條 傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ(明治三十年三月法律第五十六號改正)
- 第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ

(明治三十年三月法律第五十六號第二項削除)

- 第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病者傳染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得(明治三十年三月法律第五十六號改正)
- 第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スルコトヲ得ス
- 第十條 傳染病汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受タルニ非サレハ使用、貯藏、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス
- 第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラズ
- 第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ経過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ公共ノ工事ノ爲必要ナル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十三條 死體ノ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ処分ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長、管理人又ハ代理者ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證據ヲ示スヘシ(明治三十年三月法律第五十六號改正)
- 第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條市制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

決ニ依ルノ限ニ在ラス
豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

- 第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村內ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ
- 第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠疫ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ(明治三十年三月法律第五十六號追加)
- 第十八條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、豫防所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ
- 第十九條 傳染病院、隔離病舎、豫防所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム(明治三十年三月法律第五十六號追加)
- 第二十條 傳染病院、隔離病舎、豫防所又ハ消毒所ノ全部又ハ一部ニ對シ家用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停止期間家用水ノ供給ヲ爲スヘシ
- 第二十一條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得
- 第二十二條 船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車ノ乘客乗組人ニシテ病者傳染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停泊シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗込マシムルコトヲ得船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシメ及病者傳染ノ疑アル者ヲ附近市町村立ノ隔離病舎ニ入ラシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ヲ示シテ之ヲ拒ムコトヲ得但シ之ヲ爲スルニ必要ナル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得(明治三十年三月法律第五十六號改正)

醫事法令摘要

- 一 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト(明治三十年三月法律第五十六號改正)
- 二 市町村會ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離スルコト(明治三十年三月法律第五十六號改正)
- 三 祭禮、供養、葬儀、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト
- 四 古着、襪履、古綿其ノ他病者傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト
- 五 傳染病者傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト
- 六 汽車、船舶、製造所若ハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト(明治三十年三月法律第五十六號改正)
- 七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命ジ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、廁間ノ新設改良變更若ハ廢止ヲ命ジ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト
- 八 一定ノ場所ノ遺棄、潑洒又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト
- 九 鼠疫ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト(明治三十年三月法律第五十六號改正)

第十九條ノ二 傳染病ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行

ヲ不適當ト認ムルトキハ地方長官ハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キ
內務大臣ノ許可ヲ得テ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ
處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染

病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ
此ノ法律ニ準シ預防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

- 一 預防委員ニ關スル諸費
- 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
- 三 預防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並預防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費
- 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所消毒ニ關スル諸費
- 五 預防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救濟料、吊祭料
- 六 第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷、隔離ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ生活シ能ハサル者ノ生活費
- 七 市町村ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費
- 八 市町村ニ於テ施行スル民族ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

(明治三十八年三月法律第五十六號追加)

- 九 第十七條ノ二ニ依レル家用水ノ供給ニ關スル諸費(明治三十八年三月法律第五十六號追加)
- 十 第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金(明治三十八年三月法律第五十六號追加)
- 其ノ他市町村ニ於テ施行スル預防事務ニ關スル諸費
- 第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス
- 一 第十八條ニ關スル諸費(明治三十八年三月法律第五十六號改正)
- 二 手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費(明治三十八年三月法律第五十六號改正)
- 三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費(明治三十八年三月法律第五十六號改正)
- 其ノ他府縣ニ於テ施行スル預防事務ニ關スル諸費
- 第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ預防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得
- 市町村ハ其ノ市町村內ノ衛生組合ニ於テ傳染病預防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得
- 第二十四條 第二十一條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ
- 第二十五條 國庫ハ第二十二條第十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分一ヲ補助スルコトヲ得
- 第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セシムルハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナル承認ムルトキ及必要ノ時限內ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用

傳染病預防法
施行規則

ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得
私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セザルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス(明治三十八年三月法律第五十六號改正)

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市

町村又ハ私人ニ於テ施行スヘキ事項ヲ施行セシムルハ之ヲ施行スルモ充分ナル承認ムルトキ及必要ノ時限內ニ施行シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ徵收シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徴スルコトヲ得(明治三十八年三月法律第六十五號改正)

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徴ニ關シ不服アル

私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得
私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當

該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セザル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ料科ニ處ス
第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以內ニ届出ヲ爲サス又ハ處傷ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條、第五條、第九條、第十條、第十一條第一項

第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答辭ヲ爲サス者ハ處罰ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス者ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(明治三十八年三月法律第五十六號改正)

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除

ク外北海道神戶ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ

除ク外市町村制ヲ施行セザル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ

別ニ定ムル所ニ依ル
第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二

十四及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
第三十六條 明治三十三年布告第三十四號傳染病預防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附 則

本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

傳染病預防法施行規則

(明治三十年五月內務省令第十一號)

第一條 警視廳府縣知事ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認

ムルトキ及傳染病預防法第一條ニ掲タル八病ノ外同法ニ依リ預防方法ヲ施行ノ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シテ速ニ內務大臣ニ申報スヘシ但前段ノ場合ニ於テハ郵接若ハ船舶汽車交通ノ地ノ警視廳府縣廳署寄兵營及最寄港灣ニ錠治ノ軍艦等ニ通報スヘシ

第二條 市町村長區長(沖繩縣ノ區以下之ニ依リ)戶長(戶長ニ

準スヘキ者ヲ含ム以下之ニ依リ)又ハ預防委員ニ於テ傳染病預防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ五圓通報シ且警察官吏ニ通報スヘシ但戶長又ハ戶長ニ於テ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ郡役所島廳ニ報告スヘシ(明治四十一年五月省令第八號改正)

市町村長區長戶長又ハ預防委員ニ於テ傳染病預防法第八條ノ届

出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ醫師ヲシテ診斷セシメ傳染病

醫事法令摘要

ナルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ
届出ヲ受ケ又ハ傳染病患者死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若クハ
汚染ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ市町村長區長戸長又ハ豫防
委員ニ通報スヘシ但警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳(東京府ハ
警視廳及府廳)ニ報告スヘシ(明治三十八年六月内務省令第十
四號明治四十年五月内務省令第八號改正)

五四四

三 前二號ノ家ノ居住者其ノ他病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法
ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若クハ消
毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコ
トヲ得
虎列刺、赤痢 満五日間
登瘧瘧疾 満七日間
「ベスト」 満十日間
四 交通遮断又ハ隔離中斷ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ
依リテ處置スルコト

傳染病豫防ニ
關スル清潔法

Table with 2 columns: 凡一 (General) and 官公署印 (Official Seal). The table lists dimensions for official seals: 木札又ハ厚紙 (Wooden slip or thick paper) 凡三寸 (General 3 inches), 傳染病豫防吏員之證 (Infectious disease prevention official certificate) 凡一寸 (General 1 inch), 官公署印 (Official seal) 凡一寸 (General 1 inch).

入ルハ成ルヘク日出後日没前ニ於テスヘシ 其ノ戸主首長管理
人等ニ示ス(キ證票ハ左ノ如シ)
木札又ハ厚紙 凡三寸
傳染病豫防吏員之證 凡一寸
官公署印 凡一寸
第十條 府縣知事(東京府ハ警視廳)ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染
病豫防法第十九條第一ノ健康診断及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ
檢査ヲ行ハシムルコトヲ得(明治三十八年六月内務省令第十四
號改正)

醫事法令摘要

五四五

第十五條 傳染病豫防法第二條第十八條(第三項但書)場合ヲ除
ク)及第十九條ノ地方長官ノ職務其ノ他傳染病豫防法又ハ此ノ
規則ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視廳監
之ヲ行フ
東京市京都市大阪市ニ於テハ傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行
ニ關シ市長ニ屬スル職務ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコ
トヲ得
第十六條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ規程ニシテ其ノ準用シ得
ルキ者ヲ除外沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定
ム
第十七條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ必要ナル細目
ハ警視廳府縣知事之ヲ定ム
島地ニ關シ此ノ規則ノ規程ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ警視廳監
府縣知事ハ別段ノ規程ヲ設タルコトヲ得
傳染病豫防ニ關スル清潔法、消毒方法
(明治三十年五月内務省令第十三號)
第一章 清潔方法
第一條 清潔方法ノ要項左ノ如シ
一 傳染病患者アリタル家ニ於テハ珠ニ患者ノ居室其ノ他病毒
汚染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃
除ヲ行ヒ其ノ塵芥ハ之ヲ燒却スヘシ
二 家屋掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他ノ不潔物ハ之ヲ取除ケ燒却
スヘシ
三 傳染病患者アリタル家ノ井戸流、畜所流、便所又ハ茶溜ノ
掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行フヘシ
但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸流ヲ爲スヘシ
四 「ベスト」ニ對シテハ前各號ノ外屋根裏、天井、羽目板間、

床下等ニ就テ鼠族ノ搜索驅除ヲ行フヘシ(明治三十八年六月内務省令第十七號改正)

五 傳染病者ノ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル場合亦前各條ヲ準用スヘシ(明治三十八年六月内務省令第十七號追加)

第二條 傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病源蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシトセス必要ノ場合ニハ消毒藥(生石灰末若クハ石灰)ヲ投シタル後消毒スヘシ

第三條 傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ消毒方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠ノ浚渫ヲ爲ス場合ニ於テハ瀝リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

第四條 溝渠ヲ浚ハタル汚泥塵又ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラサル様一定ノ場所ニ棄テヘシ汚泥ヲ路傍ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス

第二章 消毒方法
第一條 消毒方法ハ左ノ四種トス
一 燒却
二 蒸氣消毒
三 煮沸消毒
四 藥物消毒

第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ
一 傳染病患者ノ死體ニ用ヒタル被服、臥具、布片、便器其ノ他ノ器具ニシテ甚ク病毒ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノ

二 傳染病者ノ吐瀉物其ノ他ノ排泄物及塵芥動物ノ死體等(明治三十八年六月内務省令第十七號改正)

第七條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
一 衣服、臥具、布片等ニテ細布綿布、麻布、毛織物類
二 硝子器、陶器、磁器其ノ他硬質若クハ木製品等ニシテ汽熱

時間以上浸漬シ其ノ後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ(明治三十八年六月内務省令第十七號改正)

一ノ二 「クレゾール」水(クレゾール)石鹼液六分水分九十四分(明治三十八年六月内務省令第十七號追加)

「クレゾール」水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液六分ニ定量ノ水ヲ加フヘシ

「クレゾール」水ハ各種物件ノ消毒ニ適シ其ノ用量及應用ハ石灰酸水ニ準スヘシ

昇水水(千倍) (昇水一分、鹽液十分、水傳染病預防法ニ據ル消毒方法九百八十九分)(明治三十八年六月内務省令第十七號追加)

昇水水ヲ製スルニハ昇水ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽液ヲ加フヘシ

昇水水ハ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ又其ノ危險ヲ防カン爲メ「スカレット」又ハ「アイレフクシ」其他適當ノ色素ヲ加ヘテ着色シ一見區別シ易カラシムルヲ要ス但金屬製ノ器ニ貯藏スヘカラス

昇水水ハ陶器、硝子器木製器具又ハ室内ノ消毒ニ適スル飲食用器具、玩具ノ消毒飲料水ニ透過スヘキ場所ノ消毒及金製品、糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス手足等ヲ消毒スルニハ洗濯シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗浄スヘシ

三 生石灰(少量ノ水ヲ澆ケハ熱ヲ發シテ崩壊スルモノ)(明治三十八年六月内務省令第十七號改正)

生石灰末(生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ)

生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其ノ他ノ排泄物、溝渠等ノ消毒ニ用フヘシ吐瀉物其ノ他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其ノ容量五十一分一ヲ投シ能ク攪拌スヘシ

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

ニ堪アルモノ

第八條 煮沸消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス
一 革類、革製品、漆器其ノ他ノ漆物類、護謨製品、護謨製品糊附品、膠附品、毛皮、象牙、鬘甲、角ノ類ハ物品ノ損スルヲ以テ煮沸消毒ヲ避クヘシ

二 被服類ニ煮沸消毒ヲ施スニハ襪中又ハ衣袋中ヲ檢索シ若シ彈丸、火藥等爆發又ハ發火ノ虞アル物品アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ恐アルモノ等ハ煮沸消毒ヲ避クヘシ

三 煮沸消毒ハ流通蒸氣ヲ用ヒ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

第九條 煮沸消毒ニ適スルモノハ煮沸消毒ニ適スルモノニ同シ煮沸消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ全部水中ニ浸シ沸騰後三十分以上煮沸スヘシ(明治三十八年六月内務省令第十七號改正)

第十條 藥物消毒ニ供スル藥劑其ノ用法ハ左ノ如シ
一 石灰酸水(二十倍) (結晶石灰酸五分鹽酸一分、水九十四分)

石灰酸水ヲ製スルニハ石灰酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツツ徐々ニ定量ノ水ヲ注キ後鹽酸一分ヲ加フヘシ

濃湯ヲ用フレハ其ノ溶解力ニ速カナリトス但使用ノ際ハ每回振盪スルヲ要ス

石灰酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但使用ノ際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ
一 吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ

二 器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撒布スヘシ

三 手足等ヲ消毒スルニハ洗濯シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗浄スヘシ

四 衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘタルモノヲ用ヒ六

石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スヘシ其ノ用量ハ吐瀉物其ノ他排泄物等ノ容量四分ノ一以上トス但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス

普通石灰ハ生石灰ヲ得ルコトヲ能ハサル場合ニ限リ代用トシテ其信量ヲ用フヘシ

四 格魯兒石灰水(二十倍) (格魯兒石灰五分、水九十五分)

格魯兒石灰水ノ應用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

五 加里石鹼又ハ綠石鹼(明治三十八年六月内務省令第十七號改正)

加里石鹼又ハ綠石鹼三分ヲ熱湯百分ニ溶解シ使用ノ際ニハ加熱スルヲ要ス

加里石鹼又ハ綠石鹼ハ不潔ナル木製器具、戸、障子床等ノ消毒ニ適ス

六 「フォルムアルデヒド」(明治三十八年六月内務省令第十七號改正)

「フォルムアルデヒド」ハ「フォルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニ依リテ之ヲ發生セシムヘシ

「フォルムアルデヒド」ヲ使用セントスル際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ

一 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒室内又ハ土藏造、洋風建物、船舶汽車等ニシテ戸扉窓孔等密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス

二 消毒室又室内ノ容積百立方尺ニ付「フォルマリン」四十五以上ヲ噴霧セシメ若クハ「フォルムアルデヒド」五十五以上以上發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ設置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

「フォルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用ナルコトヲ得

「フォルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用ナルコトヲ得

「フォルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用ナルコトヲ得

「フォルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用ナルコトヲ得

「フォルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用ナルコトヲ得

「フォルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用ナルコトヲ得

醫事法令摘要

- 一 土蔵造、洋風建物、船舶、汽車等ノ密閉シ得ル室内又ハ室内ニ定著セル器物等ニシテ他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサルモノ
- 二 他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサル貴重品其ノ他ノ物件ニシテ其ノ内部ニ至ルマテ消毒方法ヲ施スノ必要ナシト認メタルモノ
- 第十一條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ
 - 第一條 傳染病患者治療シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムヘシ場合ニ依リテハ濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代ルモ妨ケナシ
 - 第二條 死體(明治三十八年六月內務省令第十七號改正)
 - 傳染病ノ死體ヲ棺ニ斂ムルニハ其ノ被服ニ昇水水若クハ石灰水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇水水若クハ石灰水ニ浸漬シタル布ヲ以テ包ミ又ハ石灰ヲ以テ填ツヘシ
 - 第三條 看病人、病家ノ家人其ノ他病者ニ觸接シタル者、看病人、病家ノ家人其ノ他消毒方法ヲ施行又ハ患者、死體、排泄物ノ運搬等ノ爲病者ニ觸接シタル者ハ時々若クハ其ノ都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ
 - 第四條 患者、死體等ノ運搬器
 - 傳染病ノ患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠約蓋ノ類ハ使用後毎回昇水水若クハ石灰水ヲ以テ拭拭スヘシ
 - 第五條 便所、芥溜、溝渠等
 - 傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ノ入りタル便所ノ糞池、肥料溜等ニハ生石灰末、石灰乳若クハ枯魯兒石灰水ヲ灌キ能ク攪拌スヘシ但便所ハ石灰水ヲ以テ消毒シタル後直ニ使用シ糞便ハ一週間ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得
 - 病者ニ汚染シタル土地ニハ石灰乳若クハ枯魯兒石灰水ヲ灌キ消毒スヘシ

五四八

- 病者ノ混入シタル芥溜ニハ石灰乳若クハ枯魯兒石灰水ヲ灌キ其ノ塵芥ヲ掃却スヘシ
- 病者ノ混入シタル溝渠ニハ生石灰末、石灰乳若クハ枯魯兒石灰水ヲ灌キ
- 第六條 衣服器具及數物等(明治三十八年六月內務省令第十七號追加)
 - 傳染病患者ノ著用セル衣類、臥具其ノ病室ニ在ル諸器具又ハ看病人及患者ニ接シタル家人ノ衣服其ノ他病者汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法ヲ施スヘシ
 - 第八條 第一ニ掲ケタル物品ノ類ハ加里石鹼又ハ練石鹼ヲ(毛皮ニハ避クヘシ)以テ洗ヒ又ハ石灰水ヲ以テ拭淨シ若クハ之ヲ撒布シ又ハ「フオルムアルデヒド」ヲ用フヘシ
 - 第五條ニ掲ケタル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハサルモノハ日光ニ曝シ若クハ大氣中ニ乾燥セシムヘシ
- 第七條 家屋(明治三十八年六月內務省令第十七號追加)
 - 患者ノ居室其ノ他傳染病者ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル室内各部ハ石灰水又ハ昇水水ヲ以テ拭淨スヘシ但土蔵造、洋風建物等密閉シ得ル室内ニハ「フオルムアルデヒド」ヲ用キルコトヲ得消毒後ハ日光ノ射入空氣ヲ流通スルヤ乾燥セシムルヲ要ス
 - 第七ノ二 井戸、水槽等(明治三十八年六月內務省令第十七號追加)
 - 傳染病者ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル井戸、水槽等ハ水取五十分一ノ生石灰乳狀トナシテ投入シ能ク攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リテ熱蒸氣ヲ通シ三十分以上沸騰セシムヘシ
- 第八條 汽車
 - 傳染病患者若クハ死體アリタル汽車内ノ消毒ハ第七條ニ準スヘシ傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ混シ

肺結核預防ニ關スル件

- 適宜設置スヘシ
- 車室ニ附屬スル便所ハ石灰水ヲ以テ消毒スヘシ
- 第九條 船舶
 - 傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七條ニ準スヘシ其ノ他ノ場所ニ對シテハ消毒藥ノ撒布拭拭等適宜設置スヘシ
 - 船底水ニハ其ノ容量二百分一ノ生石灰末ヲ加ヘ二十四時間ヲ經タル後抽出セシムヘシ
 - 「バラチフス」ヲ傳染病ト指定ノ件
 - (明治四十四年七月內務省令第九號)
 - 明治三十年法律第三十六號傳染病預防法第一條第二項ニ依リ「バラチフス」ヲ同法ニ依リ預防方法ヲ施行ノ必要トスル傳染病ト指定ス
 - 附則
 - 本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 肺結核預防ニ關スル件
 - (明治三十七年二月內務省令第一號)
 - 第一條 學校、病院、製造所、船舶發着待合所、劇場、寄席旅店其ノ他地方長官ノ指示スル場所ニハ適當箇數ノ消毒藥ヲ配置スヘシ
 - 警察官署ハ前項配置ノ消毒藥不適當ナルカ若ハ其ノ箇數充分ナラスト認ムルトキハ期間ヲ定メテ消毒藥ノ變更ヲ命ジ若ハ箇數ヲ指示シテ之ヲ増置セシムルコトヲ得
 - 前項ノ消毒藥ニハ乾燥ノ乾燥飛散ヲ除ク爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キ消毒室内ノ呼吸ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラサレハ投棄スヘカラス
 - 第二條 前條ノ場所ニ於テハ何人ト雖モ咳嗽以外ニ呼吸ヲ露出スルコトヲ得ス
 - 第三條 地方長官ノ指定シタル源泉場、海水浴場、轉地療養所ニ

醫事法令摘要

- 於ケル旅店ハ左ニ掲ケル事項ヲ遵守スヘシ
- 一 營業用ニ供スル靴履具ハ白布ヲ以テ被包スルコト
- 二 前條ノ白布及浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト
- 三 肺結核患者若クハ其ノ疑アル患者ナルコトヲ知りタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニアラサレハ他人ヲ宿泊セシムルコトヲ得
- 四 前條ニ掲ケル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラサレハ他人ニ使用セシムルコトヲ得
- 第四條 病院ハ左ニ掲ケル事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 肺結核患者若クハ其ノ疑アル患者トシテ同室ニ收容セサルコト
 - 二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラサレハ他ノ患者ヲ收容セサルコト
 - 三 結核病者ニ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコトヲ得
- 第五條 監獄、官公立ノ學校、病院、養育院、盲兒院、製造所、官設及私設ノ鐵道停車場同客車ニ於テハ其ノ首長ハ本令ノ規定ニ準シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ
- 第六條 消毒方法ハ明治三十年五月內務省令第十三號ニ依ルヘシ但シ呼吸消毒スルニハ石灰水(二十倍)(結晶石灰水五分、鹽酸一分、水九十四分)ヲ使用スヘシ
- 第七條 第一條第一項ニ據リテ消毒藥ヲ配置セサル者、警察官署ノ指定シタル期間ニ其ノ命令ヲ履行セサル者、同條第三項及第四條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ料科ニ處ス
- 第九條 第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 附則
 - 第十條 第七條第九條ノ罰金ハ使用人其ノ他ノ從業者ノ所爲ト雖モ之ヲ其ノ首長又ハ營業者ニ科ス法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ

本令ニ規定シタル罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス
第十一條 本令ノ規定ハ廳府縣令ヲ以テ肺結核豫防ニ關スル規定
ヲ設ケルコトヲ妨ケス
第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ
第十三條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

種痘法

(明治四十二年四月法律第三十五號)

第一條 種痘ハ左ノ定期ニ於テ之ヲ行フ但シ痘苗ヲ經過シタル者
ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
一 第一期 出生ヨリ翌年六月ニ至ル間但シ不善感ナルトキハ
翌年六月ニ至ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ
二 第二期 數ハ歳十歳但シ不善感ナルトキハ翌年十二月ニ至
ル間ニ於テ更ニ種痘ヲ行フヘシ定期前二年以内ニ不善感シタ
ル種痘ハ第二期ノ種痘ト看做ス
第二條 保護者ハ未成年者ヲシテ種痘ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フ
第三條 左ニ掲ケタル者ハ未成年ノ生徒院生若ハ之ニ準スヘキ者又
ハ未成年ノ寄寓者ヲシテ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其義
務ヲ履行セシムヘシ
一 學校、青見院又ハ之ニ準スヘキ場所ノ校長、院長、其ノ他
首長
二 教育、監護又ハ備使ノ目的ヲ以テ人ヲ寄寓セシムル者
前項各條ニ掲ケタル者ノ法定代理人アルトキハ法定代理人ニ
前項ノ規定ヲ適用ス
第四條 新ニ保護者ト爲リ又ハ新ニ前條ノ關係ヲ生シタルトキハ
種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者ヲシ
テ六月以内ニ種痘ヲ受ケシメ又ハ保護者ヲシテ其ノ義務ヲ履行
セシムヘシ
前項ノ期間内ニ其手續ヲ爲シ難キ事由アルトキハ市町村長(區

長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツルニ於テハ區長以下之ニ準ス)ニ届出フ
ヘシ
未成年者ヲ備使スル雇主ニ關シテハ其ノ之ヲ寄寓セシメサル場
合ト雖前二項ノ規定ヲ適用ス
前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五條 市町村ハ種痘ヲ施行スヘシ
第六條 市町村長ハ種痘定期ニ在ル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ
第七條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リテ市町村長ノ指定シタル種痘
受ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務
者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ備後ヲ申請スルコトヲ得前項ニ
依リ種痘ヲ納付シタルトキハ市町村長ハ其ノ請ヲ交附スヘシ
第八條 市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リ
タル者ヲ戸籍吏ニ通知シ戸籍吏ハ戸籍簿ノ關外ニ符號ヲ以テ之
ヲ記入スヘシ
前項ノ記入ニ關スル事務ニ付テハ戸籍法第五條ノ規定ヲ準用ス
第九條 市町村長ノ指定シタル期日ニ種痘ヲ受ケシムル他種痘
受ケリ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者アルトキハ市町村
長ハ更ニ期日ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘ
シ
第十條 種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル證據不明ナル者ノ
定期外ニ受ケタル種痘ハ第一期ノ場合ヲ除クノ外其ノ定
期種痘ト看做ス
第十一條 第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務
者ハ市町村長ノ指定シタル期日ニ於テ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ
其ノ期日ニ檢診ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町
村長ニ届出フヘシ
市町村長ハ前項ノ檢診ヲ受ケタル者ニ種痘證ヲ交付スヘシ
第十二條 市町村長ニ於テ必要アルトキハ痘漿ヲ採取スルコトヲ得
第十三條 醫師定期種痘ヲ施行シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘證

種痘法施行規

ヲ交付スヘシ
前項ノ場合ニ於テ種痘證ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義
務者ハ十日以内ニ市町村長ニ届出フヘシ
第十三條 醫師ハ其ノ檢診ニ據リ痘苗患者全治シタルトキ之ニ痘
苗經過證ヲ交付スヘシ
第十四條 當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者
ハ種痘證又ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定
アル場合ハ此ノ限リニ在ラス
第十五條 地方長官ハ痘苗豫防上必要ト認ムルトキハ種痘ヲ受ケ
ルニ關シテ期日ヲ指定シテ臨時種痘ヲ命スルコトヲ得
臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得
第十六條 醫師痘苗ノ種痘證ヲ交付シ又ハ檢診セシメテ種痘證ヲ
交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第十七條 左ニ掲ケタル者ハ科料ニ處ス
一 第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者
二 保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期
日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者
第十八條 第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科
料ニ處ス
第十九條 官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項及
第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其措置ヲ爲スヘシ
第二十條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行
フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶
主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又
ハ後見人ヲ謂フ
本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ノ施行セサル地
ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス
附 則
本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

醫事法令摘要

種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ハ歳七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタ
ルモ其ノ時期不明ナル者ハ本法ニ依リ第一期ノ種痘數ハ歳八歳以
後ニ種痘ヲ受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス
本法施行前第一條第一項ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テ
ハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不
明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス
種痘法施行規則

(明治四十二年十二月內務省令第二十六號)

第一條 市町村長(區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長、
市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ市町村長ニ準スヘキ者ヲ含
ム以下之ニ做ラ)ハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ現任人中
左記各條ニ該當スル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ
一 前年中出生ノ者
二 數ハ歳十歳ノ者
三 前年ノ定期種痘不善感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者
地方長官(東京府ハ警視總監以下之ニ做ラ)ハ必要ト認ムルトキ
ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ種痘期日ヲ指定セシムルコトヲ得
本條ノ指定ハ之ヲ公告スヘシ
第二條 市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告スヘ
シ
第三條 保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未成
年者ヲシテ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ就キ又ハ前條ノ種痘所ニ於
テ種痘ヲ受ケシムヘシ
第四條 市町村長ハ痘苗、痘紅熱、實布埤里亞(格魯布ヲ含ム)丹
毒、麻疹、百日咳ノ患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要ト認ムル
トキハ別ニ期日ヲ指定シ又ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行
フヘシ
第五條 種痘ヲ納付セザレタル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義

醫事法令摘要

務者ハ事故ノ消滅シ又ハ發症期間ノ經過シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ

第六條 種痘法第九條ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ遅クモ次ノ同ノ種痘施行期ニ於テ種痘期日ヲ指定スヘシ

前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ直ニ種痘ヲ行フヲ得ヘシ

第七條 檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ間ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第八條 種痘済證、種痘證及ヒ種痘發症證ハ附録様式ニ據ルヘシ

第九條 左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ種痘済證交付後又ハ届出ヲ受ケタル後二月以内ニ其ノ本籍地ノ戸籍吏ニ通知スヘシ

一 第一期種痘済證シタル者

二 第一期種痘不感ナル者

三 第一期種痘施行前種痘ヲ經過シタル者

第十條 市町村長ハ戸籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘法第八條ニ依ル符號ヲ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ其ノ者カ本籍地外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第十一條 種痘法第十二條第二項ノ届出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ醫師ノ證明書ヲ得テ現住地ノ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ以テ爲スヘシ

前項ノ届出ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 種痘法第十四條ニ依リ警察官吏又ハ市町村吏員ノ請求アル場合ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルコトヲ證明スル者ハ種痘済證ヲ提示スルコトヲ要セス

一 痘瘡經過證

二 種痘發症證

三 小學校、之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書、又ハ保育證書ニ種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ

四 第一期種痘ニ付テハ種痘法第八條ニ依レル符號ヲ記入アル戸籍簿本又ハ抄本

五 市町村長ノ證明書

六 種痘又ハ痘瘡ノ痕痕但シ第二期種痘ニ付テハ其ノ痕跡

第十三條 地方長官ハ臨時種痘ヲ命セムトスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附 則

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ施行ス

用紙赤色紙

第一號(第一期第一回又ハ第二期第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙赤色紙

第二號(第一期第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

五五二

用紙赤色紙

第一號(第一期第一回又ハ第二期第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙赤色紙

第二號(第一期第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙赤色紙

第三號(第一期第三回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙赤色紙

第四號(第一期第四回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

年月日

道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙青色紙

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第三號第二期(第一回又ハ第二期第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙青色紙

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第四號第二期(第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙青色紙

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第五號第二期(第三回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第二期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙青色紙

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

年月日

道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙白色紙

第五號(第一期第一回又ハ第二期第一回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙白色紙

第六號(第一期第一回又ハ第二期第一回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙白色紙

第七號(第一期第二回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙白色紙

第八號(第一期第三回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

用紙白色紙

第九號(第一期第四回ニ善感ノ者ニ交付スルモノ)

第一期種痘済證

住所 道府縣都市區町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

醫事法令摘要

第七號(第一期第二回)不感者ニ交付スルモノ)

第一期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ

請求アルトキ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明

ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スベシ當該吏員ノ請

求アルトキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明

ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請求アル

トキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請求アル

トキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請求アル

トキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請求アル

トキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請求アル

トキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請求アル

トキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

五五四

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ滿二十歳ニ達スル迄保存スベシ當該吏員ノ請

求アルトキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナ

キトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第一期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ受クヘキモノトス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請

求アルトキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナ

キトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請

求アルトキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナ

キトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請

求アルトキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナ

キトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請

求アルトキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナ

キトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請

求アルトキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナ

キトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請

求アルトキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナ

キトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

道府縣市町村

醫師 何

注意 此證ハ種痘ヲ受クル迄保存スベシ當該吏員ノ請

求アルトキハ此證ヲ提示セス若ハ之ニ代ルヘキ證明ナ

キトキハ十圓以下ノ料料ニ處セララルヘシ

第二期種痘

住所 道府縣市町村某(男女)

年月日 某

右第二期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

癩病豫防ニ關スル法律

(明治四十年三月法律第十一號)

癩病豫防ニ關スル法律

第一條 醫師癩病ヲ診斷シタルトキハ患者及ヒ家人ニ消毒其ノ他

豫防方法ヲ指示シ且三日以内ニ行政官廳ニ届出シ其ノ轉歸ノ

場合及ヒ死體ヲ檢案シタルトキ亦同シ

第二條 癩患者アル家又ハ癩病者ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師又

ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他豫防方法ヲ行フヘシ

第三條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナクモハ行政

官廳ニ於テ命令ノ定ムル所ニ從ヒ療養所ニ入ラシメ之ヲ救護ス

ヘシ、但シ適當ト認ムルトキハ扶養義務者ヲシテ患者ヲ引取ラ

シムヘシ

必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ前項患者

ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市町村長

(市制町村制ヲ施行セザル地ニアリテハ市町村長ニ準スヘキ者

ヲシテ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシムルコト

ヲ得

第四條 主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ其ノ道府縣内ニ於ケ

ル前條ノ患者ヲ收容スル爲メ必要ナル療養所設置ヲ命スルコト

ヲ得

前項療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定

ム

主務大臣ハ私立療養所ヲ以テ第一項ノ療養所ニ代用セシムルコ

トヲ得

第五條 救護ニ要スル費用ハ被救護者ノ負擔トシ被救護者ヨリ辨

償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

醫事法令摘要

五五五

第十二條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物品ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

癩病預防ニ關スル件施行規則(明治四十年八月勅令第二百八十四號) 明治四十年法律第十一號ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

癩病預防ニ關スル件施行規則

(明治四十年七月內務省令第十九號)

第一條 明治四十年法律第十一號第一條ノ届出ハ患者又ハ死體所在地ノ警察官署ニ之レヲ爲スヘシ

癩患者ヲ診斷シタル醫師ハ故ナク其事實ヲ漏洩スルコトヲ得ス

第二條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍、住所、姓名及ヒ病況並扶養義務者ノ住所、氏名ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經テ上送致ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ

警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第三條 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル設立地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

第五條 明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ

一 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物品ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

二 癩病預防ニ關スル件施行規則(明治四十年八月勅令第二百八十四號) 明治四十年法律第十一號ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍、住所、姓名及ヒ病況並扶養義務者ノ住所、氏名ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

四 地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經テ上送致ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ

五 警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

六 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

七 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル設立地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

八 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物品ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

九 癩病預防ニ關スル件施行規則(明治四十年八月勅令第二百八十四號) 明治四十年法律第十一號ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

十 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍、住所、姓名及ヒ病況並扶養義務者ノ住所、氏名ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

十一 地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經テ上送致ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ

十二 警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

十三 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

十四 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル設立地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

十五 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物品ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

十六 癩病預防ニ關スル件施行規則(明治四十年八月勅令第二百八十四號) 明治四十年法律第十一號ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

十七 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍、住所、姓名及ヒ病況並扶養義務者ノ住所、氏名ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

十八 地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經テ上送致ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ

十九 警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

二十 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

二十一 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル設立地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

二十二 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物品ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

二十三 癩病預防ニ關スル件施行規則(明治四十年八月勅令第二百八十四號) 明治四十年法律第十一號ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

二十四 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍、住所、姓名及ヒ病況並扶養義務者ノ住所、氏名ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

二十五 地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經テ上送致ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ

二十六 警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

二十七 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

二十八 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル設立地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

二十九 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物品ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

三十 癩病預防ニ關スル件施行規則(明治四十年八月勅令第二百八十四號) 明治四十年法律第十一號ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

精神病者監護法

區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

附則 本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

精神病者監護法

(明治三十三年三月法律第三十八號)

第一條 精神病者ハ其ノ後見人配偶者四等親内ノ親族又ハ戸主ニ於テ之ヲ監護スル義務ヲ負フ但シ民法第九百八條ニ依リ後見人タルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

監護義務者數人アル場合ニ於テ其ノ義務ヲ履行スヘキ者ノ順位ハ左ノ如シ但シ監護義務者相互ノ同意ヲ以テ順位ヲ變更スルコトヲ得

第一 後見人 第二 配偶者 第三 親權ヲ行フ父又ハ母 第四 戸主 第五 前各號ニ掲ケタル者ニ非サル四等親内ノ親族中ヨリ親族會ノ選任シタル者

第二條 監護義務者ニ非サレハ精神病者ノ監護スルコトヲ得ス

第三條 精神病者ヲ監護セムトスルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二十四時間内ニ行政官廳ニ届出ヘシ

前項假監護ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ス

行政官廳ノ許可ヲ受ケテ監護シタル精神病者ノ監護ヲ廢止シタル後三箇年内ニ更ニ之ヲ監護セムトスルトキ又ハ民法第九百二十

二條ニ依リ禁治產者ヲ監護セムトスルトキハ行政官廳ニ届出ヘシ

第四條 精神病者ノ監護ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ二十四時間内ニ行政官廳ニ届出ヘシ

第五條 監護シタル精神病者治癒シ死亡シ若ハ行方不明ト爲リタルトキ又ハ其ノ監護ヲ廢止シタルトキハ七日内ニ行政官廳ニ届出ヘシ

第六條 精神病者ヲ監護スル必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル事由アルトキハ精

神病者ノ住所、住所ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第七條 行政官廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監護ノ許可ヲ取消シ監護ヲ廢止ヲ命シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得

第八條 精神病者ノ監護ノ必要アルトキ又ハ監護不適當ト認ムルトキハ行政官廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之ヲ監護スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政官廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキハ亦前項ニ同シ

本條ニ依リ精神病者ノ監護ヲ命セラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市町村長ニ於テ之ヲ監護スヘシ

本條ニ依リ監護義務者ノ監護シタル精神病者ニ關シテハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ監護ヲ廢止シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 私立監護室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

市町村長ニ於テ之ヲ爲要スル費用ノ支辨方法及ヒ其ノ追徴方法ハ行政官廳ニ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル尋問ヲ爲サシメ又ハ精神病者アル家宅病院其ノ

精神病者ノ住所、住所ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第七條 行政官廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監護ノ許可ヲ取消シ監護ヲ廢止ヲ命シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得

第八條 精神病者ノ監護ノ必要アルトキ又ハ監護不適當ト認ムルトキハ行政官廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之ヲ監護スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政官廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

當該地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ地位ヲ定ムヘシ

第五條 明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ療養所所在地地方長官ハ療養所ノ設立者ニ對スル命令條件ヲ定ム

第六條 明治四十年法律第十一號第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署ニ行フ

警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其扶養義務者ハ發病以來症候經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求書ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルコトヲ得

檢診ノ爲メ病院其ノ他ノ場所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セザルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政官廳ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クルモノノ外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體及遺留物品ノ取扱ニ關シテハ行政官廳ハ行旅死亡人ノ取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長ニ於テ救護中死亡シタル場合ヲ除ク外同法中市町村長ノ職權ハ當該行政官廳ニ行フ

療養所ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體ハ之ヲ火葬スルコトヲ得(明治四十三年內務省令第二十四號改正)

第九條 第二條及第六條ノ地方長官ノ職權其ノ他癩預防上警察官廳スル事項ハ東京府ニ於テハ警察總監之ヲ行フ

本令ニ依リ市長ニ屬スル職權ハ東京市京都市及大阪市ニ於テハ

精神病者ノ住所、住所ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第七條 行政官廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監護ノ許可ヲ取消シ監護ヲ廢止ヲ命シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得

第八條 精神病者ノ監護ノ必要アルトキ又ハ監護不適當ト認ムルトキハ行政官廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之ヲ監護スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政官廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキハ亦前項ニ同シ

本條ニ依リ精神病者ノ監護ヲ命セラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市町村長ニ於テ之ヲ監護スヘシ

本條ニ依リ監護義務者ノ監護シタル精神病者ニ關シテハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ監護ヲ廢止シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 私立監護室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

市町村長ニ於テ之ヲ爲要スル費用ノ支辨方法及ヒ其ノ追徴方法ハ行政官廳ニ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル尋問ヲ爲サシメ又ハ精神病者アル家宅病院其ノ

精神病者ノ住所、住所ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第七條 行政官廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監護ノ許可ヲ取消シ監護ヲ廢止ヲ命シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得

第八條 精神病者ノ監護ノ必要アルトキ又ハ監護不適當ト認ムルトキハ行政官廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之ヲ監護スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政官廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキハ亦前項ニ同シ

本條ニ依リ精神病者ノ監護ヲ命セラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市町村長ニ於テ之ヲ監護スヘシ

本條ニ依リ監護義務者ノ監護シタル精神病者ニ關シテハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ監護ヲ廢止シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 私立監護室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

市町村長ニ於テ之ヲ爲要スル費用ノ支辨方法及ヒ其ノ追徴方法ハ行政官廳ニ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル尋問ヲ爲サシメ又ハ精神病者アル家宅病院其ノ

精神病者ノ住所、住所ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第七條 行政官廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監護ノ許可ヲ取消シ監護ヲ廢止ヲ命シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得

第八條 精神病者ノ監護ノ必要アルトキ又ハ監護不適當ト認ムルトキハ行政官廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之ヲ監護スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政官廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキハ亦前項ニ同シ

本條ニ依リ精神病者ノ監護ヲ命セラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市町村長ニ於テ之ヲ監護スヘシ

本條ニ依リ監護義務者ノ監護シタル精神病者ニ關シテハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ監護ヲ廢止シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 私立監護室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

市町村長ニ於テ之ヲ爲要スル費用ノ支辨方法及ヒ其ノ追徴方法ハ行政官廳ニ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル尋問ヲ爲サシメ又ハ精神病者アル家宅病院其ノ

精神病者ノ住所、住所ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監護スヘシ

第七條 行政官廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監護ノ許可ヲ取消シ監護ヲ廢止ヲ命シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得

第八條 精神病者ノ監護ノ必要アルトキ又ハ監護不適當ト認ムルトキハ行政官廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之ヲ監護スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政官廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

市町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキハ亦前項ニ同シ

他ノ場所ニ監禁セシムルコトヲ得
 第十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發シタル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ侵害セラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發シタル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ處分ニ不服アルモノハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
 第十四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ不正ノ行為ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第十五條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ隠匿シタル者ハ刑法第二百八十六條ノ例ニ照ラシテ處断ス
 第十六條 左ニ掲グル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 一 詐偽ノ所爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ精神病者ヲ監禁シ又ハ拘束ノ程度ヲ加重シタル者
 二 醫師精神病者ノ診斷書ニ虚偽ノ事實ヲ記載シ又ハ自ら診斷セシテ診斷書ヲ授與シタル者
 前項第一號ノ場合ニ於テハ監禁又ハ拘束ノ日數十日ヲ過ケル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第十七條 左ニ掲グル者ハ二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監禁又ハ拘束ノ日數十日ヲ過ケル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 一 許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲サス若ハ命ヲ受ケシテ精神病者トシテ入リ監禁シタル者
 二 禁治産ノ宣告又ハ監禁ノ許可ヲ取消サレ又ハ監禁ノ廢止ヲ命セラレ若ハ假監禁ノ期間ヲ經過シタル後監禁ヲ廢止セザル者
 三 許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ若ハ命ヲ受ケタル程度ヲ超ニテ

精神病者ヲ拘束シタル者
 第十八條 左ニ掲グル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 精神病者ノ監禁ニ關シ虚偽ノ事實ヲ記載シタル者
 二 監禁義務ヲ履行スヘキ地位ニ在ラサル者ニシテ許可ヲ受ケ又ハ命ニ依リニ非シテ監禁ヲ廢止シ又ハ監禁ノ方法若ハ場所ヲ變更シタル者
 三 官吏又ハ行政廳ノ指定シタル醫師ノ監禁若ハ檢診ヲ拒ミ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス者ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者
 第十九條 左ニ掲グル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 監禁ノ方法若ハ場所ヲ變更シタル者
 二 監禁義務ヲ履行セザル者
 三 第八條第四項及第九條第一項ニ違背シタル者
 第二十條 第四條及第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
 附 則
 第二十一條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本法施行前ヨリ精神病者ヲ監禁シタル者ニシテ仍之ヲ繼續セントスルトキハ本法施行ノ日ヨリ二箇月内ニ第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スヘシ
 第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲サスシテ前項ノ期間ヲ經過シタル後監禁ヲ廢止セザル者ハ第十七條ノ例ニ照ラシテ處断ス
 本法中市區町村長ニ屬スル職務ハ市制區制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ市區町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ
 第二十二條 外國人タル精神病者ノ監禁ニ關シ別段ノ規定ヲ以テ

精神病者監護法施行規則

行旅病人及行旅死亡人取扱法

之ヲ定ム

第二十三條 人事訴訟手續第五十條又ハ第六十條ニ依リ裁判所ニ於テ精神病者ノ監護ニ付必要ナル處分ヲ命シタル場合ニ關シテハ本法ヲ適用セス
 精神病者監護法施行規則
 (明治三十三年六月内務省令第三十五號)
 第一條 精神病者監護法第一條第二項但書ニ依リ監護義務者ヲ順位ヲ變更シタルトキハ關係者ハ七日内ニ連署ヲ以テ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ
 第二條 精神病者監護法第一條第二項第五號ニ依リ監護義務者ヲ選任シタルトキハ親族會ハ七日内ニ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ
 第三條 精神病者監護法第三條ニ依リ精神病者ヲ私立病院其ノ他ノ場所ニ監護セムトスルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出又ハ届出ヘシ
 第三條第一項但書ニ依リ精神病者ヲ監護シタルトキハ監護義務者ハ警察官署ニ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要セス
 第四條 精神病者ヲ監護セムトスル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルノ限ナシト認ムルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ニ届出ヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ監護義務者ハ三十日以内ニ前條ニ依リ更ニ地方長官ニ届出ヘシ
 第五條 第二條ノ届出又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ監護ノ方法及場所ヲ詳シシ若シ私宅監護室ヲ設クルトキハ其ノ構造設備ヲ記シタル書類ヲ添附スヘシ
 第六條 本則第四條第一項ニ依リ監禁シタル精神病者ニ關シ三十日以内ニ地方長官ニ届出ヲ爲ササルトキハ地方長官ニ於テ届出ニ對シ不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ警察官署ノ與ヘタ

行旅病人及行旅死亡人取扱法

ル許可ハ取消サレタルモノトス
 第七條 精神病者監護法第四條又ハ第五條ノ届出ハ監護義務者ニ於テ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ行方不明ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添フルコトヲ要セス
 本則第四條第一項ニ依リ監禁シタル精神病者ニ關シテハ前項ノ届出ハ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ
 第八條 私宅監護室ハ精神病者ノ資産又ハ扶養義務者共ニ程度ニ應ジ相當ノ構造設備ヲ爲シ及之ヲ管理スルコトヲ要ス
 第九條 府縣立ヲ除ク外公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ヲ設置セムトスルトキハ其ノ構造設備及管理ニ關シ事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 第十條 精神病者監護法第七條及第八條行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ
 第十一條 精神病者監護法第九條第一項行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ私宅監護室ニ關シテハ警察官署之ヲ行フ
 第十二條 精神病者監護法第十一條行政廳ノ職權ハ内務大臣地方長官又ハ警察官署之ヲ行フ
 第十三條 本則第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第十五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ
 行旅病人及行旅死亡人取扱法
 (明治三十二年三月法律第九十三號)
 第一條 此ノ法律ニ於テ行旅病人ト稱スルハ歩行ニ堪ヘサル行旅中ノ病人ニ於テ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキ者ヲ謂ヒ行旅死亡人ト稱スルハ行旅中死亡シ引取者ナキ者ヲ云フ
 住所、居所若ハ氏名知レシ且引取者ナキ死亡人ハ行旅死亡人ト

看做ス

- 前二項ノ外行旅病人行旅死亡人ニ準スヘキ者ハ内務大臣之ヲ定ム
- 第二條 行旅病人ハ其ノ所在地市町村長之ヲ救護スヘシ
必要ノ場合ニ於テハ市町村長ハ行旅病人ノ同伴者ニ對シテ亦相
當ノ救護ヲ爲スヘシ
- 第三條 行旅病人又ハ其ノ同伴者ヲ救護シタルトキハ市町村長ハ
速ニ扶養義務者若ハ家族又ハ第五條ニ掲ケタル公共團體ニ通知
シ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ
前項ノ通知及引取ノ手續期間ノ指定ノ他之ニ關スル必要ナル
事項ハ内務大臣之ヲ定ム
- 第四條 救護ニ要シタル費用ハ被救護者ノ負擔トシ被救護者ヨリ
辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス
- 第五條 行旅病人若ハ其ノ同伴者ノ引取ヲ爲ス者ナキトキ又ハ救
護費用ノ辨償ヲ得サル場合ニ於テ其引取費用ノ辨償ヲ爲ス
ヘキ公共團體ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル
- 第六條 扶養義務者ニ對スル被救護者引取ノ請求及被救護費用辨
償ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ請求スルコトヲ
得但シ費用辨償ヲ爲シタル者ハ民法第九百五十五條及第九百五
十六條ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シテ請求ヲ爲スヲ妨
ケス
- 第七條 行旅死亡人アルトキハ其ノ所在地市町村長ハ其ノ狀況相
貌遺留物件其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ記録シ其ノ死體
ヲ假土葬スヘシ但シ法令ニ別段ノ規定アル場合ニ於テ之ヲ火葬
スルコトヲ妨ケス
- 第八條 必要ノ場合ニ於テハ市町村長ハ行旅死亡人ノ同伴者ニ對
シテ亦相當ノ救護ヲ爲スヘシ
行旅病人ニ關スル規定ハ前項ノ場合ニ準用ス

- 第九條 行旅死亡人ノ住所、若ハ居所氏名知レサルトキハ市町村
長ハ其ノ狀況相貌遺留物件其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ
公署ノ揭示場ニ告示シ且官報若ハ新聞紙ニ公告スヘシ
- 第十條 行旅死亡人ノ住所若ハ居所及氏名知レサルトキハ市町村
長ハ速ニ相續人ニ通知シ相續人分明ナラサルトキハ扶養義務者
若ハ家族ニ通知シ又ハ第十三條ニ掲ケタル公共團體ニ通知スヘ
シ
前項ノ手續其ノ他之ニ關スル必要ナル事項ニ付テハ第三條第二
項ヲ準用ス
- 第十一條 行旅死亡人取扱ノ費用ハ先ツ其遺留ノ金銭若ハ有價證
券ヲ以テ之ニ充テ仍不足ラサルトキハ相續人ノ負擔トシ相續人ヨ
リ辨償ヲ得サルトキハ死亡人ノ扶養義務者ノ負擔トス
- 第十二條 行旅死亡人ノ遺留物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ但シ
其ノ保管ノ物件滅失若ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不
相
當ノ費用若ハ手数ヲ要スルトキハ之ヲ賣却シ又ハ棄却スルコト
ヲ得
- 第十三條 市町村長ハ第九條ノ公告後六十日ヲ経過スルモ仍行旅
死亡人取扱費用ノ辨償ヲ得サルトキハ行旅死亡人ノ遺留物品ヲ
賣却シテ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得其ノ仍不足ラサル場合ニ於テ
費用ノ辨償ヲ爲スヘキ公共團體ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依
ル
- 第十四條 市町村長ハ行旅死亡人取扱費用ノ辨償ヲ得サルトキハ
相續人ニ其ノ保管スル遺留物件ヲ引渡スヘシ相續人ナキトキハ
正當ナル請求者ト認ムル者ニ之ヲ引渡スコトヲ得
- 第十五條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ關
スル費用ハ所在地市町村費ヲ以テ一時之ヲ繰替フヘシ
前項費用ノ辨償金徴收ニ付テハ市町村稅徴收ニ關スル例ニ依ル

墓地及埋火葬
取締規則

- 第十六條 行旅病人行旅死亡人ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ
關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム
 - 第十七條 外國人タル行旅死亡人及其ノ同伴者其ノ所持物件若
ハ遺留物件ノ取扱ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム
 - 第十八條 船車内ニ於テ行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者其
ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノ
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第十九條 此ノ法律ニ於テ市町村長トアルハ東京市京都市大阪市
其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區長ニ、市町村長ヲ置
カサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ、市町村トアルハ市制町
村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ準用ス
 - 第二十條 北海道沖繩縣其ノ他市制町村制ヲ施行セサル地ニハ勅
令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得
 - 第二十一條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス
 - 第二十二條 明治十五年第四十九號布告行旅死亡人取扱規則ハ此
ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
- 墓地及埋火葬取締規則**
(明治十七年十月太政官布達第二十五號)
- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノト
ス
 - 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノト
ス
 - 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火
葬ヲナスコトヲ得ス
 - 但別段ノ規則アルモノハ此限ニ在ラス
 - 第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬
ヲナスコトヲ得ス
 - 但改葬ヲナサントスル者ハ管轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ